

**IBM DB2 Information Integrator
OmniFind Edition**



エンタープライズ・サーチの管理

バージョン 8.2

**IBM DB2 Information Integrator
OmniFind Edition**



エンタープライズ・サーチの管理

バージョン 8.2

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC18-9283-00
IBM DB2 Information Integrator
OmniFind Edition
Administering Enterprise Search
Version 8.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.11

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

本書について xvii

本書の対象読者 xvii

第 1 章 エンタープライズ・サーチとは? 1

エンタープライズ・サーチでサポートされているデータ・ソース・タイプ	1
エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの概要	2
エンタープライズ・サーチ・クローラー	3
エンタープライズ・サーチ・パーサー	4
エンタープライズ・サーチ索引	6
エンタープライズ・サーチ用検索サーバー	7
エンタープライズ・サーチ管理コンソール	8
エンタープライズ・サーチ・システムのモニター	9
エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル	9
エンタープライズ・サーチ API	10
エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション	11
エンタープライズ・サーチのデータ・フロー	12

第 2 章 エンタープライズ・サーチ管理の概要 15

管理コンソールへのログイン	17
エンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更	18

第 3 章 エンタープライズ・サーチ・コレクション 21

コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成	21
「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成	22
コレクションの編集	23
コレクションの削除	25

第 4 章 エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理 27

クローラーの作成	29
クローラーのプロパティの編集	30
クローラー・スペースの編集	31
クローラーの削除	31
Content Manager クローラー	32
AIX for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成	33
Linux for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成	35
Windows for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成	37
DB2 クローラー	38
Exchange Server クローラー	40
NNTP クローラー	41
Notes クローラー	41

UNIX での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成	43
Windows での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成	45
Notes クローラーに対する DIOP プロトコルの構成	47
UNIX ファイル・システム・クローラー	48
VeniceBridge クローラー	49
UNIX での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成	50
Windows での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成	52
Web クローラー	53
Web クロール・スペースを制限する規則	54
Web クローラーにおける再クロール間隔の設定	58
Web クローラーにおける URL アクセスのオプション	59
Windows ファイル・システム・クローラー	59
外部クローラーのサポートの構成	60

第 5 章 エンタープライズ・サーチ索引の管理 63

索引作成のスケジューリング	64
索引スケジュールの変更	65
索引スケジュールの使用可能および使用不可設定	65
索引の並行作成の構成	67
索引から URI を除去	67

第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション 69

デフォルトの検索アプリケーション・プロパティの構成	71
サンプル検索アプリケーションへのアクセス	73
コレクションとの検索アプリケーションの関連付け	73

第 7 章 エンタープライズ・サーチの言語分析機能 75

言語の識別	76
ストップワードの除去	76
文字の正規化	76
辞書ベース・セグメンテーションの言語分析サポート	77
非辞書ベース・セグメンテーションの言語分析サポート	79
日本語における語のセグメンテーション	79
日本語における異表記	79

第 8 章 エンタープライズ・サーチ・コレクションの検索 81

照会方式の種類	81
-------------------	----

クイック・リンクに関する作業	83
クイック・リンク	84
クイック・リンクの構成	84
カテゴリに関する作業	85
ルール・ベースのカテゴリ	86
モデル・ベースのカテゴリ	87
カテゴリ・ツリー	88
カテゴリ化タイプの選択	89
カテゴリの構成	90
有効範囲に関する作業	92
有効範囲	92
有効範囲の構成	92
XML 検索フィールドの作業	93
XML 検索フィールド	93
XML エlementを検索フィールドにマップ	94

第 9 章 エンタープライズ・サーチからの検索結果	97
テキスト・ベースのスコアリング	97
静的ランキング	97
動的要約	98
同じ Web サイトからの結果の縮小表示	98

第 10 章 エンタープライズ・サーチの開始と停止	101
エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始	101
エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止	103

第 11 章 エンタープライズ・サーチ・アクティビティのモニター	105
アラート	105
コレクション・レベル・アラートの構成	106
システム・レベル・アラートの構成	107
コレクションのモニター	108
URI についての詳細表示	109
クローラーのモニター	110
Web クローラーのアクティビティ詳細の表示	112
Web クローラーのスレッドの詳細	113
Web クローラー・アクティブ・サイト	113
Web クローラーのクロール速度	114
Web クローラー・レポートの作成	115
Web クローラーの HTTP 戻りコード	117
パーサーのモニター	120
コレクションの索引アクティビティのモニター	121
エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター	122
検索サーバーのモニター	122
検索キャッシュ	124
検索キャッシュの構成	125

第 12 章 エンタープライズ・サーチ・セキュリティ	127
管理役割	128
管理ユーザーの構成	129
認証とアクセス制御	130
文書レベルのセキュリティ	131

コレクション・レベルのセキュリティ	132
アンカー・テキスト分析	132
アンカー・テキストのみ文書処理の使用可能化	133
重複文書分析	134
検索アプリケーション ID を使用したセキュリティ	135
ユーザーが全文書にアクセスできるようにする	135

第 13 章 エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合	137
WebSphere Portal へのエンタープライズ・サーチ・ポートレットのデプロイ	139
エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するための Portal Search Engine の構成	140
Portal Search Engine での文書レベル・セキュリティ	140

第 14 章 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション	143
WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション	143
WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション	145
マイグレーションされたコレクションの設定	147
マイグレーション・ウィザードのログ・ファイル	148

第 15 章 エンタープライズ・サーチのバックアップおよびリストア	149
エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップ	150
エンタープライズ・サーチ・システムのリストア	150
エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを新規のサーバーにリストアする	151

第 16 章 エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理	153
ログ・ファイルの構成	153
ログ・メッセージについての E メール受信	155
ログ・ファイルの表示	157

第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット	159
---	------------

第 18 章 エンタープライズ・サーチ・メッセージ	163
一般システム・メッセージ	163
FFQO0164E: プロパティ・ファイル <i>file_name</i> をロードできません。	163
FFQO0165E: 組み込まれたプロパティ・ファイル <i>file_name</i> をロードできません。	163
FFQO0168E: プロパティをファイル <i>file_name</i> に保管できません。	163
マイグレーション・ウィザード・メッセージ	163

FFQW0001E: <i>message_key</i> キーのメッセージは 見つかりませんでした。エンタープライズ・サー チ管理者に問い合わせてください。	163	FFQW0158I: デフォルトの文字セットについて、 次の設定が見つかりました。 <i>list_charsets</i> 。イ ンポートされた値は <i>charset</i> です。	166
FFQW0002E: ファイル <i>file_name</i> を読み取るこ とができません。選択を変更してください。	164	FFQW0159I: 構成ファイル <i>file</i> が作成されまし た。 戻りコード: <i>return_code</i> 。	166
FFQW0003E: ファイル <i>file_name</i> にコレクショ ン名が設定されていません。	164	構成マネージャーのメッセージ	167
FFQW0008E: ユーザー ID またはパスワードが 無効です。	164	FFQC1000E: コレクション名 <i>collection_name</i> はすでに存在します。	167
FFQW0011E: ファイル <i>file_name</i> の 中の WebSphere Portal Search Engine コレクションを インポートしている間にエラーが発生しました。 行 <i>line_number</i> 、列 <i>column_number</i> で、次のエ ラーが発生しました。 <i>error_message</i> 。ファイル はインポートできませんでした。	164	FFQC1003E: セッション名 <i>session_name</i> はす でに存在します。	167
FFQW0012E: コレクション <i>collection_name</i> を 作成している間にエラーが発生しました。次のエ ラーが戻されました。 <i>error_code</i> 。	164	FFQC1008E: セッション <i>session_id</i> はすでに構 成されています。セッションを追加できません。 167	
FFQW0013E: コレクション <i>collection_name</i> の Web クローラーを作成している間にエラーが発生 しました。次のエラーが発生しました。 <i>error_code</i> 。	165	FFQC2034E: コンテンツのリフレッシュに使用可 能な索引がありません。	167
FFQW0014E: コレクション <i>collection_name</i> を 作成している間にエラーが発生しました。 ID <i>user_name</i> のセッションが見つかりませんで した。	165	FFQC5217E: プロパティ・ファイル <i>file_name</i> をロードしている間にエラーが発生しました。	167
FFQW0016E: コレクション <i>collection_name</i> を 作成している間にエラーが発生しました。 <i>error_message</i> 。	165	FFQC5228W: ファイル名 <i>file_name</i> のファイ ル・サイズは <i>file_size</i> です。これは、ファイ ル置換サイズの上限 <i>file_limit</i> を超えていま す。	168
FFQW0019E: クローラー構成ファイルを作成し ている間にエラーが発生しました。例外メッセ ージ: <i>error_message</i>	165	クローラーのメッセージ.	168
FFQW0120I: マイグレーションは正常に完了しま した。詳細は、ログ・ファイルを参照してくださ い。	165	FFQD1003E: エラー: ユーザー <i>user</i> は存在しま せん。 <i>file</i> をチェックしてください。	168
FFQW0140I: コレクションは WebSphere Portal 構成ファイル <i>file</i> からインポートされました。 165		FFQD1011E: エラー: <i>file</i> が見つかりません でした。	168
FFQW0141I: コレクション <i>collection_name</i> は 正常に作成されました。	166	FFQD1031E: エラー: このスクリプトはクロー ラー・サーバー上で実行していません。 %nこのス クリプトをクローラー・サーバー上で実行して ください。	168
FFQW0142I: コレクション <i>collection_name</i> の Web クローラーは正常に作成されました。	166	FFQD1034E: エラー: 環境変数 CMBROOT が定義 されていません。 %nDB2 Information Integrator for Content が正しくインストール されていることを確認してください。	168
FFQW0154I: コレクション <i>collection_name</i> の クローラー・データを作成しています。	166	FFQD1035E: エラー: 環境変数 CMCOMMON が定義 されていません。 %nDB2 Information Integrator for Content が正しくインストール されていることを確認してください。	169
FFQW0155I: クロール・スレッドの最大数につ いて、次の設定が見つかりました。 <i>list_thread_numbers</i> 。インポートされた値は <i>maximum_threads</i> です。	166	FFQD1036E: エラー: 環境変数 ES_NODE_ROOT が 定義されていません。 %nDB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインス トールされており、このスクリプトがエンター プライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行され たことを確認してください。	169
FFQW0156I: クロール・パスの深さの最大につ いて、次の設定が見つかりました。 <i>list_path_depths</i> 。 インポートされた値は <i>maximum_path_depth</i> です。	166	FFQD1037E: エラー: 環境変数 ES_INSTALL_ROOT が定義されていません。 %nDB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインス トールされており、このスクリプトがエンター プライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行され たことを確認してください。	169
FFQW0157I: クロール文書タイムアウトにつ いて、次の設定が見つかりました。 <i>list_timeout_limits</i> 。インポートされた値は <i>maximum_timeout_limit</i> です。	166	FFQD1101E: エラー: 未定義のプラットフォーム です。	169
		FFQD1106E: エラー: root ユーザーではなく、 エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーとし て、このセットアップ・シェルを実行してくださ い。	170

FFQD1107E: エラー: ES_CFG 環境変数が定義されていません。このコンピューターに DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされていることを確認してください。	170	FFQD2133E: 他の Notes クローラーが実行中です。それらはロック <i>lock_name</i> を保持しているので停止する必要があります。パス: <i>lock_filepath</i> 。名前: <i>lock_filename</i> 。	173
FFQD1108E: エラー: エンタープライズ・サーチ構成ファイルが存在しません。	170	FFQD2135E: クローラー・サーバーは NRPC に対して構成されていません。クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認してください。	173
FFQD1123E: エラー: Lotus Notes ディレクトリーが見つかりませんでした。	170	FFQD2160E: ディレクトリー <i>directory name</i> が無効です。	174
FFQD1128E: エラー: Lotus Notes データ・ディレクトリーが見つかりませんでした。	170	FFQD2161E: <i>levels of subdirectories to discover</i> より多くの選択可能なサブディレクトリーがあります。この数を減らすため、メインディレクトリー名またはパターンを指定するか、ディスカバーするサブディレクトリーのレベルをもっと少なく指定してください。	174
FFQD1138E: エラー: <i>filename</i> の除去に失敗しました。それを除去し、このスクリプトを再実行してください。	171	FFQD2162E: 指定された名前 <i>directory name</i> はディレクトリー名ではなく、ファイル名です。	174
FFQD1139E: エラー: <i>filename</i> の作成に失敗しました。	171	FFQD2163E: 指定されたディレクトリーのパターン <i>directory name or pattern</i> が無効です。	174
FFQD1142E: エラー: <i>filename</i> が見つかりませんでした。	171	FFQD2164E: ファイル・ディレクトリーのディスカバーで、内部エラーが発生しました。	174
FFQD1407E: エラー: Venetica VeniceBridge ディレクトリーが見つかりませんでした。	171	FFQD2190E: ディレクトリーのネットワーク・パス <i>network path name</i> が見つかりませんでした (ディレクトリー = <i>network path name</i>)。エラー・メッセージ: <i>detail error message</i> 。	174
FFQD1420E: エラー: WebSphere Application Server ディレクトリーが見つかりませんでした。	171	FFQD2191E: 指定されたドライブ名が無効です。	175
FFQD2005E: クローラー・サーバーは指定されたクローラー・タイプに対して構成されていません。クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認してください。	171	FFQD2210E: ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。指定されたユーザー ID は <i>user_id</i> です。	175
FFQD2007E: 操作 <i>operation_class</i> に対して <i>api_name</i> API を登録している間にエラーが発生しました。	172	FFQD2211E: Content Manager サーバー <i>server</i> への接続が失敗しました。	175
FFQD2100E: データベースにアクセスしている間に、SQL 例外が発生しました。エラー・コード: <i>error_message</i> 。エラー・メッセージ: <i>error_code</i> 。	172	FFQD2212I: Content Manager サーバー <i>server</i> に接続しました。	175
FFQD2102E: ユーザー名またはパスワードが間違っています。	172	FFQD2213E: <i>discovery.properties</i> ファイルの中に CMCOMMON キーワードが見つかりません。	175
FFQD2103E: DB2 ディスカバリー API を実行している間に、次のエラーが発生しました。戻りコード: <i>return_code</i> 。エラー・メッセージ: <i>error_message</i> 。	172	FFQD2214E: CM INI ファイル <i>file</i> が見つかりませんでした。	175
FFQD2104E: 接続を確立できません。	172	FFQD2215E: CM INI ファイルを読み取ることができないか、CM INI ファイル <i>file</i> が見つかりませんでした。	176
FFQD2105E: スキーマ名 <i>schema_name</i> に対して表またはビュー <i>table_or_view_name</i> が見つかりませんでした。	172	FFQD2216E: 項目タイプ <i>item_type</i> は存在しません。	176
FFQD2106E: DB2 インスタンス <i>server_name:port_number</i> が見つかりませんでした。	173	FFQD2217E: CM DKException が発生しました。	176
FFQD2130E: サーバーにアクセスしている間に Notes 例外が発生しました。ID: <i>error_id</i> 。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	173	FFQD2218E: CM 例外が発生しました。	176
FFQD2131E: 指定された ID ファイルが存在しないか、読み取ることができません。	173	FFQD2240E: SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。	176
FFQD2132E: Notes セッションを作成できません。	173	FFQD2241E: SSL を使用するには、トラストストア・パスワードの指定が必要です。	177
		FFQD2242E: トラストストア・ファイル <i>truststore file</i> は存在しません。	177
		FFQD2243E: トラストストア・ファイル <i>truststore file</i> を妥当性検査している間にエラーが発生しました。	177

FFQD2244E: トラストストアのファイル・フォーマットまたはパスワードが間違っています。指定されたトラストストアは <i>truststore_file</i> です。	177	FFQD2278E: 指定されたリポジトリ <i>repository_name</i> が見つかりませんでした。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	181
FFQD2245E: 不明なホスト名 <i>host_name</i> が検出されました。	177	FFQD2279E: VeniceBridge ユーザー・インスタンスが初期化されていません。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	181
FFQD2246E: URL <i>public_folder_URL</i> が誤りです。	177	FFQD2280E: <i>repository_name</i> リポジトリへのログオンが失敗しました。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	181
FFQD2247E: <i>public_folder_URL</i> に接続している間に、入出力エラーが発生しました。	178	FFQD2282E: 指定された項目クラス <i>item_class_name</i> が見つかりませんでした。リポジトリ: <i>repository_name</i>	181
FFQD2248E: 要求を <i>public_folder_URL</i> に送信している間に、プロトコル例外が発生しました。	178	FFQD3000I: <i>crawler_name</i> クローラーは正常に開始しました。	181
FFQD2249E: 要求を <i>public_folder_URL</i> に送信している間に、入出力エラーが発生しました。	178	FFQD3001E: <i>crawler_name</i> クローラーの開始に失敗しました。	182
FFQD2250E: フォルダー数 (<i>actual_folder_count</i>) が上限 <i>folder_count_limit</i> を超えています。	178	FFQD3002I: <i>crawler_name</i> クローラーは正常に停止しました。	182
FFQD2251E: ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。指定されたユーザー名は <i>user_name</i> です。	178	FFQD3003E: <i>crawler_name</i> クローラーは正常に停止しませんでした。	182
FFQD2252E: 指定されたフォルダー <i>public_folder_URL</i> は存在しません。	178	FFQD3004I: <i>crawler_name</i> クローラーは正常に休止されました。	182
FFQD2253E: 予期しない HTTP 応答を受け取りました。HTTP 状態コード: <i>HTTP_state_code</i> 。HTTP 応答メッセージ: <i>HTTP_response_message</i>	179	FFQD3005E: <i>crawler_name</i> クローラーの休止に失敗しました。	182
FFQD2254E: <i>public_folder_URL</i> から応答を受信している間に、入出力エラーが発生しました。	179	FFQD3006I: <i>crawler_name</i> クローラーは正常に再開されました。	182
FFQD2255E: サーバー応答は正しくない XML です。	179	FFQD3007E: <i>crawler_name</i> クローラーの再開に失敗しました。	182
FFQD2256E: 受け取った XML を解析している間に入出力エラーが発生しました。	179	FFQD3008E: Factory 例外が発生しました。モジュールが正しくインストールされていることを確認してください。	182
FFQD2257E: XML パーサー・エラーが発生しました。	179	FFQD3009I: <i>server_name</i> 上で <i>crawler_name</i> のためのクロールを開始します。	182
FFQD2258E: 指定された URL <i>public_folder_URL</i> は有効ですが、パブリック・フォルダーではありません。	179	FFQD3010I: <i>server_name</i> 上で <i>crawler_name</i> のためのクロールを完了しました。	183
FFQD2270E: 指定された JNDI プロパティーが無効です。	180	FFQD3011E: <i>target_name</i> 上の <i>target_host_name</i> のために停止するのに失敗しました。	183
FFQD2271E: 指定されたリポジトリ名が無効です。	180	FFQD3012I: クローラーはすでにサーバー <i>server_name</i> 上でクロールしています。	183
FFQD2272E: 指定されたユーザー名またはパスワードが無効です。	180	FFQD3013W: クロールされたデータは切り捨てられました。URI: <i>URI</i> 。サーバー: <i>target_host_name</i> 。ターゲット: <i>target_name</i>	183
FFQD2273E: 指定された項目クラス名が無効です。	180	FFQD3014E: クロールされた履歴を処理している間に例外が発生しました。	183
FFQD2274E: VeniceBridge API エラーが発生しました。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	180	FFQD3015E: クロールされた履歴を処理している間に例外が発生しました。URI: <i>uniform_resource_identifier</i> 。サーバー: <i>server_name</i> 。ターゲット: <i>crawler_name</i>	183
FFQD2275E: VeniceBridge サーバー・インスタンスを作成できません。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	180	FFQD3016E: データベースのアクセスを処理している間に例外が発生しました。	183
FFQD2276E: VeniceBridge サーバーを見つけることができません。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	181	FFQD3017E: データベースのアクセスを処理している間に例外が発生しました。URI: <i>uniform_resource_identifier</i> 。サーバー: <i>server_name</i> 。ターゲット: <i>crawler_name</i>	184
FFQD2277E: 通信エラーが発生しました。エラー・メッセージ: <i>error_message</i>	181		

FFQD3018E: クローラー構成を処理している間に例外が発生しました。	184
FFQD3019I: <i>server_name</i> サーバーにサーバー・スケジュールが設定されています。	184
FFQD3020I: <i>server_name</i> サーバーのスケジュールは使用不可にされています。	184
FFQD3021W: 指定されたサーバー <i>server_name</i> のスケジュールはすでに設定されています。	184
FFQD3022W: 指定されたサーバー <i>server_name</i> のスケジュールはすでに使用不可になっています。	184
FFQD3023W: サーバー <i>server_name</i> はスケジュールされていません。	184
FFQD3024E: フェッチの戻りコードが間違っています。戻りコード: <i>return_code</i> 。状態: <i>state</i> 。	185
FFQD3025E: データをフェッチしている間に例外が発生しました。	185
FFQD3026E: スレッド <i>thread_id</i> を処理している間に例外が発生しました。	185
FFQD3027E: クローラーについて例外が発生しました。	185
FFQD3028E: 指定されたサーバー <i>server_name</i> が見つかりません。	185
FFQD3029E: 接続マネージャーを初期化している間に例外が発生しました。	185
FFQD3030E: 状態マネージャーを初期化している間に例外が発生しました。	185
FFQD3031E: クローラー状況が要求されている間に例外が発生しました。	186
FFQD3032E: クロール・スペース状況が要求されている間に例外が発生しました。	186
FFQD3033E: クロール・スペース状況が要求されている間に例外が発生しました。	186
FFQD3034I: 古くなった文書を削除しています。	186
FFQD3035W: 古くなった文書の削除が中断されました。次の機会に再試行します。	186
FFQD3036I: <i>server_name</i> の <i>crawler_name</i> の古くなった文書の削除が終了しました。	186
FFQD3037E: 内部状況を更新している間に例外が発生しました。	186
FFQD3038E: 状況の矛盾のためにエラーが発生しました。情報: <i>additional_data</i>	187
FFQD3039E: 内部状況をアクセスしている間にエラーが発生しました。情報: <i>additional_data</i>	187
FFQD3040E: 古くなったレコードを削除している間に例外が発生しました。	187
FFQD3041I: スケジュール・コンポーネントが正常に開始しました。	187
FFQD3042E: スケジュール・コンポーネントが開始に失敗しました。	187
FFQD3043I: スケジュール・コンポーネントが正常に停止しました。	187
FFQD3044E: スケジュール・コンポーネントが停止に失敗しました。	187
FFQD3045I: <i>crawler_name</i> のスケジュールされたクロールを開始しています。	188

FFQD3046E: スケジュール・コンポーネントの中で例外が発生しました。	188
FFQD3047I: 内部リポジトリが正常に初期化されました。	188
FFQD3048E: 不明な内部リポジトリ・タイプ <i>internal_repository_type</i> が検出されました。	188
FFQD3049E: 内部リポジトリの初期化エラー。	188
FFQD3050E: アクセス違反。	188
FFQD3051E: 別のリポジトリがオープンしています。	188
FFQD3052E: データベース接続がありません。	189
FFQD3053E: 内部リポジトリをオープンしている間にデータベース・エラーが発生しました。	189
FFQD3054E: 内部リポジトリをクローズしている間にデータベース・エラーが発生しました。	189
FFQD3055E: 内部リポジトリにレコードを書き込んでいる間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	189
FFQD3056E: 最終変更日付を取得している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	189
FFQD3057E: 最終変更日付を更新している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	189
FFQD3058E: レコード変更を検出している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	190
FFQD3059E: チェックサムを取得している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	190
FFQD3060E: チェックサムを取得している間に出力エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	190
FFQD3061E: レコードを検査している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	190
FFQD3062E: 除外されたレコードを書き込んでいる間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	190
FFQD3063E: リポジトリからレコードを削除している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは <i>record_hash</i> です。	190
FFQD3064E: 古くなったレコードを取得している間にデータベース・エラーが発生しました。ターゲット ID は <i>record_hash</i> で、しきい値時間は <i>threshold_time</i> です。	191
FFQD3065I: 内部リポジトリが正常にオープンしました。	191
FFQD3066I: 内部リポジトリが正常にクローズしました。	191
FFQD3067I: クローラー構成ファイル <i>general_config_file</i> および <i>crawler_config_file</i> をロードしています。	191
FFQD3068I: 構成ファイルのロードが正常に完了しました。	191

FFQD3069E: 構成ファクトリーを作成している間にエラーが発生しました。	191	FFQD3103E: 内部データ・ストアをクローズできません。DBName: <i>database_name</i> . DBSchema: <i>schema_name</i> . DBUser: <i>database_user</i> . TableName: <i>table_name</i>	195
FFQD3070E: 構成ファイル <i>general_config_file</i> のロードが失敗しました。	191	FFQD3104E: FileNotFoundException のために、メタデータをファイル <i>file_name</i> に書き込むことができません。	195
FFQD3071E: ロードされた構成ファイルはありません。	192	FFQD3105E: 内部データ・ストアに書き込むことができません。DBName: <i>database_name</i> . DBSchema: <i>schema_name</i> . DBUser: <i>database_user</i> . TableName: <i>table_name</i>	195
FFQD3072E: 不明な構成オブジェクトが検出されました。	192	FFQD3106E: 内部データ・ストアに書き込むことができません。DBName: <i>database_name</i> . DBSchema: <i>schema_name</i> . DBUser: <i>database_user</i> . TableName: <i>table_name</i>	196
FFQD3073E: 文書ビルダーの取得に失敗しました。	192	FFQD3107E: 内部データ・ストアに対し、削除フラグによる更新ができません。DBName: <i>database_name</i> . DBSchema: <i>schema_name</i> . DBUser: <i>database_user</i> . TableName: <i>table_name</i>	196
FFQD3074E: 構成ファイルのフォーマット・エラーが検出されました。	192	FFQD3108E: 内部データ・ストアに対し、削除フラグによる更新ができません。DBName: <i>database_name</i> . DBSchema: <i>schema_name</i> . DBUser: <i>database_user</i> . TableName: <i>table_name</i>	196
FFQD3075E: 構成を解析している間に入出力エラーが発生しました。	192	FFQD3109W: クロールされるファイル <i>file_name</i> は、内部データ・ストアの更新の間に他のプログラムによって更新されます。	196
FFQD3076E: クローラー構成ファイル <i>crawler_config_file</i> が見つかりませんでした。 192		FFQD3110E: ファイル・ストリームをクローズできません。	196
FFQD3077E: クローラー構成ファイルの中で、ルート・エレメント名が <i>expected_root_element</i> であるはずのところに、 <i>detected_root_element</i> が検出されました。	192	FFQD3111E: パスワードの復号が失敗しました。 197	
FFQD3078E: <i>element_name</i> エレメントの中に属性 <i>attribute_name</i> が必要です。	193	FFQD3500E: JDBC クラス <i>jdbc_driver_class</i> が見つかりません。	197
FFQD3079E: 重複した名前 <i>value_of_name_attribute</i> がエレメント <i>element_name</i> で検出されました。	193	FFQD3501W: <i>table_name</i> 表を変更している間に例外が発生しました。	197
FFQD3080E: <i>element_name</i> エレメントの中で、間違った日付ストリング・フォーマットが検出されました。	193	FFQD3502W: <i>table_name</i> 表を作成している間に例外が発生しました。	197
FFQD3081E: <i>element_name</i> エレメントの中で、間違ったインターバル・ストリング・フォーマットが検出されました。	193	FFQD3503W: トランザクションのロールバックが失敗しました。	197
FFQD3082E: <i>element_name</i> エレメントの値 <i>actual_value</i> は範囲外です。	193	FFQD3504W: トランザクションのコミットが失敗しました。	197
FFQD3083W: XML パーサーが警告を報告しました。	193	FFQD3505W: 表 <i>orig_table_name</i> の表 <i>dest_table_name</i> への名前変更が失敗しました。クローラーは、名前変更ではなく、コピーしてドロップすることを試みます。	198
FFQD3084E: XML パーサーがエラーを報告しました。	193	FFQD3506W: <i>table_name</i> 表からすべてのデータを削除している間に例外が発生しました。	198
FFQD3085E: XML パーサーがリカバリー不能エラーを報告しました。	194	FFQD3507W: データを <i>table_name</i> 表に挿入している間に例外が発生しました。	198
FFQD3086E: フォーマッターが初期化されていません。	194	FFQD3508W: <i>table_name</i> 表をドロップしている間に例外が発生しました。	198
FFQD3087E: XML に変換できません。	194	FFQD3509W: <i>table_name</i> 表の URI <i>URI</i> (<i>uri_length</i> バイト) が長すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は <i>maximum_length</i> バイトです。	198
FFQD3088W: 非パラメトリック・フィールドに、パラメトリック検索可能と設定されています。パラメトリック検索フラグは使用不可にされました。	194		
FFQD3089W: メタデータは切り捨てられました。	194		
FFQD3090W: 一時ファイル <i>filename</i> は削除されません。	194		
FFQD3091W: フォーマット済みデータ・レコードはヌルです。アクションは必要ありません。 . 195			
FFQD3102E: 内部データ・ストアをオープンできません。DBName: <i>database_name</i> . DBSchema: <i>schema_name</i> . DBUser: <i>database_user</i> . TableName: <i>table_name</i>	195		

FFQD3510W: *table_name* 表 (URI : *URI*、*document_size* バイト) には長すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum_size* バイトです。 199

FFQD3511W: *table_name* 表 (URI : *URI*、*metadata_size* バイト) にはメタデータが多すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum_size* バイトです。 199

FFQD3512W: *table_name* 表に挿入している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected_count* でしたが、戻されたのは *actual_count* でした。 199

FFQD3513W: *table_name* 表を更新している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected_count* でしたが、戻されたのは *actual_count* でした。 199

FFQD3514W: *table_name* 表から削除している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected_count* でしたが、戻されたのは *actual_count* でした。 199

FFQD3515W: *table_name* 表を照会している間に例外が発生しました。 200

FFQD3516W: *table_name* 表に挿入している間に例外が発生しました。 200

FFQD3517W: *table_name* 表を更新している間に例外が発生しました。 200

FFQD3518W: *table_name* 表から削除している間に例外が発生しました。 200

FFQD3519W: *table_name* 表の照会を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。 200

FFQD3520W: *table_name* 表への挿入を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。 201

FFQD3521W: *table_name* 表の更新を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。 201

FFQD3522W: *table_name* 表からの削除を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。 201

FFQD3523W: 接続マネージャーはすでに初期化されています。 201

FFQD3524E: JNDI 検索が *jndi_name* について失敗しました。 201

FFQD3534E: *component_name* が状態を *from_state* から *to_state* に変更している間に例外が発生しました。 201

FFQD3540E: IOException のために、ファイル・ロック *file_name* の取得に失敗しました。 202

FFQD3541E: FileNotFoundException のために、ファイル・ロック *file_name* の取得に失敗しました。 202

FFQD3543E: ファイル・ロック *file_name* のリリースに失敗しました。 202

FFQD3544E: ファイル・ロックがヌルであるために、ファイル・ロック *file_name* のリリースに失敗しました。 202

FFQD3545E: トラストストア・ファイルのロードのアルゴリズム *algorithm_name* が見つかりませんでした。 202

FFQD3546E: ロードされた証明書はありません。 202

FFQD3547E: 不明な鍵ストア・タイプ *keystore_type* が検出されました。 203

FFQD3548E: トラストストア・ファイル・フォーマットまたはパスワードが無効です。指定されたトラストストア・ファイルは *truststore_file* です。 203

FFQD3549E: トラストストア・ファイル *truststore_file* をクローズしている間に入出力エラーが発生しました。 203

FFQD3550E: javax.net.ssl.TrustManager の初期化に失敗しました。 203

FFQD3551E: javax.net.ssl.SSLContext の初期化に失敗しました。 203

FFQD3553E: データベース *database_name* への接続を作成している間に例外が発生しました。 204

FFQD4000E: Notes クラスが見つかりません。Notes クローラーのセットアップが必要です。 204

FFQD4001E: Notes NRPC クラス (Notes.jar) が見つかりません。Notes NRPC クローラーのセットアップが必要です。 204

FFQD4002E: NRPC アクセスのための Notes ネイティブ・ライブラリー *library_name* が見つかりませんでした。Notes NRPC クローラーのセットアップが必要です。 204

FFQD4003E: Notes DIIOP クラス (NCS0.jar) が見つかりません。Notes DIIOP クローラーのセットアップが必要です。 204

FFQD4004E: 検出されたプラットフォーム *platform* から、Notes ライブラリー名を決定できません。 204

FFQD4005E: サーバーまたはターゲット、あるいは両方の情報が指定されていませんでした。 205

FFQD4006E: 構成ファイルの中のサーバー名 *server_string* は、Lotus Notes サーバーとデータベースを表していません。 205

FFQD4007E: 構成ファイルの中のサーバー名 *server_string* は、Lotus Notes データベース *database_name* を表していません。データベース名を指定しなければなりません。 205

FFQD4008E: サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* への接続はすでにアクティブです。 205

FFQD4009E: サーバー *server_name* 上の Lotus Notes データベース *database_name* に接続できません。 205

FFQD4010E: ID を *id_file_name* に変更できません。 206

FFQD4011E: サーバー *server_name* 上の Lotus Notes データベース *database_name* を切断できません。 206

FFQD4012E: ID を *id_file_name* に変更できません。 206

FFQD4013E: 次のレコードの存在を確認できません。サーバー: *server_name*。データベース: *database_name*。ビュー/フォルダー: *view_folder_name*。 206

FFQD4014E: ID を *id_file_name* に変更できません。 206

FFQD4015E: URI を作成できません。 206

FFQD4016E: 最後のクロール以降の、未変更の添付ファイル名を収集できません。 206

FFQD4017E: ターゲット・コンテンツをフェッチできません。サーバー: *server_name*。データベース: *database_name*。ビュー/フォルダー: *view_folder_name*。 207

FFQD4018E: 内部リポジトリ内に未定義のレコード状況 *status_code* が見つかりました。 207

FFQD4019E: 添付ファイル名を取得できません。 207

FFQD4020E: 一時ファイル *filename* に書き込むことができません。 207

FFQD4021E: 添付ファイルをフェッチできません。 207

FFQD4022E: バイナリー・コンテンツを読み取りまたは書き込みしている間に入出力エラーが発生しました。 207

FFQD4023E: 未定義のレコード状況 *status_code*。 208

FFQD4024E: 入出力エラーのために、ストリングの長さを評価できません。 208

FFQD4025W: Lotus Notes 文書から最終変更日付を取得できません。代わりに 0 が使用されます。 208

FFQD4026W: Lotus Notes 文書から作成日を取得できません。代わりに 0 が使用されます。 208

FFQD4027W: セキュリティー・フィールド値を取得できません。 208

FFQD4028W: データ・ソース・メタデータのファイル名を取得できません。 208

FFQD4029W: Lotus Notes 文書から最終変更日付を取得できません。代わりに 0 が使用されます。 209

FFQD4030W: Lotus Notes 文書から作成日を取得できません。代わりに 0 が使用されます。 209

FFQD4031E: サーバー *server_name* の接続は、ユーザー *user_name* を使用して、すでにアクティブです。 209

FFQD4032E: サーバー *server_name* へのアクセスは拒否されました。ユーザー *user_name* の Java/CORBA アクセスを許可しているサーバー設定を確認してください。 209

FFQD4033E: サーバー *server_name* に対し、ユーザー ID *user_name* またはパスワード、あるいは両方が無効です。 209

FFQD4034E: ユーザー *user_name* で、サーバー *server_name* の Notes セッションは作成できません。 209

FFQD4035E: *server_name* 上のデータベース *database_name* に接続している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。 210

FFQD4036E: *server_name* 上のデータベース *database_name* に接続できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。 210

FFQD4037E: 式が選択した文書を選択できません。文書にアクセスできることと、式が Notes 式に基づくことを確認してください。サーバー: *server_name*。ユーザー: *user_name*。データベース: *database_name*。式: *formula*。 210

FFQD4038E: サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection *view_or_folder_name* を取得している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットが指定されたユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。 211

FFQD4039E: サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。 211

FFQD4040E: サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。 211

FFQD4041E: Notes スレッドを初期化できません。 212

FFQD4042E: サーバー *server_name* の現行の Notes ユーザー ID *id_filename* を取得できません。 212

FFQD4043E: サーバー *server_name* への接続はすでにアクティブです。ID ファイル: *id_filename*。 212

FFQD4044E: サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* に接続している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *id_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。 212

FFQD4045E: サーバー <i>server_name</i> 上のデータベース <i>database_name</i> に接続できません。そのデータベースにアクセスできることと、クローラ・ターゲットがユーザー <i>id_filename</i> に対して使用可能になっていることを確認してください。	213	FFQD4062E: 現行の文書からフィールドをフェッチできません。	216
FFQD4046E: 式が選択した文書を選択できません。文書にアクセスできることと、式が Notes 式に基づくことを確認してください。サーバー: <i>server_name</i> 。ID ファイル: <i>id_filename</i> 。データベース: <i>database_name</i> 。式: <i>formula</i> 。	213	FFQD4063E: 項目をリサイクルできません。	216
FFQD4047E: サーバー <i>server_name</i> 上のデータベース <i>database_name</i> から、ビューまたは DocumentCollection を取得している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クローラ・ターゲットがユーザー <i>id_filename</i> に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: <i>view_or_folder_name</i> 。	213	FFQD4064E: 現行の EmbeddedObject はヌルです。	216
FFQD4048E: サーバー <i>server_name</i> 上のデータベース <i>database_name</i> から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クローラ・ターゲットがユーザー <i>id_filename</i> に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: <i>view_or_folder_name</i> 。	214	FFQD4065E: 現行の EmbeddedObject から InputStream を取得できません。	216
FFQD4049E: サーバー <i>server_name</i> 上のデータベース <i>database_name</i> から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クローラ・ターゲットがユーザー <i>id_filename</i> に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: <i>view_or_folder_name</i> 。	214	FFQD4066E: 現行の EmbeddedObject はヌルです。	216
FFQD4050E: ビューまたは DocumentCollection はヌルです。	214	FFQD4067E: 現行の EmbeddedObject からファイル名を取得できません。	216
FFQD4051E: ビューから文書をフェッチできません。	214	FFQD4068E: 現行の EmbeddedObject はヌルです。	216
FFQD4052E: 式が選択した文書のユニバーサル ID と比較しながら、ビューまたはフォルダーから文書をフェッチできません。	214	FFQD4069E: 現行の EmbeddedObject からファイル・サイズを取得できません。	217
FFQD4053E: DocumentCollection から文書をフェッチできません。	215	FFQD4070E: 現行の文書はヌルです。	217
FFQD4054E: 式が選択した文書のユニバーサル ID と比較しながら、DocumentCollection から文書をフェッチできません。	215	FFQD4071E: 現行の文書からフォーム名を取得できません。	217
FFQD4055E: 現行の文書はヌルです。	215	FFQD4072E: 現行の文書はヌルです。	217
FFQD4056E: 現行の文書から作成日を取得できません。	215	FFQD4073E: 文書ユニバーサル Notes ID を取得できません。	217
FFQD4057E: 現行の文書はヌルです。	215	FFQD4074E: 現行のビューまたは DocumentCollection はヌルです。	217
FFQD4058E: 現行の文書から最終変更日付を取得できません。	215	FFQD4075E: ビューについてユニバーサル ID を取得できません。	217
FFQD4059E: 現行の文書のサイズを取得できません。	215	FFQD4076E: 現行のデータベースはヌルです。	218
FFQD4060E: 現行の文書からフィールドをフェッチできません。	215	FFQD4077E: データベース・レプリカ ID を取得できません。	218
FFQD4061E: 項目をリサイクルできません。	216	FFQD4078E: クローラされる項目を収集できません。	218
		FFQD4079E: ID ファイル <i>id_filename</i> は存在しません。	218
		FFQD4080E: ID ファイル <i>id_filename</i> の ID 許可が失敗しました。	218
		FFQD4081E: Notes セッションを作成できません。	218
		FFQD4082E: 登録はリサイクルできません。	218
		FFQD4083E: ID を <i>id_filename</i> に変更できません。	219
		FFQD4084E: このセッションは、DIIOP 上にあります。	219
		FFQD4085E: セッションはリサイクルできません。	219
		FFQD4086E: 現行の文書はリサイクルできません。	219
		FFQD4087E: ビュー/DocumentCollection はリサイクルできません。	219
		FFQD4088E: 現行の文書はリサイクルできません。	219
		FFQD4089E: 現行の EmbeddedObject はリサイクルできません。	219
		FFQD4090E: 現行の EmbeddedObject はリサイクルできません。	219
		FFQD4091W: 長すぎる URI が生成されました。この行は無視されます。生成された URI: <i>uri</i> 。	220

FFQD4200I: ユーザー <i>user_name</i> を使用して <i>database_URL</i> に接続しました。	220	FFQD4224E: サポートされないデータ・タイプが見つかりました。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。列: <i>column_name</i> 。タイプ: <i>data_type</i> 。	223
FFQD4201I: <i>database_URL</i> から切断しました。	220	FFQD4225E: DATE または TIMESTAMP 列がコンテンツとして指定されました。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。列: <i>column_name</i> 。	224
FFQD4202W: メタデータは、サイズの上限 <i>data_size_limit</i> を超えたため、切り捨てられました。	220	FFQD4226E: 非数値列 (BIGINT を含む) が、パラメトリック検索可能フィールドとして指定されました。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。列: <i>column_name</i> 。タイプ: <i>data_type</i> 。	224
FFQD4203W: コンテンツは、サイズの上限 <i>data_size_limit</i> を超えたため、無視されました。	220	FFQD4227E: 非バイナリー列がコンテンツとして指定されました。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。列: <i>column_name</i> 。タイプ: <i>data_type</i> 。	224
FFQD4204W: データベース <i>database_URL</i> 上の表 <i>table_name</i> 内の行は、列 <i>column_name</i> にヌル・キーが検出されたため、無視されました。	220	FFQD4228E: 複数のコンテンツはサポートされません。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。	225
FFQD4205W: URI が長すぎるため、行は無視されました。URI: <i>URI</i> 。	221	FFQD4300E: 内部エラーが発生しました (別の接続が存在します)。	225
FFQD4207E: フィールドの指定が無効です。	221	FFQD4301E: 項目タイプ <i>item_type</i> が存在しないか、項目タイプがパーツ項目タイプです。	225
FFQD4208E: ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。 <i>database_URL</i> への接続を確立できません。	221	FFQD4302E: 接続が失敗しました。データベース: <i>database</i> 。ユーザー: <i>user</i> 。	225
FFQD4209E: データベース <i>database_URL</i> が見つかりませんでした。	221	FFQD4303E: 切断が失敗しました。	225
FFQD4210E: 表またはビュー <i>database_URL</i> が見つかりませんでした。	221	FFQD4304E: コンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。PID: <i>pid</i> 。	225
FFQD4211E: 列が見つかりませんでした。	221	FFQD4305E: 一時ファイルを作成している間にエラーが発生しました。	226
FFQD4212E: SQL 構文エラーが検出されました。データベース: <i>database_URL</i> 。SQL: <i>SQL_statement</i> 。	221	FFQD4306E: データベース接続は存在しません。	226
FFQD4213E: ユーザー <i>user_name</i> は、CONNECT または SELECT 特権を持ちません。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。	222	FFQD4307E: 照会コマンド <i>cmd</i> を実行している間にエラーが発生しました。	226
FFQD4214E: <i>database_URL</i> へのデータベース接続がフルです。	222	FFQD4308E: レコードをフェッチしている間にエラーが発生しました。PID: <i>pid</i> 。	226
FFQD4215E: データベース <i>database_URL</i> からの接続は終了しました。	222	FFQD4309E: パーツをフェッチしている間にエラーが発生しました。PID: <i>pid</i> 。	226
FFQD4216E: <i>database_URL</i> への接続が失敗しました。	222	FFQD4310E: 属性 <i>attribute</i> は存在しません。	227
FFQD4217E: <i>database_URL</i> からの切断が失敗しました。	222	FFQD4311E: 属性 <i>attribute</i> が存在しないか、属性が BLOB タイプです。	227
FFQD4218E: 入出力エラーが発生しました。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。	222	FFQD4312E: コンポーネント <i>component</i> は存在しません。	227
FFQD4219E: データベース・エラーが発生しました。データベース: <i>database_URL</i> 。SQLCODE: <i>SQLCODE</i> 。SQLSTATE: <i>SQLSTATE</i> 。	222	FFQD4313E: 属性をフェッチしている間にエラーが発生しました。	227
FFQD4220E: データベース接続がありません。	223	FFQD4314E: 最終変更日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。	227
FFQD4221E: クロールされる列が指定されていません。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。	223	FFQD4315E: 作成日をリトリブしている間にエラーが発生しました。	228
FFQD4222E: セキュリティー・フィールドはストリング列でなければなりません。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。列: <i>column_name</i> 。タイプ: <i>security_type</i> 。	223	FFQD4316E: 日付 <i>date</i> を解析している間にエラーが発生しました。	228
FFQD4223E: 日付フィールドは、DATE または TIMESTAMP 列でなければなりません。データベース: <i>database_URL</i> 。表: <i>table_name</i> 。列: <i>column_name</i> 。タイプ: <i>date_type</i> 。	223	FFQD4317E: 項目タイプ <i>item_type</i> をリトリブしている間にエラーが発生しました。	228
		FFQD4318E: オリジナル・ファイル名をリトリブしている間にエラーが発生しました。	228

FFQD4319E: アクセスを制御するためのフィールドとして指定された属性 *attribute* は存在しません。 229

FFQD4320E: 文書日付として指定された属性 *attribute* が間違っています。 229

FFQD4321E: 文書日付として指定された属性 *attribute* は存在しません。 229

FFQD4322E: 文書日付をリトリートしている間にエラーが発生しました。属性: *attribute*。 229

FFQD4323W: 長すぎる URI が生成されました。この行は無視されます。生成された URI: *uri*。 229

FFQD4324I: サーバーに接続しました。データベース: *database*。ユーザー: *user*。 230

FFQD4325I: サーバーから切断しました。 230

FFQD4326E: Resource Manager がオンラインでないか、使用可能ではありません。 230

FFQD4327W: コンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。この文書をスキップします。PID:*pid*。 230

FFQD4402W: プロパティ *property_name* は、今は変更できません。クローラーを再始動してください。 230

FFQD4409W: 記事数が上限 *max_num_of_articles* を超えたため、NNTP クローラーは休止します。 230

FFQD4413W: エラーのために、クローラーは *sleep_interval* 秒間、スリープします。 231

FFQD4414E: サーバー状況の更新に失敗しました。クローラーはあとで再試行します。 231

FFQD4415E: ニュース・グループ状況の更新に失敗しました。クローラーはあとで再試行します。 231

FFQD4416E: メッセージ ID の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。 231

FFQD4417E: ニュース記事の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。 231

FFQD4418E: 削除されたニュース記事の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。 231

FFQD4419W: クローラーは、サーバー状況の更新を失敗しましたが、停止されます。 232

FFQD4420W: クローラーは、ニュース・グループ状況の更新を失敗しましたが、停止されます。このため、いくつかの記事を再度クロールすることになるかもしれません。 232

FFQD4421W: クローラーは、メッセージ ID の更新を失敗しましたが、停止されます。このため、いくつかの記事を再度クロールすることになるかもしれません。 232

FFQD4422W: クローラーは、記事の挿入を失敗しましたが、停止されます。 232

FFQD4423W: クローラーは、削除された記事の挿入を失敗しましたが、停止されます。 232

FFQD4427E: 不明なホスト *host_name* のために、ニュース・グループ・リストをリトリートできませんでした。 233

FFQD4428E: *host_name* 上のネットワーク・エラーまたはサーバー・エラーのために、ニュース・グループ・リストをリトリートできませんでした。 233

FFQD4433W: クリーニングが中断されました。このプロセスは、次の機会に再始動されます。 233

FFQD4434W: この記事 *message_id* の中にメッセージ ID が見つかりませんでした。この記事は無視されます。 233

FFQD4435W: メッセージ ID が 矛盾します (*message_id1* と *message_id2* は同一でなければなりません)。この記事は無視されます。 233

FFQD4436W: 予期しない日付形式 *date*。 234

FFQD4437E: 記事を解析している間に入出力エラーが発生しました。 234

FFQD4449E: *api_name* でエラーが発生しました。 234

FFQD4450E: ファイル *file_name* が見つかりませんでした。 234

FFQD4451E: ネットワーク入出力エラーが発生しました。 234

FFQD4452E: コマンド *nntp_command* で、予期しない応答 *server_response* が戻されました。 234

FFQD4453W: 記事ポインターの状況をリトリートできませんでした。戻りコードは *return_code* です。 235

FFQD4454W: 記事をリトリートできませんでした。戻りコードは *return_code* です。 235

FFQD4455W: クローラーは次の記事に移動できませんでした。戻りコードは *return_code* です。 235

FFQD4456W: クローラーは、*server_name* 上のニュース・グループ *newsgroup_name* に切り替えることができませんでした。戻りコードは *return_code* です。 235

FFQD4457W: ニュース・グループ・リストをリトリートできませんでした。戻りコードは *return_code* です。 235

FFQD4458E: サーバー名 *server_name* を解決できませんでした。 236

FFQD4461E: クローラーは、サーバーから、サービス切断のメッセージを受け取りました。 236

FFQD4500E: *directory_name* ディレクトリーが見つかりませんでした。 236

FFQD4501E: *directory_name* ディレクトリーが見つかりませんでした。エラー・メッセージ: *detail_message*。 236

FFQD4502E: *filename* ファイルのオープンに失敗しました。ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。 236

FFQD4503E: *filename* ファイルを読み取っている間に例外が発生しました。 237

FFQD4504E: サブディレクトリー・レベル *levels of subdirectories* が間違っています。 237

FFQD4505W: ディレクトリー名が長すぎて保管できません。ディレクトリー: *directory_name*。 237

FFQD4506W: URI 名が長すぎて保管できません。URI: <i>directory_name</i> 。	237	FFQD4619E: ファイル <i>temporary_file</i> をクローズしている間に入出力エラーが発生しました。	241
FFQD4507E: ネットワーク・ドライブを使用できません。エラー・メッセージ: <i>detail_message</i> 。	237	FFQD4620E: 一時ファイル <i>temporary_file</i> からオブジェクトを読み取っている間に入出力エラーが発生しました。	241
FFQD4508E: ユーザー ID <i>user_name</i> またはパスワードが間違っています。ネットワーク・フォルダー: <i>directory_name</i> 。	237	FFQD4621E: ファイル <i>temporary_file</i> からのオブジェクト入カストリームをクローズしている間に入出力エラーが発生しました。	241
FFQD4509E: 一時ファイル <i>temporary_file</i> は作成されませんでした。	238	FFQD4622E: 不明なホスト名 <i>host_name</i> が検出されました。	241
FFQD4510E: 一時ファイル <i>temporary_file</i> のロードに失敗しました。	238	FFQD4623E: URL <i>public_folder_URL</i> が間違っています。	241
FFQD4511E: 一時ファイル <i>temporary_file</i> の保管に失敗しました。	238	FFQD4624E: <i>public_folder_URL</i> への接続をリフレッシュできませんでした。	241
FFQD4600E: URL <i>public_folder_URL</i> からの応答を受信している間に入出力エラーが発生しました。	238	FFQD4625E: 要求を <i>public_folder_URL</i> に送信している間に、入出力エラーが発生しました。	242
FFQD4601E: XML パーサー構成エラーが発生しました。	238	FFQD4626E: <i>public_folder_URL</i> への接続に失敗しました。	242
FFQD4602E: URL <i>public_folder_URL</i> からの WebDAV 応答は、間違った XML 文書です。	238	FFQD4627E: SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。	242
FFQD4603I: ユーザー <i>user_name</i> を使用して <i>public_folder_URL</i> に接続しました。	239	FFQD4628E: SSL を使用するには、トラストストア・パスワードの指定が必要です。	242
FFQD4604I: ユーザー <i>user_name</i> とトラストストア・ファイル <i>truststore_file</i> を使用して <i>public_folder_URL</i> に接続しました。	239	FFQD4629E: トラストストア・ファイル <i>truststore_file</i> は存在しません。	242
FFQD4605I: <i>public_folder_URL</i> から切断しました。	239	FFQD4631E: トラストストアのファイル・フォーマットまたはパスワードが間違っています。指定されたトラストストアは <i>truststore_file</i> です。	242
FFQD4607E: <i>public_folder_URL</i> への接続に失敗しました。	239	FFQD4632W: URI が長すぎるため、文書は無視されました。URI: <i>URI</i> 。	243
FFQD4608E: 次のレコードの検査が失敗しました。	239	FFQD4633W: URI が長すぎるため、フォルダーは無視されました。URI: <i>URI</i> 。	243
FFQD4609E: URL <i>uniform_resource_locator</i> からのコンテンツの取得でエラーが発生しました。	239	FFQD4707E: 構成ファイルの中の サーバー名 <i>server_string</i> は、 <i>VeniceBridge</i> サーバーとリポジトリ名を表していません。	243
FFQD4610E: URL <i>public_folder_URL</i> からコンテンツを取得している間に入出力エラーが発生しました。	239	FFQD4708E: <i>VeniceBridge</i> API エラーが発生しました。	243
FFQD4611E: パブリック・フォルダー <i>public_folder_URL</i> をクロールできませんでした。HTTP 状況は <i>HTTP_state_code</i> です。	240	FFQD4709E: <i>VeniceBridge</i> API はライセンス交付を受けていません。	243
FFQD4612E: <i>public_folder_URL</i> に対する WebDAV 要求が失敗しました。戻された状況コードとメッセージは、 <i>HTTP_state_code</i> 、 <i>HTTP_response_message</i> です。	240	FFQD4710E: <i>VeniceBridge</i> サーバー・インスタンスを作成できません。	243
FFQD4613W: 値 <i>string</i> を解析している間に、時刻形式のエラーが検出されました。	240	FFQD4711E: <i>VeniceBridge</i> API 構成エラーが発生しました。	244
FFQD4614W: 指定された URL <i>document_URL</i> はすでに存在します。	240	FFQD4712E: <i>VeniceBridge</i> サーバーを見つけることができません。	244
FFQD4616E: 一時ファイル <i>temporary_file</i> は存在しません。	240	FFQD4713E: 通信関連エラーが発生しました。	244
FFQD4617E: オブジェクトを一時ファイル <i>temporary_file</i> に書き込んでいる間に入出力エラーが発生しました。	240	FFQD4714E: リポジトリ <i>repository_name</i> が見つかりません。	244
FFQD4618E: ファイル <i>temporary_file</i> へのオブジェクト出カストリームをクローズしている間に入出力エラーが発生しました。	241	FFQD4715E: <i>VeniceBridge</i> ユーザー・インスタンスは初期化されませんでした。	244
		FFQD4716E: <i>repository_name</i> リポジトリへのログオンに失敗しました。	244
		FFQD4718E: リポジトリ <i>repository_name</i> の項目クラス <i>item_class</i> が見つかりませんでした。	244

FFQD4719E: プロパティー <i>property</i> が見つかりませんでした。リポジトリ: <i>repository_name</i> 。項目クラス: <i>item_class</i> 。	245
FFQD4720E: ランキング日付のプロパティー <i>property</i> が見つかりませんでした。リポジトリ: <i>repository_name</i> 。項目クラス: <i>item_class</i> 。	245
FFQD4721E: セキュリティー・フィールドのプロ パティー <i>property</i> が見つかりません。リポジト リ: <i>repository_name</i> 。項目クラス: <i>item_class</i> 。	245
FFQD4722E: 指定された選択基準 <i>condition_statement</i> に問題があります。	245
FFQD4723E: ランキング日付フィールドは、 DATE または DATETIME データ・タイプでなけれ ばなりません。リポジトリ: <i>repository_name</i> 。項目クラス: <i>item_class</i> 。プ ロパティー: <i>property</i> 。タイプ: <i>data_type</i> 。	245
FFQD4724E: サポートされないデータ・タイプ <i>data_type</i> が見つかりました。リポジトリ: <i>repository_name</i> 。項目クラス: <i>item_class</i> 。プ ロパティー: <i>property</i> 。	246
FFQD4725E: 実行される照会に問題があります。	246
FFQD4726E: 順序キーが見つかりません。 キー: <i>order_key_property</i> 。	246
FFQD4728W: 長すぎる URI が生成されました。 このレコードは無視されます。URI: <i>uri</i> 。	246
FFQD4729W: プロパティー <i>property</i> が見つかり ませんでした。	246
FFQD4730E: コンテンツを書き込んでいる間に入 出力エラーが発生しました。	246

第 19 章 用語集 247

DB2 Information Integrator の資料 253

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パ ブリッシング機能に関する資料	253
--	-----

z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリ ッシング機能に関する資料	254
Linux、UNIX、および Windows 上のイベント・パ ブリッシングおよびレプリケーション機能に関する 資料	254
Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテ ッド機能に関する資料	255
z/OS 上のフェデレーテッド機能に関する資料	257
z/OS 上のレプリケーション機能に関する資料	258
Linux、UNIX、および Windows 上のエンタープラ イズ・サーチ機能に関する資料	258
リリース情報とインストール要件.	259
リリース情報とインストール要件の表示	260
PDF 文書の表示と印刷	260
DB2 Information Integrator の資料へのアクセス	261

アクセス支援 263

キーボードによる入力およびナビゲーション	263
キーボード・フォーカス.	263
キーボード入力.	263
キーボード・ナビゲーション	263
アクセスしやすい表示	264
フォントの設定.	264
色に依存しない.	264
支援テクノロジーとの互換性	264
アクセスしやすい資料	264

特記事項. 265

商標	267
--------------	-----

IBM と連絡を取る. 269

製品情報. 271

索引 273

本書について

本書は、DB2 Information Integrator OmniFind Edition、バージョン 8.2 (エンタープライズ・サーチ) のコレクション管理を行うときの参照用として使用してください。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition には、エンタープライズ・サーチという機能が搭載されています。このエンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind) のインストール時にインストールされます。CD ラベルや特定の製品コンポーネントに言及する場合を除き、DB2 II OmniFind の資料内では『DB2 II OmniFind』の代わりに『エンタープライズ・サーチ』という用語が使用されています。

本書では、以下のトピックについて説明します。

- エンタープライズ・サーチの概念、コンポーネント、および機能の概要
- コレクションの作成、モニター、および管理に関する概要
- エンタープライズ・サーチの言語分析機能について
- エンタープライズ・サーチのデータ検索、および検索結果を返すしくみ
- カスタム検索アプリケーションを使用可能にしてエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索する方法
- エンタープライズ・サーチで使用可能なセキュリティー・レベルの概要
- エンタープライズ・サーチを IBM WebSphere Portal に組み込む方法
- WebSphere Portal をエンタープライズ・サーチにマイグレーションする方法
- システムのバックアップとリストアの方法
- ログ・ファイルの作成と表示方法
- エンタープライズ・サーチに関するメッセージの説明

本書の対象読者

本書は、エンタープライズ・サーチ・コレクションの作成、モニター、および管理を担当するシステム管理者およびシステム・オペレーターを対象としています。

本書では、コレクションの作成、コレクションのコンテンツの選択、コンテンツを検索可能にするオプションの構成について説明します。また、コレクションおよびシステム・アクティビティーのモニター、エンタープライズ・サーチ管理者としてのユーザーの登録、検索アプリケーションとコレクションの関連付けについても説明します。

本書では、Web アプリケーションを十分理解していること、エンタープライズ・サーチで検索可能にしたいデータ・ソースについての経験があることが前提になっています。

第 1 章 エンタープライズ・サーチとは?

エンタープライズ・サーチ・システムは、1 度の照会で任意の数の構造化された、および構造化されていない データ・ソースを検索する広範な機能を提供するシステムです。照会にかかる応答時間が短く、結果セットを統合し、ランク付けする機能があるため、必要な情報を素早く簡単に見つけることができます。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、IBM® DB2® Information Integrator OmniFind™ Edition (DB2 II OmniFind) と共にインストールされ、これらのコンポーネントによって、企業全体の情報が収集され、それらの情報が検索可能になるように処理されます。ユーザーは、Web ブラウザーに照会を入力するだけで、ローカルおよびリモート・データベース、コラボレーション・システム、コンテンツ・マネージメント・システム、ファイル・システム、および内外の Web サイト を同時に検索することができます。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、既存のシステムとシームレスに統合できるように設計されており、多種多様なソースからデータを収集する必要があるロジスティクスに対応し、データの索引を作成して高速検索を可能にします。また、エンタープライズ・サーチでは、言語分析その他の分析をデータに適用し、有用性の高い検索結果を提供することができます。異なるタイプのリポジトリを検索する場合でも、異なるインターフェースの使い方を習得する必要もありません。

セキュリティーは、エンタープライズ・サーチに不可欠な要素です。システム管理は、権限のあるユーザーしか操作できないようになっています。IBM WebSphere® Application Server のセキュリティー機構を使用することにより、管理役割を構成し、すべての管理ユーザーを認証することができます。管理役割を構成することにより、種々の管理機能に対するユーザーのアクセス権を制限することができます。

また、データ収集時にセキュリティー・トークンを収集したデータに関連付けるオプションを指定することもできます。検索アプリケーションでセキュリティーを使用可能にすれば、これらのトークンを使用して、アクセス制御を施行し、適切な信任状を持つユーザーのみがデータ照会を実行し、検索結果を表示できるようにすることができます。

関連概念

127 ページの『第 12 章 エンタープライズ・サーチ・セキュリティー』
エンタープライズ・サーチのセキュリティー機構によって、無許可でソースが検索されないようにし、管理機能の使用を特定のユーザーに制限することができます。

エンタープライズ・サーチでサポートされているデータ・ソース・タイプ

データ・ソースを検索する場合に、さまざまなデータ・ソース・タイプが検索できるようにあらかじめサポート設定されています。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition をインストールすると、次の各タイプのデータ・ソースからデータの収集を開始できます。

- IBM DB2 Content Manager 項目タイプ (文書、リソース、および項目)
- IBM DB2 Universal Database™ for z/OS®、IBM Informix®、Oracle、およびフェデレーテッド・データベースの IBM DB2 Information Integrator ニックネーム表。
- IBM DB2 Universal Database データベース
- IBM Lotus Notes® データベース
- Microsoft® Exchange Server のパブリック・フォルダー
- Microsoft Windows® ファイル・システム
- NNTP ニュース・グループ
- UNIX® ファイル・システム
- Venetica VeniceBridge リポジトリ (Documentum および FileNet Panagon Content Services の項目クラス)
- Web サイト (インターネット、およびイントラネット内)

エンタープライズ・サーチ用のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すれば、上記以外の既存のデータベース、市販データベースなど他のタイプのソースをサポートするように拡張できます。

関連概念

データ・リスナー API

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの概要

エンタープライズ・サーチでは、そのコンポーネントによって、企業全体からデータを収集し、収集した情報を分析、解析、カテゴリー化し、ユーザーが検索に使用する索引を作成します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションは、ユーザーが1回の照会で検索できるデータ・ソースの集合を表します。コレクションを作成する場合、コレクションに入れるソースを指定し、ユーザーが索引付けされたデータを検索するときのオプションを構成します。

コレクションは複数作成することができ、各コレクションにはさまざまな種類のデータ・ソースのデータを入れることができます。例えば、IBM DB2 Universal Database、IBM Lotus Notes、および IBM DB2 Content Manager データベースの文書を格納するコレクションを単独のコレクションとして作成することができます。ユーザーがこのコレクションを検索すると、検索結果にはこれらの各データ・ソースの文書が含まれることとなります。

コレクションの作成および管理には、次のようなアクティビティがあります。

データの収集

クローラー・コンポーネントによって、連続的に、または指定したスケジュールに従ってデータ・ソースから文書が収集されます。頻繁にクローリングを行うことにより、ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようになります。

データの分析

パーサー・コンポーネントによって、文書からテキストが抽出され、クロ

ローラーがクローリングした各文書に対して言語分析その他の分析が行われます。この詳細なコンテンツ分析により、検索結果の品質が向上します。

データの索引作成

索引 コンポーネントが、定期的にスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報が索引に追加されます。索引コンポーネントでは、コレクション内の文書に対してグローバル分析を行い、検索結果の品質を高めます。

データの検索

検索 コンポーネントによって、索引が検索され、検索アプリケーションと連携して検索結果を処理し、処理された検索結果を戻します。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition には、このほかにも、検索対象のソースの構成、システム・アクティビティのモニター、問題が発生した場合のトラブルシューティングを行うためのいくつかの便利なコンポーネントが付属しています。また、この製品では、独自の検索アプリケーションを作成するときのテンプレートとして使用できる検索アプリケーションの実用サンプルも提供されています。

関連概念

27 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

75 ページの『第 7 章 エンタープライズ・サーチの言語分析機能』

エンタープライズ・サーチでは、ほとんどの印欧言語、および日本語などのアジア言語によるテキスト 文書に対する言語分析検索サポートを提供しています。

63 ページの『第 5 章 エンタープライズ・サーチ索引の管理』

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

81 ページの『第 8 章 エンタープライズ・サーチ・コレクションの検索』

エンタープライズ・サーチ用の検索アプリケーションにより、ユーザーは単純照会、フリー・テキスト照会、およびさらに詳細な文書に対する合致基準を指定できる複雑な照会を設定できます。

エンタープライズ・サーチ・クローラー

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、データ・ソースから文書を収集し、それらの文書が分析、索引作成、および検索できるようにします。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition で提供されているクローラー・コンポーネントには、次のような機能があります。

- クローラーを構成すると、ディスカバリー・プロセスにより、Lotus Notes データベースのすべてのビューおよびフォルダー名、または UNIX サーバーの全ファイル・システム名など、クローリング可能なソースに関する情報が検出されます。
- クローリングするソースを選択し、クローラーを開始すると、クローラー・コンポーネントはソースからデータを収集し、それらのデータが分析および索引作成できるようにします。

1 つのコレクションには複数のクローラーを入れることができ、各クローラーは特定タイプのデータ・ソースからデータを収集するように設計されています。例えば、同一のコレクションに、ファイル・システム、Notes® データベース、およびリレーショナル・データベースのデータを併合する場合、3 つのクローラーを同じコレクションに作成します。また、同一タイプのクローラーを複数作成し、各クローラーがクロールしているデータの変更頻度に従って、それぞれ異なるクロール・スケジュールを設定することもできます。

Web および NNTP ソースのクローラーなど、一部のクローラーは、連続実行されます。クロール対象の URL または NNTP ニュース・グループを指定すると、クローラーは、新規または変更されたデータがないか定期的にそれらの対象に戻ってチェックします。他のタイプのクローラーは、手動で開始および停止することもできますし、クロール・スケジュールを設定することもできます。クローラーのスケジュールを設定する場合、初回実行の日時、および新規および変更された文書をクロールするためにデータ・ソースにクローラーがアクセスする頻度を指定します。

クローラーのプロパティは、特定のクローラーがクロールするときの動作を制御する規則の集合です。例えば、クローラーのシステム・リソースの使用を制御する規則を指定します。クロール対象として適格なデータ・ソースの集合は、クローラーのクロール・スペースを構成します。クローラーを作成後、クローラーのプロパティは、いつでも編集し、クローラーのデータ収集指定を変更することができます。また、クロール・スペースを編集して、クローラー・スケジュールの変更、新規ソースの追加、または今後検索しないソースの除去を行うこともできます。

関連概念

27 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

エンタープライズ・サーチ・パーサー

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition で提供されているパーサー・コンポーネントは、文書コンテンツおよび文書のメタデータを分析します。分析結果は、索引作成コンポーネントがアクセスできるようにデータ・ストアに格納します。パーサーは、以下のようなタスクを実行します。

- さまざまなフォーマットによる文書からテキストを抽出する。例えば、パーサーは、XML および HTML 文書のタグ内のテキストを抽出します。Stellent for IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition Outside In Viewer Technology の使用により、パーサーは Microsoft Word および Adobe Acrobat の PDF 文書などのバイナリー・フォーマットのテキストも抽出します。
- 各文書の文字セット・エンコードを検出する。パーサーは、言語分析を行う前処理として、検出したこの情報を使用してすべてテキストをユニコードに変換します。
- 各文書のソース言語を検出する。

- コレクションに管理者が指定した解析規則を適用する。パーサーの構成時、次の項目を構成できます。

XML 文書のフィールド・マッピング規則

この機能を使用すると、ユーザーが XML 文書内の構造化されたコンテンツ、および構造化されていないコンテンツを区別して検索することができます。XML エlementを検索フィールドにマップすると、ユーザーは照会でフィールド名を指定して、XML 文書の特定の部分を検索することができます。(特定フィールドを検索する照会では、全文書コンテンツを検索するフリー・フォーム照会より、精度の高い検索結果が得られます。)

カテゴリ

この機能を使用すると、ユーザーは、文書が属するカテゴリを基準にして文書を検索できます。また、ユーザーは検索結果でカテゴリを選択して、同じカテゴリに属する文書だけを参照することもできます。

コレクションの作成時に、カテゴリを使用する場合は、使用するカテゴリのタイプを選択します。「ルール・ベース」のカテゴリを使用すると、文書は管理者が定義した規則に従ってカテゴリに関連付けられます。ルール・ベースのカテゴリは、作成したエンタープライズ・サーチ・コレクション、および IBM WebSphere Portal からマイグレーションしたコレクションについて構成することができます。

「モデル・ベース」のカテゴリを使用すると、文書は WebSphere Portal にあるモデル・ベースのカテゴリに関連付けられます。このオプションを使用する場合、エンタープライズ・サーチ索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされていなければなりません。また、WebSphere Portal のカテゴリ化ツールを使用して、カテゴリを管理する必要があります。

- テキストを抽出し、トークンを追加してデータの検索機能を拡張する。このプロセスでは、パーサーは、以下のタスクを実行します。
 - 大文字の正規化、およびドイツ語のウムラウトなどの発音区別符号の正規化などの文字の正規化。
 - 段落、文、単語、および空白文字の構造分析。パーサーは、このような言語分析により、複合語を分解し、辞書検索および同義語検索ができるようにするためのトークンの指定を行います。

関連概念

75 ページの『第 7 章 エンタープライズ・サーチの言語分析機能』

エンタープライズ・サーチでは、ほとんどの印欧言語、および日本語などのアジア言語によるテキスト 文書に対する言語分析検索サポートを提供しています。

85 ページの『カテゴリに関する作業』

カテゴリを使用すると、共通の特性を共用する文書をグループにまとめ、そのグループのメンバーに対する 基準に合う文書だけを検索、取得することができます。

93 ページの『XML 検索フィールド』

XML 検索フィールドは、ユーザーによる XML 文書の特定部分の照会を可能にします。

関連タスク

120 ページの『パーサーのモニター』

パーサーを開始または停止する必要がある場合、コレクションのパーサーをモニターします。

エンタープライズ・サーチ索引

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition と併せてインストールされます。

ユーザーが、常に検索対象のソースの最新情報にアクセスできるようにするため、索引の作成には、次の 2 つの 段階があります。

索引の再編成

索引を再編成すると、構成が最適な編成になるように索引全体が再作成されます。索引作成プロセスによって、クローラーが収集し、パーサーが分析したすべてのデータが読み込まれます。

索引のリフレッシュ

索引をリフレッシュすると、最後の索引再編成の後にクロールされた情報が、索引に追加されます。

コレクションの索引オプションを構成する場合、索引の再編成およびリフレッシュのスケジュールを指定できます。索引の再編成やリフレッシュの頻度は、システム・リソースや、索引作成対象のソースのコンテンツが頻繁に更新されるかどうかによって異なります。

確実に新しい情報を利用できるようにするため、索引のリフレッシュ・スケジュールは頻繁に行うようにしてください。また、定期的に索引の再編成をスケジュール設定して、新規の情報がすべて統合され、新規のコンテンツが分析されて、索引のパフォーマンスが最適化されるようにしてください。

索引キューに同時に入れることができる索引は、1 コレクションにつき 1 つに限られますが、複数のコレクションからの索引ならば複数の索引をキューに入れることができ、同時に索引作成することができます。同時に索引作成を行うと、大規模の索引の再編成で、他の索引のリフレッシュを妨げないようにすることができます。索引作成は、リソースを集中的に使用するプロセスになりかねませんので、大規模なシステムの場合、システム負荷をモニターして再編成およびリフレッシュ頻度を調整するようにしてください。

また、索引作成プロセスは、スケジューリングせずに開始することもできます。例えば、特定の解析規則を変更し、その変更を使用している検索アプリケーションで有効になるようにしたい場合、索引の再編成が開始されるようにスケジュールされている日時を待たずに、データが再クロール、解析された時点で索引の再編成を開始することができます。

索引作成時、索引プロセスでは、グローバル文書分析を行います。この分析では、文書の重複を識別し、文書のリンク構造を分析し、アンカー・テキスト (ハイパーテキスト・リンクでターゲット・ページを記述するテキスト) に対する特殊処理を行うアルゴリズムが適用されます。

索引を作成すると、有効範囲を構成することができます。有効範囲を設定すると、ユーザーがコレクションで表示できる内容を制限することができます。例えば、技術サポート部の文書の URI を含む有効範囲を作成したり、人事部の文書の URI を含む別の有効範囲を作成したりすることができます。検索アプリケーションでこの機能をサポートすると、ユーザーはコレクション中の該当するサブセットだけを対象として文書を検索、取得することができます。

関連概念

63 ページの『第 5 章 エンタープライズ・サーチ索引の管理』

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

92 ページの『有効範囲』

有効範囲によって、ユーザーがコレクションを検索するときに検索できる文書を制限できます。

関連タスク

64 ページの『索引作成のスケジューリング』

索引を再編成するスケジュールと、索引を新しいコンテンツでリフレッシュするスケジュールを指定できます。

67 ページの『索引の並行作成の構成』

複数の索引が、索引付けプロセスを共用できます。プロセスを共用すると、大規模な索引の再編成が行われていても、キューで作成を待っている別の索引の使用可能性が阻害されません。

121 ページの『コレクションの索引アクティビティのモニター』

作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティの開始/停止を行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

122 ページの『エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター』

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキューからの索引の削除を行うことができます。

エンタープライズ・サーチ用検索サーバー

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

エンタープライズ・サーチ用検索サーバーは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、インストールされます。コレクションに対して検索サーバーを構成すると、そのコレクションが検索される時のオプションを指定できます。

- 検索キャッシュを構成して、頻繁に要求される検索結果を保持することができます。検索キャッシュを利用すると、検索効率が高まります。
- 特定の文書が特定の照会に関連付けられることがあらかじめわかっている場合、クイック・リンクを構成することができます。クイック・リンクでは、特定の URI と特定のキーワードおよび句を関連付けます。照会にクイック・リンク定義で指定したキーワードまたは句がある場合、関連付けられた URI が自動的に検索結果に戻されます。

- クローラーがセキュリティー・トークンを文書に追加した場合 (セキュリティー・トークンを使用すると、検索アプリケーションでアクセス制御を施行できます) に、全ユーザーがそのコレクションを検索できるようにしたいときにセキュリティーを使用不可にすることができます。
- コレクション内の文書検索のデフォルト言語を指定できます。

関連概念

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』
検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

124 ページの『検索キャッシュ』
検索サーバーの負荷が高い場合、検索結果をキャッシュに入れることでパフォーマンスを向上できます。

131 ページの『文書レベルのセキュリティー』
文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

84 ページの『クイック・リンク』
クイック・リンクを使用すると、ユーザーが特定文書にリンクを設定できるようになります。

関連タスク

122 ページの『検索サーバーのモニター』
ある特定のコレクションについて検索サーバーのアクティビティーに関する詳細な状況情報を表示するか、または、エンタープライズ・サーチ・システム全体について検索サーバーの詳細な状況情報を表示することができます。

135 ページの『ユーザーが全文書にアクセスできるようにする』
セキュリティー・トークンが文書と関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのユーザーがコレクション内のすべての文書を検索できるようにする オプションを指定できます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソール

エンタープライズ・サーチ管理コンソールは、ブラウザで稼働します。すなわち、管理ユーザーは、いつでもどこからでもこのコンソールにアクセスできる ことになります。同時に、セキュリティー機構によって、管理機能にアクセスすることを許可されたユーザーしか コンソールにアクセスできないことが保証されています。

エンタープライズ・サーチの管理コンソールは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、検索サーバーにインストールされます。

管理コンソールには、さまざまな基本的管理タスクの実行を支援するウィザードが付属しています。例えば、コレクション・ウィザードを使用すれば、簡単にコレクションを作成でき、ドラフト・モードで作業をする手間が省けます。クローラー・ウィザードは、データ・ソース・タイプによって異なり、コレクションに入れるソースを選択し、検索可能にする作業を支援します。

他の管理タスクについては、管理する個別の項目を選択します。例えば、コレクションを編集する場合、索引スケジュールを変更するには直接「索引」ページを開き、XML 文書の検索規則を変更するには直接「解析」ページを開きます。

関連概念

15 ページの『第 2 章 エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、および検索アプリケーションとコレクションの関連付けには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

128 ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは、管理コンソールの中のさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

関連タスク

17 ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するため、Web ブラウザーで URL を指定した後、管理コンソールにログインします。

エンタープライズ・サーチ・システムのモニター

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システム・アクティビティをモニターし、必要に応じてその操作を調整することができます。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition をインストールし、最小限 1 つのコレクションを作成すると、主要な各アクティビティ（クロール、解析、索引作成、検索）に関する詳細な統計データを表示することができます。統計データには、平均応答時間や、クロールまたは索引作成セッションでいくつの文書がクロールまたは索引作成されたかなどの進行状況データがあります。

ほとんどのアクティビティは、管理者が開始および停止することができます。例えば、アクティビティを一時停止して、構成の変更または問題のトラブルシューティングを行い、アクティビティを進められる状況になった時点で処理を再開することができます。

関連概念

105 ページの『第 11 章 エンタープライズ・サーチ・アクティビティのモニター』

システム・アクティビティおよびコレクション・アクティビティをモニターすると、さまざまなプロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、または、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

101 ページの『第 10 章 エンタープライズ・サーチの開始と停止』

コレクションを作成したあと、データのクロール、解析、索引付け、および検索のコンポーネントを開始しなければなりません。コレクションの中の変更についてシステムに通知する必要があるときは、コンポーネントを停止し、再開します。

エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・コンポーネントに対して作成されます。

特定のエンタープライズ・サーチ・コレクションまたはシステムに対してログイン・オプションを構成する場合、ログに記録するメッセージのタイプ (エラー・メッセージ、警告メッセージなど) を指定します。また、新しいメッセージのスペースを確保するためにシステムが古くなったログ・ファイルを循環使用する頻度を指定します。特定のメッセージ、またはエラーが発生したときのすべてのエラー・メッセージについて、E メールを受信するように設定するオプションを選択することもできます。

ログ・ファイルを表示する場合、表示するログ・ファイル (ファイル名を見れば、ファイル作成日時、メッセージを発行したコンポーネントがわかります) を選択します。表示フィルターを指定することもできます。例えば、エラー・メッセージだけを表示したり、特定コンポーネントから出されたメッセージだけを表示することができます。

関連概念

153 ページの『第 16 章 エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理』コレクションおよびシステムに対してログを記録するときのメッセージのタイプを選択し、ログ・ファイルの作成、表示オプション、およびメッセージに関する E メール受信のオプションを指定することができます。

関連タスク

153 ページの『ログ・ファイルの構成』

ログに記録したいメッセージのタイプを指定し、ログ・ファイル作成のオプションを指定できます。

155 ページの『ログ・メッセージについての E メール受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

157 ページの『ログ・ファイルの表示』

システムおよびコレクション・コンポーネントが共通ログ・ファイルに書き込むログ・メッセージを表示できます。特定の重大度レベルのメッセージおよび特定のコンポーネントからのメッセージを表示するように、フィルターを指定することもできます。

エンタープライズ・サーチ API

エンタープライズ・サーチ用のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すれば、カスタム検索アプリケーションを作成し、外部クローラーを使用してコレクションのコンテンツを更新することができます。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition をインストールすると、エンタープライズ・サーチ・コレクションの拡張に次のような一連の API を使用できるようになります。

検索および索引作成用 API (SI-API)

この API は、カスタム検索アプリケーションの作成に使用します。

データ・リスナー API

この API は、外部クローラーからデータを検索する場合に使用します。外部クローラーは、エンタープライズ・サーチのデータ・リスナー・コンポーネントに接続すれば、コレクションにデータを追加したり、コレクションからデータを除去したりすることができます。

関連概念

検索および索引作成用 API (SI-API)

データ・リスナー API

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

関連タスク

60 ページの『外部クローラーのサポートの構成』

外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、エンタープライズ・サーチを拡張することができます。クローラーがエンタープライズ・サーチ・コレクションにアクセスできるようにするため、データ・リスナーを構成します。

エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション

カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用の サンプル検索アプリケーションを使用することができます。

サンプル検索アプリケーションは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、併せてインストールされます。このサンプル検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチで使用可能なほとんどの検索、収集機能を実際に試すことができます。このアプリケーションは、実用的なサンプルで、これによってエンタープライズ・サーチ・システム内の有効なすべてのコレクションを検索することができます。この機能を使用すると、新規のコレクションをユーザーが使用できるようにする前に、そのコレクションを簡単にテストすることができます。

サンプル検索アプリケーションには、単純な照会をするか、カテゴリーを検索する、あるいは、結果ページに表示できる文書数を指定するなど、拡張オプションを設定した照会かを指定するオプションがあります。コレクションに複数言語で記載された文書がある場合、検索対象の言語を指定して結果セットを限定することもできます。また、要約結果だけを表示するか、各結果文書ごとに詳細情報を表示するかを選択することもできます。

サンプル検索アプリケーションの使用方法については、アプリケーションの使用中に「ヘルプ」をクリックしてください。独自の検索アプリケーションを作成する場合は、エンタープライズ・サーチの検索および索引作成用 API を使用します。

関連概念

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

検索および索引作成用 API (SI-API)

関連タスク

71 ページの『デフォルトの検索アプリケーション・プロパティの構成』
エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションは、システムの中
のすべてのアクティブなコレクションを検索できます。プロパティ・ファイル
を編集して、Web サーバー環境のオプションを指定したり、デフォルト・ア
プリケーションとして異なる検索アプリケーションを指定したりできます。

73 ページの『サンプル検索アプリケーションへのアクセス』

Web ブラウザーで URL を指定することにより、エンタープライズ・サーチの
サンプル検索アプリケーションにアクセスします。

エンタープライズ・サーチのデータ・フロー

コレクションは、クローラーが収集し、パーサーが分析し、さらに検索可能な索引
が作成されたデータで構成されています。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition と共にインストールされるエン
タープライズ・サーチ・コンポーネントは、互いに連携してシステム内のデータ・フ
ローを確保しています。クローラーは、企業全体のデータ・ソースから文書を収集
します。パーサーは、クロール済みの文書から有用な情報を抽出し、さらに、例
えば文書をカテゴリーに関連付け、検索要求にある用語と文書の適合性を判断する
ときに役立つトークンを生成します。そして、索引コンポーネントは、効率的な検索
が行われるようにデータを保管します。

Web ブラウザーと検索アプリケーションを使用することにより、ユーザーは索引処
理済みのコレクションを検索します。検索アプリケーションは、ユーザーがブラウ
ザーでクリックして利用できる結果リストを表示することができます。また、より
高度に使用して、さまざまなデータ・ソースの情報に基づいて動的に生成されたコ
ンテンツを戻すこともできます。

例えば、カタログ検索アプリケーションを使用すれば、検索要求を満たす結果表示
をカスタマイズすることができます。1 回の照会で、IBM DB2 Content Manager
および Lotus Notes リポジトリにある文書の両方など、異なるタイプのデータ・
ソースから文書を検索することができます。

管理者は、収集対象のデータを指定し、それらのデータのクロール、解析、索引作
成、および検索に関する設定を行います。システム・アクティビティをモニター
することにより、管理者は、必要な調整を行ってデータのスループットを最適にし
ます。

次のダイアグラムは、エンタープライズ・サーチ・システムにおけるデータの流れ
を示しています。

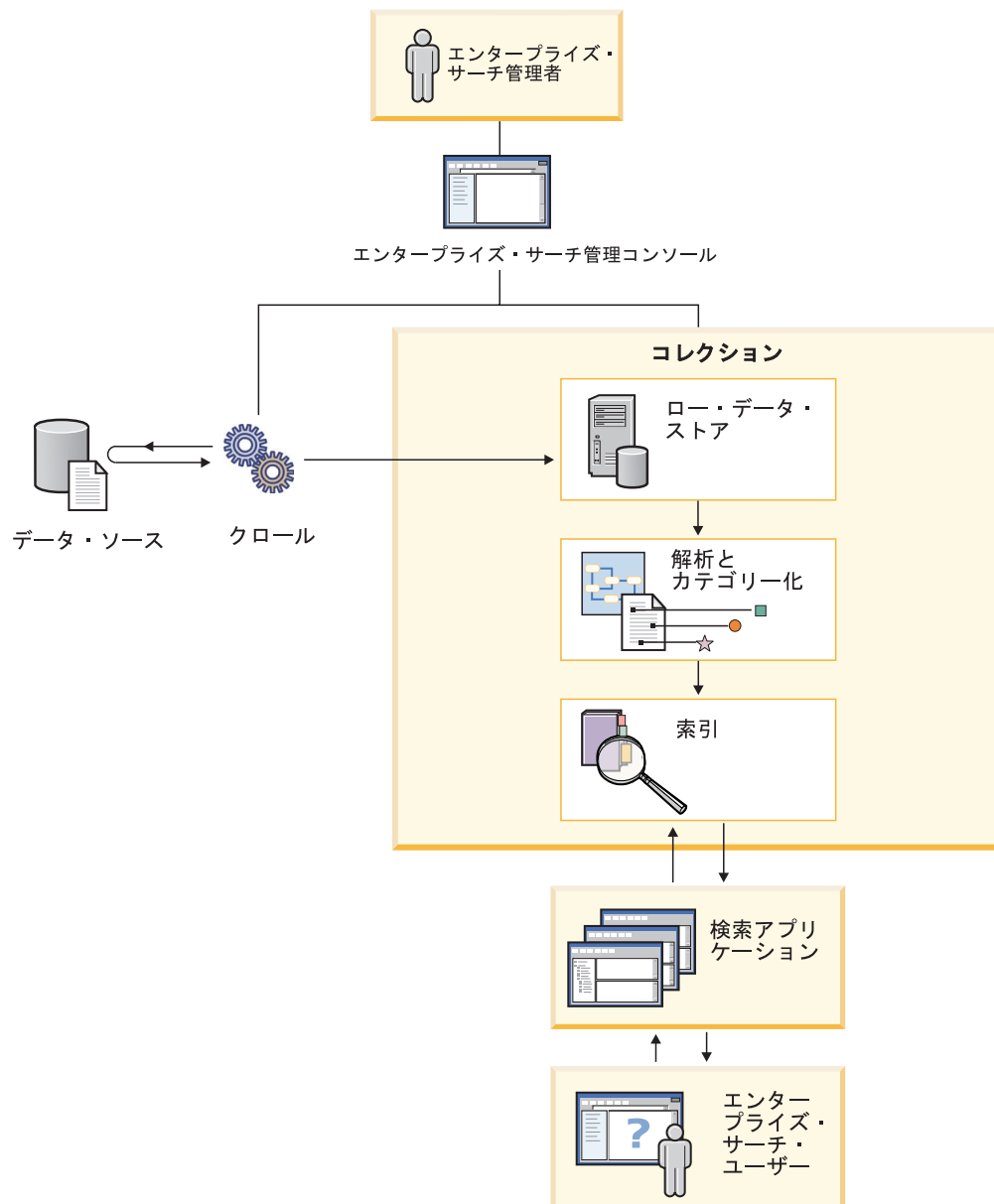


図1. エンタープライズ・サーチ・システムにおけるデータ・フロー

第 2 章 エンタープライズ・サーチ管理の概要

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、および検索アプリケーションとコレクションの関連付けには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

「コレクション」ビュー


最初のコレクションを作成し、システムを管理する場合、以下のステップをガイドラインとして作業を行ってください。

1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。

コレクションの作成および管理は、「コレクション」ビューが操作の基点となります。

2. コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成するには、「**コレクション・ウィザード**」をクリックし、ウィザードの指示に従ってください。
3. 「コレクション」ビューを使用してコレクションを作成するには、「**コレクションの作成**」をクリックし、「コレクションの作成」ページの各フィールドに必要なデータを入力して「**OK**」をクリックします。

新規のコレクションは空ですから、編集してコンテンツを追加する必要があります。また、データをクロールする、およびデータを検索可能にするときのオプションも指定します。

4. 作成した新規のコレクションに対して「 **編集**」をクリックし、続いてそのコレクションを構成するためのページを選択します。
 - オプション: 「一般」ページでは、このコレクションに関する追加情報を指定できます。例えば、コレクションに日本語、中国語、または韓国語で書かれた文書が含まれる場合、異なるタイプの字句解析方法を選択することができます。その他、「一般」ページでは、次のようなタスクを選択できます。
 - コレクション作成後、特定の文書をユーザーが表示できないようにする必要がある場合は、「**索引から URI を除去**」をクリックします。
 - 「**アラートの構成**」をクリックすれば、コレクション・アクティビティに関するアラートを受信する場合のオプションを指定できます。例えば、検索の平均応答時間が指定した限度を超える場合にアラート通知されるように設定することができます。
 - 必須: 「クロール」ページではクローラーを構成します (必ず 1 つは構成してください)。

1 つのコレクションには、さまざまな種類のデータ・ソースのデータを入れることができます。コレクションに組み込む各データ・ソースのタイプごとに、1 つ以上のクローラーを構成する必要があります。クローラーを作成する場合、クロール対象のデータ・タイプに固有のウィザードがあり、これを使用すると簡単にクローラーを構成できます。

- オプション: 「解析」 ページでは、クロールされたデータについて、効率的に検索が行われるようにするための解析方法に関するオプションを構成します。

コレクションの検索をより効果的に行うため、コレクションに対して規則を構成し、一定の文書に自動的にカテゴリーを関連付ける、コレクションの論理ビュー (有効範囲) を作成する、および XML 文書内の要素を検索フィールドにマップすることができます。

- 「索引」 ページでは、索引の再編成およびリフレッシュのスケジュールを指定します。スケジュールは、ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、索引作成が頻繁に実行されるように設定してください。
- オプション: 「検索」 ページでは、検索結果のキャッシュ・スペースを確保するオプションなど、索引の検索に関するオプションを指定します。

照会に特定のキーワードまたは句が含まれている場合に特定の URI が自動的に検索結果に表示されるようにするには、「**クイック・リンクの構成**」をクリックし、該当する URI およびキーワードを指定します。

- オプション: 「ログ」 ページでは、ログに記録するメッセージのタイプ、およびログ・ファイルのリサイクル頻度に関するオプションを指定します。

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたときに自動的に E メールを受信するようにしたい場合は、「**メッセージに対する E メール・オプションの構成**」をクリックします。

コンポーネントの始動

クロール対象のデータ・ソース、およびデータ収集、検索に関するオプションを指定した後で、コレクション作成プロセスを開始することができます。

「システム」ビュー

エンタープライズ・サーチ管理者の役割を持つユーザーは、ツールバーから「**システム**」をクリックし、システム・レベルのアラートの構成、同時に作成できる索引数の指定、およびシステム・レベル・プロセスで生成されたメッセージのログイン・オプションの指定を行うことができます。コレクション管理者、オペレーター、およびモニター担当者は、このビューにはアクセスできません。

「セキュリティー」ビュー


エンタープライズ・サーチ管理者役割を持つユーザーは、ツールバーから「**セキュリティー**」をクリックし、コレクションおよび管理コンソールに対するアクセス制御を指定することができます。コレクション管理者、オペレーター、およびモニター担当者は、このビューにはアクセスできません。

独自の検索アプリケーションを作成していない場合は、すべてのコレクションの検索にサンプル検索アプリケーションを使用することができます。独自の検索アプリケーションを作成した後で、「**セキュリティー**」ビューを使用して、作成したアプリケーションが検索できるコレクションを関連付けます。

WebSphere Application Server でセキュリティーを使用可能にした場合、「**セキュリティー**」ビューを使用して管理役割を構成することもできます。管理役割を構成することによって、システム管理を行うことができるユーザーを増やすと同時に、そ

これらのユーザーがアクセスできる対象を、ユーザーごとに特定の機能およびコレクションに制限することができます。

「モニター」ビュー

 「モニター」をクリックすると、システムまたはコレクション・コンポーネントをいつでもモニターできます。管理役割で権限が与えられていれば、モニターするだけでなく、コンポーネント・プロセスを開始および停止することもできます。

関連タスク

101 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクローラー、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

103 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止』

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止して再始動する必要があります。

22 ページの『「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成』

「コレクション」ビューを使用して、空のコレクションを作成します。そのあと、特定のページを選択して、コレクションにコンテンツを追加する方法を指定し、コレクションを検索可能にします。

21 ページの『コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成』

エンタープライズ・サーチにまだ慣れていなければ、ウィザードのガイドに従いながら、コレクションを作成できます。ウィザードは、処理の各ステップの詳細を提供し、途中で設定を保管できます。

29 ページの『クローラーの作成』

クローラーを作成するとき、作成するクローラーのタイプを指定します。コレクションに含めるデータについて、指定する情報をウィザードがガイドします。

108 ページの『コレクションのモニター』

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

管理コンソールへのログイン

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するため、Web ブラウザーで URL を指定した後、管理コンソールにログインします。

前提条件

ログインに使用するユーザー ID は、エンタープライズ・サーチ管理コンソールへのアクセスを認可されている必要があります。

- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定していない場合、DB2 II OmniFind のインストール中に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者のみが管理コンソールにアクセスできます。
- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定してある場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、ユーザーに対して管理役割を構成できます。構成するユーザー ID は、WebSphere

Application Server ユーザー・レジストリー内に存在していなければなりません。管理役割を構成すると、より多くのユーザーが管理コンソールにログインするのを許可することになりますが、各管理ユーザーがアクセス可能な機能およびコレクションを制御できます。

手順

エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインするには、次のようにします。

1. Web ブラウザーで、管理コンソールの URL を 入力します。 例:

```
http://SearchServer.com/ESAdmin/
```

SearchServer.com は、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーのホスト名です。

ご使用の Web サーバー構成によっては、ポート番号を指定する必要がある場合もあります。例:

```
http://SearchServer.com:9080/ESAdmin/
```

2. 「ようこそ」 ページで、ユーザー ID とパスワードを入力し、「**ログイン**」をクリックします。

システムおよびコレクションの管理の入り口点である「コレクション」ビューが表示されます。管理役割を使用する場合、実行できるアクションと表示されるコレクションは、使用する管理役割によって決まります。

一定の時間セッションが非アクティブな状態が続くと、システムによって自動的にログアウトされます。システムの管理を続けるには、もう一度ログインしてください。

関連タスク

101 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクロール、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更

当初のエンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、暗号化された形で 保管されています。このパスワードを変更するには、EncryptProperty コマンドを使用します。

前提条件

エンタープライズ・サーチ管理者 ID およびパスワードは、ご使用のオペレーティング・システムで有効で、DB2 Universal Database にアクセスし、構成する権限がなければなりません。

説明

この当初のエンタープライズ・サーチ管理者に対するユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定されます。このユーザー ID のパスワードは、暗

号化されたフォーマットで `es.cfg` ファイルに保管されます。このファイルは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーのエンタープライズ・サーチの `data` ディレクトリーにインストールされます。

パスワードを変更したい場合、`EncryptProperty` コマンドを実行して、各サーバーのパスワードを実行する必要があります (テキスト・エディターで `es.cfg` ファイルを編集することはできません)。エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同一でなければなりません。

インストール・プログラムでは、`EncryptProperty` コマンド で使用できる、次の 2 つの環境変数を生成します。

- `ES_INSTALL_ROOT` は、エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーです。
- `ES_NODE_ROOT` は、エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリーです。

手順

エンタープライズ・サーチ管理者パスワードを変更するには、各エンタープライズ・サーチ・サーバーで次のステップを実行します。

1. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

- UNIX コンピューターの場合:

```
java -cp es.oss.jarPath:. com.ibm.es.util.EncryptProperty -f filename
-p property newValue
```

- Windows コンピューターの場合:

```
java -cp es.oss.jarPath;. com.ibm.es.util.EncryptProperty -f filename
-p property newValue
```

es.oss.jarPath

エンタープライズ・サーチ `es.oss.jar` ファイルのクラスパス。このファイルは、`lib` サブディレクトリーにインストールされています。例:

```
ES_INSTALL_ROOT/lib/es.oss.jar
```

filename

オプション: プロパティー・ファイルの完全修飾名。このオプションを省略した場合、デフォルト値は `es.cfg` となります。

property

オプション: 変更したいプロパティーの名前。このオプションを省略した場合、デフォルト値は `Password` となります。

newValue

暗号化するプロパティー (新規のパスワード) の新しい値。この値にはスペースは使用できません。

例:

UNIX コンピューターで `es.cfg` ファイルと 同じディレクトリーから `EncryptProperty` コマンドを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
cd $ES_NODE_ROOT/nodeinfo
java -cp
$ES_INSTALL_ROOT/lib/es.oss.jar:. com.ibm.es.util.EncryptProperty newValue
```

Windows コンピューターでデフォルト・ディレクトリー以外の場所から `EncryptProperty` コマンドを実行するには、次のコマンドを入力します (EncryptProperty コマンドは 1 行で入力します)。

```
java -cp
%ES_INSTALL_ROOT%\lib\es.oss.jar;. com.ibm.es.util.EncryptProperty
-f %ES_NODE_ROOT%\nodeinfo\es.cfg -p Password newValue
```

第 3 章 エンタープライズ・サーチ・コレクション

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。

コレクションを作成する場合、コレクション全体に適用されるオプションを指定します。コレクションは、コンテンツを追加するまでは空の状態です。

コレクションをエンタープライズ・サーチ・システムに追加する方法には、次の 2 つの方法があります。

- エンタープライズ・サーチ管理コンソールの操作に不慣れな場合、または、さまざまなコレクション・コンポーネントが連携してどのように機能するかまだよくわからない場合は、コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成してください。コレクション・ウィザードを使用すれば、作成タスクを順序良く実行することができ、ドラフト・コレクションで作業する手間が省けます。
- 管理コンソールの操作に慣れている場合は、管理を行う特定ページを「コレクション」ビューで選択しながらコレクションを作成する方法もあります。

コレクションの作成後は、「コレクション」ビューのコントロールを使用すれば、既存のコレクションを編集、モニター、および削除することができます。

関連タスク

108 ページの『コレクションのモニター』

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

145 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』

WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使って準備したコレクションをマイグレーションします。

コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成

エンタープライズ・サーチにまだ慣れていなければ、ウィザードのガイドに従いながら、コレクションを作成できます。ウィザードは、処理の各ステップの詳細を提供し、途中で設定を保管できます。

前提条件

コレクションを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーでなければなりません。

コレクションにコンテンツを追加したり、コレクションの中のコンテンツの解析、索引付け、または検索の方法のオプションを指定したりするには、エンタープライズ・サーチ管理者であるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

説明

コレクションの作成途中で、それをドラフト状態として保管できます。それがドラフト状態にある間、コレクションを管理する権限を持つ管理者は、それを変更することができます。例えば、Lotus Notes ソースに詳しいコレクション管理者に、Notes クローラーを構成してもらいます。そのあと、UNIX システムに詳しいコレクション管理者が、ドラフト・コレクションを編集して、UNIX ファイル・システム・クローラーを構成することも考えられます。

手順

コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. 「**コレクション・ウィザード**」をクリックします。
3. ウィザードの指示に従って、空のコレクションを作成し、それにコンテンツを追加します。

コレクションについての一般情報を構成し、少なくとも 1 つのクローラーを作成しなければなりません。その他の構成オプションについては、デフォルト値を受け入れることも、あるいは、新規コレクションのオプションを指定することもできます。

4. コレクションの作成が完了する前にコレクションを保管するには、「**ドラフトとして保管**」をクリックします。

そのコレクションが他のドラフト・コレクションと一緒に「コレクション」ビューにリストされます。

5. 作成途中のコレクションに戻るには、「コレクション」ビューで、「**ウィザードに戻る**」をクリックします。
6. 「**完了**」をクリックして、コレクションを作成します。

新規コレクションが他のコレクションと一緒に「コレクション」ビューにリストされます。

コレクションを作成したあと、コレクションのクローラー、解析、索引付け、および検索のプロセスを開始しなければなりません。コレクションを検索できる検索アプリケーションに コレクションを関連付ける準備ができるまで、サンプル検索アプリケーションを使用して、新規コレクションを検索できます。

「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成

「コレクション」ビューを使用して、空のコレクションを作成します。そのあと、特定のページを選択して、コレクションにコンテンツを追加する方法を指定し、コレクションを検索可能にします。

前提条件

コレクションを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーでなければなりません。

コレクションにコンテンツを追加したり、コレクションの中のコンテンツの解析、索引付け、または検索の方法のオプションを指定したりするには、エンタープライズ・サーチ管理者であるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

説明

新規コレクションに指定できる値の情報は、コレクションを作成している間に「ヘルプ」をクリックすると表示されます。

手順

「コレクション」ビューからコレクションを作成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」ビューで、「**コレクションの作成**」をクリックします。
2. 「コレクションの作成」ページで、次のフィールドに情報を入力するか、選択を行います。
 - **コレクション名**
 - **文書の重要度** (ある順序で文書をランク付けするための静的ランキング要素を割り当てる方法)
 - **カテゴリ化タイプ**
 - **デフォルト言語**
3. 次のフィールドについては、デフォルト値を受け入れることも、あるいは、このコレクションで使用するオプションを指定することもできます。
 - **説明**
 - **索引の場所** (デフォルトでは、コレクションは索引サーバー上に作成されます)
 - **コレクション・セキュリティーを使用可能にする** (デフォルトでは、コレクション・セキュリティーは使用可能です)
4. 「**OK**」をクリックします。

「コレクション」ビューに、新規コレクションが、エンタープライズ・サーチ・システム内の他のコレクションと一緒にリストされます。

コレクションは、それにコンテンツを追加するまで空です。新規コレクションにコンテンツを追加するには、「コレクション」ビューでコレクションを選択し、それを編集し、少なくとも 1 つのクローラーを作成します。そして、データの解析、索引付け、および検索の方法を指定します。

そして、コレクションのクローリング、解析、索引付け、および検索のプロセスを開始しなければなりません。ユーザーの検索アプリケーションが使用できるようになるまでは、新規コレクションの検索に、サンプル検索アプリケーションを使用できません。

コレクションの編集

コレクションに入れる文書に関する情報を指定するために、コレクションを編集します。

前提条件

コレクションを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。


説明

コレクションを編集するときに、データ・ソースのクロール、文書の解析、索引の再編成とリフレッシュ、索引付きコンテンツの検索、およびエラー・メッセージのログ記録のオプションを指定します。コレクションを作成するときに、コレクションを編集して、それにコンテンツを追加しなければなりません。あとでコレクションを編集して、コンテンツを更新したり、情報のクロール、解析、索引付け、検索、またはログの方法を変更したりできます。

「一般」、「索引」、「検索」、および「ログ」ページのフィールドを変更したあと、変更は、「適用」をクリックするまで保管されません。別のページに移動し、変更を行った場合、「適用」をクリックしたときにすべてのページの変更が保管されます。「リセット」をクリックすると、すべてのページで行った変更は、前の設定値に戻されます。

手順

コレクションを編集するには、次のようにします。

1. ツールバーの中の「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で編集するコレクションを指して、「 **編集**」をクリックします。
3. 次のページで変更を行います。

一般 コレクションの一般情報を指定したり、索引から URI を除去したりします。あるいは、特定の状態またはイベントについて E メールを受信できるように、アラートを構成します。

クロール

クロールするデータ・ソースを指定し、コンテンツのクロール方法のオプションを指定します。すべてのコレクションは、それぞれ少なくとも 1 つのクロールを含まなくてはなりません。そして、単一のコレクションは、複数のデータ・ソースからデータを含むことができます。コレクションに含めるデータ・ソースのタイプごとに、少なくとも 1 つのクロールを構成しなければなりません。

解析 クロールされた文書の解析および分析方法のオプションを指定します。カテゴリと有効範囲を構成することで、コレクションのサブセットの検索を可能にすることができます。また、XML 文書の中の特定の要素の検索を可能にする規則を構成できます。

索引 全体の索引を再編成するスケジュールと、新規および変更されたコンテンツで索引をリフレッシュするスケジュールを指定します。

検索 検索キャッシュの構成、検索言語の選択といった、コレクションの検索のオプションを指定します。またクイック・リンクを構成することもできます。これは、ユーザーが照会の中に特定の語または句を含めたときは、必ず事前に決められた URI が 戻されるようにする機能です。

ログ ログに記録するメッセージのタイプと、ログ・ファイルの作成と循環の

オプションを指定します。また、特定のメッセージ、あるいは特定のタイプのメッセージがログに記録された場合に E メールを受信するためのオプションも指定できます。

4. 「適用」をクリックします。

コレクションの削除

コレクションを削除して、そのコレクションに関するすべての情報を エンタープライズ・サーチ・システムから除去します。

前提条件

コレクションを削除するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーでなければなりません。


コレクションを削除するには、その前に、そのコレクションに関連付けられたすべてのプロセスを停止しなければなりません。

説明

コレクションの削除は、処理に時間がかかることがあります。ユーザーがコレクションの削除を確認すると、システムは、システムの中でコレクションに関連するすべてのデータを削除します。

手順

コレクションを削除するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で削除するコレクションを指して、「 削除」をクリックします。

第 4 章 エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

クローラーの構成

クローラーの作成、編集、および削除には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。クローラーの構成は、通常クロール対象のデータ・タイプに精通した担当者が行います。例えば、Lotus Notes データ・ソースをクロールするクローラーをセットアップする場合、コレクション管理者には Notes 管理者がなるか、または、クロール対象のデータベースに精通している担当者と緊密な協力を得ながら作業を行います。

クローラーは、システム・デフォルト値、または既存のクローラーに指定された値に基づいて作成することができます。既存のクローラーを新規クローラーのベースとして使用すると、類似したプロパティを持つ複数のクローラーを手早く作成でき、それらのクローラーを構成して異なるソースをクロールするようしたり、また、例えば、異なるクロール・スケジュールで運用したりすることができます。

クローラーを作成する場合、クロール対象のデータ・タイプ専用のウィザードがあり、これを使用するとクローラーによるシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定できます。また、このウィザードによって検索対象のソースを選択することもできます。

既存のクローラーは、いつでも変更できます。クローラー・プロパティの編集またはクロール・スペースの一部変更を必要に応じて行うことができます。クローラー・ウィザードを使用すれば、これらの変更を行うこともできます。

新規のクローラーにベースとなる値を移植する

クローラーは、システム・デフォルト値、または既存のクローラーに指定された値に基づいて作成することができます。既存のクローラーを新規クローラーのベースとして使用すると、類似したプロパティを持つ複数のクローラーを手早く作成でき、それらのクローラーを構成して異なるソースをクロールするようしたり、また、例えば、異なるクロール・スケジュールで運用したりすることができます。

同一のクローラーをコピーすれば、同じクロール規則に従う複数のクローラーにクロールの負荷を分散することができます。例えば、異なる Notes サーバーで同じプロパティおよびフィールド・クロール規則を使用する場合、同一の Notes クローラーをコピーすることが考えられます。この場合、各クローラーで異なるのは、クロール対象のデータベースとクロール・スケジュールだけとなります。

単一コレクション内で異なるクローラー・タイプを組み合わせる

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、特定タイプのデータ・ソースから情報を収集するように設計されています。コレクションに対してクローラーを構成する

場合、さまざまな異なるデータ・ソース・タイプをどのように組み合わせればユーザーが簡単にエンタープライズ・データを検索できるか、その組み合わせを決定する必要があります。例えば、ユーザーが Microsoft Windows ファイル・システムと Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダーを 1 回の照会で検索できるようにするには、Windows ファイル・システム・クローラーと Exchange Server クローラーを含むコレクションを作成します。

1 つのコレクションに複数のタイプのクローラーを組み合わせる場合、必ずすべてのクローラーが同一の静的ランキング方式を使用できることを確認してください。(静的ランキング方式は、コレクション作成時に指定します。) 例えば、Web ソース (ランキング要素として文書リンクを使用) と NNTP ソース (ランキング要素として文書日付を使用) を組み合わせると、検索結果の質が低下する可能性があります。

文書レベルのセキュリティー

各クローラーは、クロール対象の文書にセキュリティー・トークンを関連付けることができます。クローラーの構成時にセキュリティー・トークンを使用することを指定すると、そのクローラーは指定したトークンを各文書に関連付けます。

カスタム検索アプリケーションでセキュリティーを使用可能にした場合、そのアプリケーションはクローラーが文書に関連付けたセキュリティー・トークンを使用してユーザーを認証します。この機能を使えば、コレクション内の一部の文書をアクセス制限し、他の文書はすべてのユーザーが検索できるように設定することができます。例えば、あるコレクションで、Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダー内の文書はすべてのユーザーがすべての文書にアクセスできるようにし、Lotus Notes データベース文書にアクセスできるのは特定のユーザー ID のユーザーだけに限定するように設定できます。

クローラーのスケジューリング

Web ソースおよび NNTP ニュース・グループに対して作成したクローラーは、連続的に実行されます。このようなクローラーについては、クローラーをいったん始動後は、通常、クローラーの構成を変更しない限り特に停止する必要はありません。

それ以外のすべてのクローラー・タイプについては、クローラーの構成時にクロール・スケジュールを指定します。データ・タイプによっては、1 つのスケジュールで、クローラーがクロール・スペース内のすべてのデータ・ソースにアクセスする日時が管理されます。また、他のデータ・ソース・タイプの場合は、特定のデータ・ソースに対して複数の異なるスケジュールを指定できます。例えば、Notes データベースについて、クローラーがクロールする各データベースに異なるクロール・スケジュールを指定できます。

複数のクローラー・スケジュールを作成すれば、クローラーのターゲット・ソースへのアクセス日時をより適切に管理できます。例えば、異なるタイム・ゾーンにある複数のデータベースをクロールする場合、ユーザーが日中の仕事を終了していると思われる時間にクローラーがクロールするように、タイム・ゾーンに合わせて複数のスケジュールを設定できます。

関連概念

3 ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラー』

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、データ・ソースから文書を収集し、それらの文書が分析、索引作成、および検索できるようにします。

関連タスク

110 ページの『クローラーのモニター』

コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、クローラーのアクティビティに関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

関連資料

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

クローラーの作成

クローラーを作成するとき、作成するクローラーのタイプを指定します。コレクションに含めるデータについて、指定する情報をウィザードがガイドします。

前提条件


クローラーを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

説明

コレクションのクローラーを少なくとも 1 つ作成しなければなりません。作成するクローラーのタイプは、コレクションに含めるデータのタイプによって異なります。ウィザードは、作成するクローラーのタイプについて、クローラーのオプションの指定をガイドします。ウィザードは、例えば、クローラーがシステム・リソースをどのように使用するかについてのオプションを指定する手助けをします。また、ウィザードは、コレクションに含めるデータ・ソースの選択の手助けもします。

手順

クローラーを作成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で変更するコレクションを指して、「 **編集**」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、「**クローラーの作成**」をクリックします。
4. クローラー・タイプと、クローラーの基本値を選択します。
 - a. Web サイト、Lotus Notes データベース、または UNIX ファイル・システムなど、クロールするデータのタイプをサポートするクローラーのタイプを選択します。

クローラー・タイプを選択したあと、その作成方法についてのオプションが表示されます。

- b. クローラーの基本値を選択します。

システム・デフォルト値に基づいてクローラーを作成

デフォルトのクローラー設定値に、インストールのデフォルト値を設定します。

このオプションを選択した場合、「次へ」をクリックして、新規クローラーの構成を開始します。

既存のクローラーに基づいてクローラーを作成

デフォルトのクローラー設定値に、このタイプの別のクローラーに構成した値を設定します。

このオプションを選択すると、このクローラー・タイプに一致するクローラーのリストが表示されます。新規クローラーとして使用するクローラーを選択し、「次へ」をクリックして、新規クローラーの構成を開始します。

作成しているクローラー・タイプ用のウィザードが開きます。ウィザードのプロンプトに従って、クローラーを作成します。ウィザードのどのページでも、「ヘルプ」をクリックすると、そのタイプのクローラーに指定できるオプションの説明が表示されます。

新規クローラーは、そのコレクションに属する他のクローラーと一緒に「クローラー」ページにリストされます。クローラーを変更する必要があるときはいつでも、クローラーのプロパティおよびクローラー・スペースを編集するオプションをクリックできます。

クローラーのプロパティの編集

クローラーについての情報と、クローラーがデータをクローリングする方法を変更できます。例えば、クローラーがシステム・リソースを使用する方法を変更できます。

前提条件

クローラーのプロパティを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。



説明

クローラーのプロパティを編集するときに、「ヘルプ」をクリックすると、変更できるタイプを知ることができます。編集できるプロパティは、クローラー・タイプによって異なります。

手順

クローラーのプロパティを編集するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

2. コレクションのリストの中でクローラーを追加するコレクションを指して、「編集」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、編集するクローラーを指して、「クローラーのプロパティ」をクリックします。
4. クローラーのプロパティを変更して、「OK」をクリックします。
5. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。

クロール・スペースの編集

クローラーがクロールするデータ・ソースについての情報を変更できます。例えば、データ・ソースの追加、データ・ソースの除去、クロール・スケジュールの変更、および、特定のデータ・ソース内の文書のクロール規則の変更を行うことができます。

前提条件



クロール・スペースを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

説明

管理するクローラーのタイプで行える変更については、クロール・スペースを編集している間に「ヘルプ」をクリックすると説明が表示されます。

手順

クロール・スペースを編集するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で変更するコレクションを指して、「編集」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、編集するクローラーを指して、「クロール・スペース」をクリックします。
4. 変更するオプションを選択して、クロール・スペースを変更します。

選択できるオプションは、クローラー・タイプによって異なります。データ・ソースをコレクションに追加するといった一部のオプションについては、クローラー・タイプのウィザードが開き、クロール・スペースの変更を手助けします。

5. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。

クローラーの削除



クローラーを削除して、そのクローラーに関するすべての情報をエンタープライズ・サーチ・システムから除去します。前にそのクローラーでクロールされた情報は、索引を再編成するまで、索引の中に残ります。

前提条件

クローラーを削除するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

手順

クローラーを削除するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で変更するコレクションを指して、「 **編集**」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、削除するクローラーを指して、「 **削除**」をクリックします。

Content Manager クローラー

IBM DB2 Content Manager 項目タイプをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Content Manager クローラーを構成します。

クローラー・サーバーのセットアップ

DB2 Content Manager サーバーをクロールするには、あらかじめクローラー・サーバーに対して特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition に付属していますが、これによって Content Manager クローラーが DB2 Content Manager サーバーと通信できるようになります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Content Manager クローラーを構成する前に、ご使用の環境に該当する次のタスクを実行してください。

- 33 ページの『AIX for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成』
- 35 ページの『Linux for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成』
- 37 ページの『Windows for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成』

Content Manager クローラーの構成

Content Manager クローラーを使用すれば、任意の数の DB2 Content Manager サーバーをクロールすることができます。クローラーを構成する場合、クローラーがクロール・スペースのすべての DB2 Content Manager サーバーをクロールするときのオプションを指定します。また、各サーバーでクロールする特定の項目タイプも選択します。

Content Manager クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内のすべての DB2 Content Manager サーバーの全項目タイプに対するクロールを制御します。
- クロール対象の DB2 Content Manager サーバーを選択します。
- DB2 Content Manager サーバーのコンテンツにクローラーがアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードを指定します。
- サーバーをクロールするスケジュールを設定します。
- 各 DB2 Content Manager サーバーでクロールする項目タイプを選択します。
- 一部の項目タイプの属性を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、一定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、セキュリティー・トークンを指定してコンテンツへのアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの DB2 Content Manager サーバーおよび項目タイプの追加。
- クローラーが特定のサーバーに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- 特定のサーバーのクロール・スケジュールの変更。
- 特定の項目タイプの文書クロール規則の変更。
- クロール・スペースからの DB2 Content Manager サーバーおよび項目タイプの除去。

AIX for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind を IBM AIX® コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、Content Manager クローラー が IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

説明

Content Manager クローラーは、Content Manager バージョン 8 の Java™ コネクタを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、クローラー・サーバーに、IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 をインストールすると、インストールされます。Content Manager クローラー が DB2 Content Manager で機能するようにするには、コネクタをインストールしたあと、DB2 II OmniFind が提供するセットアップ・スクリプトを、クローラー・サーバー上で実行します。

手順

クローラー・サーバー が DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに、Content Manager バージョン 8 の Java コネクターをインストールします。

- a. クローラー・サーバーに、root ユーザーとしてログインします。

```
su - root
```

- b. db2profile ファイルを実行します。

```
./home/db2inst/sqllib/db2profile
```

- c. JAVAHOME 環境変数をエクスポートします。例:

```
export JAVAHOME=/usr/IBMJava2-141
```

- d. Java ディレクトリーを PATH 環境変数に追加します。

```
export PATH=$PATH:$JAVAHOME/bin
```

- e. DB2 Information Integrator for Content インストール CD を挿入して、インストールのスクリプトを実行します。

```
./frnxsetup.sh
```

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- f. 「コンポーネントの選択」ウィンドウで、次の操作を行います。

- 1) 「コンポーネント」リストから「ローカル・コネクター」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクター」を選択します。

- 2) 「コンポーネント」リストから「コネクター・ツールキットとサンプル」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクター」を選択します。

- g. プロンプトが出されたら、ICMNLSDB データベースのパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。

2. クローラー・サーバーに、DB2 管理グループの中のユーザー ID でログインします。

3. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに 接続できることを確認します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote hostname server port  
db2 catalog database database_name as alias at node node_name
```

4. オプション: root ユーザーとしてログインし、データベース接続をテストします。

```
./usr/lpp/cmb/bin/cmbenv81.sh  
cd /usr/lpp/cmb/samples/java/icm
```

- ```
javac *.java
java SConnectDisconnect ICMdatabase_name CAdmin_ID CAdmin_password
```
5. クローラー・サーバー上で、Content Manager クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。
    - a. DB2 II OmniFind bin ディレクトリーに移動します。
 

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/bin
```
    - b. スクリプトを開始し、プロンプトに応答します。
 

```
escrcm.sh
```
  6. エンタープライズ・サーチ管理コンソールと、エンタープライズ・サーチの共通通信層 (CCL、common communications layer) 上のすべてのセッションを停止し、再開します。
 

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

## Linux for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind を Linux™ コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、Content Manager クローラー が IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

### 説明

Content Manager クローラーは、Content Manager バージョン 8 の Java コネクターを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクターは、クローラー・サーバーに、IBM DB2 Content Manager Linux Toolkit 8.2 をインストールすると、インストールされます。Content Manager クローラー が DB2 Content Manager で機能するようにするには、コネクターをインストールしたあと、DB2 II OmniFind が提供するセットアップ・スクリプトを、クローラー・サーバー上で実行します。

### 手順

クローラー・サーバー が DB2 Content Manager サーバーをクローリングできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに、Content Manager バージョン 8 の Java コネクターをインストールします。
  - a. root ユーザーとしてログインします。
 

```
su - root
```
  - b. db2profile ファイルを実行します。
 

```
./home/db2inst/sqllib/db2profile
```



- c. JAVAHOME 環境変数をエクスポートします。例:

```
export JAVAHOME=/opt/IBMJava2-141
```

- d. Java ディレクトリーを PATH 環境変数に追加します。

```
export PATH=$PATH:$JAVAHOME/bin
```

- e. DB2 Content Manager Linux Toolkit インストール CD を挿入して、該当する言語のディレクトリーに移動します。例えば、English ディレクトリーに移動するには、次のように入力します。

```
cd English
```

- f. インストール・スクリプトを実行します。

```
./setuplinux.bin
```

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- g. 「セットアップ・タイプ」ウィンドウで、「**カスタム**」を選択します。  
h. 「機能リスト」ウィンドウで、「**Content Manager V8 コネクター**」を選択します。  
i. プロンプトが出されたら、ICMNLSDB データベースのパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。

2. クローラー・サーバーに、DB2 管理グループの中のユーザー ID でログインします。  
3. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに接続できることを確認します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote hostname server port
db2 catalog database database_name as alias at node node_name
```

4. オプション: root ユーザーとしてログインし、データベース接続をテストします。

```
./opt/IBMcmb/bin/cmbenv81.sh
cd /opt/IBMcmb/samples/java/icm
javac *.java
java SConnectDisconnect ICMdatabase_name CMadmin_ID CMadmin_password
```

5. クローラー・サーバー上で、Content Manager クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。

- a. DB2 II OmniFind bin ディレクトリーに移動します。

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/bin
```

- b. スクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

```
./escrcm.sh
```

6. エンタープライズ・サーチ管理コンソールと、エンタープライズ・サーチの共通通信層 (CCL、common communications layer) 上のすべてのセッションを停止し、再開します。

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

## Windows for DB2 Content Manager 上のクローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind を Microsoft Windows コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、Content Manager クローラー が IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

### 説明

Content Manager クローラーは、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、クローラー・サーバーに、IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 をインストールすると、インストールされます。Content Manager クローラー が DB2 Content Manager で機能するようにするには、コネクタをインストールしたあと、DB2 II OmniFind が提供するセットアップ・スクリプトを、クローラー・サーバー上で実行します。

### 手順

クローラー・サーバー が DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタをインストールします。
  - a. DB2 Information Integrator for Content インストール CD を挿入します。インストール・プログラムが自動的に始動します。

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- b. 「マシン・タイプの選択」ウィンドウで、「EIP 開発ワークステーション」を選択します。
- c. 「コンポーネントの選択」ウィンドウで、次の操作を行います。
  - 1) 「コンポーネント」リストから「ローカル・コネクタ」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクタ」を選択します。
  - 2) 「コンポーネント」リストから「コネクタ・ツールキットとサンプル」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクタ」を選択します。
- d. プロンプトが出されたら、ICMNLSDB データベースのパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。

2. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに接続できることを確認します。クローラー・サーバー上のコマンド・プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote hostname server port
db2 catalog database database_name as alias at node node_name
```

3. オプション: データベース接続をテストします。
  - a. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「Enterprise Information Portal for Multiplatforms and Development」を選択します。
  - b. 次のコマンドを入力します。

```
cd %cmbroot%samples%java%icm
javac *.java
java SConnectDisconnect ICMdatabase_name CMadmin_ID CMadmin_password
```

4. クローラー・サーバー上で、Content Manager クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。
  - a. DB2 II OmniFind bin ディレクトリーに移動します。

```
cd %ES_INSTALL_ROOT%bin
```

- b. スクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

```
escrcm.vbs
```

5. エンタープライズ・サーチ管理コンソールと、エンタープライズ・サーチの共通通信層 (CCL、common communications layer) 上のすべてのセッションを停止し、再開します。
  - a. コマンド・プロンプトで、管理コンソールを停止します。

```
esadmin stop
```

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

- c. コマンド・プロンプトで、管理コンソールを開始します。

```
esadmin start
```

---

## DB2 クローラー

DB2 クローラーは、IBM DB2 Universal Database データベースをコレクションに入れる場合に使用します。また、DB2 クローラーを使用すれば、IBM DB2 Universal Database for z/OS、IBM Informix、Oracle、およびフェデレーテッド・データベースに対して作成したニックネーム表を入れることもできます。

クローラーは、クローラー対象の各データベース・サーバーごとに独立したクローラーを構成する必要があります。クローラーを構成する場合、クローラーが同じサーバー上のすべてのデータベースをクローラーするときのオプションを指定します。また、各データベースでクローラーする特定の表も選択します。

DB2 クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによる特定のデータベース・サーバーのすべてのデータベースに対するクローリングを制御します。
- クローリングするデータベースのタイプに関する情報を指定します。

ローカル・データベースでカタログされていないリモート・データベースをクローリングする予定がある場合、まず、リモート・サーバーで DB2 Administration Server を始動しなければ、DB2 クローラーを使用してそれらのデータベースをクローリングすることはできません。また、クローラーの構成時にそのリモート・データベースのホスト名とポートを指定する必要があります。

- クローリングするデータベースを選択します。
- アクセス制御をしているデータベースにクローラーがアクセスできるようにするためのユーザー ID と パスワードを指定します。
- データベースをクローリングするスケジュールを設定します。
- 各データベースでクローリングする表を選択します。

ディスクバリー・プロセスのパフォーマンスを最適化するには、すべての表のクローリングは、データベースに多くの表が含まれないか、表に多くの列が含まれない場合に限って選択してください。一部の表についてすぐにクローリングを選択した場合、後からクローリング・スペースを編集して、さらに多くの表をコレクションに追加できます。

- 特定の表の列を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、一定の列をパラメトリック照会で使用できるようにしたり、セキュリティー・トークンを指定してコンテンツに対するアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クローリングに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクローリング・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クローリング・スペースへのデータベースおよび表の追加。
- クローラーが特定のデータベースに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- 特定のデータベースのクローリング・スケジュールの変更。
- 特定の表の列クローリング規則の変更。
- クローリング・スペースからのデータベースおよび表の除去。

## Exchange Server クローラー

Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダーをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Exchange Server クローラーを構成します。

Exchange Server クローラーを使用すれば、Exchange Server のパブリック・フォルダー・サーバー上の任意の数のフォルダーおよびサブフォルダーをクロールすることができます。クローラーの作成時に、パブリック・フォルダー・サーバーでクロールする対象コンテンツを選択します。クロール対象については、後からクロール・スペースを編集して、別のパブリック・フォルダー・サーバーのコンテンツを追加することができます。

Exchange Server クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内の全サーバーの全サブフォルダーに対するクロールを制御します。
- クロールする Exchange Server パブリック・フォルダー・サーバーに関する情報を指定します。

クローラーがサーバーのコンテンツにアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードを指定する必要があります。サーバーが Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用している場合、クローラーがクローラー・サーバーの鍵ストア・ファイルにアクセスできるようにするためのオプションを指定することができます。

- パブリック・フォルダー・サーバーをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールするフォルダーおよびサブフォルダーを選択します。
- サブフォルダー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、一定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、セキュリティー・トークンを指定してコンテンツへのアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの別のパブリック・フォルダー・サーバーの追加。
- クロール・スペースへのサブフォルダーの追加。
- クローラーが特定のサーバーに対するアクセスに使用するパスワード (および鍵ストア・ファイル情報) の変更。
- サーバーのクロール・スケジュールの変更。

- 特定のサブフォルダーの文書クロール規則の変更。
- クロール・スペースからのサーバーおよびサブフォルダーの除去。

---

## NNTP クローラー

NNTP ニュース・グループの記事をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、NNTP クローラーを構成します。

NNTP クローラーを使用すれば、任意の数の NNTP サーバーをクロールすることができます。クローラーの構成時に、各サーバーごとにクロールするニュース・グループを選択します。また、対象から除外するニュース・グループのパターンを指定することもできます。この機能を使用すれば、特定サーバーの大多数のニュース・グループがクローラーのクロール対象である場合に、例外的にユーザーに検索してほしい少数のニュース・グループをクロール禁止にすることができます。

例えば、特定の NNTP サーバーのすべてのニュース・グループを含むが、そのサーバーのニュース・グループのうち、「private」というストリングを名前に含むニュース・グループは除外する規則を指定できます。

NNTP クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内の全ニュース・グループに対するクロールを制御します。また、セキュリティ・トークンを指定して、コンテンツへのアクセスを制限することもできます。
- クロール対象のニュース・グループを指定し、さらにクロール・スペースから除外する一定のニュース・グループのパターンを指定します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのニュース・グループの追加。
- クロール・スペースからのニュース・グループの除去。

---

## Notes クローラー

IBM Lotus Notes データベースをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Notes クローラーを構成します。



## クローラー・サーバーのセットアップ

クロールする予定の Lotus Notes サーバーが Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用している場合、クローラー・サーバーに対して特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition に付属していますが、これによって Notes クローラーが NRPC を使用するサーバーと通信できるようになります。

クロールする予定の Lotus Notes サーバーが Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOB) を使用している場合、クローラー・サーバーに対してセットアップ・スクリプトを実行する必要はありません。ただし、Notes クローラーが その Lotus Notes サーバーにアクセスできるようにサーバーを構成する必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Notes クローラーを構成する前に、ご使用の環境に該当する次のタスクを実行してください。

- 43 ページの『UNIX での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成』
- 45 ページの『Windows での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成』
- 47 ページの『Notes クローラーに対する DIIOB プロトコルの構成』

**重要:** NRPC を使用する Notes クローラーをコレクションに対して構成した後で、クローラーをいったん停止しないと、NRPC を使用する Notes クローラーに対する追加構成は実行できません。NRPC を使用するディスカバリー・プロセス (これによって、クロール可能なソースに関する情報が取得される) と NRPC を使用するクローラー・プロセスを並行して実行することはできません。

### Notes クローラーの構成

Notes クローラーを使用すれば、任意の数の標準 Lotus Notes データベース (.nsf ファイル) をクロールすることができます。クローラーは、クロール対象の各 Lotus Notes サーバーごとに独立したクローラーを構成する必要があります。クローラーを構成する場合、サーバー上のすべてのデータベースをクロールするか、特定のビューまたはフォルダーをクロールするかを指定します。

Notes クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによる特定のサーバーのすべてのデータベースに対するクロールを制御します。
- Lotus Notes サーバーのホスト名、ポート、および通信プロトコルを指定します。
- Lotus Notes サーバー上のクロール対象のデータベースを選択します。
- データベースをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールする文書を選択します。クロール対象は、データベース内のすべての文書、または選択したビューまたはフォルダー内の文書にすることができます。

- データベース、ビュー、およびフォルダーのフィールドを検索可能にするためのオプションを指定します。例えば、一定タイプの文書をクローラー・スペースから除外したり、セキュリティー・トークンを指定してコンテンツへのアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クローラーに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティーまたはクローラー・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティーの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クローラー・スペースへの Lotus Notes データベース、ビュー、およびフォルダーの追加。
- クローラーが Lotus Notes サーバーに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- データベースのクローラー・スケジュールの変更。
- 特定のデータベース、ビュー、およびフォルダーの文書クローラー規則の変更。
- フィールドのクローラーおよび検索に関するデフォルト規則の編集。Notes クローラーでは、固有の規則を作成していないすべてのデータベース、ビュー、およびフォルダーに対してこのデフォルト規則を使用します。
- データベース・ビュー、またはフォルダーがクローラー・スペースのデフォルト規則を使用している場合、そのデータ・ソース内の文書に対する規則を構成することを指定します。データベース・ビュー、またはフォルダーで構成した規則を使用しないようにする場合、クローラー・スペースのデフォルト規則を使用するように指定します。
- クローラー・スペースからの Lotus Notes データベース、ビュー、およびフォルダーの除去。

## UNIX での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成

AIX コンピューターまたは Linux コンピューターに DB2 II OmniFind をインストールする場合で、Notes Remote Procedure Call (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーをクローラーする計画の場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、Notes クローラーが Lotus Notes サーバーと通信できるようにします。

### 制約事項

Lotus Domino<sup>®</sup> Server は、NRPC を使用するよう構成された Notes クローラーとは、同じコンピューター上で同時に稼働できません。Domino が稼働中に Notes クローラーを開始しようとする、エラーが発生し、クローラーは停止します。

### 説明

NRPC 用の Notes クローラーは、Lotus Notes クライアントとして Domino ライブラリーを使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Lotus Domino Server バージョン 6.0.2 以降をインストールすることによってインストー

ルされます。Notes クローラー が Domino ライブラリーと連動できるようにするため、Domino ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

## 手順

クローラー・サーバー が Lotus Notes サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバー上にユーザー `notes` とグループ `notes` を作成します。
  - a. root ユーザーとしてログインします。

```
su - root
```

- b. ユーザーを追加します。

```
useradd notes
```

- c. このユーザーのパスワードを追加します。

```
passwd notes
```

パスワードを変更するようプロンプトが出されます。

2. クローラー・サーバーに Domino Server をインストールします。
  - a. Domino Server CD バージョン 6.0.2 以降を挿入し、マウントします。(CD がない場合、イメージをダウンロードできます。)
  - b. ご使用のオペレーティング・システムに応じたフォルダーに移動します。

AIX コンピューターでは、次のように入力します: `cd /mnt/cdrom/aix`

Linux コンピューターでは、次のように入力します: `cd /mnt/cdrom/linux`

- c. インストール・プログラムを開始します。

```
./install
```

- d. プロンプトに回答し、デフォルト値を受け入れるか、希望するインストール設定値 (インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーのパスなど) を 指定します。

Domino Server のインストールで不明な点があれば、Domino 資料を参照してください。

3. クローラー・サーバー上で Notes クローラー用のセットアップ・スクリプトを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール中に指定されたものです)。
  - b. セットアップ・スクリプトを開始します (このスクリプトは、`ES_INSTALL_ROOT/bin` ディレクトリーにあります)。

```
escrnote.sh
```

- c. プロンプトに回答します。
    - 次のプロンプトに対して、Domino Server がデフォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、 そうでない場合は N と応答します。

Lotus Notes ディレクトリー・パス /opt/lotus/notes/latest/linux  
が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes ディレクトリー・パスですか?

AIX コンピューターでのデフォルトのパス  
は、/opt/lotus/notes/latest/ibmpow です。Linux コンピューターでの  
デフォルトのパスは、/opt/lotus/notes/latest/linux です。

- Domino Server がクローラー・サーバー上のデフォルトのディレクトリー  
にインストールされていない場合、次のプロンプトに対して Domino がイ  
ンストールされている場所を指定します。

Lotus Notes ディレクトリーのパスを入力してください

例えば、Linux コンピューターの場合、次のように指定します  
/opt/lotus/notes/latest/linux

- 次のプロンプトに対して、Domino Server データ・ディレクトリーがデフ  
ォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、そうでない  
場合は N と応答します。

Lotus Notes データ・ディレクトリー・パス /local/notesdata が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes データ・ディレクトリー・パスですか?

Linux および AIX コンピューターでのデフォルトのパス  
は、/local/notesdata です。

- Domino Server データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー上のデフ  
ォルトの場所にデプロイされていない場合、次のプロンプトに対して、  
Domino データ・パスを指定します。

Lotus Notes データ・ディレクトリーのパスを入力してください。

4. エンタープライズ・サーチ管理コンソール、およびエンタープライズ・サーチ共  
通通信層 (CCL) のすべてのセッションを停止して再始動します。

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

## Windows での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成

Microsoft Windows コンピューターに DB2 II OmniFind をインストールする場合  
で、Notes Remote Procedure Call (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes サー  
バーをクローラーする計画の場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実  
行する必要があります。このスクリプトは、Notes クローラーが Lotus Notes サー  
バーと通信できるようにします。

### 制約事項

Lotus Domino Server および Lotus Notes クライアントは、NRPC を使用するよう  
構成された Notes クローラーとは、同じコンピューター上で同時に稼働できませ  
ん。Domino が稼働中に Notes NRPC クローラーを開始しようとすると、エラーが  
発生し、クローラーは停止します。

### 説明

NRPC 用の Notes クローラーは、Lotus Notes クライアント・ライブラリーを使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Lotus Notes リリース 6.0.2 以降をインストールすることによってインストールされます。Notes クローラーが Lotus Notes クライアント・ライブラリーと連動できるようにするため、Lotus Notes クライアント・ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

## 手順

クローラー・サーバーが Lotus Notes サーバーをクローラーできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバー上で、管理者グループのメンバーであるユーザー ID でログインします。このユーザー ID に Lotus Notes をインストールする権限があることを確認してください。
2. Lotus Notes をインストールします。
  - a. Lotus Notes CD リリース 6.0.2 以降を挿入します。(CD がない場合、イメージをダウンロードできます。)
  - b. インストール・プログラム `setup.exe` を開始します。
  - c. プロンプトに回答し、デフォルト値を受け入れるか、希望するインストール設定値 (インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーのパスなど) を指定します。

Lotus Notes のインストールで不明な点があれば、Lotus Notes 資料を参照してください。

3. クローラー・サーバー上で Notes クローラー用のセットアップ・スクリプトを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール中に指定されたものです)。
  - b. セットアップ・スクリプトを開始します (このスクリプトは、`ES_INSTALL_ROOT\bin` ディレクトリーにあります)。

`escrnte.vbs`

- c. プロンプトに回答します。
  - 次のプロンプトに対して、Lotus Notes がデフォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、そうでない場合は N と回答します。

Lotus Notes ディレクトリー・パス `c:\lotus\notes` が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes ディレクトリー・パスですか?

Windows コンピューターでの標準的なインストール・パスは、  
`c:\lotus\notes` または `c:\lotus\domino` です。

- Lotus Notes がクローラー・サーバー上のデフォルトのディレクトリーにインストールされていない場合、次のプロンプトに対して Lotus Notes がインストールされている場所を指定します。

Lotus Notes ディレクトリーのパスを入力してください

- 次のプロンプトに対して、Lotus Notes データ・ディレクトリーがデフォルトの場所にデプロイされている場合は Y、そうでない場合は N と応答します。

Lotus Notes データ・ディレクトリー・パス c:¥lotus¥notes¥data  
が分かりました。  
これは正しい Lotus Notes データ・ディレクトリー・パスですか?

Windows コンピューターでの標準的なパスは、c:¥lotus¥notes¥data または c:¥lotus¥domino¥data です。

- Lotus Notes データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー上のデフォルトの場所にデプロイされていない場合、次のプロンプトに対して、データ・ディレクトリー・パスを指定します。

Lotus Notes データ・ディレクトリーのパスを入力してください。

4. エンタープライズ・サーチ管理コンソール、およびエンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを停止して再始動します。

- a. コマンド・プロンプトで、管理コンソールを停止します。

```
esadmin stop
```

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」の順に選択し、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

- c. コマンド・プロンプトで、管理コンソールを開始します。

```
esadmin start
```

## Notes クローラーに対する DIIOP プロトコルの構成

Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用する Lotus Notes サーバーをクローラーするには、Notes クローラーがこのプロトコルを使用できるように Lotus Notes サーバーを構成する必要があります。

### 前提条件

クローラーしたい Lotus Notes サーバーは、DIIOP タスクおよび HTTP タスクを実行中でなければなりません。

### 手順

DIIOP プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーのサーバー設定を構成するには、次のようにします。

1. サーバー文書を構成します。
  - a. クローラーしたい Lotus Notes サーバー上で server 文書を開きます。この文書は、Domino ディレクトリーに格納されています。
  - b. 「構成」ページで、「サーバー」セクションを拡張します。
  - c. 「セキュリティー」ページの「プログラマビリティ制約事項」領域の以下のフィールドに、ご使用の環境に適したセキュリティー制約事項を指定します。
    - 制限された Lotus Script/Java エージェントの実行
    - 制限された Java/Javascript/COM の実行



### • 制限されない Java/Javascript/COM の実行

例えば、アスタリスク (\*) を指定して Lotus® Script/Java エージェントによる無制限のアクセスを許可し、Java/Javascript/COM 制約事項に対しては Domino ディレクトリーに登録済みのユーザー名を指定します。

**重要:** DIIOP プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーをクロールするために構成する Notes クローラーは、これらのフィールドに指定するユーザー名を使用できなければなりません。

- d. 「インターネット・プロトコル」ページを開き、次に「HTTP」ページを開き、「**HTTP クライアントにデータベースのブラウズを許可する**」オプションを「はい」に設定します。
2. ユーザー文書を構成します。
    - a. クロールしたい Lotus Notes サーバー上の user 文書を開きます。この文書は、Domino ディレクトリーに格納されています。
    - b. 「基本」ページの「インターネット・パスワード」フィールドに、パスワードを指定します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用してこの Lotus Notes サーバーをクロールするためのセットアップを行う場合、このユーザー ID とパスワードを「クロールする Lotus Notes サーバーの指定」ページで指定します。クローラーは、この情報を使用して Lotus Notes サーバーにアクセスします。

3. Lotus Notes サーバーで DIIOP タスクを再始動します。

---

## UNIX ファイル・システム・クローラー

UNIX ファイル・システムに格納された文書をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、UNIX ファイル・システム・クローラーを構成します。

UNIX ファイル・システム・クローラーを使用すれば、任意の数の UNIX ファイル・システムをクロールすることができます。クローラーの構成時に、クロールするローカルおよびリモートのディレクトリー、サブディレクトリーを選択します。

UNIX コンピューターにクローラー・サーバーをインストールする場合、Microsoft Windows ファイル・システム・ソースのクロールにそのサーバーを使用することはできません (Windows ファイル・システム・クローラーは、選択可能なクローラー・タイプのリストに表示されません)。

UNIX ファイル・システム・クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内のすべてのサブディレクトリーに対するクロールを制御します。
- ファイル・システムをクロールするスケジュールを設定します。

- クローラーがクロールするサブディレクトリー、サブディレクトリーのレベルを選択します。
- サブディレクトリー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、一定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、セキュリティー・トークンを指定してコンテンツへのアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティーまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティーの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのサブディレクトリーの追加。
- ファイル・システムのクロール・スケジュールの変更。
- 特定のサブディレクトリーの文書クロール規則の変更。
- クロール・スペースからのサブディレクトリーの除去。

---

## VeniceBridge クローラー

Venetica VeniceBridge リポジトリーをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、VeniceBridge クローラーを構成します。

### クローラー・サーバーのセットアップ

VeniceBridge サーバーをクロールするには、あらかじめクローラー・サーバーに対して特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition に付属していますが、これによって VeniceBridge クローラーが VeniceBridge サーバーと通信できるようになります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して VeniceBridge クローラーを構成する前に、ご使用の環境に該当する次のタスクを実行してください。

- 50 ページの『UNIX での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成』
- 52 ページの『Windows での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成』

### VeniceBridge クローラーの構成

VeniceBridge クローラーを使用すれば、VeniceBridge によって管理されている Documentum リポジトリーおよび FileNet Panagon Content Services リポジトリーをクロールすることができます。クローラーは、クロール対象の各 VeniceBridge サーバーごとに独立したクローラーを構成する必要があります。

クローラーを構成する場合、クローラーがクロール・スペースのすべてのリポジトリーをクロールするときのオプションを指定します。また、各リポジトリーでクロールする特定の項目クラスも選択します。

VeniceBridge クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによる VeniceBridge サーバーのすべての項目クラスに対するクロールを制御します。
- クロールする VeniceBridge サーバーを選択します。
- このサーバーでクロールする FileNet または Documentum リポジトリを選択します。
- 選択されたリポジトリのコンテンツにクローラーがアクセスできるようにするためのユーザー ID と パスワードを指定します。
- リポジトリをクロールするスケジュールを設定します。
- 各リポジトリでクロールする項目クラスを選択します。
- 項目クラスのプロパティを検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、一定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、セキュリティ・トークンを指定してコンテンツへのアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの項目クラスの追加。
- クローラーが特定のリポジトリに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- リポジトリのクロール・スケジュールの変更。
- 特定の項目クラスの文書クロール規則の変更。
- クロール・スペースからの項目クラスの除去。

## UNIX での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind を AIX コンピューターまたは Linux コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、VeniceBridge クローラーが VeniceBridge サーバーと通信できるようにします。

### 説明

VeniceBridge クローラーは、VeniceBridge の Java ライブラリーを VeniceBridge Java クライアントとして使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サー

バーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 以降をインストールすることによってインストールされます。 VeniceBridge クローラーが Java ライブラリーと連動できるようにするため、VeniceBridge ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

## 手順

クローラー・サーバーを構成して、VeniceBridge サーバーをクローラーできるようにするには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 をインストールします。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定されたものです)。
  - b. VeniceBridge CD を挿入し、vbr\_unix.tar ファイルを `untar` して、一時インストール場所に保管します。
  - c. GenericUnix ディレクトリーに移動します。
  - d. VeniceBridge インストーラーを開始します。

```
./install.bin
```

- e. 「製品フィーチャーの選択」ウィンドウで、インストール・オプションに「ブリッジのみ」を選択します。
  - f. 「インストールするブリッジの選択」ウィンドウで、「サンプル・ファイル・システム・ブリッジ」を選択します。
2. クローラー・サーバー上で VeniceBridge クローラー用のセットアップ・スクリプトを実行します。
    - a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール中に指定されたものです)。
    - b. スクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

```
escrvbr.sh
```

3. エンタープライズ・サーチ管理コンソール、およびエンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを停止して再始動します。

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

4. クローラー対象の VeniceBridge サーバーが WebSphere Application Server を使用する場合、vbr\_access\_services.jar ファイルを VeniceBridge サーバーからクローラー・サーバーにコピーします。

### コピー元:

vbr\_access\_services.jar ファイルは、次のデフォルト場所に あります。

```
was_install_root/installedApps/server_name/application_name
```

ここで、*was\_install\_root* は WebSphere Application Server インストール・ディレクトリー、*server\_name* はサーバーに対して指定した名前、

`application_name` は WebSphere Application Server 内の VeniceBridge アプリケーションに指定した名前です。

#### コピー先:

クローラー・サーバー上のターゲット・ディレクトリーは、`vbr_install_root/lib` です。ここで、`vbr_install_root` はクローラー・サーバー上の VeniceBridge インストール・ディレクトリーです。

## Windows での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind を Microsoft Windows コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、VeniceBridge クローラーが VeniceBridge サーバーと通信できるようにします。

### 説明

VeniceBridge クローラーは、VeniceBridge の Java ライブラリーを VeniceBridge Java クライアントとして使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 以降をインストールすることによってインストールされます。VeniceBridge クローラーが Java ライブラリーと連動できるようにするため、VeniceBridge ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

### 手順

クローラー・サーバーを構成して、VeniceBridge サーバーをクロールできるようにするには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 をインストールします。
  - a. VeniceBridge CD を挿入します。
  - b. Windows ディレクトリーに移動します。
  - c. VeniceBridge インストーラーを開始します。

`install.exe`

- d. 「製品フィーチャーの選択」ウィンドウで、インストール・オプションに「ブリッジのみ」を選択します。
  - e. 「インストールするブリッジの選択」ウィンドウで、「サンプル・ファイル・システム・ブリッジ」を選択します。
2. クローラー・サーバー上で VeniceBridge クローラー用のセットアップ・スクリプトを実行します。
    - a. エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID でログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール中に指定されたものです)。
    - b. スクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

`escrvbr.vbs`

3. エンタープライズ・サーチ管理コンソール、およびエンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを停止して再始動します。
  - a. コマンド・プロンプトで、管理コンソールを停止します。

esadmin stop

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」の順に選択し、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。
- c. コマンド・プロンプトで、管理コンソールを開始します。

esadmin start

4. クロール対象の VeniceBridge サーバーが WebSphere Application Server を使用する場合、vbr\_access\_services.jar ファイルを VeniceBridge サーバーからクローラー・サーバーにコピーします。

#### コピー元:

vbr\_access\_services.jar ファイルは、次のデフォルト場所に あります。

`was_install_root¥installedApps¥server_name¥application_name`

ここで、`was_install_root` は WebSphere Application Server インストール・ディレクトリー、`server_name` はサーバーに対して指定した名前、`application_name` は WebSphere Application Server 内の VeniceBridge アプリケーションに指定した名前です。

#### コピー先:

クローラー・サーバー上のターゲット・ディレクトリーは、`vbr_install_root¥lib` です。ここで、`vbr_install_root` はクローラー・サーバー上の VeniceBridge インストール・ディレクトリーです。

---

## Web クローラー

Web サイトのデータをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Web クローラーを構成します。

Web クローラーを使用すれば、任意の数の HTTP サーバーおよびセキュア HTTP (HTTPS) サーバーをクロールすることができます。クローラーが Web サイトにアクセスし、サイト上のデータおよび情報を読み取ります。また、文書内のリンクをたどってリンク先の文書をクロールすることもできます。

クロールされたデータは、一般的な多くのフォーマットのいずれでもかまわず、イントラネットまたはインターネットのさまざまなソースから読み取られます。一般的なフォーマットには、HTML、PDF、Microsoft Word、Lotus WordPro、Extensible Markup Language (XML) などがあります。

Web クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。また、この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内の全 Web ページに対するクロールを制御します。また、セキュリティー・トークンを指定して、コンテンツへのアクセスを制限することもできます。



- 特定の Web サイトまたは特定タイプの文書へのアクセスを許可または禁止するためのパターンおよび規則を指定します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- 新規または異なる Web サイトにアクセスする場合の規則の追加。
- 特定タイプの文書のクロール規則の変更、またはクロールする深さの変更。
- クロール・スペースからの Web サイトまたは特定タイプの文書の除去。

## Web クロール・スペースを制限する規則

ユーザーが Web サイトにアクセスするときに、検索を許可するサイトに限ってアクセスするようにするため、Web クローラーがクロールできる対象を制限する規則を指定します。

Web クローラーが Web ページをクロールするときに他のページへのリンクをディスカバーすると、それらのリンクを次にクロールされるようにキューに入れます。このクロールとディスカバーは、時間とメモリー・リソースが許す限り繰り返して行われます。Web クローラーを構成する場合、クローラーがクロールを開始する場所を指定します。Web クローラーは、この初期 URL (シード URL といいます) から始めて、シード URL から直接または間接的にリンクで接続されているあらゆる文書に到達することができます。

クロール・スペースを制限するには、Web クローラーを構成するときに特定の URL は完全にクロールし、関心がある領域外を示すリンクは無視するように設定します。デフォルトではクローラーは、ディスカバーしたすべての URL を受け付けるようになっているため、コレクションに入れる URL を指定し、それ以外のページは除外する規則を指定する必要があります。

Web クローラーにクロール対象とクロールから除外する対象を指定するには、いくつかの方法があります。次のような指定を行うことができます。

- 3 種類のクロール規則 (ドメイン、IP アドレス、URL 接頭部)
- 除外対象の文書を指定するファイル拡張子のリスト
- クロール対象の文書を指定する MIME タイプのリスト
- 1 つの URL パスに許容される最大ディレクトリー数
- クローラーがクロールを開始するシード URL のリスト

クロール規則は、次の書式で指定します。

`action type target`

`action` は `forbid` または `allow`、`type` はドメイン (domain)、IP アドレス (IP address)、または URL 接頭部 (HTTP または HTTPS) で、`target` は `type` の値に

よって異なります。パターンに一致するターゲットの指定には、ワイルドカード文字としてアスタリスク (\*) を指定できますが、その使用は限定的になります。

## ドメイン規則

ドメイン規則のターゲットは DNS ドメイン・ネームです。例えば、`www.ibm.com` ドメイン全体をクロール対象にする場合、次のように指定します。

```
allow domain www.ibm.com
```

ターゲットの最初の文字は、アスタリスクでもかまいません。その場合、ホスト名の末尾が後半部分のパターンに一致するあらゆるホスト名がこの規則に該当することになります。例えば、次のパターンに一致するすべてのドメインをクロール対象から除外する場合、次のように指定します。

```
forbid domain *.ibm.com
```

ホスト名の突き合わせでは、具体的なドメイン・ネームを明示して指定した場合でも、ドメイン・ネームのパターンを指定した場合でも大/小文字は区別されます。例えば、「\*.user.ibm.com」と指定すると、「joe.user.ibm.com」および「mary.smith.user.ibm.com」は一致となりますが、「joe.user.IBM.com」は一致となりません。

Web サイトのポートが 80 (HTTP の標準ポート) 以外の場合、ドメイン・ネームにポート番号を指定する必要があります。例えば、保護ページをクロールできるようにするには、次のように HTTPS 要求のポート番号 (標準 443) を指定します。

```
allow domain *.ibm.com:443
```

## アドレス規則

アドレス規則は、ターゲットとして IP アドレス (IPv4 のみ) とネットマスクを指定することにより、ホストまたはネットワーク全体のクロールを制御します。例えば、次のように指定します。

```
allow address 9.0.0.0 255.0.0.0
```

ネットマスクを使用するとパターン・マッチングを指定できます。アドレス規則が候補となる IP アドレスに適合となるには、規則の IP アドレスと候補 IP アドレスが、ネットマスクでゼロで隠されている場合を除き、同一でなければなりません。アドレス規則はパターンを定義し、ネットマスクはアドレス・パターン中の有意のビット部分を定義します。ネットマスク中のゼロはワイルドカードとして機能し、アドレス中の同じビット位置に指定された任意の値が一致となることを示しています。

上記の例の allow 規則は、最初のオクテットが 9 で末尾の 3 つのオクテットが任意の値のすべての IP アドレスに適合します。

規則リストの最後に入れるアドレス規則として、「forbid address 0.0.0.0 0.0.0.0」を入れておくと便利です。この規則は、ネットマスクの全ビットを有意でないビットとしているため、あらゆる IP アドレスが一致となります (この規則では、規則リストでこの前のすべての規則で許可されていないすべてのアドレスを禁止することになります)。

## 接頭部規則

接頭部規則は、指定されたストリングで始まる URL のクローリングを制御します。ターゲットは、単独の URL で、通常、1 つ以上アスタリスクを入れてパターンを指定します。例えば、よくある方法として、接頭部ストリングの末尾文字にアスタリスクを指定します。

接頭部規則を使用すれば、Web サイトのすべて、または一部をクローリングすることができます。ディレクトリー・パスかパターンを指定し、ディレクトリー・ツリーのそれ以降のすべてを対象として、クローリングを許可または禁止します。例えば、次の 2 つの規則では、foo.ibm.com の「public」ディレクトリーのすべてのコンテンツをクローラーのクローリング対象とし、そのサイトの他のすべてのページについてはアクセスを禁止します。

```
allow prefix http://foo.ibm.com/public/*
forbid prefix http://foo.ibm.com/*
```

接頭部規則を指定する場合、アスタリスクは複数指定が可能で、末尾に限らず接頭部ストリングの任意の位置に指定できます。例えば、次の規則では、foo.ibm.com サイトでディレクトリー名の末尾が「fs」の最上位ディレクトリーの文書のクローリングを禁止しています。(検索索引で有用な情報がないファイル・システム・マウントなどの場合が考えられます。)

```
forbid http://foo.ibm.com/*fs/*
```

## クローリング規則の順序

クローラーは、URL のディスカバリーおよびクローリング処理中、クローリング規則を何度も適用します。規則の順序は重要ですが、それは同タイプの規則に限られます。あるアドレス規則が別のアドレス規則の前に来るか、後ろに来るかでは意味が異なりますが、あるアドレス規則が別の接頭部規則の前に来るか、後ろに来るかでは意味の違いはありません。クローラーがこの 2 つの規則を同時に適用することはないからです。

同タイプの規則セット内については、クローラーは候補ドメイン、アドレス、または URL を最初に指定した規則から順次最後の規則まで適合する規則が見つかるまで 1 つずつテストします。適合する最初の規則に指定された処置が使用されます。

**重要:** 適合する規則がない場合は、デフォルトの処置として、候補のドメイン、アドレス、または URL に対してクローリングが許可されます。

順序の依存性から、多くのクローリング規則について、次のように典型的な規則構成が導かれます。

- ドメイン規則のセットは、通常、クローリング・スペースから単独のドメインを除外する forbid 規則を先に置きます。例えば、コレクション管理者は、有用な情報がないドメインをここで除外指定します。
- forbid 規則のリストの後には、通常、ワイルドカード文字を入れた一連の allow 規則を設定し、これによって、エンタープライズ・イントラネットを定義する上位レベルのドメイン・ネームが末尾に来る任意のドメイン (\*.ibm.com、\*.lotus.com など) をクローラーがアクセスできるようにします。

ドメイン規則のセットの最後には、通常、次の規則を入れ、それより前の規則で許可されなかったドメインをすべてクロール対象から除外します。

```
forbid domain *
```

また、この規則は、次のように クロール・スペースにインターネット全体が入るのを防ぐ機能があります。

- アドレス規則のセットは、通常、少数の allow 規則が先頭に置かれ、これによってクローラーがエンタープライズ・イントラネットにわたる上位レベル (クラス A、クラス B、またはクラス C) のネットワークを クロールできるようにします。

アドレス規則の最後は、通常、次の規則が置かれ、これによってクローラーが企業ネットワーク外の Web サイトをクロールしないようにします。

```
forbid 0.0.0.0 0.0.0.0
```

- 通常、接頭部規則のセットは、ツリーまたはサブツリーで許可および禁止指定される領域が詳細にその都度指定されるため、この規則セットが一番大きなセットになります。よい方法としては、まず、特定ローカルに限定された領域を許可または禁止し、それから逆に一般的なパターンでその他すべての領域を許可または禁止します。

接頭部セクションの最後は、通常の規則とは異なります。ドメイン規則およびアドレス規則について推奨される最終規則を使用すれば、URL をテストするよりも効率的に、クローラーがエンタープライズ・ネットワークを超えてクロールしないようにすることができます。

接頭部規則の場合、処置 (forbid または allow) 別に規則をまとめるほうが、クローラーはより効率的に処理を行うことができます。例えば、allow および forbid 規則を交互に短い指定で並べるよりも、片方の処置を規定する規則を長く並べ、それから他方の処置を規定する規則を同様に長く並べるようにします。allow 規則と forbid 規則を混在させるようにしても目的のクロール・スペースを作成することはできますが、allow 規則と forbid 規則をそれぞれひとまとめにしたほうが、クローラーのパフォーマンスは良くなります。

## ファイル拡張子、MIME タイプ、およびクロールの最大の深さ

これらのオプションを使用すれば、クロール・スペースの内容をさらに詳細に指定することができます。特定タイプの文書を文書のファイル拡張子に基づいて除外したり、文書の MIME タイプを基に特定タイプの文書を組み入れたりすることができます。クローラーにクロールさせる MIME タイプを指定する場合、Web 文書では MIME タイプが誤って設定されていることが多いので注意してください。

クロールの最大の深さは、サイト・ルートから数えた URL 内のスラッシュ数で表されます。このオプションを使用すると、クローラーが深さが無限の再帰的なファイル・システム構造にはまり込むのを防ぐことができます。クロールの深さは、クローラーがある文書から別の文書にリンクをトラバースする時のレベル数とは一致しません。

## シード URL

シード URL は、クローラーがクロールを開始する URL のことを指し、クローラーが開始されるたびにこの URL がクロール対象となります。シード URL がすでにディスカバーされた場合は、その URL がクロール規則で許可された他の Web サイトよりも早くクロールないし再クロールされることはありません。

シード URL は Web クローラーが初めて始動され、クロール・スペースが空の場合に重要です。また、まだディスカバーされていなかったシード URL を既存のクロール・スペースに追加するときにも重要となります。

シード URL にはドメイン・ネームだけでなく完全修飾 URL を指定する必要があります。プロトコル、およびポートが 80 でない場合は、ポート番号も指定してください。

以下の URL は有効なシード URL の例です。

```
http://w3.ibm.com/
http://foo.ibm.com:9080/
```

以下の URL は無効なシード URL です。

```
www.ibm.com
```

また、シード URL はクロール規則にも入れる必要があります。例えば、クロール規則でシード URL をクロール対象として許可していなければ、クローラーは指定されたそのシード URL でクロールを開始することができなくなります。

## Web クローラーにおける再クロール間隔の設定

Web クローラーが URL に再アクセスする頻度を調整するには、Web クローラーのプロパティの オプションを指定します。

エンタープライズ・サーチ・システムの他のほとんどのクローラー・タイプの場合、管理者が指定したスケジュールに従ってクロールが実行されます。これに対して、Web クローラーの場合、通常、開始されると連続して実行されます。前にクロールした URL に再アクセスする頻度を調節するには、最大および最小再クロール間隔を指定します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Web クローラー を作成する、または Web クローラーのプロパティを編集するときに、拡張プロパティを構成するオプションを選択できます。最大および最小再クロール間隔は、この「Web クローラーの拡張プロパティ」ページで指定します。Web クローラーは、指定したこの値を使用して、データの再クロール間隔を計算します。

あるページが最初にクロールされると、クローラーはそのページがクロールされた日時と指定された最大と最小再クロール間隔の平均値を使用して、再クロール日付を設定します。そのページはその日付までは再クロールされません。その日付以後、そのページが再クロールされる実際の日時は、クローラー負荷とクロール・スペース内の新旧の URL の バランスによって異なります。

毎回、そのページが再クロールされるごとに、クローラーはその内容に変更がないか確認します。内容に変更がある場合、次の再クロール間隔は前回よりも短くなりますが、指定された最小再クロール間隔よりも短くなることはありません。内容に



変更がない場合、次の再クロール間隔は前回よりも長くなりますが、指定された最大再クロール間隔よりも長くなることはありません。

## Web クローラーにおける URL アクセスのオプション

Web クローラーには、特定の URL をできる限り早くアクセスするように強制することができます。

特定の Web サイトの情報でクロール・スペースをリフレッシュする必要がある場合、クローラーをモニターし、「アクセスまたは再アクセスする URL」オプションを選択して、クロールまたは再クロールする必要があるページの URL または URL パターンを指定します。

例えば、企業の情報通信部門がイントラネットにある Web ページを追加する、または重要な方針変更があったため、それを反映するようにページを改訂する場合、その新規、または変更済みのページの URL を指定します。クローラーが実行中の場合、クローラーは指定された URL を次にクロールするようにキューに入れ、アクセスを待機しているページがないかその URL を確認します (通常 10 分ごと)。クローラーが実行されていない場合は、クローラーは指定された URL をキューに入れ、クローラーが次回開始されたときにクロールできるようにします。

クロール規則の中に、指定した URL のアクセスをクローラーに許可する規則が必ず含まれるようにしてください。クローラーは、指定した URL には通常より早くアクセスできますが、前提としてすべてのクロール対象の URL は、その URL のクロールを許可するクロール規則がなければなりません。

新規にクロールされたデータは、次回索引が再編成またはリフレッシュされた時点で検索可能になります。

---

## Windows ファイル・システム・クローラー

Microsoft Windows ファイル・システムに格納された文書をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Windows ファイル・システム クローラーを構成します。

Windows ファイル・システム・クローラーを使用すれば、任意の数の Windows ファイル・システムをクロールすることができます。クローラーの構成時に、クロールするローカルおよびリモートのディレクトリー、サブディレクトリーを選択します。

Windows コンピューターにクローラー・サーバーをインストールする場合、UNIX ファイル・システム・ソースのクロールにそのサーバーを使用することはできません (UNIX ファイル・システム・クローラーは、選択可能なクローラー・タイプのリストに表示されません)。

Windows ファイル・システム・クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。



- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内のすべてのサブディレクトリーに対するクロールを制御します。
- ファイル・システムをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールするサブディレクトリーを選択します。

クローラーでクロールするサブディレクトリーのレベル数も指定できます。リモート・ファイル・システムをクロールするには、クローラーがデータにアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードも併せて指定します。

- サブディレクトリー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、一定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、セキュリティー・トークンを指定してコンテンツへのアクセスを制限したりすることができます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのサブディレクトリーの追加。
- ファイル・システムのクロール・スケジュールの変更。
- 特定のサブディレクトリーの文書クロール規則の変更。
- クロール・スペースからのサブディレクトリーの除去。

---

## 外部クローラーのサポートの構成

外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、エンタープライズ・サーチを拡張することができます。クローラーがエンタープライズ・サーチ・コレクションにアクセスできるようにするため、データ・リスナーを構成します。

### 手順

データ・リスナーを構成するには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール中に指定されたものです。
2. ES\_NODE\_ROOT/master\_config/datalistener ディレクトリーに移動します。
3. テキスト・エディターを使用して dlConfig.prp ファイルを編集します。
  - DL\_Port で、データ・リスナーが listen するポート番号を指定します。デフォルト値は 6668 です。
  - DL\_Num\_Of\_Threads で、データ・リスナーが作成できる作業スレッドの数を指定します。デフォルト値は 6 です。
4. テキスト・エディターを使用して dlAuthentication.prp ファイルを編集します。

このファイルは、リモート・クライアント用の認証情報を指定します。データ・リスナー・アプリケーションがエンタープライズ・サーチにアクセスすることを可能にする ID とパスワードが、ファイル内の各行で 1 つずつ指定されます。これらのクライアント ID は、エンタープライズ・サーチ・システム内で固有でなければなりません。例:

```
clientID_1 = password_1
clientID_2 = password_2
```

エンタープライズ・サーチ・システムへのアクセスを許可したい各データ・リスナー・アプリケーションごとに、ID とパスワードを指定してください。データ・リスナー・アプリケーション所有者は、指定された信任状を使用する必要があります。

5. テキスト・エディターを使用して `dlAuthorization.prp` ファイルを編集します。

このファイルは、許可データを指定します。ファイル内の各行が、コレクションへのデータ追加またはコレクションからのデータ削除を行うことのできるデータ・リスナー・アプリケーションの ID を指定します。これらのクライアント ID は、`dlAuthentication.prp` ファイル で指定した ID と一致している必要があります。これが意味するのは、各クライアント ID が コンテンツの更新を許可されるコレクションは 1 つのみであるということです。例:

```
clientID_1 = collectionID_1
clientID_2 = collectionID_2
```

6. データ・リスナーは、エンタープライズ・サーチ・システムが開始されるときに自動的に開始されます。それより早くプロパティ・ファイル内の変更を有効にしたい場合は、以下のコマンドを入力して、データ・リスナーを停止し、再始動してください。

```
esadmin datalistener stop
esadmin datalistener start
```

#### 関連概念

データ・リスナー API



---

## 第 5 章 エンタープライズ・サーチ索引の管理

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

クローラーが収集したデータを検索可能にするためには、索引を作成する必要があります。コレクションを最初に作成すると、エンタープライズ・サーチによって、当初クロールされたすべてのデータの索引が作成されます。クローラーが新規または変更されたデータ・ソースをクロールすると、エンタープライズ・サーチはその新規のコンテンツで索引をリフレッシュします。そして、リフレッシュされたコンテンツは、最終的にベースとなる索引にマージされる必要があります。このマージ・プロセスを再編成と言います。索引がリフレッシュまたは再編成されると、その新規のコンテンツが検索サーバーにコピーされ、検索可能にされます。

クローラーは、データ収集を連続的に、または定期的なスケジュールに基づいて行います。索引を頻繁にリフレッシュすれば、ユーザーが最新のデータを検索できるようになります。継続的にリフレッシュされている索引は、最終的に再編成する必要があります。リフレッシュされた索引が大きくなるにつれて、システム・リソースの消費が増大します。したがって、最適なパフォーマンスを維持するには、定期的に索引を再編成する必要があるわけです。

再編成する頻度は、以下のような条件によって異なります。

- システム・リソース (ディスク・スペース、プロセッサの速度、メモリー)
- クロールおよび再クロール対象の文書数
- クロール対象のデータ・タイプ
- カテゴリー規則の変更回数 (規則は、索引を再編成しないと有効になりません)
- クローラーをスケジュールされていた時間に実行するのではなく強制始動した回数
- 外部クローラーが URI を除去または追加した回数 (外部クローラーはデータ・リソース API によってエンタープライズ・サーチと通信します)

文書数がおおよそ 400 万で、ほとんどが Web 文書の場合、索引の再編成を 1 日に 1 回、リフレッシュを 1、2 時間おきに行うのがその目安となります。

現行の、検索可能な索引を保守するには、次のタスクを行います。

- 索引のリフレッシュおよび再編成スケジュールの設定
- 索引スケジュールの変更
- 索引スケジュールの使用可能/使用不可設定
- 同時索引作成の構成
- 索引から URI を除去

### 関連概念

92 ページの『有効範囲』

有効範囲によって、ユーザーがコレクションを検索するときに 検索できる文書を制限できます。

#### 関連タスク

121 ページの『コレクションの索引アクティビティのモニター』

作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティの開始/停止を行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

122 ページの『エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター』

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキューからの索引の削除を行うことができます。

---

## 索引作成のスケジューリング

索引を再編成するスケジュールと、索引を新しいコンテンツでリフレッシュするスケジュールを指定できます。

### 前提条件

索引作成をスケジュールするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。


### 説明

ユーザーが検索するソースで常に最新情報にアクセスできるようにするため、索引の再編成とリフレッシュが定期的に行われるようにスケジュールしてください。索引が再編成される際には、索引全体が再作成されます。索引作成プロセスによって、クローラーが収集し、パーサーが分析したすべてのデータが読み込まれます。索引がリフレッシュされる際には、索引が最後に再編成されて以降にクロールされた情報が検索可能にされます。

索引作成をスケジュールするオプションは、デフォルトで選択されます。このオプションが選択されていると、スケジューラー・プロセスは、エンタープライズ・サーチが開始されるたびに索引の再編成とリフレッシュを実行するよう作業をスケジュールします。必要であればいつでも「システム始動時に有効化」チェック・ボックスをクリアして、スケジュール済みの索引作成が実行されないようにできます。例えば、問題をトラブルシューティングするときなどに、スケジュールを無効にしたいことがあります。

### 手順

索引作成をスケジュールするには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、変更したいコレクションを見つけ、「 **編集**」をクリックします。
3. 索引が新しいコンテンツでリフレッシュされる頻度を指定するには、「**索引のリフレッシュ・スケジュールの指定**」領域の「索引」ページで以下のオプションを指定します。

- a. 「開始日時」領域の「月」、「日」、「年」、「時刻」フィールドで、索引が最初にリフレッシュされる日時を指定します。
- b. 「更新頻度」領域の「日」フィールドと「時間」フィールドで、索引がリフレッシュされる頻度を指定します。

通常、索引は、1 時間または 2 時間ごとのように、頻繁にリフレッシュするべきです。ソース・コンテンツの変更頻度に応じて、間隔の長短を調整してください。例えば、毎時間 (0 日と 1 時間)、あるいは 12 時間ごと (0 日と 12 時間) などと指定します。

4. 索引が完全に再作成される頻度を指定するには、「索引の再編成スケジュールの指定」領域の以下のオプションを指定します。
  - a. 「開始日時」領域の「月」、「日」、「年」、「時刻」フィールドで、索引が最初に再編成される日時を指定します。
  - b. 「更新頻度」領域の「日」フィールドと「時間」フィールドで、索引が再編成される頻度を指定します。

通常、索引は、24 時間ごとのように、定期的に再編成するべきです。ソース・コンテンツの変更頻度に応じて、間隔の長短を調整してください。例えば、12 時間ごと (0 日と 12 時間)、あるいは 2.5 日間ごと (2 日と 12 時間) などと指定します。

5. 「適用」をクリックします。

## 索引スケジュールの変更


索引の再編成またはリフレッシュのスケジュールは、変更することができます。

### 前提条件

索引スケジュールを変更するには、操作者がエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはそのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

### 手順

索引スケジュールを変更するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして、「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、「 編集」をクリックします。
3. 「索引」ページの「月」、「日」、「年」、および「時」フィールドで該当する値を変更し、新規のコンテンツで索引をリフレッシュする頻度、または索引を再編成する頻度を指定します。
4. 「適用」をクリックします。

## 索引スケジュールの使用可能および使用不可設定

索引のリフレッシュおよび再編成スケジュールは、使用可能、使用不可を切り替えることができます。

### 前提条件








索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、操作者がエンタープライズ・サーチ管理者役割を持つメンバーか、またはそのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

## 説明

スケジュール済みの索引作成を実行しないようにする必要がある場合、索引スケジュールを使用不可にすることができます。例えば、トラブルが発生し、それを解決するために、スケジュールされた日時に索引作成が行われないようにそのスケジュールを使用不可にすることが考えられます。

スケジュールの使用可能および使用不可設定は、コレクションの編集時、およびコレクションのモニター時に行うことができます。

## 手順

1. コレクションの編集で索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、次のステップに従います。
  - a. 「**コレクション**」をクリックして、「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、「 **編集**」をクリックします。
  - c. 「索引」ページで、「**システム始動時に有効化**」チェック・ボックスを選択、または選択解除すると、索引のリフレッシュ・スケジュールが使用可能または使用不可になります。
  - d. 索引の再編成を使用可能または使用不可にする場合も、同様に「**システム始動時に有効化**」チェック・ボックスを選択、または選択解除します。
  - e. 「**適用**」をクリックします。
2. コレクションのモニターで索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、次のステップに従います。
  - a. 「**コレクション**」をクリックして、「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、「 **モニター**」をクリックします。
  - c. 「索引」ページで、索引がスケジュール済みの場合にスケジュールされた日時に索引が作成されないようにするには、「 **スケジュールを使用不可にする**」をクリックします。これで、索引は、スケジュールを使用可能にするか、「 **開始**」をクリックして索引作成プロセスを開始するまで作成されなくなります。
  - d. 索引がスケジュール済みで、その索引作成スケジュールが使用不可になっている場合、「 **スケジュールを使用可能にする**」をクリックします。

索引は、索引スケジュールで指定した日時に作成されるようにキューに入れます。

---

## 索引の並行作成の構成

複数の索引が、索引付けプロセスを共用できます。プロセスを共用すると、大規模な索引の再編成が行われていても、キューで作成を待っている別の索引の使用可能性が阻害されません。

### 前提条件

並行して索引キューに存在できる索引の数を指定するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

### 制約事項

並行する索引作成の数は、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクション数より大きくすることはできません。例えば、コレクションが 5 個ある場合、5 以下の数を入力する必要があります。

### 説明

索引作成は、リソース集約的なプロセスです。索引作成中には、大量のシステム・メモリーとディスク・スペースが消費されます。

エンタープライズ・サーチは、複数の索引を同時に作成できますが、同時にキューに存在できるのはコレクションごとに 1 つの索引のみです。索引は、索引作成が要求またはスケジュールされたときに索引キューに入り、処理の順番を待ちます。それぞれのコレクションごとに独自の索引があるので、索引キューに同時にいくつかの索引がある場合があります。索引並行作成の数を構成するとき、いくつかの索引がキューおよび索引作成用リソースを同時に共用できるのかを指定します。

例えば、並行作成では、索引付けプロセスは、1 つのコレクションの索引を処理し、次に他の索引の処理に移り (指定した並行作成の最大数まで)、その後、再び最初の索引の処理に戻ることができます。ある索引の作成は、キュー内のその索引に先行する他の索引の完了を待たずに処理を進行できます。

### 手順

索引作成キューを並行して共用できる索引の数を指定するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2. 「索引」ページで、リソースを共用し同時に作成可能な索引の数を入力します。
3. 「適用」をクリックします。

---

## 索引から URI を除去

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、それらの文書の URI を索引から除去することができます。

### 前提条件

索引から URI を除去するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。

## 説明


完全修飾 URI を指定すると、その URI はユーザーの検索結果に現れなくなります。ただし、ユーザーが同じ照会をサブミットし、その照会の結果文書が検索キャッシュに残っている場合には、除去した URI のキャッシュされた結果ページが検索結果に戻され続けます。索引が次にリフレッシュまたは再編成されるまで、検索キャッシュは更新されず、URI は索引から除去されません。

複数の URI を除去するようパターンを指定した場合、索引が次にリフレッシュまたは再編成されるまでは、そのパターンに一致する URI がユーザーの検索結果に戻され続けます。

索引から URI を除去しても、その索引はクロール・スペースからは除去されません。クローラーが次回にその文書をクロールすると、その URI が索引内に作成され、再び検索に使用可能になります。クロール・スペースから URI を除去するには、クロール規則を更新してその文書を除外し、クローラーの停止と再始動を行う必要があります。

## 手順

特定の文書の URI を索引から除去するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、変更したいコレクションを見つけ、「 **編集**」をクリックします。
3. 「**一般**」ページで、「**索引から URI を除去**」をクリックします。
4. 「**索引から URI を除去**」ページで、索引から除去したい URI (または URI パターン) を入力します。

例:

```
http://domain.org/hr/*
db2://knowledgeManagement/ROI*
cm://enterprise/finance*
```

5. 「**OK**」をクリックします。

## 関連資料

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

---

## 第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

### サンプル検索アプリケーション

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションには、使用可能な検索と取得のほとんどの機能があります。このサンプル・アプリケーションは、企業の目的を反映する、対話式の Web ベースの検索アプリケーションを作成するために、どのように IBM 検索および索引作成用 API (SI-API) を使用するかを示した実施例でもあります。

サンプル検索アプリケーションは、その構成設定を変えなければ、それを使用して、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのアクティブ・コレクションを検索できます。新規コレクションをユーザーに提供する前に、それをサンプル検索アプリケーションを使用してテストできます。実稼働環境では、エンタープライズ・サーチ管理者が、どの検索アプリケーションを使って特定のコレクションを検索できるかを制御します。

### 検索および取得機能

サンプル検索アプリケーションには、次の検索および取得機能があります。

#### コレクション・レベル機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 検索するコレクションを選択する (コレクションのリストには、エンタープライズ・サーチ管理者がユーザーの検索アプリケーションに関連付けたコレクションのみが含まれます)。
- 新規コレクション、および既存のコレクションの変更を利用できるようにするために、コレクションのリストをリフレッシュする。

#### 照会機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 単純なフリー・テキストの照会を指定する。
- 検索結果の精度を上げるために、より複雑な照会を指定する。例えば、文書内の特定のフィールドを検索できます。あるいは、構文表記法を使用して、特定の句を含んだり、特定の語を含まない文書を検索できます。
- 特定のタイプの文書を検索する。コレクションに複数のデータ・ソース・タイプが含まれている場合、特定のタイプのデータを検索することもできます。例えば、Microsoft Word 文書のみであったり、PDF 文書のみであるなどです。
- 使用する照会用語の言語を指定する。

- 照会ストリングの中にミススペルの可能性のある語があれば、スペルの修正候補のプロンプトを出す。
- コレクションの特定のサブセットを検索する。例えば、検索アプリケーションは、事前に定義された文書の範囲 (有効範囲) にビューを制限できます。あるいは、特定のカテゴリに属する文書のみを検索する照会をサブミットできます。

### 検索結果機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 照会ページで、検索結果を見る。検索結果の表示は、いつでもクリアできます。
- 検索結果の各ページに表示する文書数を制御し、結果セットの間を前方または後方にブラウズする。
- 結果の文書についての詳細を表示する。または非表示にする。例えば、文書タイトルをブラウズしたり、各文書のサマリーと追加のフィールドを表示したりできます。
- 同じ Web サイトからの文書を縮小表示する。例えば、1 つのサイトが 100 の文書を返す場合、結果セットの中では、グループ化されて、先頭の 2 文書が表示されます。残りの 98 文書は、それらを表示するオプションを選択すると表示されます。
- 検索結果の中の文書を、特定の言語に制限する。
- 文書を適合度または文書日付順にソートし、ソート順序を昇順または降順のどちらにするかを指定する。
- 結果の文書が属するカテゴリについての情報を表示し (コレクションがカテゴリを使用する場合)、特定のカテゴリに属する文書のみをブラウズする。
- 文書の URI をクリックして、文書を取得する。
- クイック・リンクをクリックして、文書を取得する。クイック・リンクは、キーワードを URI に関連付けます。指定されたキーワードが照会の中に含まれていれば、関連した URI (これは、これらのキーワードに高い関連があると事前に決められている) が 検索結果の中に表示されます。

### カスタム検索アプリケーション

作成した検索アプリケーションは、IBM WebSphere Application Server 環境の中で独立型 Web アプリケーションとして実行することも、IBM WebSphere Portal 環境の中でポータルレットとして起動することもできます。検索および索引作成用 API を使用することによって、サンプル検索アプリケーションのように、両方の環境でシームレスに機能する検索アプリケーションを設計できます。

#### 関連概念

81 ページの『第 8 章 エンタープライズ・サーチ・コレクションの検索』  
エンタープライズ・サーチ用の検索アプリケーションにより、ユーザーは単純照会、フリー・テキスト照会、およびさらに詳細な文書に対する合致基準を指定できる複雑な照会を設定できます。

81 ページの『照会方式の種類』

エンタープライズ・サーチ・コレクションでは、さまざまな照会方式をサポートしており、その多くはインターネット検索でユーザーも慣れ親しんだ検索機能です。

97 ページの『第 9 章 エンタープライズ・サーチからの検索結果』

ユーザーが検索アプリケーションに照会を入力すると、検索プロセスでは照会に指定された用語および条件に照らして最も適合する結果を戻します。

135 ページの『検索アプリケーション ID を使用したセキュリティー』

コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、各コレクションを検索できる検索アプリケーションを指定します。

131 ページの『文書レベルのセキュリティー』

文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

140 ページの『Portal Search Engine での文書レベル・セキュリティー』

IBM WebSphere Portal Search Engine を使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

検索および索引作成用 API (SI-API)

---

## デフォルトの検索アプリケーション・プロパティーの構成

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションは、システムの中のすべてのアクティブなコレクションを検索できます。プロパティー・ファイルを編集して、Web サーバー環境のオプションを指定したり、デフォルト・アプリケーションとして異なる検索アプリケーションを指定したりできます。

### 説明

DB2 II OmniFind インストール・プログラムは、エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションを、エンタープライズ・サーチの検索サーバー上の IBM WebSphere Application Server にデプロイします。この検索アプリケーションを構成するには、それと一緒にデプロイされるプロパティー・ファイル `config.properties` を編集します。

プロパティー・ファイルを編集するときに、Web サーバーでサンプル検索アプリケーションを使用することについての情報を指定します。

### 手順

デフォルトの検索アプリケーションのプロパティーを構成するには、次のようになります。

1. 標準のテキスト・エディターで、`config.properties` ファイルを編集します。

`config.properties` ファイルは、次の場所にインストールされています。ここで、`ES_INSTALL_ROOT` は、検索サーバー上の DB2 II OmniFind インストール・ディレクトリーです。

```
ES_INSTALL_ROOT/installedApps/ESSearchApplication.ear/
ESSearchApplication.war/WEB-INF/config.properties
```



2. ユーザーの環境の次のプロパティを編集します。

**applicationName**

有効な検索アプリケーションの名前を指定します。デフォルト値は Default です。

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションをデフォルト・アプリケーションとして使用せず、その代わりに別のアプリケーションを使用する場合は、デフォルト値を変更します。例えば、WebSphere Application Server 中のグローバル・セキュリティーを使用可能にして、セキュア・アプリケーションをデフォルトの検索アプリケーションとして使用する場合は、そのアプリケーションの名前を指定します。

**applicationPassword**

検索アプリケーションのパスワードを指定します。デフォルト値は、password です。

この値は、applicationName プロパティで、パスワードを必要とするアプリケーションを指定する場合にのみ、変更します。Default サンプル検索アプリケーションは、この値は無視します。

**hostName**

WebSphere Application Server インスタンスをサポートするように構成された、Web サーバーの完全修飾のホスト名を指定します。デフォルト値は localhost です。

検索アプリケーションが正しく機能するように、デフォルト値を、使用するように構成された Web サーバーと WebSphere Application Server の完全修飾のホスト名に変更します。例えば、コンピューターのホスト名が MyMachine で、Web サーバーがそのホスト名として www.ibm.com を使用するよう構成されている場合、www.ibm.com を指定します。

**portNumber**

WebSphere Application Server インスタンスをサポートするように構成された、Web サーバーのポート番号を指定します。デフォルト値は 80 です。

Web サーバー・インスタンスのポートを変更した場合にのみ、デフォルト値を変更します。この値を変更した場合は、次のファイルの中の portNumber 値も 変更します。

*ES\_INSTALL\_ROOT*/master\_config/searchmanager/setup.ini

**categorizationType**

検索アプリケーションがサポートするカテゴリーのタイプを指定します。

**rulebased**

検索アプリケーションが、ユーザーがエンタープライズ・サーチ管理コンソールで規則を指定して構成するカテゴリーを使用する場合は、この値を指定します。これはデフォルト値です。

**modelbased**

検索アプリケーションが、IBM WebSphere Portal に存在するモデル・ベースのカテゴリーを使用する場合は、この値を指定しま

す。このオプションを選択する場合、WebSphere Portal がエンタープライズ・サーチ索引サーバー上にインストールされていることを確認する必要があります。また、WebSphere Portal を使用して、カテゴリを管理しなければなりません。

3. WebSphere 管理コンソールを使用して、ESSearchApplication アプリケーションを停止して、再始動します。

---

## サンプル検索アプリケーションへのアクセス

Web ブラウザーで URL を指定することにより、エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションにアクセスします。

### 前提条件

サンプル検索アプリケーションは、ご使用の Web サーバー環境に合わせて構成されている必要があります。

### 説明

サンプル検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーにインストールされています。このアプリケーションをそのまま使用してコレクションをテストし、その後でユーザーにも使用可能にすることができます。また、このアプリケーションをモデルとして使用して、独自の検索アプリケーションを作成することもできます。

### 手順

サンプル検索アプリケーションを開始するには、次のようにします。

1. Web ブラウザーで検索アプリケーションの URL を入力します。 例:

```
http://SearchServer.com/ESSearchApplication/
```

*SearchServer.com* は、検索サーバーのホスト名です。

ご使用の Web サーバー構成によっては、ポート番号を指定する必要がある場合もあります。例:

```
http://SearchServer.com:9080/ESSearchApplication/
```

2. 「検索」ページで、検索したいコレクションを選択し、照会をサブミットします。

---

## コレクションとの検索アプリケーションの関連付け

新規の検索アプリケーションを使用するには、その前に、その検索アプリケーションを、それが検索できるコレクションに関連付ける必要があります。

### 前提条件

検索アプリケーションを、それが検索できるコレクションに関連付けるには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーでなければなりません。

## 手順

検索アプリケーションを 1 つ以上のコレクションに関連付けるには、次のようにします。

1. 管理コンソールのツールバーで、「**セキュリティ**」をクリックします。
2. 「検索アプリケーション」ページで、「**検索アプリケーションの追加**」をクリックします。
3. 検索アプリケーションの名前を入力します。
4. アプリケーションが検索できるコレクションを選択します。
  - 検索アプリケーションがすべてのコレクションをアクセスできるようにするには、「**すべてのコレクション**」をクリックします。
  - 検索アプリケーションが指定したコレクションのみをアクセスできるようにするには、「**特定のコレクション**」をクリックします。

このオプションを選択すると、コレクション名のリストが表示されます。アプリケーションが検索できるコレクションごとに、その「**選択**」チェック・ボックスを選択します。

---

## 第 7 章 エンタープライズ・サーチの言語分析機能

エンタープライズ・サーチでは、ほとんどの印欧言語、および日本語などのアジア言語によるテキスト 文書に対する言語分析検索サポートを提供しています。

言語分析サポートの目的は、照会に一致する、可能な最適なコレクションを検索し、検索結果の品質を向上することにあります。

言語分析処理は、文書の索引への追加処理時、およびユーザーが照会を発行した時の 2 つの段階で実行されます。

エンタープライズ・サーチでは、文書処理時に、文書の言語を判別し、入力テキストのストリームを、トークンとも呼ばれる独立した単位に分割し、これらのトークンを含み、検索の基本となる索引を作成します。

照会のサブミット時、ユーザーまたはアプリケーションは手動で照会言語を指定する必要があります。照会ストリングはセグメントに分割され、分析されてから索引の中で検索が行われます。

文書および照会ストリングは、言語に応じて次の 2 つのタイプの分析手法によって分析が行われます。

### 辞書ベースの言語分析

このタイプの分析は、一般的な言語の処理に使用されます。分析には、語および文のセグメンテーション、および見出し語変化分析処理があります。見出し語変化分析は、テキストに出現する各語の基本形を分析し、同品詞で共通する変化形 (例えば、「goose」という見出し語変化分析によって、「geese」という変化形が検出されます) を判別する言語分析処理の形態を指します。

言語分析処理には、字句解析も含まれますが、これは使用可能なすべての辞書データを入力テキストで認識されたトークンに関連付け、入力テキストの代替表記を作成するプロセスです。このように拡張言語処理を使用することにより、検索品質が大幅に向上します。

### 非辞書ベースの分析

このタイプの分析は、あまり一般的でない言語の処理に使用されます。この分析には、ユニコード・ベースの空白文字セグメンテーションおよび N-gram セグメンテーションがあります。

#### 関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

#### 関連タスク

120 ページの『パーサーのモニター』

パーサーを開始または停止する必要がある場合、コレクションのパーサーをモニターします。

---

## 言語の識別

エンタープライズ・サーチでは、語や文のセグメンテーション、文字の正規化、見出し語変化分析を行う前に ソース文書の言語を判別する必要があります。

エンタープライズ・サーチでは、以下の言語を自動的に識別することができます。

|                 |        |         |
|-----------------|--------|---------|
| アラビア語           | フランス語  | 韓国語     |
| 中国語 (繁体字および簡体字) | ドイツ語   | ポーランド語  |
| チェコ語            | ギリシャ語  | ポルトガル語  |
| デンマーク語          | ヘブライ語  | ロシア語    |
| オランダ語           | ハンガリー語 | スペイン語   |
| 英語              | イタリア語  | スウェーデン語 |
| フィンランド語         | 日本語    | トルコ語    |

エンタープライズ・サーチの言語分析プロセスにより、索引作成時にソース文書の言語が識別されます。照会処理時ではありません。

言語が識別できない文書については、言語によらない基本方式で処理されます。

エンタープライズ・サーチの言語識別機能は、単一言語の文書に最もよく適合します。複数言語の文書の場合、その文書で最も多く使用されている言語を判別しようとする処理が行われます。ただし、この分析結果は、必ずしも十分ではありません。

エンタープライズ・サーチの言語識別機能は、検索結果を特定言語の文書だけに制限する場合に使用することができます。例えば、Jacques Chirac (ジャック・シラク氏) に関する文書を検索する場合、フランス語で書かれた文書だけを検索結果に入れるように指定することができます。

---

## ストップワードの除去

エンタープライズ・サーチでは、*a* や *the* などの一般的な頻出語をはじめとする ストップワードは、複数語照会の場合、検索効率を上げるためすべて除去されます。

日本語のストップワード認識は、文法情報に基づいて行われます。例えば、エンタープライズ・サーチでは、日本語ではある単語が名詞か動詞かを識別しますが、他の言語では特別ナリストによる処理を行っています。

---

## 文字の正規化

文字の正規化は、再呼び出しを改善するプロセスです。文字の正規化による再呼び出しの改善を行うと、文書が完全に照会に一致していなくても、より多くの文書が検出されます。

エンタープライズ・サーチでは、アジア言語の全角および半角文字の正規化を含む、ユニコードと互換性のある正規化を使用しています。

例えば、日本語の場合、全角英数字は、半角文字に正規化され、半角カタカナは全角文字に正規化されます。エンタープライズ・サーチでは、さらに、日本語で複合語を区切るのに用いられるカタカナの中黒を除去します。

文字の正規化には、その他次のようなものがあります。

### 大/小文字の違いの正規化

例えば、*usa* を検索すると、*USA* を含む文書も検出されます。

### ウムラウトの拡張

例えば、*schön* を検索すると、*schoen* を含む文書も検出されます。

### アクセント記号の除去

例えば、*e* を検索すると、*é* を含む文書も検出されます。

### その他の発音記号の除去

例えば、*c* を検索すると、*ç* を含む文書も検出されます。

### 合字の拡張

例えば、*ae* を検索すると、*Æ* を含む文書も検出されます。

正規化は、すべて両方向に機能します。*USA* を検索した場合、*usa* を含む文書も検出されますし、*é* の字を含む語を検索した場合、*e* を含む語がある文書も検出される、という要領です。これらの正規化機能を組み合わせることもできます。例えば、*METEO* を検索した場合、*météo* を含む語も検出されます。

正規化は、ユニコード文字プロパティに基づいており、言語に依存するものではありません。例えば、エンタープライズ・サーチでは、ヘブライ語の発音記号除去も、アラビア語の合字拡張もサポートされます。

---

## 辞書ベース・セグメンテーションの言語分析サポート

文書の言語が正しく判別され、言語固有の辞書が使用可能であれば、適切な言語分析処理が適用されます。

セグメンテーションとは、入力テキストが独立した字句単位に分割されるプロセスを指しています。このプロセスは、以下のような言語分析処理アクティビティで構成されます。

### 語のセグメンテーション

語のセグメンテーションは、日本語や中国語のように、空白文字 (または区切り文字) を使用しない言語に使用されます。

### 見出し語変化分析

見出し語変化分析は、テキストに出現する各語形の見出し語を判別する言語分析処理の形態を表しています。ある語の「見出し語」は、その基本形と、同品詞に共通する変化形を代表して表現したものです。例えば、英語の「go」の見出し語は、「go」、「goes」、「went」、「gone」、および「going」を代表しています。名詞の見出し語は、単数形と複数形 (「calf」と「calves」など) をまとめたものです。形容詞の見出し語は、比較級と最上級 (例: 「good」、「better」、および「best」) をまとめたものです。代名詞の見出し語は、同じ代名詞の格変化形 (例: 「I」、「my」、「me」、および「mine」) をまとめたものです。

見出し語変化分析には、索引作成と検索両方に辞書が必要です。

エンタープライズ・サーチでは、見出し語と変化形による語を索引作成し、照会中で語形変化を伴うすべての語を見出し語変化分析にかけます。見出し語変化分析によって、照会中の語形変化のある語の異形を含む文書が検索さ



れ、検索品質が向上します。例えば、ある照会に「*mouse*」という語が含まれている場合、「*mice*」という語を含む文書もきちんと検出されます。

### 短縮形の分割

短縮形がある場合に、それを識別し、構成要素に分割することにより、検索品質が向上します。例えば、以下ようになります。

*wouldn't* は、*would* + *not* に分割されます。

*Horse's* は、*Horse* + *is* または *'s* (照会のあいまい性を考慮) に分割されます。

### 接語の識別

接語とは、特別な短縮形で、その構成要素を識別することにより、検索品質が向上します。接語は、接辞と単語を併せ持った機能を持つ要素です。しかし、接語は、語形成部分でもあるため、識別が難しくなります。他の形態論的 (単語構造) 現象と異なり、接語は統語構造内で起こる現象で、接語が単語に付帯するのは、語形成規則には含まれません。接語には、以下のものがあります。

*reparti-lo-emos* の構成要素は、*repartir* + *lo* + *emos* となります。

*l'avenue* の構成要素は、*le* + *avenue* となります。

*dell'arte* の構成要素は、*dello* + *arte* となります。

### アルファベット以外の文字認識

言語分析処理では、アルファベット以外の文字認識を行います。アルファベット以外の文字は、内部の言語依存論理に従って、あるものは別の種類の字句単位に分割されて戻され、またあるものはグループにまとめられます。

例えば、接語のアポストロフィまたはハイフンは、語の構成要素とみなされ、不明な省略語の場合、終止符 (ないしピリオド) とみなされます。また、言語分析処理では、URL、E メール・アドレス、日付などの一定の特別な文字の並びをトークンとして認識します。

### 略語の認識

言語分析処理では、辞書にある略語を 1 つの字句単位として認識します。略語が辞書にない場合は、その略語を字句項目として認識しますが、関連情報は付帯されません。

略語を正しく認識することは、文の認識上、非常に重要です。例えば、略語の末尾に付くピリオドは、文末を示すピリオドとは異なります。

### 文末マーカの認識

言語分析処理では、文のセグメンテーションにおいて正しく文末マーカを識別します。

辞書ベースの言語分析サポートは、以下の言語で使用できます。

|                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 中国語 (簡体字および繁体字)  | イタリア語                    |
| チェコ語             | 日本語                      |
| デンマーク語           | 韓国語                      |
| オランダ語            | ノルウェー語 (ブークモールおよびニーノシュク) |
| 英語               | ポーランド語                   |
| フィンランド語          | ポルトガル語 (本国およびブラジル)       |
| フランス語 (本国およびカナダ) | ロシア語                     |
| ドイツ語 (本国およびスイス)  | スペイン語                    |
| ギリシャ語            | スウェーデン語                  |

## 非辞書ベース・セグメンテーションの言語分析サポート

言語判別および字句解析機能によってサポートされていない言語で記載された文書の場合、エンタープライズ・サーチでは、ユニコード・ベースの空白文字および N-gram セグメンテーションによる基本サポートを提供しています。

### ユニコード・ベースの空白文字セグメンテーション

この言語分析処理手法では、語の区切り文字として単語間の空白文字 (ないしブランク) を使用します。

### N-gram セグメンテーション

この言語分析処理手法では、重複する  $n$  文字の並びを単語として処理します。多くの検索タスクの場合、この単純なセグメンテーション方法で十分です。

これらの方法は、言語辞書によらず、独立した方法で、基本形への変形など、高度な言語分析手法は使用されていません。

N-gram セグメンテーションは、タイ語など区切り文字として空白を使用しない言語に使用されます。同様の方法が、ヘブライ語およびアラビア語にも適用されます。これら 2 つの言語では空白文字を区切り文字として使用するものの、N-gram セグメンテーションの方が基本のユニコード・ベースの空白文字セグメンテーションより良好な結果を戻します。

## 日本語における語のセグメンテーション

テキスト文書または照会ストリングが日本語のものと識別された場合、エンタープライズ・サーチでは日本語用に最適化された形態論的分析手法を使用して関連する語のセグメンテーションを実行します。

この最適化の一例は、語の分解です。日本語では、多数の複合語が使用されます。これらの語は、より良好な検索結果が得られるように、適切なサイズのトークンに分解されます。語形変化のある語および助詞も検索効率が上がるように分解されます。

## 日本語における異表記

日本語には、同じ語でもつづりが異なる異形が数多くあります。特にカタカナは、外国語のつづりに使用されることが多いため、その異形は重要です。日本語では、多くのカタカナ語の異形が使用されています。

エンタープライズ・サーチでは、異形辞書を使用して、典型的なカタカナの異形を基本形 (辞書の見出し語に類するもの) にマップし、照会ストリングにカタカナ語のつづり異形が含まれる場合でも、該当するすべての文書が検出されるようになっています。

また、エンタープライズ・サーチでは、漢字かな交じりの場合の送り仮名の違いによる送り仮名異形についても典型的な異形をサポートしています。



---

## 第 8 章 エンタープライズ・サーチ・コレクションの検索

エンタープライズ・サーチ用の検索アプリケーションにより、ユーザーは単純照会、フリー・テキスト照会、およびさらに詳細な文書に対する合致基準を指定できる複雑な照会を設定できます。

ユーザーが照会をサブミットすると、検索サーバーは索引を使用して該当する文書を素早く探し出します。検索サーバーは、解析され、トークン化されたデータが保管されているエンタープライズ・サーチ・データ・ストアを使用して、該当する文書のメタデータを取得します。メタデータには、文書の URI、タイトル、説明、日付、データ・タイプなど (さらに多くのデータを格納することもできます) を入れることができます。

コレクションを作成する場合、データおよびメタデータについて、その解析、索引への保管、および検索アプリケーションによる検索に関するオプションを指定します。データを検索可能にする場合に指定できるこれらのオプションには以下のものがあります。

### クイック・リンクの構成

一定のキーワードおよび句に対して戻す URI を事前設定できます。ユーザーが該当するキーワードまたは句を指定すると、事前定義された URI が検索結果と共に戻されます。クイック・リンク URI は、検索サーバーが索引検索によって戻す URI に追加される形で戻されます。

### カテゴリーの構成

類似した URI パターンを持つ文書、または特定の語句を含む文書をカテゴリーとしてまとめることができます。ユーザーは、コレクションの検索時に、検索結果を特定のカテゴリーに属する文書だけに限定することができます。

### 有効範囲の構成

索引に入れる URI の範囲を指定して、ユーザーのコレクション・ビューをそれらのページだけに限定することができます。

### 検索可能フィールドの構成

フィールドを含むデータ・ソースの場合、ユーザーが照会にフィールド名を指定してデータ検索できるようにするかどうかを指定できます。また、XML 文書の要素をフィールド名にマップし、ユーザーが XML 文書の特定部分を照会できるようにすることもできます。

### 関連概念

97 ページの『第 9 章 エンタープライズ・サーチからの検索結果』  
ユーザーが検索アプリケーションに照会を入力すると、検索プロセスでは照会に指定された用語および条件に照らして最も適合する結果を戻します。

---

## 照会方式の種類

エンタープライズ・サーチ・コレクションでは、さまざまな照会方式をサポートしており、その多くはインターネット検索でユーザーも慣れ親しんだ検索機能です。

## フリー・テキスト検索

エンタープライズ・サーチ索引は、さまざまなデータ・ソースのコンテンツで構成されるフルテキスト索引です。このすべてのコンテンツについて、自然言語で単純照会を指定することによって検索することができます。検索プロセスでは、すべてのフィールドおよびコンテンツを検索し、照会に適合する文書を検出します。

### 例:

フリー・テキスト検索は、次の例に示すように単純な照会です。

```
bicycle chain
```

文書中に含まれるべき語、含まれてはならない語を示したい場合、特殊な表記を入れればそのような指定が可能です。例えば、正符号 (+) を単語の前に置くと、文書にその語と一致する語がなければならないことを指定します。また、負符号 (-) を単語の前に置くと、その語を含む文書を検索結果から除外します。複数の語を引用符 (") でくくると、その句全体に正確に一致するものを対象として検索が行われます。

### 例:

次のフリー・テキスト照会では、検索一致となるのは文書に「science fiction」に完全一致する句が含まれ、「robot」の語を含まない場合に限られます。

```
+ "science fiction" -robot
```

## フィールド検索

フィールド検索では、照会対象を文書中の特定のフィールドおよびメタデータに限定することができます。例えば、文書のタイトルに特定の語がなければならないといった指定をすることができます。

エンタープライズ・サーチでフィールド検索を指定するには、照会にフィールド名とそのフィールドになければならない語句とを指定します。

### 例:

次の照会では、タイトル・フィールドに「ibm」という語と「enterprise search」という句を含む文書を検索します。

```
title:ibm title:"enterprise search"
```

フィールドをフィールド名で検索するには、クローラーの構成時にそのフィールドをフィールド検索使用可能に設定する必要があります。

## パラメトリック検索

パラメトリック検索は、フィールド検索の一種で、数値および日付のフィールド、メタデータに対して比較、評価を含む照会を指定できます。例えば、一定サイズの文書、または一定の日付以降に書かれた文書などを検索することができます。また、属性値が指定した値より大きい、小さい、または等しいなどの条件に当てはまる文書を検索することもできます。

### 例 1:

次の照会では、価格がちょうど 50 ドル (ないし「price」フィールドの示す任意の通貨単位) の品目を検索します。

```
#price::=50
```

### 例 2:

次の照会では、ファイル・サイズが 1024 より大きく 2048 以下の文書を検索します。

```
#filesize::>1024<=2048
```

フィールドをパラメトリック照会で検索するには、クローラーの構成時にそのフィールドをパラメトリック検索使用可能に設定する必要があります。

### 拡張照会構文

エンタープライズ・サーチでサポートされている検索機能では、さらに細かい指定を設定して特定文書の属性を照会することができます。例えば、特定言語で記載された文書、特定の文書タイプの文書、および特定のデータ・ソース・タイプから取得された文書などを検索することができます。

### 例:

次の例では、英語で書かれ、Web クローラーによってコレクションに追加されたテキスト文書が検索されます。

```
$doctype::text/html $language::en $source::web
```

### スペル・チェック

照会を指定する場合、エンタープライズ・サーチでは、照会に使用されている用語のスペルをチェックするオプションがあります。ユーザーが照会中の用語のスペルを間違えた場合、検索サーバーによって、その用語の正しいスペルが可能性として提示されます。

例えば、照会中の用語に「saerch」という語を指定した場合、当初指定した用語の正しいスペルの可能性として「search」と指定しなおすオプションが表示されません。

スペル検出サポートは、照会言語および検索対象のコレクション中の文書によって異なります。

#### 関連情報

照会構文

---

## クイック・リンクに関する作業

クイック・リンクは、ユーザーが特定の語句を含む照会をサブミットしたときに検索結果に戻される 文書を指しています。



コレクションのクイック・リンクを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

## クイック・リンク

クイック・リンクを使用すると、ユーザーが特定文書にリンクを設定できるようになります。

クイック・リンクは、照会に特定の語句が含まれる場合に、検索結果に自動的に入れるようにする URI です。通常、クイック・リンク URI は結果リストの先頭に表示され、照会に適合するとあらかじめ設定した文書をユーザーが確実に参照できるようになっています。

クイック・リンクは、他の検索結果に追加する形で戻されます。検索プロセスでは、照会用語に一致する文書がないか索引を検索し、それらの文書の URI をクイック・リンクの URI に追加して戻します。

クイック・リンクを構成する場合、その URI を示すタイトルと要約を指定して、ユーザーがその文書の内容を把握し、それがそのユーザーが取得したい対象の文書かどうかをすぐに判断できるようにすることができます。

例えば、URI 「<http://www.ibm.com/education/us/>」ならば、「米国 IBM 教育関係サイト」というタイトルをつけ、要約として「米国内の教育関係者、専門家、および学生向けソリューション、製品、およびリソースの紹介」などと設定します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションでクイック・リンクを使用するには、クイック・リンクを表示するオプションが検索アプリケーションで使用可能になっていなければなりません。検索アプリケーションによっては、ユーザーがコレクションの検索時にクイック・リンクを戻す機能を使用可能/使用不可に設定できる場合もあります。

## クイック・リンクの構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションのクイック・リンクを作成するため、文書の URI を、それを検索結果に含ませるためのキーワードと関連付けます。

### 前提条件

クイック・リンクを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、クイック・リンクが属しているコレクションのコレクション管理者である必要があります。


### 説明

クイック・リンクのキーワードおよび URI の指定方法の例を参照するには、クイック・リンクを作成または編集しているときに「ヘルプ」をクリックしてください。

### 手順

クイック・リンクを構成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

2. コレクション・リストで、クイック・リンクを構成したいコレクションを見つけ、「編集」をクリックします。
3. 「検索」ページで、「クイック・リンクの構成」をクリックします。
4. 「クイック・リンク」ページで、「クイック・リンクの作成」をクリックします。
5. このクイック・リンクが検索結果に戻されるようにするためのキーワードと句、この照会に関連すると事前判定した文書の URI、このクイック・リンクのその他のオプションを指定します。

1 行につき、1 つまたは複数のキーワードを指定するか、1 つの句 (2 つ以上の語を引用符で囲んだもの) を指定します。キーワードはスペースで区切ります (コンマを使用してキーワードを区切ることはできません)。Enter キーを押すと改行されます。

6. 「OK」をクリックします。

「クイック・リンク」ページに、このコレクションに属している他のクイック・リンクと共に新しいクイック・リンクがリストされます。

#### 関連資料

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

---

## カテゴリーに関する作業

カテゴリーを使用すると、共通の特性を共有する文書をグループにまとめ、そのグループのメンバーに対する 基準に合う文書だけを検索、取得することができます。

文書がカテゴリーと関連付けられており、検索アプリケーションがこのカテゴリー機能をサポートする場合、ユーザーはカテゴリー名を指定してコレクションのサブセットを検索することができます。コレクション全体を検索する場合、ユーザーは結果文書として同じカテゴリーにある文書だけを参照できるように検索結果を絞り込むことができます。

エンタープライズ・サーチでは、文書をカテゴリーに分類する場合、次の 2 つの方式をサポートしています。

#### ルール・ベース

この方式は、指定した規則に従って文書をカテゴリーに関連付ける場合に使用します。例えば、共通の URI パターンを持つ文書、または特定の語句を含む、または含まない文書を同じグループにまとめることができます。

#### モデル・ベース

この方式は、IBM WebSphere Portal を使用しており、WebSphere Portal で事前定義されたカテゴリーによってエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索する場合に使用します。

カテゴリーを作成、管理する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

- コレクションの作成時に、カテゴリ化タイプを選択します。カテゴリを使用しない、ルール・ベースのカテゴリを使用する、またはモデル・ベースのカテゴリを使用する、のいずれかを選択できます。
- コレクションの解析規則を構成する場合、必要に応じてカテゴリ化タイプを変更できます。文書のクロール、索引作成の終了後にカテゴリ化タイプを変更する場合、その文書を再クロールし、索引を再編成しないと、検索の品質が低下します。
- ルール・ベースのカテゴリを使用する場合、管理コンソールを使用して、カテゴリ・ツリー、カテゴリ、およびカテゴリ規則を管理することができます。

#### 関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

#### 関連タスク

120 ページの『パーサーのモニター』

パーサーを開始または停止する必要がある場合、コレクションのパーサーをモニターします。

## ルール・ベースのカテゴリ

エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書をカテゴリに関連付ける場合、規則を構成してどの文書を関連付けるか制御することができます。

カテゴリの作成、およびエンタープライズ・サーチで作成したコレクションに対するカテゴリ規則、IBM WebSphere Portal コレクションからマイグレーションしたルール・ベースのカテゴリに対するカテゴリ規則の作成を行うことができます。文書をカテゴリ化する際の規則を構成する場合、コレクション作成時、またはコレクションの解析規則の指定時にルール・ベースのカテゴリを使用することを指定する必要があります。

パーサーは、指定した規則を使用して文書を 1 つまたは複数のカテゴリに関連付けます。

- 文書が特定のカテゴリ内の少なくとも 1 つの規則に該当した場合、パーサーはその文書をその特定カテゴリに関連付けます。
- 文書が複数のカテゴリ内の少なくとも 1 つの規則に該当した場合、パーサーはその文書をそれらすべてのカテゴリに関連付けます。
- 文書がカテゴリのどの規則にも該当しない場合は、パーサーはその文書をカテゴリに関連付けません。コレクションを検索すれば、この文書を検索、取得することができますが、特定のカテゴリを検索してもこの文書が取得されることはありません。

コレクションのカテゴリ・ツリー (分類構造) を管理する場合、新規のカテゴリをカテゴリ階層のどこに追加するかを指定します。また、カテゴリ・ツリーを使用して、編集するカテゴリを選択し、文書をカテゴリ化する場合の規則を追加、削除、および個別規則の内容を変更することもできます。

文書の 카테고리化規則を構成する場合、特定の カテゴリに属する文書の判別に文書の URI を使用するか、文書内のコンテンツを使用するかを選択します。

#### URI パターン

URI 規則を文書の URI に適用します。URI の一部 (パターン) を指定し、指定されたパターンを URI に持つ文書がその規則に該当することになります。

例えば、規則のテキストに「/hr/」と指定した場合、次に挙げる最初の URI は規則に該当しますが、2 番目の URI は該当しないことになります。

```
file:///corporate/hr/medicalform.doc
http://company.com/human_resources/medicalform.htm
```

#### 文書コンテンツ

文書のテキストにコンテンツ規則を適用します。規則の指定は、照会と同じ書式で行います。文書がその照会に対して有効な場合、その文書は規則に該当することになります。規則を構成する場合、文書に含まれる、または含まれてはならない語句を指定し、語のステミング規則を適用する言語を選択します。

例えば、次の規則では、語として「hr」を含むか、または句として「human resources」を含む文書が規則に該当することになります。

```
hr "human resources"
```

また別の例として、次の規則では、語として「hr」を含み、かつ「benefits」という句を含まない文書が規則に該当することになります。

```
+hr -benefits
```

#### 関連タスク

145 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal に コレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使って準備したコレクションをマイグレーションします。

## モデル・ベースのカテゴリ

IBM WebSphere Portal システムで、モデル・ベースのカテゴリを使用している場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションでも それらのカテゴリを継続して使用することができます。

WebSphere Portal では、2,300 を超えるサブジェクトで構成される事前定義の分類を提供しています。これらのサブジェクトは、「コンピューター」、「金融」、および「交通機関」などの業種別カテゴリに分類されています。Portal ユーザーは、これらのサブジェクト・エリアに対応する文書を自動的に判別するアプリケーションを作成でき、さらに、ユーザーの業務ニーズに合わせてこれらのカテゴリをカスタマイズできます。

WebSphere Portal カテゴリをエンタープライズ・サーチで使用する場合、次の条件に従う必要があります。

- マイグレーション・ウィザードを使ってモデル・ベース分類ファイルをエンタープライズ・サーチにインポートすること。

- コレクションの作成時、またはコレクションの解析規則の構成時に、モデル・ベースのカテゴリの使用を指定すること。
- WebSphere Portal がエンタープライズ・サーチ索引サーバーにインストールされていること。
- カテゴリの管理には WebSphere Portal のカテゴリ化ツールを使用すること。モデル・ベースのカテゴリは、エンタープライズ・サーチ管理コンソールで管理することはできません。

#### 関連タスク

143 ページの『WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション』

ご使用の WebSphere Portal システムの分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類構造を選択してもその影響を受けることはありません。

## カテゴリ・ツリー

カテゴリ・ツリーを使用すると、コレクション内のルール・ベースのすべてのカテゴリを表示できます。カテゴリ・ツリーを使って、カテゴリの作成、カテゴリの削除、およびカテゴリに文書を関連付けるときの規則を編集することもできます。

カテゴリ・ツリーは、分類構造とも呼ばれ、階層構造になっています。このツリーは、ルート・カテゴリを起点とし、他のカテゴリはすべてこのルート・カテゴリから分岐します。任意の数のカテゴリおよびサブカテゴリをネストに入れば、ユーザーが文書をブラウズ、検索する場合の選択肢を増やすことができます。

例えば、ある文書が複数のカテゴリの規則に該当する場合、その文書はそれらすべてのカテゴリに関連付けられます。ユーザーが特定のカテゴリを検索する、または、検索結果をブラウズするときに特定のカテゴリに属する文書をブラウズする場合、文書が複数のカテゴリに属していればユーザーがその文書を見つける可能性が高まります。

カテゴリ・ツリーを管理する場合、新規のカテゴリを既存のカテゴリ下にネストすることにより、どの文書がどのカテゴリ (1 つ以上) に属するかを調整することができます。カテゴリを作成するときに、そのカテゴリがルート・レベルで作成されるのか、別のカテゴリのサブカテゴリとして作成するのを指定できます。また、カテゴリ・ツリーを使用して、コレクションからカテゴリを削除したり、文書をカテゴリに関連付けるときの規則を変更したりすることもできます。カテゴリの編集時には、カテゴリの名前変更、カテゴリ化規則の追加または削除、また個別規則の内容を変更することができます。

カテゴリ・ツリーを管理する場合、検索およびブラウズ動作のガイドラインとして以下に記載する説明を参考にしてください。

- ユーザーが上位レベルのカテゴリを検索すると、そのカテゴリ、およびそのカテゴリ以下のすべてのサブカテゴリが、検索基準に合致する文書の検索対象となります。ユーザーがサブカテゴリのないカテゴリを検索する場合、そのカテゴリだけが検索されます。
- ユーザーが検索結果をブラウズしているときに、特定のカテゴリに属する文書だけをブラウズするオプションを選択すると、そのカテゴリの文書だけが表示されます。サブカテゴリについては、検索結果にその名前だけが表示されるので、その名前からユーザーは異なるカテゴリに切り替え、そのカテゴリの文書リストを表示できます。

### 関連タスク

145 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』  
WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal に コレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使って準備したコレクションをマイグレーションします。

## カテゴリ化タイプの選択

カテゴリ化タイプを選択するときに、コレクションの中で文書をカテゴリに関連付けるのに使用する方法を指定します。

### 前提条件

カテゴリ化タイプを変更するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、変更するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。


### 説明

カテゴリ化タイプは、コレクションが作成されるときに指定されます。必要であれば、コレクションの文書をカテゴリ化する方法を変更できます。コレクションのために特別に構成するルール・ベースのカテゴリを使用するか、IBM WebSphere Portal システムの中にあるモデル・ベースのカテゴリを使用するか、あるいはカテゴリを使用しないこともできます。

**重要:** データをクロールし、コレクションの索引を作成したあとでカテゴリ化タイプを変更すると、索引の整合性がなくなります。検索結果の正確性を確保するには、コレクション内のすべての文書を再度クロールし、索引を再編成してください。

### 手順

カテゴリ化タイプを選択するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で変更するコレクションを指して、「 **編集**」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「**カテゴリ化タイプの選択**」をクリックします。
4. 「**カテゴリ化タイプの選択**」ページで、次のオプションの 1 つを選択します。



なし このオプションは、このコレクションの中の文書をカテゴリー化しない場合に選択します。

#### ルール・ベース (このコレクションに対して構成したカテゴリー規則)

このオプションは、このコレクションのために特別に構成した規則を含む分類法を使用する場合に選択します。

- エンタープライズ・サーチ用に作成したコレクションを構成する場合は、このオプションを選択して、文書のカテゴリー化のためのカテゴリー名と規則を指定します。
- WebSphere Portal から移行したコレクションを構成する場合は、このオプションを選択して、インポートしたルール・ベースのカテゴリーを使用するか変更します。

#### モデル・ベース (WebSphere Portal にあるモデル・ベースのカテゴリー)

このオプションは、WebSphere Portal システムにあるモデル・ベースのカテゴリーに文書を関連付ける場合に選択します。このオプションを使用するには、WebSphere Portal がエンタープライズ・サーチの索引サーバー上にインストールされていなければなりません。また、WebSphere Portal にあるカテゴリー化ツールを使用して、カテゴリーを管理しなければなりません。

5. 「OK」をクリックします。

## カテゴリーの構成

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、各カテゴリーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自動的に関連付けられる文書が決まります。

### 前提条件

カテゴリーを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのカテゴリーが所属するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

ルール・ベースのカテゴリーを使用するオプションが、カテゴリー化タイプとして選択される必要があります。

文書をカテゴリーに関連付ける規則をどのように指定するかについての例は、カテゴリーを作成または編集しているときに、「ヘルプ」をクリックしてください。


### 説明

検索アプリケーションでカテゴリーのサポートが使用可能であれば、ユーザーは、カテゴリー名を指定することによって、コレクションのサブセットを検索できます。ユーザーはまた、検索結果の中でカテゴリーを選択して、そのカテゴリーに属する文書のみをブラウズすることもできます。

新規カテゴリー、および既存のカテゴリーに対する変更は、索引が再編成されるまで有効にはなりません。

### 手順

カテゴリを構成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中でカテゴリを構成するコレクションを指して、「編集」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「**カテゴリ・ツリーの構成**」をクリックします。
4. 「カテゴリ・ツリーの構成」ページで、カテゴリを追加するツリーの中のノードを選択し、「**カテゴリの作成**」をクリックします。

ルート・ノードを選択すると、新規カテゴリがルート・レベルに作成されます。既存のカテゴリ名を選択すると、新規カテゴリは、カテゴリ・ツリーの中の選択されたカテゴリの下にネストされます。

ウィザードが開き、文書を新規カテゴリに関連付ける規則の指定をガイドします。

- a. 「カテゴリの作成」ページで、カテゴリの記述名を入力し、「**次へ**」をクリックします。
- b. 「カテゴリ規則の作成」ページで、「**規則の追加**」をクリックします。
- c. 「カテゴリ規則の作成」ページで、「**規則名**」フィールドに規則の固有の名前を入力します。この名前はコレクションの中の全カテゴリで固有でなければなりません。
- d. 文書をこのカテゴリに関連付けるために使用する規則を指定して、「**OK**」をクリックします。
  - エンタープライズ・サーチが、文書がカテゴリに所属するかどうかを決めるときに文書の **URI** を使用するようにする場合は、「**URI パターン**」をクリックして、**URI パターン**を指定します。

指定したテキストが **URI** に存在すれば、文書はそのカテゴリに関連付けられます。

例: `cm://company.com/public`

- エンタープライズ・サーチが、文書がカテゴリに所属するかどうかを決めるときに文書内の語を分析するようにする場合は、「**文書コンテンツ**」をクリックして、文書の言語を選択し、文書コンテンツの中に出現しなければならない語、または出現してはならない語を指定します。規則は、照会と同じ書式で表します。

文書に、指定した語が含まれる、または含まれない場合に、文書はそのカテゴリに関連付けられます。

例: `+finance -accounting`

- e. 「完了」をクリックします。

新規カテゴリが、このコレクションに所属する他のカテゴリと一緒に、「カテゴリ・ツリーの構成」ページにリストされます。

#### 関連資料

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

---

## 有効範囲に関する作業

ユーザーにコレクションの論理ビューを提供する場合に、有効範囲を構成します。

有効範囲とは、索引内の関連した URL のグループのことです。有効範囲を構成することで、ユーザーが見ることができるコレクションの中の文書を制限します。ユーザーがコレクションを検索するとき、ユーザーは有効範囲にある文書のみを検索します。

この機能を使用するには、検索アプリケーションに、有効範囲の検索のサポートが組み込まれている必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、コレクションの有効範囲を構成します。

## 有効範囲

有効範囲によって、ユーザーがコレクションを検索するときに 検索できる文書を制限できます。

有効範囲を作成するとき、コレクションの索引の中の URI のセットを指定します。ユーザーが検索できる文書の範囲を制限することで、検索結果の中の文書をユーザーが探している情報に特定できることとなります。

例えば、技術サポート部門の URI を含んだ有効範囲と、人事管理部門の URI を含む別の有効範囲を作成することもできます。検索アプリケーションが有効範囲をサポートする場合、技術サポート部門のユーザーは、技術サポート部門有効範囲から文書を取得し、人事管理部門のユーザーは、人事管理部門有効範囲から文書を取得します。

有効範囲は必要なだけ作成できますが、多すぎるとパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。ほとんどの検索要求が、1 つまたは 2 つの有効範囲のみをフィルタリングする必要があるように有効範囲を構成します。これは、有効範囲には、完全な URI または URI パターンを含めることができ、同じ文書が複数の有効範囲に属することができるためです。

有効範囲を作成、編集、または削除したとき、その変更は、次回、索引が再編成されたときに有効になります。

## 有効範囲の構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションの有効範囲を構成するときに、ユーザーが検索を許可される索引内の文書の範囲に合うように URI または URI パターンを指定します。

### 前提条件

有効範囲を構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、有効範囲が属しているコレクションのコレクション管理者である必要があります。


### 説明

検索アプリケーションで有効範囲のサポートが使用可能に設定されている場合、ユーザーはコレクションを検索する際に、有効範囲の境界を定義する URI に一致する文書のみを検索できます。

既存の有効範囲への変更と新規有効範囲は、索引が再編成されるまでは有効になりません。

### 手順

有効範囲を構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、有効範囲を構成したいコレクションを見つけ、「 **編集**」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「**有効範囲の構成**」をクリックします。
4. 「有効範囲」ページで、「**有効範囲の作成**」をクリックします。
5. 有効範囲の名前と、有効範囲の境界を定義する URI および URI パターンを指定します。有効範囲から除外したい URI および URI パターンを指定することもできます。
6. 「**OK**」をクリックします。

新規有効範囲が、このコレクションに属している他の有効範囲と共に「有効範囲」ページにリストされます。

### 関連資料

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

---

## XML 検索フィールドの作業

ユーザーが XML 文書の特定部分を検索できるようにしたい場合、XML エlementを検索フィールドにマップします。

XML エlementを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

## XML 検索フィールド

XML 検索フィールドは、ユーザーによる XML 文書の特定部分の照会を可能にします。

XML 文書は、半構造化テキストと構造化されていないテキストの両方を含むため、ますます一般的になってきています。XML の構造はカプセル化されていて、テキストを囲む XML エlementによって明示的に定義されたコンテキストを使用します。例えば、作成者の名前が次のように表されます。

```
<author>John Smith</author>
```

このコンテキストでは、テキスト John Smith によって、XML 文書の作成者が示されます。

エンタープライズ・サーチは、XML Elementの内側にあるテキストを検索フィールド名と関連付ける、つまりマップすることができます。コレクションの解析オプションを構成するときに、どの XML Elementがどの検索フィールド名にマップされるのかを指定します。XML Elementを検索フィールドにマップすると、ユーザーはマップされたフィールド名を照会で指定することで、それらのElementを検索できます。特定フィールドを検索する照会を使用すると、全文書コンテンツを検索するフリー・テキスト照会よりも精度の高い検索結果が得られます。

例えば、コレクション中に XML 文書が含まれていて、title Elementと author Elementを索引内で検索フィールドとしてマークされるように指定すると、ユーザーがこれらの特定Elementを照会できるようになります。author:Smithを検索すると、author Elementに Smithが入っている XML 文書が検出されます。

#### 関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

#### 関連タスク

120 ページの『パーサーのモニター』

パーサーを開始または停止する必要がある場合、コレクションのパーサーをモニターします。

## XML Elementを検索フィールドにマップ

XML Elementを検索フィールドにマップするときには、ユーザーが照会にフィールド名を指定することで検索可能な XML Elementを指定します。

#### 前提条件

XML Elementを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、XML 文書が属しているコレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### 説明


XML フィールド・マッピングを作成した場合、または、既存の XML フィールド・マッピングでフィールドの追加、変更、削除を行った場合、それらの変更内容が有効になるのは、パーサーを停止して再始動した後です。パーサーの再始動後、新規マッピングおよび変更されたマッピングは、解析されるデータに適用されます。新規マッピングおよび変更されたマッピングは、すでに解析され索引付けされたデータには影響しません。

このタスクでは、以下の XML 文書をサンプルとして使用することで、従業員 (personnel) レコードをマップし、ユーザーが特定のエレメントを直接照会できるようにする方法を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<personnel>
 <personnelrecord>
 <phone>5555</phone>
 <email>joe@us.ibm.com</email>
 <jobroles>Manager, architect
 <jobrole>Managing Search Development Group</jobrole>
 <jobrole>Architecting Search Technology</jobrole>
 </jobroles>
 <location>New York</location>
 <section id="expertise">
 <text>Linguistics</text>
 </section>
 </personnelrecord>
</personnel>
```

## 手順

この例の XML エレメントを検索フィールドにマップするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、XML エレメントのマップを行いたいコレクションを見つけ、「 編集」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「XML エレメントをフィールドにマップ」をクリックします。
4. 「XML フィールド・マッピング」ページで、「XML マッピングの作成」をクリックします。「XML フィールド・マッピングの作成」ページが開きます。
5. 「XML ルート・エレメント名」フィールドに、ルート・エレメント名 personnel を入力します。

ここで指定する名前が、検索したい XML 文書内のルート・エレメントと完全に一致するようにしてください。エンタープライズ・サーチは、XML 文書の解析および索引付けを行う際、ルート・エレメント名に従って、どのマッピングを使用するのかが選択します。

6. 「XML マッピング名」フィールドに、この XML フィールド・マッピング規則セットの名前を入力します。

XML マッピング規則セットを作成した後、この名前が「XML フィールド・マッピング」ページに表示されるので、マッピング規則の追加、削除、または変更を行う対象としてこの名前を選択できます。

7. XML エレメント jobrole を、jobrole という名前の検索フィールドにマップします。
  - a. 「フィールド名」フィールドに jobrole と入力します。
  - b. 「XML エレメント名」フィールドに jobrole と入力します。
  - c. jobrole フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に業務が表示されるようにするため、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
8. XML エレメント jobroles を、同じ検索フィールドにマップします。



- a. 「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリストに空白行を追加します。
- b. 「フィールド名」フィールドに jobroles と入力します。
- c. 「XML エlement名」フィールドに jobrole と入力します。

ヒント: XML エlement名は、検索フィールド名と一致する必要はなく、複数の XML エlementを同じ検索フィールドにマップできます。

- d. jobrole フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に業務が表示されるようにするため、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
9. 属性 expertise を持つ XML エlement section を、expertise という名前の検索フィールドにマップします。
- a. 「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリストに空白行を追加します。
  - b. 「フィールド名」フィールドに expertise と入力します。
  - c. 「フィールド名」フィールドに section と入力します。
  - d. 「XML 属性名」フィールドに id と入力します。
  - e. 「XML 属性値」フィールドに expertise と入力します。
  - f. expertise フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に expertise 値が表示されるようにするため、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
10. 「OK」をクリックします。

**例:**

検索 (search) 製品を業務とする部門の全員を検出するには、次のような照会を指定します。

```
jobrole:search
```

言語 (linguistics) を専門にする部門の全員を検出するには、次のような照会を指定します。

```
expertise:linguistics
```

---

## 第 9 章 エンタープライズ・サーチからの検索結果

ユーザーが検索アプリケーションに照会を入力すると、検索プロセスでは照会に指定された用語および条件に照らして最も適合する結果を戻します。

エンタープライズ・サーチの検索サーバーでは、次のようなさまざまな技法を使用して、最も適合性の高い検索結果を生成します。

- テキスト・ベースのスコアリング
- 静的ランキング結果
- 文書コンテンツの動的要約
- 同じ Web サイトの結果の縮小表示

### 関連概念

81 ページの『第 8 章 エンタープライズ・サーチ・コレクションの検索』  
エンタープライズ・サーチ用の検索アプリケーションにより、ユーザーは単純照会、フリー・テキスト照会、およびさらに詳細な文書に対する合致基準を指定できる複雑な照会を設定できます。

---

## テキスト・ベースのスコアリング

エンタープライズ・サーチでは、照会中の用語に一致した各文書について、動的にスコアを計算します。

照会に一致する各文書のテキストのスコアを計算する場合、エンタープライズ・サーチでは次のようなさまざまな要素を計算に入れます。

- コレクション全体で各照会用語が出現する度数。一般的に、多くの文書に出現する照会用語は、より少ない文書にしか出現しない照会用語よりも文書に与えられるスコアとしては低くなります。
- 用語が一致する文書内で各照会用語が出現する回数。一般的に、特定文書の中でその照会用語が多く出現するほどスコアは高くなります。
- 用語が一致する各文書内で照会用語が出現する近さ。一般的に、特定の文書中で照会用語が互いに近い場所に出現する場合、同じ用語でも出現する場所が互いに離れている場合よりも高いスコアがその文書に与えられます。
- 用語が一致する各文書内で照会用語が出現するコンテキスト。例えば、文書のタイトルに照会用語が出現する場合、同じ用語でも文書の通常の本文中に出現する場合よりも高いスコアがその文書に与えられます。

各文書の長さ、および語彙の多さもスコアを決定する際の要因となります。

---

## 静的ランキング

文書のタイプによっては、文書の重要度に加点する静的ランキング要素を検索結果に設定することができます。

コレクションを作成する場合、コレクションの文書に静的ランキング要素を適用するかどうかを指定します。Web コンテンツの場合、他の文書から特定の文書に対するリンク数、およびそれらのリンク元によって、検索結果におけるその文書の重要度を高くすることができます。

日付フィールドまたは日付メタデータを含む文書の場合、文書の日付を使用して適合度を高くするように設定することができます。例えば、NNTP ニュース・グループではより最近の記事を古い記事よりも適合度を高くする設定ができます。データ・ソースに複数の日付値がある場合は、そのデータ・ソース内の文書の適合度を判定する上で、どの日付を最も重視するかを選択することができます。

静的ランキングをコレクションに使用する場合、異なるランキング・タイプを使用するデータ・ソースを同一のコレクションに混在させないように注意してください。例えば、ある文書に対して静的ランキング要素としてリンク数を使用したい場合、コレクション内の文書が Web 文書だけになっていることを確認してください。異なるランキング・モデルのソースが同じコレクションに混在していると、検索品質が低くなることがあります。

また、静的ランキングを適用できるフィールドと値がその文書に含まれていることを確認してください。例えば、コレクションの文書のランキング要素として文書日付を使用する指定をした場合に文書に日付フィールドまたは日付属性がないと、検索品質は低下することがあります。

---

## 動的要約

動的要約は、結果文書中のどの語句がユーザーの検索対象概念を最もよく表しているかを判別する技法です。

エンタープライズ・サーチで、動的要約は、文書中のさまざまな検索語を多く含む文を捕捉しようとする機能です。この機能によって少数の文、または文の一部が選択され、検索結果に表示されます。対象となる検索語は、検索結果の中で、HTML レンダリングによって強調表示されます。

---

## 同じ Web サイトからの結果の縮小表示

検索結果の中で、同じ Web サイトからの結果の文書をグループ化するオプションを指定できます。特定の Web サイトからの結果を縮小表示するオプションを指定するには、SiteDefs.txt ファイルを編集します。

### 説明

エンタープライズ・サーチは、同じ Web サイトからの個々の結果をグループ化するように検索結果を編成できます。結果が縮小表示される場合、通常、Web サイトからの先頭の結果は左揃えで表示されます。それより下のランキングの結果は、グループ化され、先頭の結果より字下げされて表示されます。

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションでは、各 Web サイトからの先頭から 2 つの検索結果の文書が表示されます。同じ Web サイトから 3 つ以上の結果の文書が戻されたときは、縮小表示された結果を表示するという指定ができます。

サイト定義ファイル SiteDefs.txt を使用して、Web サイトからの結果を、どのようにグループ化し、縮小表示するかを指定します。それぞれのコレクションには、専用の SiteDefs.txt ファイルがあり、これを使用して、個々のコレクションの検索結果オプションを指定できます。

ほとんどの Web サイトで、URL 内のホスト名でサイトを識別します。例えば、次の URL は同じ メイン・サイト `http://www.mysite.com` を持ちます。

```
http://www.mysite.com/hr/us
http://www.mysite.com/news/index.html
http://www.mysite.com/persona/users
```

`http://www.mysite.com/hr/` で始まる URL をすべて 同じサイトに所属するとして扱い、検索結果の中でこれらのページからの結果をグループ化し、結果を縮小表示したい場合があります。これを行うには、URL 接頭部の `http://www.mysite.com/hr/` を、SiteDefs.txt ファイルに追加します。

SiteDefs.txt に行った変更は、次に索引が再編成されるまで効果はありません。

## 手順

特定の Web サイトからの検索結果をグループ化し、縮小表示するオプションを指定するには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理者 (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストールの間に指定されたものです) としてログインします。
2. 索引サーバーの中で、次のディレクトリーに移動します。ここで、*collectionID* は、ユーザーがコレクションを作成したときに、エンタープライズ・サーチがそのコレクションに割り当てたコレクション ID です。

```
UNIX: cd $ES_NODE_ROOT/master_config/collectionID.indexer
```

```
Windows: cd %ES_NODE_ROOT%\master_config\collectionID.indexer
```

3. テキスト・エディターを使用して、SiteDefs.txt ファイルを編集します。
4. 縮小表示する Web サイトの URL 接頭部を追加します。1 行に 1 つの URL を指定します。

例:

```
http://www.mysite.com/hr/
http://www.mysite.com/news/
http://www.mysite.com/persona/
http://www.mysite.com/help/
http://www.mysite.com/global/
http://www.mysite.com/services/
```

5. 次のコマンドを入力して、システムに変更を通知します。

```
esadmin configmanager syncComponent -sid collectionID.indexer
```



---

## 第 10 章 エンタープライズ・サーチの開始と停止

コレクションを作成したあと、データのクロール、解析、索引付け、および検索のコンポーネントを開始しなければなりません。コレクションの中の変更についてシステムに通知する必要があるときは、コンポーネントを停止し、再開します。

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、連続して、または指定されたスケジュールに従って実行できます。例えば、索引の再編成またはリフレッシュのスケジュールを指定できます。データの解析および索引の検索のコンポーネントを開始したあと、トラブルシューティング以外でそれらのコンポーネントを停止する必要は、通常はありません。

コレクションの内容を変更した場合、あるいは、エンタープライズの中のソースからクローラーがデータを収集する方法の規則を変更した場合は、それらの変更が有効になるように、通常、クローラーを停止し、再開する必要があります。クロール規則を変更していなければ、クローラーは、連続して実行されるか (Web および NNTP クローラーの場合)、指定されたスケジュールに従って実行されます。

---

### エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクロール、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

#### 前提条件

クロールしたいデータ・ソースを構成し、そのデータがどのように解析、索引付け、検索されるのかに関するオプションを指定します。例えば、ユーザーが検索結果にカテゴリ詳細を表示できるようにしたい場合は、パーサーを開始する前にカテゴリを構成します。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを開始するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者であるか、または、コレクションを管理する権限を持ったオペレーターである必要があります。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始は、正しい順序で行う必要があります。例えば、クローラーを開始してデータのクロールを行った後でないと、文書の解析および索引付けはできません。




#### 手順

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを開始するには、次のようにします。


1. エンタープライズ・サーチ・システムが稼働していない場合は、システムを始動します。
  - a. 索引サーバーで、DB2 II OmniFind のインストール時に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID でログインします。
  - b. 次のコマンドを入力します。




esadmin start

2. エンタープライズ・サーチ管理コンソールを開始し、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。管理役割を使用する場合、コレクション管理者、または開始したいコレクションに対する権限を持つオペレーターとしてログインできます。
3. 「コレクション」ビューで、管理したいコレクションを見つけ、「 モニター」をクリックします。
4. 「クロール」ページで、開始したい各クローラーごとに、「 開始」をクリックします。
  - Web クローラーまたは NNTP クローラーを開始すると、クローラーは即時にデータのクロールを始めます。これらのタイプのクローラーは、連続して稼働し、Web サイトおよび NNTP ニュース・グループの文書のクロールと再クロールを行ないます。
  - 他のクローラー・タイプのいずれかを開始すると、クローラーは、スケジュールされた日時にクロールを始めます。クローラーをスケジュールしていない場合、またはクローラーを早く開始したい場合は、以下の操作を行ってください。
    - 「 詳細」をクリックします。
    - そのクローラーの「詳細」ページのクロール・スペース詳細領域で、クロールしたいそれぞれのデータ・ソース (サーバー、データベース、サブフォルダーなど) ごとに「開始」アイコン (または「強制始動」アイコン) をクリックします。

クローラーが開始した後は、それを続けて実行させておくことができます。クローラーをスケジュールしていれば、スケジュール日時に再び実行されます。

5. データのクロールが終わったら、「解析」ページを開き、「 開始」をクリックしてパーサーを開始します。

パーサーは続けて実行させておくことができます。通常は、カテゴリまたは XML フィールド・マッピングを変更しない限り、パーサーの停止は不要です。

6. オプション: 索引付けがスケジュールされた日時に開始するのを待たずに、索引付けプロセスを強制始動するには、「索引」ページを開き、「再編成」領域で「 開始」をクリックします。

索引付けプロセスは続けて実行させておくことができます。索引は、スケジュール日時にリフレッシュおよび再編成されます。

7. 「検索」ページで、「 開始」をクリックします。

検索サーバーは続けて実行させておくことができます。通常は、構成を変更した場合や、トラブルシューティングが目的でない限り、検索サーバーの停止は不要です。

#### 関連概念

15 ページの『第 2 章 エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティ

ビティアーおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、および検索アプリケーションとコレクションの関連付けには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

128 ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは、管理コンソールの中のさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

### 関連タスク

17 ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するため、Web ブラウザーで URL を 指定した後、管理コンソールにログインします。

---

## エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを 停止して再始動する必要があります。

### 前提条件

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者であるか、または、コレクションを管理する権限を持ったオペレーターである必要があります。

### 説明


エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、他のコンポーネントとは無関係に停止することができます。例えば、クローラーの構成を変更し、それを組み込むためにクローラーを停止して再始動する場合、パーサーを停止して再始動する必要はありません。

### 手順

すべてのエンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止するには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、DB2 II OmniFind のインストール時に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID でログインし、次のコマンドを入力します。


```
esadmin stop
```

2. 特定のエンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止するには、管理コンソールの「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
3. コレクション・リストで、管理したいコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックします。
4. 「クローラー」ページで、管理したいクローラーを見つけ、停止または休止します。



クローラ・スペースを変更する場合、または、クローラーのプロパティを変更する場合は、変更を組み込むために、クローラーを停止して再始動してください。


5. パーサーを停止するには、「解析」ページで「 停止」をクリックします。

カテゴリまたは XML フィールド・マッピングを変更する場合は、変更を組み込むために、パーサーを停止して再始動してください。

6. 現在作成（リフレッシュまたは再編成）中の索引を停止するには、「索引」ページで「 停止」をクリックします。

また、索引キューをモニター中にも、索引作成を停止できます。これを行うに

は、ツールバーで「システム」を選択し、「 モニター」をクリックし、「索引」ページを開き、作成を停止したい索引に対して「 停止」をクリックします。

7. 検索プロセスを停止するには、「検索」ページで「 停止」をクリックします。通常、トラブルシューティングを行うのでない限り、検索プロセスの停止は不要です。

#### 関連概念

15 ページの『第 2 章 エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、および検索アプリケーションとコレクションの関連付けには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

---

## 第 11 章 エンタープライズ・サーチ・アクティビティのモニタ

—

システム・アクティビティおよびコレクション・アクティビティをモニターすると、さまざまな プロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、または、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システムをモニターし、必要に応じて操作を調整することができます。主要アクティビティ (クロール、解析、索引作成、検索) については、詳細な統計データを参照することができます。統計データには、平均応答時間や、クロールまたは索引作成セッションでいくつの文書がクロールまたは索引作成されたかなどの進行状況データがあります。

ほとんどのアクティビティは、アイコンをクリックするだけで、開始および停止することができます。この開始/停止操作により、アクティビティを一時停止して、構成の変更または問題のトラブルシューティングを行い、アクティビティを進められる状況になった時点で処理を再開することができます。

### 関連タスク

101 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクロール、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

103 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止』

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを 停止して再始動する必要があります。

---

## アラート

エンタープライズ・サーチでは、特定のイベントの発生が検出された場合に、メッセージをログ・ファイル に書き込むように構成することができます。

イベントによって起動され、作成されるメッセージ (アラートと呼ばれます) は、特定のリソースでフリー・スペースがなくなりかけているなど、対処が必要と思われる状態の発生を管理者に通知します。エンタープライズ・サーチでアラートを構成する場合、システムでモニターする条件を指定します。その条件に該当する状態が発生した場合、自動的にログ・ファイルにメッセージが書き込まれます。

特定の状態について、直接管理者に通知されるようにしたい場合は、モニターによる特定のメッセージがログに記録されたときに E メールを送信するオプションを指定できます。

アラートは、コレクション・レベルのイベント、およびシステム・レベルで発生したイベントに対して構成できます。コレクション・レベルでは次のような構成が可能です。

- 各クローラーがクロールする文書数をモニターし、指定された最大文書数に近くなった場合にアラート・メッセージを発行する。
- コレクションの索引に追加される文書数をモニターし、指定された最大文書数に近くなった場合にアラート・メッセージを発行する。
- 検索要求に対する応答時間が指定した限度を超える場合に通知する。

システム・レベルでは、エンタープライズ・サーチ・サーバーのディスク・スペースをモニターし、フリー・スペースの量が少なくなった場合にアラート・メッセージを発行する構成を設定することができます。

## コレクション・レベル・アラートの構成


アラートを構成することによって、特定のコレクション・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらのイベントに関するメッセージがログに記録されると、Eメールを受信できます。

### 前提条件

コレクションのアラートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

### 手順

コレクション・レベルのアラートを構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中でアラートを構成するコレクションを指して、「 **編集**」をクリックします。
3. 「一般」ページで、「**アラートの構成**」をクリックします。
4. システムが、それぞれのクローラーがクロールしている文書の数モニターするようにしたければ、次のステップを行います。
  - a. 「**クローラーがクロールした文書数が最大許容値の一定比率に達した場合**」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「**比率 (%)**」フィールドに、メッセージをログに記録する時点のパーセンテージを指定します。この数値は、クローラーがクロールできる最大文書数に対するパーセンテージで指定します (クローラー・プロパティを構成するときに、「**最大文書数**」を指定します)。デフォルト値は 90 % です。

それぞれのクローラーに異なる制限を構成できるので、クローラーごとに別個のメッセージがログに記録されます。例えば、DB2 クローラーは 200 万の文書をクロールでき、Notes クローラーは 100 万の文書をクロールできるデフォルトのアラートしきい値を使用した場合、DB2 クローラーが 1800000 の文書をクロールしたときに 1 つのメッセージがログに記録され、Notes クローラーが 900000 の文書をクロールしたときに、別のメッセージがログに記録されます。

5. システムが、索引に追加されている文書の数モニターするようにしたければ、次のステップを行います。

- a. 「索引内の文書数が一定限度を超えた場合」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「限度」フィールドに、索引に入れることができる文書の数を入力します。この数に達すると、システムは、このイベントについてのログ・メッセージを書き込みます。
6. システムが、検索要求の応答に必要な時間が限界を超えた場合に通知するようにしたければ、次のステップを行います。
- a. 「検索応答時間が限度を超えた場合」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「限度」フィールドに、最長の検索応答時間として許容できる秒数を入力します。

この数を超えると、システムは、このイベントについてのログ・メッセージを書き込みます。例えば、デフォルト値のままの場合、システムは、検索サーバーの検索要求に応答する時間が 平均 5 秒以上かかると、ログ・メッセージを作成します。

標準的な応答時間は、0.5 秒以内です。平均が 1 秒を超える場合、オペレーティング・システムにパフォーマンスを上げるためのチューニングが必要であるか、あるいは、検索サーバーの構成設定に問題があることを示しています。例えば、検索キャッシュに割り振るスペースの量を増やすことも考えられます。

7. 「OK」をクリックします。

これらのイベントについてのメッセージをシステムがログに記録したときに、E メールを受信するようにしたければ、「ログ」ページを開き、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックして、E メール・アドレスを指定します。

E メールを受信できるようにするには、その前に、ユーザーのメール・サーバーの情報が構成されていることを確認する必要があります。これを行うには、エンタープライズ・サーチ管理者は、ツールバー上の「システム」を選択し、「ログ」ページを開いて、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックする必要があります。

#### 関連タスク

155 ページの『ログ・メッセージについての E メール受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

## システム・レベル・アラートの構成

アラートを構成することによって、特定のシステム・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらの イベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

#### 前提条件

システム・レベルのアラートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。



## 手順

システム・レベルのアラートを構成するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2. 「一般」ページで、「アラートの構成」をクリックします。
3. システムが、エンタープライズ・サーチ・サーバーで使用可能なフリー・スペースの量をモニターするようにしたい場合は、「ファイル・システムの使用可能スペース量が全体スペースの一定比率に達した場合」チェック・ボックスを選択します。
4. 「比率 (%)」フィールドに、システムが、サーバーのフリー・スペースの量が少なくなったことを通知する時点のパーセンテージを指定します。この数値は、ファイル・システムの合計スペースに対するパーセンテージで指定します。デフォルト値は 80 % です。

使用しているエンタープライズ・サーチ・システムが複数のサーバー上にセットアップされている場合、システムは、サーバーごとに別個のログ・メッセージを作成します。例えば、クローラー・サーバーのスペース量が低下したときにメッセージによって通知されます。また、別のメッセージで、索引および検索サーバー上のスペースの制限について通知されます。

5. 「OK」をクリックします。

このイベントについてのメッセージをシステムがログに記録したときに、E メールを受信するようにしたければ、「ログ」ページを開き、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックして、E メール・アドレスと、メール・サーバーについての情報を指定します。

### 関連タスク

155 ページの『ログ・メッセージについての E メール受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

---

## コレクションのモニター

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。


### 前提条件


すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、コレクションをモニターできます。コンポーネントの開始または停止を行うか、スケジュールを使用可能/使用不可にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者であるか、または、コレクションのオペレーターである必要があります。


## 手順

コレクションをモニターするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

2. コレクション・リストで、モニターしたいコレクションを見つけ、「 モニター」をクリックします。各コレクション・コンポーネントの現在の状況が表示されます。

**ヒント:** コレクションを編集集中であり、すでに「一般」ページが表示されている場合は、「 モニター」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに変更できます。

3. 特定の URI に関する詳細情報を表示したい場合は、「 URI 詳細」をクリックします。

例えば、特定の URI が索引中にあるかどうかや、その URI が含まれる索引が検索サーバーにコピーされたかどうかを見ることができます。

4. 個々のコンポーネントをモニターし、そのコンポーネントのアクティビティに関する詳細な統計を表示するには、「**状況**」アイコンをクリックします。

#### 関連概念

21 ページの『第 3 章 エンタープライズ・サーチ・コレクション』  
エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。

---

## URI についての詳細表示

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどのようにクロール、索引付け、検索されるのかについての現在情報および履歴情報を知ることができます。

#### 前提条件

URI レポートを表示する要求、またはレポートを E メール・アドレスへ送信する要求をサブミットする前に、情報の発信元になるコンポーネントがアクティブであることを確認してください。例えば、文書がどのようにクロール、索引付け、検索されるのかについての詳細情報を表示する場合には、Web クローラー、索引サーバー、検索サーバーが稼働中であることを確認してください。

#### 説明


URI に関する情報の収集は、時間のかかるプロセスです。情報を要求した後、情報が表示されるのを待つというオプションを選択できます。より効率的なオプションは、指定した E メール・アドレスにレポートを送信するようにするオプションです。


索引サーバーと検索サーバーは、すべての URI に関する情報 (例えば、ある URI が索引にあるかどうか、それが検索サーバーにコピーされたかどうか) を提供できます。文書がどのようにクロールされたかに関する情報を表示するには、Web クローラーによってクロールされた文書の URI を指定する必要があります。


#### 手順

URI に関する詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

2. コレクション・リストで、モニターしたいコレクションを見つけ、「 モニター」をクリックします。

**ヒント:** コレクションを編集中であり、すでに「一般」ページが表示されている場合は、「 モニター」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに変更できます。

3. 「 URI の詳細」をクリックします。
4. 「URI の詳細」ページで、情報を見たい URI を入力します。
5. 見たい情報のタイプに合わせてチェック・ボックスを選択します。

#### クローラーの詳細

このチェック・ボックスを選択すると、Web クローラーによって文書がどのようにクロールされたかに関する情報と、クロール・スペース内の現在の状況に関する情報が示されます。

#### 索引の詳細

このチェック・ボックスを選択すると、文書が索引付けされたかどうかと、文書が検索サーバーにコピーされたかどうかを示されます。

#### 検索の詳細

このチェック・ボックスを選択すると、文書がどのように検索できるかに関する情報と、文書が検索に使用可能かどうかを示されます。

6. レポートが表示されるのを待つ場合は、「**レポート表示**」をクリックします。
7. 後でレポートを表示できるように E メール・アドレスにレポートを送信するには、「**レポートの送信**」をクリックします。
  - a. 「詳細 URI レポートの送信」ページで、レポートを受け取る E メール・アドレスを入力します。
  - b. 「**レポートの送信**」をクリックします。

#### 関連資料

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』  
エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

---

## クローラーのモニター


コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、クローラーのアクティビティに関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。


#### 前提条件


コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、クローラー統計を表示することはできますが、クローラーの動作の変更 (クローラーの開始や停止など) はできません。

#### 手順


クローラーをモニターするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、モニターしたいコレクションを見つけ、「 モニター」をクリックします。
3. 「クロール」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集集中であり、すでに「クロール」ページが表示されている場合は、「 モニター」をクリックすれば、クローラーをモニターするためのビューに変更できます。

4. クローラーが稼働中または休止されている、クローラーに関する詳細な状況情報を表示したい場合、「 詳細」をクリックします。表示される統計のタイプは、クローラー・タイプによって異なります。

コレクションのプロセス管理を許可する管理役割を持っている場合、クローラー・アクティビティに関する詳細を表示中に、クローラーを開始、停止、休止することができます。クローラーがスケジュール可能である場合、クロールのスケジュールを使用可能または使用不可にすることもできます。

5. クローラーが停止または休止されている、クローラー・セッションを開始したい場合、「 開始」をクリックします。



#### **Web クローラーおよび NNTP クローラーの場合:**

クローラーが停止されていた場合、クローラーは再びクロールを開始し、クロール・スペース全体をクロールします。クローラーが休止されていた場合、クローラーは、休止されたときのターゲットの先頭からクロールを再開します。

#### **他のすべてのクローラー・タイプの場合:**

クローラーが停止されていた場合、クローラーは、スケジュールされた日時にクロールを開始します。クローラーをスケジュールしなかった場合、または早くクローラーを開始したい場合は、「詳細」アイコンをクリックします。次に、クロール・スペース詳細領域で、クロールしたい各データ・ソース (サーバー、データベース、サブフォルダーなど) ごとに「開始」アイコン (または、「強制始動」アイコン) をクリックします。

クローラーが休止されていた場合、クローラーは、休止されたときのターゲットの先頭からクロールを再開します。例えば、DB2 クローラーは、停止されたときにクロール中だった表の先頭行からクロールを再開します。

6. 稼働中のクローラーを停止したい場合、「 停止」または「 休止」をクリックします。クローラーは、再始動されるまで、データのクロールを停止します。

#### **関連概念**

27 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

#### **関連資料**

159 ページの『第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

---

## Web クローラーのアクティビティ詳細の表示


Web クローラーのアクティビティに関する詳細を表示することによって、全体的なパフォーマンスを査定し、必要に応じて、Web クローラーのプロパティおよびクロール・スペース定義を調整できます。


### 前提条件


すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、クローラーのアクティビティをモニターできます。クローラーの開始または停止を行うには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者であるか、または、コレクションのオペレーターである必要があります。

### 手順

Web クローラーのアクティビティに関する詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、モニターしたい Web クローラーを所有するコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックします。
3. 「クロール」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集集中であり、すでに「クロール」ページが表示されている場合は、「 **モニター**」をクリックすれば、クローラーをモニターするためのビューに変更できます。

4. モニターしたい Web クローラーが稼働中であるか休止している場合、「 **詳細**」をクリックします。
5. Web クローラーの詳細ページで、クローラーの現在と過去のアクティビティに関する詳細な統計を表示するため、以下のオプションを確認または選択します。
  - a. 「**スレッドの詳細**」をクリックすると、アクティブに Web サイトをクロールしているスレッドの数と、非アクティブ状態のスレッドの数が示されます。
  - b. 「**アクティブ・サイト**」をクリックすると、クローラーが現在クロール中の Web サイトに関する情報が示されます。
  - c. 「**最近クロールされた URL**」をクリックします。この情報は、クローラーが現在クロールしている対象を示します。ビューをリフレッシュしてもリスト中の項目が変わらない場合、発生しているクロールはありません。
  - d. 「**クローラー履歴**」をクリックすると、クローラーの過去のアクティビティに関するレポートが表示されます。
  - e. 「**URL 状況**」領域で、情報を表示したい Web サイトの URL を入力し、「**表示**」をクリックします。

例えば、このオプションを使用して、ある URL がクローラ・スペース内にあるかどうか、それがクローラされたのか、または、単にディスカバーされただけなのか、再度クローラされるべきなのはいつかを見たり、Web サイトに対する最新クローラ試行に関する情報を見ることができます。

URL に関する詳細が表示された後、「**サイト履歴**」をクリックすると、その URL でのクローラのアクティビティに関する追加の統計情報を見ることができます。

## Web クローラーのスレッドの詳細

Web クローラーをモニターすることによって、アクティブに Web サイトをクローラしているスレッドの数と、非アクティブ状態のスレッドの数を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、クローラー・スレッドの状況を見ることができます。一般的な状態には次のものがあります。

**待機** スレッドにはクローラすべき URL がないことを示します。この状態は、スレッドがクローラを完了し、クローラーがそれ以上のクローラすべき URL を見つける速さが不十分な場合に発生します。例えば、クローラーのプロパティの設定で、クローラーが同じサイトから別のページを取得できるまでに待たなければならない時間が長すぎる場合には、URL が供給される速度が十分ではないことがあります。

### フェッチ中

スレッドが Web サイトからページをダウンロード中であることを示します。

**完了** スレッドが、クローラしたページをクローラーの残りに送信中であるが、別の URL をクローラする準備はまだできていないことを示します。

**中断** クローラーが休止していることを示します。

理想的なのは、すべてのスレッドが常にページをフェッチ中であることです。スレッドが頻繁に完了状態になる場合は、データベースにスループットの問題があると考えられます。

スレッドが頻繁に待機状態になる場合は、クローラーのプロパティの「**アクティブ・ホストの最大数**」フィールドに指定された値を検討してください。この値が小さい場合、スレッドを継続的にビジーにするにはクローラ・スペース内のサイト数が十分でないか、クローラに適格な URL の数が十分でないことが考えられます。低アクティビティを引き起こす条件として、DNS ルックアップ失敗とロボット・ルックアップ失敗があります。

## Web クローラー・アクティブ・サイト

Web クローラーをモニターして、クローラーがアクティブにクローラ中の Web サイトに関する情報を見ることができます。



コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、アクティブ・サイトに関する統計を見ることができます。統計には、以下の情報が示されます。

- 現時点でクローリングのためにクローラーが内部データベースからメモリーへ移した URL の数。
- これまでにクローラーがクローリングを試行した URL の数。
- サイトが非アクティブにされてクローラーのこの回の反復用のメモリーから除去されるまでの残り時間。
- これまでにサイトがメモリー内にあった時間。

この情報は、クローラーに対して構成されたクローリング規則をクローラーが進んでいくのに従って刻々と変化します。アクティブにされた URL 数が、クローラーのプロパティの「**アクティブ・ホストの最大数**」フィールドに構成された値と近いのが理想的です。

アクティブにされた URL 数がゼロに近い場合、クローラーは適格 URL を検出していません。そのような低いアクティビティを引き起こす可能性のある条件には、DNS ルックアップの失敗、ネットワーク接続性の問題、データベース・エラー、クローリング・スペース定義の問題があります。例:

- 長時間にわたってメモリー内に多数のサイトがあり、クローリングされた URL が少数である場合、ネットワーク接続性の問題がないか調べてください。
- 十分な数のサイトがリストにある場合、クローリング・スペース定義の問題、または DNS ルックアップの問題がないか調べてください。
- 適切な速度でサイトがクローリングされているが、多数の URL がクローリングされないままメモリーからサイトが出ている場合、クローラーのプロパティを編集し、「**メモリー内 URL の最大残存時間**」フィールド内のタイムアウト値を調整して、サイトをメモリーに保持する時間を長くしてください。

## Web クローラーのクローリング速度

Web クローラーをモニターして、クローラーが Web サイトから ページをダウンロードしている速度に関する情報を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、クローラーがデータをクローリングする速さ (クローリング速度) に関する統計を見ることができます。また、現行セッションの開始以降にクローラーがクローリングした URL の数に関する統計も見ることができます。

クローリング速度は、1 秒あたりにクローリングされているページ数です。この数は、Web クローラーに対して構成できるいくつかのプロパティと関連しています。

- クローラー・スレッドの数
- アクティブ・サイトの数
- クローラーが同じ Web サーバーから別のページを取得できるまでに待たなければならない時間。

クローラーがクローラー・スレッドごとに 1 つのアクティブ・サイトを持っている場合で、クローラーが 2 秒間待った後でないと同じ Web サーバーから別のページを取得できない場合、クローラーは 2 秒あたりに、スレッド当たり 1 ページより

速くクローリングすることはできません。例えば、クローラーがデフォルト数 (200) のスレッドを使用する場合、クローラーは 200 スレッドで 1 秒あたり 100 ページをクローリングできます。

クローラー・スレッド数の倍のアクティブ・サイトがある場合で、クローラーが 2 秒間待った後でないと同じ Web サーバーから別のページを取得できないとすると、クローラーは 1 秒にスレッド当たり 1 ページの速度に達すると考えられます。しかし、そうすると、ネットワークのダウンロード速度およびデータベース・スループットが速度を限定する要因になってきます。良好なクローラー・パフォーマンスが示されるのは、クローリング速度が、クローラー・スレッド数、アクティブ・サイト数、およびクローラー待ち時間と調和している場合です。

Web クローラーのパフォーマンスをモニターするときに検討が必要なもう 1 つの因子は、現行クローラー・セッションの開始以降にクローラーがクローリングした URL の数です。この数を、クローラーが稼働した合計時間で除算した値が、長期間の平均スループットです。この数値が増加しない場合、クローラーは完了しているか、進行できないかのいずれかです。例えば、ネットワーク接続エラー、データベース・エラー、DNS ルックアップ失敗などがあると、クローラーの進行が妨げられます。

## Web クローラー・レポートの作成

Web クローラーの過去のアクティビティに関するレポートを表示することによって、全体的なパフォーマンスを査定し、必要に応じて、Web クローラーのプロパティおよびクローリング・スペース定義を調整できます。

### 前提条件

コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、クローラー統計を表示することができ、クローラーのアクティビティに関するレポートを作成することもできますが、クローラーの動作の変更 (クローラーの開始や停止など) はできません。

### 説明


さまざまなタイプのレポートがあり、Web クローラーのアクティビティに関する情報が提供されます。レポートのタイプによっては、クローラーの内部データベースから収集できる限りの速度で情報が戻されるものもあります。サイト・レポートおよび HTTP 戻りコード・レポートは、作成に時間を要します。これらのタイプのレポートを作成する場合は、結果がエンタープライズ・サーチ管理コンソールに戻されるのを待つ代わりに、レポートを受け取る E メール・アドレスを指定できます。


レポートでの統計の解釈方法については、Web クローラーのモニター中およびレポートの作成中に「ヘルプ」をクリックしてください。


### 手順

Web クローラー・レポートを作成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

2. コレクション・リストで、モニターしたい Web クローラーを所有するコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックします。
3. 「クロール」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集集中であり、すでに「クロール」ページが表示されている場合は、「 **モニター**」をクリックすれば、クローラーをモニターするためのビューに変更できます。

4. レポートを作成したい Web クローラーが稼働中であるか休止している場合、「 **詳細**」をクリックします。
5. Web クローラーの詳細ページで、作成したいレポートのタイプに応じてオプションを選択します。
  - クローラーと、クローラーがディスカバーまたはクロールするすべてのサイトに関するレポートを作成するには、「**クローラー状況サマリー**」領域で「**クローラー履歴**」をクリックします。
  - 「**URL 状況**」領域で、レポートを作成したい特定のサイトの URL を指定し、「**表示**」をクリックし、「**サイト履歴**」をクリックします。
6. クローラー履歴とサイト履歴の両方のレポートについて、レポートに入れたい統計のチェック・ボックスを選択し、「**レポート表示**」をクリックします。

これらのタイプの統計について、クローラーは、内部データベースから情報を取得できる限りの速度で、レポートを管理コンソールに戻します。

7. クローラー履歴レポートを作成する場合、サイト・レポートを作成するためのオプションを指定し、「**レポートの実行**」をクリックします。

このレポートは、選択した統計が組み込まれて作成され、指定するファイルに保存されます (このファイルの名前は絶対名でなければなりません)。レポート作成後に E メールを受け取ることを指定できます。

8. クローラー履歴レポートを作成する場合、HTTP 戻りコード・レポートを作成するためのオプションを指定し、「**レポートの実行**」をクリックします。

このレポートには、サイトごとの HTTP 戻りコードの数の分布についての情報が示されます。このレポートは、指定するファイルに保存されます (このファイルの名前は絶対名でなければなりません)。レポート作成後に E メールを受け取ることを指定できます。

このレポートを使用すると、4xx 戻りコード (ページが見つからなかったことを示す)、5xx 戻りコード (サーバー問題を示す)、6xx 戻りコード (接続での問題を示す) 等を多く戻しているサイトを確認できます。

このレポートは、クローラーがある程度の時間アクティブであった場合に最も利用価値があります (例えば、数週間にわたってアクティブであったクローラーの場合など)。このレポートは、消失したサイト、新着サイト、大量の URL が含まれるサイト (Lotus Notes データベースの重複クロールを表している可能性があります)、HTTP サーバーによる再帰的ファイル・システムのサービスを受けているサイトを識別するのに役立ちます。多数の HTTP 戻りコードがあるサイトが索引に寄与していない場合、それらのサイトをクロール・スペースから除去することによって、クローラーのパフォーマンスを向上させることができます。

## Web クローラーの HTTP 戻りコード

Web クローラーをモニターするとき、クロールするページから クローラーが受け取る HTTP 戻りコードに関する情報を見ることができます。

### 目的

Web クローラー履歴をモニターするか、または特定の URL の状況をモニターするとき、クローラーに戻された HTTP 戻りコードを見ることができます。この情報を使用して、クロール・スペースの管理およびクローラー・パフォーマンスの最適化を行えます。例えば、ある URL に対して多数の HTTP 戻りコードをクローラーが受け取り、それらの戻りコードが、その場所にあるページがクロールできないことを示すものである場合、その URL をクロール・スペースから除去することによってパフォーマンスを改善できます。

以下の表に、HTTP 戻りコードと、Web クローラーがそれらをどのように解釈するのかを示します。100 から 505 までの値は標準 HTTP 戻りコードです (詳しくは、<http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616.html> を参照してください)。それ以外の HTTP 戻りコードは、エンタープライズ・サーチおよび Web クローラー専用のコードです。

表 1. Web クローラーからの HTTP 戻りコード

コード	説明	コード	説明	コード	説明	コード	説明
NULL	未クロール	401	無許可	500	内部サーバー・エラー	700	解析エラー (ヘッダー・エンドなし)
100	継続	402	支払要	501	未実装	710	解析エラー (ヘッダー)
200	成功	403	禁止	502	不正なゲートウェイ	720	解析エラー (HTTP コードなし)
201	作成されました	404	検出されません	503	サービス利用不可	730	解析エラー (本文)
202	受け入れられました	405	許可されないメソッド	504	ゲートウェイのタイムアウト	740	robots.txt ファイルにより除外
203	信頼できない情報	406	受け入れ不能	505	サポートされない HTTP バージョン	741	ロボットが一時的に利用不可
204	コンテンツなし	407	プロキシ認証が必要	611	読み取りエラー	760	クロール・スペース定義により除外
205	コンテンツのリセット	408	要求タイムアウト	612	接続エラー	770	不正なプロトコルまたは非標準システム・ポート
206	部分的コンテンツ	409	競合	613	読み取りタイムアウト	780	ファイル・タイプ排他により除外

表 1. Web クローラーからの HTTP 戻りコード (続き)

コード	説明	コード	説明	コード	説明	コード	説明
300	多肢選択	410	もう存在しない	614	SSL ハンドシェイク失敗	2004	索引 META タグなし
301	永久に移動済み	411	長さが必要	615	他の読み取りエラー	4044	robots.txt ファイルにより除外
302	検出されました	412	前提条件失敗	680	DNS ルックアップ失敗		
303	他を参照	413	要求エンティティが大きすぎる				
304	未変更	414	要求 URI が長すぎる				
305	プロキシ使用	415	サポートされないメディア・タイプ				
306	(未使用)	417	予想失敗				
307	一時的リダイレクト						

**表に関する説明:**

**4xx 戻りコード**

400 (不正な要求) コードは、めったにありません。HTTP 戻りコード標準によると、4xx コードは、クライアント (クローラー) が失敗したことを示します。しかし、サーバーに問題があるか、クローラーがリンクとして受け取った URL に問題があるのが普通です。例えば、一部の Web サーバーは、サイト・ルート (例えば、<http://xyz.ibm.com/././foo>) からナビゲートしようとする URL を許容しません。他の Web サーバーでは、このような上方ナビゲーションでの問題はなく、クローラーがすでにルートにある場合は親ディレクトリー記号 (..) を無視します。

一部のサーバーはサイト・ルートに対する要求をエラーとして扱い、古くなったリンクが、もう認識または実装されていない操作を要求する可能性があります。もうサービスされていないページに対する要求があると、その要求はもう有効とは見なされないのので、アプリケーション・サーバーは例外をスローし、それが原因となって Web サーバーは HTTP 戻りコード 400 を戻します。

**615** Web サイトからデータをダウンロードするクローラー・コンポーネントで予期しない例外が検出されたことを示します。このタイプの戻りコードが多数ある場合、クローラーでの問題があると考えられます。

**6xx 戻りコード**

615 を除く 6xx 戻りコードは、タイムアウトなど、クローラーにおいて予想される問題を示します。以下の戻りコードについては、修正処置が必要な場合があります。

### 611、612、613

サイトが低速であるか、ネットワーク・パフォーマンスが不十分であることを示します。

- 614** クローラーがセキュア (HTTPS) サイトをクローリングできないことを示します。これらのサイトがアクセス可能であるという確信がある場合、証明書がクローラー・サーバーおよびターゲット Web サーバー上で正しくセットアップされていることを確認してください。例えば、認識された認証局 (CA) によって認証済みのサイトの場合、クローラーが使用するトラスト・ストアに新しい CA を追加することができます。

また、クローリングしようとしているサイトで自己署名証明書がどのように構成されているかも確認してください。クローラーは、自己署名証明書を受け入れるように構成されています。サイトによっては、ルート URL (例えば、`http://foo.ibm.com/`) に対して自己署名証明書を作成し、その後、サブドメイン (例えば、`http://bar.foo.ibm.com/`) でその証明書の使用を試みます。クローラーは、このような方法で使用される証明書を受け入れられません。クローラーが自己署名証明書を受け入れるのは、サブジェクトのドメイン名 (`foo.ibm.com`) および証明書の署名者が、要求されているページのドメイン名と一致する場合のみです。

- 680** おそらくネットワーク・アクセスの問題のため、クローラーが、クローリング・スペース内でホストの IP アドレスを手に入らなかったことを示します。このタイプのエラーは、クローラーが、いくつかの URL をクローリングできなかったのではなく、サイト全体をクローリングできないことを示します。このタイプの戻りコードが多数ある場合、スループットが大幅に減少します。

### 7xx 戻りコード

7xx コードは、ほとんどの場合、クローリング・スペースにおける規則が原因です。

#### 710 - 730

問題があるためにクローラーがダウンロードを完全にできないこと、または、クローラーがサイトで無効な HTML データを検出したことを示します。これらのタイプの戻りコードが多数ある場合、エンタープライズ・サーチのサポート担当者に支援を依頼してください。

#### 740 または 4044

サイトの `robots.txt` ファイル内の制限によって文書が除外されているため、ファイルのコンテンツを索引付けできないことを示します。

**740** 除外された文書をポイントするアンカー・リンクを索引に含められることを示します。

**4044** 除外された文書をポイントする文書内のアンカー・リンクが索引でも除外されることを示します。

- 741** サイトにはクローリングを許可する `robots.txt` ファイルがあるが、ダウンロードが失敗したことを示します。URL をクローリングできない状態



が繰り返される場合、その URL はクローल・スペースから除去されます。このタイプの戻りコードが多数ある場合、ターゲット・サイトが永久に利用不可なのか一時的に利用不可なのかをチェックしてください。ターゲット・サイトがもう使用可能でない場合、それをクローल・スペースから除去してください。

残りの 7xx 戻りコードは、クローラーがしばらく稼働した後で、クロール・スペースに変更を加えた場合に発生することがほとんどです。通常、これらの戻りコードが発生しても、解決が必要な問題はありません。

---

## パーサーのモニター


パーサーを開始または停止する必要がある場合、コレクションのパーサーをモニターします。


### 前提条件


コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、パーサーの状況を表示することはできますが、パーサーの開始または停止を行うことはできません。

### 手順


パーサーをモニターするには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、モニターしたいコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックします。
3. 「**解析**」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集中であり、すでに「**解析**」ページが表示されている場合は、「 **モニター**」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに変更できます。

4. パーサーが停止されていて、それを開始したい場合、「 **開始**」をクリックします。

最初にコレクションを作成するときには、クローラーがデータのクロールを開始した後で、パーサーを開始してください。そうすれば、パーサーが分析とカテゴリー化を行うデータが必ずあることとなります。パーサーの開始後は、それをそのまま実行させることができます。

5. パーサーが実行中であり、それを停止したい場合、「 **停止**」をクリックします。

例えば、カテゴリーまたは XML フィールド・マッピングに加えた変更を組み込む場合などに、パーサーを停止します。

## コレクションの索引アクティビティのモニター


作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティの開始/停止を行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。


### 前提条件




すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、索引アクティビティをモニターできます。索引作成の開始または停止を行うか、索引スケジュールを使用可能/使用不可にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者であるか、または、コレクションのオペレーターである必要があります。

### 手順


コレクションの索引をモニターするには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、モニターしたいコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックします。
3. 「索引」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集集中であり、すでに「索引」ページが表示されている場合は、「 **モニター**」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに変更できます。

4. 索引がスケジュール済みであり、スケジュールされた日時にその索引が作成されることを望まない場合、「 **スケジュールを使用不可にする**」をクリックします。その索引は、スケジュールを使用可能にするか、索引作成プロセスを開始するまで、作成されません。
5. 索引がスケジュール済みであるが、索引作成のスケジュールが現在使用不可にされている場合、「 **スケジュールを使用可能にする**」をクリックします。索引は、索引付けスケジュールに指定した日時に、作成のためにキューに入れられます。
6. 索引が停止されていて、それを開始したい場合、「 **開始**」をクリックします。

通常、索引付けは定期的なスケジュールで行われます。索引が作成されているときに停止した場合、または、索引のスケジュールを使用不可にした場合、「**開始**」をクリックして索引作成を強制開始できます。

7. 索引作成がアクティブであり、それを停止したい場合、「 **停止**」をクリックします。

例えば、索引作成を停止する必要がある場合として、コレクション内で使用されるカテゴリ化のタイプを変更した後に索引の再編成を強制する場合などが考えられます。

---

## エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキューからの索引の削除を行うことができます。

### 前提条件

索引キューを管理するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

### 説明

エンタープライズ・サーチは、複数の索引を同時に作成できますが、同時にキューに存在できるのはコレクションごとに 1 つの索引のみです。システムの索引オプションを構成するとき、いくつかの索引がキューおよび索引作成用リソースを同時に共用できるのかを指定します。

### 手順

索引キューをモニターするには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2. 「モニター」をクリックした後、「索引」ページを選択します。

現在索引キュー内に索引があるコレクションのリストが表示されます。それぞれの索引ごとに、作成中の索引のタイプ (リフレッシュまたは再編成)、索引が索引キューに入れられた時刻、索引作成が始まった時刻 (作成が進行中である場合) が表示されます。

3. 個々の索引を管理するには、「状況」アイコンをクリックします。

例えば、ある索引がどの程度まで完了しているかを見たり、索引内の文書数を見たり、索引スケジュールを使用不可にすることができます。

4. 現在作成されている索引を停止するには、「 停止」をクリックします。

例えば、カテゴリ規則を変更した場合などに、索引の再編成を強制開始できるように索引リフレッシュを停止することができます。

索引作成を停止した後に開始するには、スケジュールされている次の開始時刻に索引が索引キューに入るのを待つか、あるいは、「状況」アイコンをクリックして索引をモニターし、次に「 開始」をクリックして索引のリフレッシュまたは再編成を行います。

5. 索引キューから索引を削除するには、「 削除」をクリックします。

---

## 検索サーバーのモニター


ある特定のコレクションについて検索サーバーのアクティビティーに関する詳細な状況情報を表示するか、または、エンタープライズ・サーチ・システム全体について検索サーバーの詳細な状況情報を表示することができます。


### 前提条件



すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、管理を認可されているコレクションの検索サーバーをモニターできます。エンタープライズ・サーチ・システムのすべての検索サーバーをモニターするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

検索サーバーの開始または停止を行うには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者であるか、または、コレクションのオペレーターである必要があります。

#### 手順

1. 単一のコレクションの検索サーバーをモニターするには、次のようにします。
  - a. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクション・リストで、モニターしたいコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックします。
  - c. 「**検索**」ページを選択します。

**ヒント:** コレクションを編集途中であり、すでに「**検索**」ページが表示されている場合は、「 **モニター**」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに変更できます。

2. エンタープライズ・サーチ・システムのすべての検索サーバーをモニターするには、次のようにします。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. 「**モニター**」をクリックした後、「**検索**」ページを選択します。
3. 検索サーバーが停止されていて、それを開始したい場合、「 **開始**」をクリックします。
4. 検索サーバーが実行中であり、それを停止したい場合、「 **停止**」をクリックします。
5. 検索サーバーが検索要求の処理に費やす時間のサマリーを表示するには、「**応答時間 (履歴)**」をクリックします。

このレポートには、ある特定の日に検索要求への応答に検索サーバーが費やした平均時間がミリ秒で示されます。

平均応答時間は、システムのパフォーマンスの指標であり、サービス品質に対応します。応答時間の増加は、システムに負荷がかかっていることを示します。例えば、検索対象のコレクションの数およびコレクション・サイズがシステムの負担になっていることが考えられます。

6. 最も頻繁にサブミットされている照会のリストを表示するには、「**高頻度の照会**」をクリックします。

このレポートでは、最も頻繁にサブミットされた上位 50 の照会におけるキーワードと、ある特定の照会をユーザーがサブミットした回数が見られます。

高頻度の照会を検討することによって、クイック・リンクの候補を識別できます。クイック・リンクを作成すれば、多くのユーザーのために検索品質に良い影響を与えることができます。関連の高い文書が常に検索結果に戻されることを保証できます。

また、これらの照会に答えるようなリソースへのエンタープライズ・ポータルからのリンクを作成するといった場合もあります。例えば、交際費に関する情報をユーザーが頻繁に検索している場合に、イントラネット・ホーム・ページに、交際費手続きを議論するページへのリンクを組み込みます。

7. 最近サブミットされた照会のリストを表示するには、「**最新の照会**」をクリックします。

このレポートでは、最近サブミットされた 50 個の照会におけるキーワードが示されます。

最新の照会を検討することによって、組織における現在の傾向と緊急事態を識別できます。例えば、何らかのトピックに対する関心が急に高まっていることなどが分かります。そのような関心の高まりは、そのトピック用のクイック・リンクの必要性を示していたり、そのトピックを他の方法 (エンタープライズ・ポータルでのリンクの提供など) でユーザーが使用できるようにする必要があることを示している可能性があります。

### 関連概念

7 ページの『エンタープライズ・サーチ用検索サーバー』

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

『検索キャッシュ』

検索サーバーの負荷が高い場合、検索結果をキャッシュに入れることでパフォーマンスを向上できます。

131 ページの『文書レベルのセキュリティー』

文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

84 ページの『クイック・リンク』

クイック・リンクを使用すると、ユーザーが特定文書にリンクを設定できるようになります。

## 検索キャッシュ

検索サーバーの負荷が高い場合、検索結果をキャッシュに入れることでパフォーマンスを向上できます。

検索サーバーが検索要求を処理する場合、まず、同じ照会の結果がキャッシュにすでに存在していないかチェックされます。検索サーバーが該当する結果文書を検出できれば、検索結果をそのまますぐにユーザーに戻すことができます。該当の結果文書が見つからないと、検索サーバーは索引を検索します。

検索キャッシュが満杯になると、最も古い結果文書および頻度の低い照会の結果文書が、新たな検索結果用の場所を空けるためにキャッシュから出されます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、検索キャッシュを使用可能に設定し、キャッシュの容量（結果を同時にキャッシュに入れられる照会数）を指定できます。

## 検索キャッシュの構成


コレクションの検索キャッシュを使用可能または使用不可にできます。また、検索キャッシュのサイズを制御するオプションも指定できます。

### 前提条件

コレクションの検索キャッシュを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、管理するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

### 手順

検索キャッシュを構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストの中で検索キャッシュを構成するコレクションを指して、「 **編集**」をクリックします。
3. 「**検索**」ページで、「**検索キャッシュを使用**」チェック・ボックスを選択します。
4. 「**検索キャッシュ項目の最大数**」フィールドに、検索キャッシュが保持できる検索結果セットの最大数を指定します。
5. 「**適用**」をクリックします。





---

## 第 12 章 エンタープライズ・サーチ・セキュリティー

エンタープライズ・サーチのセキュリティー機構によって、無許可でソースが検索されないようにし、管理機能の使用を特定のユーザーに制限することができます。

エンタープライズ・サーチによって、ユーザーは広い範囲のデータ・ソースを検索できます。コンテンツへのアクセス許可を持つユーザーのみがアクセスし、許可されたユーザーのみが管理コンソールにアクセスするように、エンタープライズ・サーチは、いくつかのレベルでセキュリティーを連携して施行します。

### Web サーバー

セキュリティーの第 1 レベルは Web サーバーです。IBM WebSphere Application Server の中でグローバル・セキュリティーを使用可能にすると、ユーザーを管理役割に割り当て、システムを管理しようとするユーザーを認証することができます。ユーザーが管理コンソールにログインすると、そのユーザーが管理を許可された機能とコレクションのみが使用可能になります。

検索アプリケーションはまた、WebSphere Application Server の認証サポートを使用して、検索アプリケーションにアクセスする、またはコレクションを検索するユーザーを認証できます。

### コレクション・レベルのセキュリティー

コレクションを作成するときに、コレクション・レベルのセキュリティーを使用可能にできます。コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは次の特別な規則を適用します。

- 文書ごとにセキュリティー管理が評価されるように、重複 (またはほとんど重複) のコンテンツの文書は、そのコンテンツが正規表現で関連付けられて索引が付けられるのではなく、別個に索引付けされます。
- グローバル分析のアンカー・テキスト処理フェーズは、通常、ある文書 (ソース文書) に現れるテキストを、そのテキストが必ずしも現れるとは限らない別の文書 (ターゲット文書) に関連付けます。これにより、ソース文書に現れるテキストを指定した照会で、ターゲット文書が検索されるようになります。このタイプのアンカー・テキスト処理は、ユーザーがソース文書は表示できないがターゲット文書の表示は許可されている場合に、セキュリティーのリスクが生じます。コレクション・セキュリティーが使用可能である場合、アンカー・テキスト処理は使用不可です。これは、文書そのもののコンテンツまたはメタデータが照会に一致している場合のみ、その文書が検索結果に戻されることを意味します。

コレクション・セキュリティーを使用可能にすることと、検索の質とでトレードオフが生じます。コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、文書ごとに索引付けされる情報量が減ります。この副次作用は、照会によっては結果の数が少なくなることです。

コレクション・レベルのセキュリティーは、アプリケーション ID を通して検索アプリケーションでも使用できます。コレクションを検索するには、エンタープライズ・サーチ管理者は、検索アプリケーションをそれが検索でき

る特定のコレクションと関連付けなければなりません。そして、標準アクセス制御機構を使用して、ユーザーに対し、特定の検索アプリケーションへのアクセスを許可したり拒否したりします。

### 文書レベルのセキュリティー

コレクションのクローラーを構成するときに、文書レベルのセキュリティーを使用可能にできます。このオプションを選択すると、クローラーは、クローラーする各文書にセキュリティー・トークンを関連付けます。セキュリティー・トークンは文書と一緒に索引の中に保管されます。

WebSphere Application Server の中でグローバル・セキュリティーを使用可能にすると、検索アプリケーションは、これらのセキュリティー・トークンを使用して、アクセス制御を施行できます。ユーザーが、アクセス許可を持つ文書のみを検索し取得するように、検索アプリケーションは、検索サーバーに渡す照会で、ログインしたユーザーからの信任状を含むことができます。

コレクションに対するセキュリティーは、索引付けされたコンテンツを保護するためにエンタープライズ・サーチが使用できる認証とアクセス制御機構を越えて拡張されます。転送中に、悪意のある、あるいは無許可のユーザーにデータをアクセスさせないための安全機能も存在します。例えば、検索サーバーは、Secure Sockets Layer (SSL)、Secure Shell (SSH)、および Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) といったプロトコルを使用して、索引サーバーおよび検索アプリケーションのユーザー・インターフェースと通信します。

暗号化によってさらにセキュリティーが強化されます。例えば、エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードが製品のインストールの間に指定されますが、これは、暗号化された形式で保管されます。

セキュリティーを向上させるには、サーバー・ハードウェアが適切に隔離されており、無許可の侵入から保護されている必要があります。ファイアウォールをインストールすると、使用しているネットワークの別の部分を通じた侵入から、エンタープライズ・サーチ・サーバーを保護できます。また、エンタープライズ・サーチ・サーバーに、余計なポートが開いていないことも確認してください。システムが、エンタープライズ・サーチのアクティビティーとアプリケーション用に明示的に割り当てられたポートでのみ要求を listen するように、システムを構成してください。

---

## 管理役割

エンタープライズ・サーチは、管理コンソールの中のさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind) のインストールの間に、インストーラーは、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを構成します。管理コンソールに最初にアクセスするときに、このユーザーとしてログインしなければなりません。IBM WebSphere Application Server 内のグローバル・セキュリティーを使用可能にしていなければ、このユーザー ID が管理コンソールのアクセスに使用できる唯一のユーザー ID です。

IBM WebSphere Application Server の中でグローバル・セキュリティーを使用可能にしていれば、追加のユーザーをエンタープライズ・サーチ管理ユーザーとして登録できます。ユーザーを役割に割り当てることによって、アクセスを特定のコレクションに制限し、それぞれの管理ユーザーが実行できる機能を制御できます。エンタープライズ・サーチ内の管理役割に割り当てるユーザー ID は、WebSphere Application Server ユーザー登録の中になければなりません。

管理ユーザーがログインするときに、エンタープライズ・サーチはユーザー ID を認証します。ユーザーが管理できるコレクションと機能のみが、コンソールの中で選択可能になっています。

次の管理役割にユーザーを登録できます。

#### **エンタープライズ・サーチ管理者**

これらのユーザーは、コレクションを作成し、エンタープライズ・サーチ・システムのすべての側面を管理する権限を持ちます。DB2 II OmniFind がインストールされるときに、インストーラーは、最初のエンタープライズ・サーチ管理ユーザーのユーザー ID とパスワードを指定します。このユーザーは、他のユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者役割に割り当てることができます。

#### **コレクション管理者**

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションの操作を、編集、モニター、および制御できます。これらのユーザーは、コレクションの作成や、複数のコレクションに及ぶコンポーネントの管理はできません。

#### **オペレーター**

これらのユーザーは、システム・アクティビティーをモニターし、特定のコレクションまたはすべてのコレクションの操作を制御できます。これらのユーザーは、コレクション・アクティビティーの開始と停止はできますが、例えば、コレクションの作成や編集、あるいは、複数のコレクションに及ぶコンポーネントの管理はできません。

#### **モニター担当者**

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションのシステム・アクティビティーをモニターできます。操作の制御 (コンポーネントの開始や停止など)、コレクションの作成や編集、あるいは、複数のコレクションに及ぶコンポーネントの管理はできません。

#### **関連タスク**

17 ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するため、Web ブラウザーで URL を指定した後、管理コンソールにログインします。

---

## **管理ユーザーの構成**

管理役割を構成することで、特定のコレクションへのアクセスを制限でき、各管理ユーザーが実行できる機能を制御できます。

#### **前提条件**

管理役割にユーザーを割り当てる前に、IBM WebSphere Application Server においてセキュリティーが使用可能にされていることを確認してください。また、そのユーザー ID が WebSphere Application Server ユーザー・レジストリー内に存在することを確認してください。

管理ユーザーを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

### 手順

ユーザーを管理役割に割り当てるには、次のようにします。

1. 「**セキュリティー**」をクリックして「セキュリティー」ビューを開きます。
2. 「管理役割」ページで、「**ユーザーの追加**」をクリックします。
3. 登録したいユーザーのユーザー ID を入力し、適当な管理役割を選択します。
4. このユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者として登録しない場合、このユーザーが管理できるコレクションを選択します。

個々のコレクションのチェック・ボックスを選択するか、このユーザーがすべてのコレクションを管理できるようにします。

---

## 認証とアクセス制御

無許可のユーザーからコンテンツを保護し、管理機能へのアクセスを制御するために、エンタープライズ・サーチは、ユーザー認証とアクセス制御をサポートします。

### 認証

認証は、ユーザーが誰であるか、つまり、ユーザーが宣言するものをシステムが検証するプロセスです。アクセスは一般にリソースを要求するユーザーの ID を基にしているため、認証は、セキュリティーを実効あるものにするために不可欠です。

管理コンソールにアクセスしようとするユーザーを認証するため、エンタープライズ・サーチは、IBM WebSphere Application Server で提供される認証サポートを利用します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するユーザーを認証するために、検索アプリケーションは WebSphere Application Server 内のセキュリティーを利用し、ユーザーの信任状の認証のための優先メソッドをインプリメントできます。通常、ユーザーの信任状は、ユーザーがログインするとき、または検索アプリケーションにアクセスするときに検索アプリケーションに渡されるユーザー ID とパスワードから成ります。

ユーザー認証は、ユーザーのエンタープライズで使用可能なリソースおよびプロトコルに応じて、他の方法でインプリメントされることも可能です。例えば、ユーザーの識別をスマート・カードで行うようにしたり、デジタル証明書と Public Key Infrastructure で行ったり、あるいは、ユーザーがログインするときにチケットを割り当ててユーザーの認証状態をトラッキングするようにしたりできます。

## アクセス制御

アクセス制御とは、ユーザーが身元を明らかにし、それが認証されたあとで、ユーザーが行えることを制限することです。アクセス制御リスト (ACL) は、リソースへのアクセスを制限するための最も一般的な方法です。ACL は ユーザー識別 (ユーザー名、グループ名、ユーザー役割など) のリストです。各ユーザー識別は、ユーザーの権限と特権を定義する許可のセットに関連付けられています。

例えば、アクセス制御によって、ファイル・サーバー上のファイルへのアクセスを許可したり拒否したりできます。また、アクセスを許可されたユーザーが、ファイル・サーバー上のファイルの読み取り、作成、編集、または削除ができるかどうかを制御できます。

エンタープライズ・サーチの中で、すべてのアクセス制御は、ユーザーが索引の中のデータを読み取る権限があるかどうかによって異なります。検索アプリケーションの中でどのようにアクセス制御を有効にするかに応じて、また、エンタープライズ・サーチを管理するときにコレクションとクローラーに指定した規則に応じて、次のことができます。

- すべてのユーザーがコレクションの中のすべての文書を検索できる。
- すべてのユーザーが、特定のクローラーによってクロールされたすべての文書を検索できる。また、他のクローラーによってクロールされた文書のアクセスは制限される。
- 特定のユーザーが、特定の文書を検索できる。例えば、Notes クローラーでクロールしたいデータベースを指定するときに、特定のユーザーが特定のビューとフォルダーにアクセスできるというオプションを指定し、他のユーザーはこれらの文書を検索できないようにします。

---

## 文書レベルのセキュリティ

文書レベルのセキュリティによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

文書レベルのアクセス制御は、システムの中で、1 つ以上のセキュリティ・トークンを文書に関連付けることで行われます。デフォルトでは、それぞれの文書は共用文書であるとみなされます。つまり、それはすべてのユーザーが検索できることを意味します。クローラーを構成するときに、そのクローラーがクロールした文書をアクセスできるユーザーを制限するために、セキュリティ・トークンを使用するかどうかを指定できます。

データ・ソース・タイプがフィールドを含んでいる場合、アクセス制御を行うために、そのフィールドの中のセキュリティ・データを使用することを指定できます。データ・ソースにフィールドがない、特定のフィールドをセキュリティ・フィールドとして使用したくない、あるいは、指定したフィールドに、行うアクセス制御を使用可能にするセキュリティ・データが含まれない場合、クローラーに、文書に関連付けるためのセキュリティ・トークンを定義できます。



各コレクションの管理者は、クローラーが文書に関連付けるセキュリティー・トークンを決定します。例えば、セキュリティー・トークンは、ユーザー ID、グループ ID、ユーザー役割、または管理者が決定した、データ・ソースに有効なその他の値を示すこともあります。

セキュリティー・トークンは、文書が、解析、分析、および索引付けのステージに移動するときに文書に付随します。検索アプリケーションが IBM WebSphere Application Server 中のグローバル・セキュリティーを使用可能にする場合は、セキュリティー・トークンを使用して文書のアクセスを制御できます。コレクションを検索するユーザーは、ユーザーの信任状で表示が許可される文書のみを検索できます。ユーザーの信任状がセキュリティー・トークンの規則をパスしないのであれば、トークンによって保護される文書は検索できません。

カスタム検索アプリケーションにセキュリティー管理を含めることについては、「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」を参照してください。

#### 関連概念

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』  
検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

140 ページの『Portal Search Engine での文書レベル・セキュリティー』  
IBM WebSphere Portal Search Engine を使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

---

## コレクション・レベルのセキュリティー

コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、コンテンツの索引付けのオプションと、検索アプリケーションが特定のコレクションを検索できるようにするオプションを構成します。

コレクションを作成するときに、コレクション・セキュリティーを使用可能にするオプションを選択できます。このオプションを選択すると、エンタープライズ・サーチのグローバル分析プロセスは、アンカー・テキストと重複文書の索引付けに、別の規則を適用します。

検索アプリケーションを作成したあと、検索アプリケーション ID によって、検索アプリケーションが検索できるコレクションと、検索アプリケーションにアクセスできるユーザーを指定できます。

## アンカー・テキスト分析

コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは、Web クローラーでクロールされる文書の中のアンカー・テキストの索引作成に、特別な規則を適用します。

アンカー・テキストは、リンクの接続先のページを説明した、ハイパーテキスト・リンク内の情報です。例えば、次のリンクで、テキスト「Query Syntax」は、Web サイトの `syntax.htm` ページに接続するリンクの中の、アンカー・テキストです。

```
Query Syntax
```

一般に、Web クローラーは文書の中のリンクをたどって、追加の文書をクロールし、これらのリンクされたページを索引の中に組み込みます。グローバル分析の間、索引は、アンカー・テキストが組み込まれる文書 (ソース文書) だけでなく、ターゲット文書にもアンカー・テキストを関連付けることによってコレクションを処理します。上記の例では、アンカー・テキスト「Query Syntax」は、ターゲット・ページ `syntax.htm` と、アンカー構成 (`<a href="...">`) を含むページに関連付けられます。

コレクションを作成するときにコレクション・セキュリティを使用可能にすると、分析と索引付けのプロセスは、アンカー・テキストの処理は行いません。アンカー・テキストの処理を使用不可にすることによって、実際にそのテキストが文書または文書のメタデータに出現しない限り、テキストは文書に関連しません。アンカー・テキストは、ユーザーがアクセスできる他の文書に関連付けられることはないため、ユーザーが、アクセスできない文書の中の情報を見ることはありません。

コレクション・セキュリティを使用可能にすることで、ユーザーが、ユーザーの信任状とマッチするセキュリティ・トークンの文書のみを検索できるようにし、Web 文書のセキュリティを向上させることができます。しかし、アンカー・テキストを処理しないことで、照会に関連する可能性のある文書が、一部検索結果に含まれなくなるという可能性があります。

コレクション・セキュリティを使用可能にしない場合、分析と索引付けのプロセスは、Web クローラーによって検索されたすべてのページのアンカー・テキストの索引付けをします。これは、必ずしもクロール・スペースにすべてのページが含まれるとは限りません。サイトの `robots.txt` ファイルの中の規則で、Web クローラーがそれらのページに行くことが禁止されているために、一部のページが取得されていない可能性もあります。

デフォルトでは、分析と索引付けのプロセスは、`robots.txt` ファイルの内容のとおり、禁止されたページのアンカー・テキストの処理は行いません。このようにして得られた検索結果が良くなければ、たとえページの内容が使用不可であっても、それらのページのアンカー・テキストを伝搬させ、索引付けして、`robots.txt` ファイルを無視する動作に変更できます。これらのページは、アンカー・テキストのみ 文書と呼ばれます。

索引サーバーと Web クローラーのプロパティを設定して、アンカー・テキストのみ文書の処理方法を指定します。

## アンカー・テキストのみ文書処理の使用可能化

`robots.txt` ファイルの中のディレクティブによって クローラーが文書にアクセスすることを禁止されているために、索引から文書を除去する必要がある場合、Web 文書のアンカー・テキストのみ文書の処理を 使用可能にすることができます。

### 説明

Web クローラーは、robots.txt ファイルの中のディレクティブのために URL を検索可能にすべきではないことを示すメタデータ・レコードを保管できます。別の robots.txt 規則を使用して行われた前のクローリングの間に URL が索引に追加された場合は、コンテンツは索引から除去されます。

anchortext.ini と crawl.properties の 2 つの構成ファイルを編集しなければなりません。

## 手順

アンカー・テキストのみ文書の処理を使用可能にするには、次のようにします。

1. 索引サーバーに、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストールの間に指定されました。
2. ES\_INSTALL\_ROOT/configurations/indexer ディレクトリーに移動します。そして、テキスト・エディターで anchortext.ini ファイルを開き、AnchorTextAnchorOnly プロパティーが true に設定されていることを確認します。

この値を変更した場合、その変更は、次回、索引が再編成されたときに有効になります。

3. クローラー・サーバーに、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
4. ES\_NODE\_ROOT/master\_config/crawler session ID ディレクトリーに移動します。そして、テキスト・エディターで crawl.properties ファイルを開き、robots\_exclusion\_return\_code プロパティーに、次の値の 1 つを指定します。

**740** 文書コンテンツが除去された場合でも、アンカー・テキスト参照は索引の中に残ることができます。ファイルの中にこのプロパティーが無い場合、デフォルト値は 740 です。

**4044** 文書コンテンツと共に、索引からアンカー・テキスト参照を除去します。

crawl.properties ファイルに加えた変更は、Web クローラーを停止して再開し、文書を再度クローリングしたときに有効になります。

## 重複文書分析

コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは、コレクションの中の重複文書の識別は行いません。

グローバル分析の間、索引付けプロセスは、互いに重複している、またはほとんど重複している文書を識別します。そして、これらの文書をすべて、コンテンツの 1 つの正規表現に関連付けます。重複文書を識別することで、検索結果に、同じ (あるいはほとんど同じ) コンテンツの複数の文書が入ることがなくなります。

コレクションを作成するときにコレクション・セキュリティーを使用可能にすると、重複文書は識別されず、それらの文書は共通の正規表現に関連付けられません。代わりに、各文書は、別個に索引付けされます。これによって、ユーザーは、ユーザーの信任状とマッチするセキュリティー・トークンの文書のみを検索するこ

とになります。例えば、2つの文書のコンテンツがほとんど同じかもしれませんが、異なるアクセス制御リストを使用して、セキュリティを施行します。

重複文書分析を使用不可にすればコレクションの中の文書のセキュリティは強化されますが、1つの照会の検索結果の中に同じ文書の複数のコピーが返されると、検索の質は低下するかもしれません。

## 検索アプリケーション ID を使用したセキュリティ

コレクション・レベルのセキュリティを提供するために、各コレクションを検索できる検索アプリケーションを指定します。

すべての検索アプリケーションは、アプリケーション ID をエンタープライズ・サーチ API に渡す必要があります。エンタープライズ・サーチ管理者と検索アプリケーションは、この ID を使用して、コレクション・レベルのセキュリティを施行できます。

検索アプリケーションがコレクションにアクセスして検索を開始する前に、エンタープライズ・サーチ管理者は、検索アプリケーションを、それが検索できる特定のコレクションに関連付ける必要があります。検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのコレクションにアクセスできるか、あるいは、アクセスを特定のコレクションに制限されています。

アクセス制御を強制するには、ユーザー ID またはグループ ID のセットを検索アプリケーションに関連付けて、それらのユーザーのみがアプリケーションにアクセスでき、コレクションを検索できるようにします。例えば、ユーザーの検索アプリケーションを起動する URL にアクセスを制限することができます。

検索アプリケーション ID の詳細と、ユーザーのカスタム検索アプリケーションにセキュリティ管理を組み込む方法は、エンタープライズ・サーチで使用できる検索および索引作成用 API の説明を参照してください。

### 関連概念

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』  
検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

検索および索引作成用 API (SI-API)

---

## ユーザーが全文書にアクセスできるようにする

セキュリティ・トークンが文書と関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのユーザーがコレクション内のすべての文書を検索できるようにする オプションを指定できます。

### 前提条件

コレクション内のすべての文書へのアクセスを全ユーザーに許可するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。


## 説明

クローラーを構成する際に、クローリング対象の文書にセキュリティー・トークンを関連付けることができます。検索アプリケーションは、これらのトークンを使用して、ユーザーがコレクションを検索する際にアクセス制御を施行できます。すべてのユーザーが検索できるようコレクションを開放したい場合、照会と共に渡されたセキュリティー・トークンを検索サーバーが無視するように強制してコレクション内の全文書へのアクセスを全ユーザーに許可するオプションを指定できます。

新規コレクションをテストする場合や、検索アプリケーションにおけるセキュリティー処理の問題をトラブルシューティングする必要がある場合などに、このオプションを選択するのが望ましいことがあります。

## 手順

コレクション内の全文書を全ユーザーが検索できるようにするには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、管理したいコレクションを見つけ、「 **編集**」をクリックします。
3. 「**検索**」ページで、「**全ユーザーが全文書を検索できるようにする (アクセス制御を使用しない)**」チェック・ボックスを選択します。

クローラーは文書にセキュリティー・トークンを追加し続けますが、検索サーバーはトークンを無視し、全ユーザーがコレクション内の全文書を検索できるようにします。

4. 「**適用**」をクリックします。

---

## 第 13 章 エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合

IBM WebSphere Portal の検索機能は、WebSphere Portal および WebSphere Portal Search Center にエンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、その機能を拡張することができます。

### 統合の設定ポイント

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal に統合するには、次のようにいくつかの方法があります。

#### WebSphere Portal

WebSphere Portal には、ユーザーがアプリケーション、コンテンツ、プロセス、および人物と相互通信を行う単一のアクセス・ポイントがあります。この WebSphere Portal フレームワークにより、ポートレットと呼ばれる新規のアプリケーションを、他のポータル内のアプリケーションに影響を与えることなく統合し、デプロイすることができます。

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal にデプロイすれば、WebSphere Portal インターフェースからエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。WebSphere Portal の構成設定により、エンタープライズ・サーチ・ポートレットのロック・アンド・ファイルは WebSphere Portal 環境の他のポートレットと同じ状態に保たれます。

#### Portal Search Engine

WebSphere Portal Search Engine は、Web サイト、Lotus Notes データベース、およびファイル・システムをクロールします。管理ポートレットを使用すれば、管理者は索引付けされたコレクションを作成することができ、さらに検索ポートレットにより、作成されたコレクションをユーザーが検索できるようにします。

WebSphere Portal Version 5.0.2 またはそれ以降のバージョンを使用している場合、Portal Search Engine コレクション用の構成および分類をエンタープライズ・サーチにマイグレーションすることができます。

WebSphere Portal Version 5.1 またはそれ以降のバージョンを使用している場合、Portal Search Engine 文書検索ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。構成プロパティを利用すれば、管理者が必要に応じて 2 つの検索機能を簡単に切り替えられるようにすることができます。

#### WebSphere Portal Search Center

WebSphere Portal Search Center は、WebSphere Portal で検索が可能になっているすべてのソースを検索するときを中心となる起点です。この Search Center およびユニバーサル検索ポートレットを使用すれば、WebSphere Portal コンテンツ、および管理者が Search Center に登録したその他すべてのコレクションを検索することができます。



Search Center にはページ式のインターフェースがあります。利用できるすべてのコレクションの検索は、1 つの共通ページから行うこともできますし、個別のコレクションを検索するページを選択して行うこともできます。例えば、Portal Search Engine 索引のページ、Portal Document Management ライブラリーのページなどがあります。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを Search Center から検索できるようにするため、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind) には、アダプターおよび登録ポートレットが付属しています。アダプターによってエンタープライズ・サーチのページが Search Center インターフェースに追加され、登録ポートレットによってエンタープライズ・サーチ・ポートレットが Search Center に登録されます。

### 統合による利点

エンタープライズ・サーチによって、より広いデータ・ソース・タイプの検索がサポートされ、WebSphere Portal 検索環境が拡張されます。Portal Search Engine ポートレットでは、Web、Notes、およびファイル・システム・ソースだけしか検索できません。エンタープライズ・サーチ・ポートレットを使用することにより、これらのタイプのソースに加え、エンタープライズ・サーチでサポートされる他のすべてのデータ・ソース・タイプを検索することができます。

また、エンタープライズ・サーチには、スケーラビリティの面でも利点があります。Portal Search Engine は、シングル・サーバーで十分に検索負荷をサポートできる中小規模の企業に便利です。これに対し、エンタープライズ・サーチでは、大規模な企業レベル能力をサポートするため、4 つのサーバー (データのクロールに 1 基、データの解析と索引作成に 1 基、および検索処理サポートに 2 基) に負荷を分散します。

### ポートレットのデプロイメント概要

エンタープライズ・サーチに使用されるポートレットは、使用する WebSphere Portal のバージョンによって異なります。

#### WebSphere Portal バージョン 5.0.2

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイし、これをエンタープライズ・サーチ・コレクションに使用することができます。このポートレットは、Portal Search Engine ポートレットと共存できます。

#### WebSphere Portal バージョン 5.1

- エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイし、これをエンタープライズ・サーチ・コレクションに使用することができます。このポートレットは、Portal Search Engine ポートレットと共存できます。
- エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイ後、文書検索ポートレットを Portal Search Engine に構成すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できるようになります。
- エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal Search Center に登録すれば、Search Center を使用してエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できます。この場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションだけを検索するページを選択することもできますし、エ

エンタープライズ・サーチ・コレクションおよび Search Center で利用できる他のすべてのコレクションを検索する照会を入力することもできます。

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイするには、ポートレットを WebSphere Portal カタログ Web サイトからダウンロードし、WebSphere Portal の標準的なポートレット・デプロイメント手順に従ってデプロイします。カタログにポートレットと併せて収められている README ファイルを参照すれば、ポートレットの使用およびインプリメンテーションに関する追加情報を確認できます。

WebSphere Portal 用のエンタープライズ・サーチ・ポートレットに関する最新情報については、DB2 II OmniFind の README ファイルを参照してください。

#### 関連概念

143 ページの『第 14 章 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション』

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに分類構造および コレクションをマイグレーションするときを使用するマイグレーション・ウィザードが用意されています。

---

## WebSphere Portal へのエンタープライズ・サーチ・ポートレットのデプロイ

エンタープライズ・サーチ・ポートレットは IBM WebSphere Portal の ポートレット・カタログ Web サイトからダウンロードできます。

#### 手順

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal にデプロイするには、次のようにします。

1. DB2 II OmniFind の README ファイルにエンタープライズ・サーチ・ポートレットの最新情報がありますので、このファイルを確認します。この README ファイルには、ポートレットの最新情報、およびそれらが WebSphere Portal のポートレット・カタログにどのようにリストされているかが記載されています。
2. 次のサイトにある WebSphere Portal ポートレット・カタログにアクセスします。

<http://catalog.lotus.com/wps/portal/portalworkplace>

3. エンタープライズ・サーチ・ポートレットに付属している README ファイルの内容を確認します。この README ファイルには、システム要件、構成、およびデプロイメントに関する現行情報が記載されています。
4. WebSphere Portal の標準的なポートレット・デプロイメント手順に従って、エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイします。

---

## エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するための Portal Search Engine の構成

WebSphere Portal Search Engine に文書検索ポートレットを構成すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。

### 前提条件

Portal Search Engine を構成してポートレットを使用するには、エンタープライズ・サーチ・ポートレットが WebSphere Portal にデプロイされていなければなりません。

### 説明

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイした後で、Portal Search Engine を使用して索引付けされたデータを WebSphere Portal で検索できます。ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できるようにするには、WebSphere Portal 管理者が Portal Search Engine 構成のプロパティを編集します。これら 2 つの検索機能が共存することによって、その 2 つの機能を切り替え、ニーズに合った適切な検索ソリューションを選択して使用できます。

### 手順

エンタープライズ・ポートレットを使用できるように Portal Search Engine を構成する方法に関する具体的な説明については、DB2 II OmniFind README ファイルを参照してください。

---

## Portal Search Engine での文書レベル・セキュリティ

IBM WebSphere Portal Search Engine を使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティを施行することができます。

エンタープライズ・サーチ・クローラーが、クロール対象の文書にグループ ID セキュリティー・トークンを関連付け、Portal Search Engine の文書検索ポートレットを、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するように構成した場合、Portal Search Engine ではログインしたユーザーのグループ ID を抽出して、照会したそのグループ ID に対するセキュリティ・トークンをエンタープライズ・サーチに渡すことができます。セキュリティ・トークンにより、ユーザーに表示を許可された文書だけが検索結果に戻されるようになります。

クローラーが、ユーザー ID またはユーザー役割など、グループ ID とは別のセキュリティ・トークンを文書に関連付けており、かつ、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティを施行したい場合は、カスタム検索ポートレットを作成する必要があります。Portal Search Engine では、グループ ID のセキュリティ・トークンしか抽出されません。

### 関連概念

69 ページの『第 6 章 エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』  
検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレ

クシヨンの 検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

131 ページの『文書レベルのセキュリティー』

文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。



---

## 第 14 章 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに分類構造およびコレクションをマイグレーションするときに使用するマイグレーション・ウィザードが用意されています。

分類構造およびコレクションをマイグレーションする場合、エンタープライズ・サーチ索引サーバーでマイグレーション・ウィザードを実行します。分類構造をマイグレーションすると、その分類をエンタープライズ・サーチ・コレクションで使用することができます。また、エンタープライズ・サーチを使用して、WebSphere Portal からマイグレーションしたコレクションを管理、検索することもできます。

エンタープライズ・サーチでは、分類構造はカテゴリリー・ツリーと言います。ルール・ベースの分類構造をマイグレーションした場合、それをカテゴリリー・ツリーとしてエンタープライズ・サーチ管理コンソールで管理することができます。モデル・ベースの分類構造をエンタープライズ・サーチで使用するには、索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされていなければなりません。

分類構造およびコレクションをマイグレーションしたい場合は、必ずモデル・ベースの分類ファイルを先にマイグレーションしてからコレクションをマイグレーションしてください。このようにしないと、モデル・ベースのカテゴリリー化が WebSphere Portal からマイグレーションするコレクションについて適切に機能しなくなります。

### 関連概念

137 ページの『第 13 章 エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合』

IBM WebSphere Portal の検索機能は、WebSphere Portal および WebSphere Portal Search Center にエンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、その機能を拡張することができます。

---

## WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション

ご使用の WebSphere Portal システムの分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類構造を選択してもその影響を受けることはありません。

### 説明

モデル・ベースの分類構造をマイグレーションする場合、WebSphere Portal の分類構造を選択し、エクスポートする必要があります。それから、エンタープライズ・サーチのマイグレーション・ウィザードを使ってその分類構造をエンタープライズ・サーチにマイグレーションします。

### 手順



モデル・ベースの分類構造を WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーションするには、次のようにします。

1. 現行のモデル・ベースの分類構造を WebSphere Portal 分類管理ポータルからエクスポートします。分類構造は、次の XML ファイルで構成されています。

```
synonyms.xml
titles.xml
treenodes.xml
```

2. これらのファイルをエンタープライズ・サーチ索引サーバーにコピーします。
3. エンタープライズ・サーチ索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
4. エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーに移動します。

```
UNIX: cd $ES_INSTALL_ROOT/bin
Windows: cd %ES_INSTALL_ROOT%\bin
```

5. 次のコマンドを入力してマイグレーション・ウィザードを開始し、「次へ」をクリックします。

```
UNIX: ./eswpsmigrate.sh
Windows: eswpsmigrate.bat
```

マイグレーション・ウィザードの実行中はエンタープライズ・サーチ・コレクションを作成しないでください。

6. 「**WebSphere Portal からモデル・ベースの分類ファイルをインポートする**」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. マイグレーション・ウィザードを初めて使用する場合は、WebSphere Application Server および WebSphere Portal がインストールされているパスをそれぞれ指定します。「次へ」をクリックします。
8. モデル・ベースの分類ファイルのあるディレクトリーをブラウズして探し、モデル・ベースの分類を使用するためにマイグレーションする必要がある XML ファイル (synonyms.xml、 titles.xml、 および treenodes.xml) を選択して、「次へ」をクリックします。

エラーが発生した場合、マイグレーション・ウィザードがインストールされているディレクトリーにある MigrationWizard.log ファイルを参照してください。

#### 関連概念

87 ページの『モデル・ベースのカテゴリー』

IBM WebSphere Portal システムで、モデル・ベースのカテゴリーを使用している場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションでも それらのカテゴリーを継続して使用することができます。

## WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション

WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal に コレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使って準備したコレクションをマイグレーションします。

### 手順

コレクションを WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーションするには、次のようにします。

1. WebSphere Portal Search Engine で、マイグレーションするコレクションのすべてのクローラー・プロセスを停止し、保留中のすべての文書を承認または拒否します。(エンタープライズ・サーチでは、保留中の文書という概念はサポートしません。)
2. マイグレーションする各コレクションについて、Portal Search Engine ポートレットを使用して その設定を XML ファイルにエクスポートします。
3. エンタープライズ・サーチ索引サーバーが別のサーバーにインストールされている場合は、エクスポートした XML ファイルを索引サーバーにコピーします。
4. エンタープライズ・サーチ索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
5. エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーに移動します。

UNIX: cd \$ES\_INSTALL\_ROOT/bin

Windows: cd %ES\_INSTALL\_ROOT%\bin

6. 次のコマンドを入力してマイグレーション・ウィザードを開始し、「次へ」をクリックします。

UNIX: ./eswpsmigrate.sh

Windows: eswpsmigrate.bat

7. 「WebSphere Portal の Portal Search Engine から検索設定をマイグレーションする」を選択し、「次へ」をクリックします。
8. エクスポートされた Portal Search Engine 構成ファイルがあるディレクトリーを参照し、マイグレーションしたいファイルを選択して「次へ」をクリックします。選択された構成ファイルが分析、検証されます。
9. コレクションごとに次の情報を入力し、「次へ」をクリックすると、コレクションのエンタープライズ・サーチへのマイグレーションが開始されます。
  - エンタープライズ・サーチで使用するコレクションの名前。
  - コレクションで文書の重要度を判断するための基準。この静的ランキング要素は、なし、文書日付基準、他の Web 文書からの Web 文書へのリンク基準のいずれかにすることができます。
  - このコレクションに使用するカテゴリーのタイプ。カテゴリーなし、ルール・ベースのカテゴリー、またはモデル・ベースのカテゴリーのいずれかを選択できます。

ルール・ベースのカテゴリを選択した場合、WebSphere Portal コレクションの分類と規則がエンタープライズ・サーチにマイグレーションされます。

モデル・ベースのカテゴリを選択できるのは、あらかじめモデル・ベースの分類を WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーションしてある場合に限られます。

マイグレーション時にエラーが発生した場合、マイグレーション・ウィザードがインストールされているディレクトリーにある MigrationWizard.log ファイルを参照してください。

これで、マイグレーションされたエンタープライズ・サーチ・コレクションに追加設定を構成し、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、コレクション・プロセスを開始することができます。

10. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、マイグレーション済みコレクションに対してクローल、解析、および索引作成プロセスを開始します。
11. マイグレーション済みコレクションがエンタープライズ・サーチで検索できるとわかったら、Portal Search Engine にある元のコレクションを削除します。
12. オプション: WebSphere Portal 管理者が、WebSphere Portal のポータルからマイグレーションしたコレクションをユーザーが検索できるようにしたい場合は、以下のステップを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal システムにデプロイします。

WebSphere Portal Server クラスターでは、この作業は WebSphere Application Server Deployment Manager がインストールされているサーバーに対して行う必要があります。WebSphere Portal Server クラスターの他のサーバーには、この Deployment Manager によってエンタープライズ・サーチ・ポートレットが配布されます。

- b. エンタープライズ・サーチ・ポートレットを該当するポータル・ページに追加します。

WebSphere Portal では、検索ポートレットのアクセス制御が、特定ページおよびポートレットに対するアクセスによってモデル化されています。コレクション設定はマイグレーションされますが、ポートレットは WebSphere Portal Server 管理者によって手動で配置する必要があります。

### 関連概念

21 ページの『第 3 章 エンタープライズ・サーチ・コレクション』

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。

86 ページの『ルール・ベースのカテゴリ』

エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書をカテゴリに関連付ける場合、規則を構成して どの文書を関連付けるか制御することができます。

87 ページの『モデル・ベースのカテゴリ』

カテゴリ・ツリーを使用すると、コレクション内のルール・ベースのすべてのカテゴリを表示できます。カテゴリ・ツリーを使って、カテゴリの作成、カテゴリの削除、およびカテゴリに文書を関連付けるときの 規則を編集することもできます。

97 ページの『静的ランキング』

文書のタイプによっては、文書の重要度に加算する静的ランキング要素を検索結果に設定することができます。

---

## マイグレーションされたコレクションの設定

IBM WebSphere Portal からコレクションをマイグレーションすると、マイグレーション・ウィザードにより、コレクション およびクローラーに対するデフォルト設定が作成されます。

Portal Search Engine コレクションとエンタープライズ・サーチ・コレクションに同じ設定がある場合、ウィザードでは、コレクションのエンタープライズ・サーチへのマイグレーション時に Portal Search Engine の設定を使用します。エンタープライズ・サーチだけにある設定については、コレクションのマイグレーション時に指定した設定、または、エンタープライズ・サーチのコレクションに対するデフォルト設定が使用されます。

### Portal Search Engine とエンタープライズ・サーチの両方にある設定

マイグレーション・ウィザードは、マイグレーション対象の各コレクションについて、以下の設定をマイグレーションします。

- Portal Search Engine コレクション内の Portal Search Engine サイト
- コレクション言語
- 分類構造 (カテゴリー・ツリー)、およびエンタープライズ・サーチ・コレクションでルール・ベースのカテゴリーを使用する場合はルール・ベース・カテゴリーの規則

コレクション内の各 Portal Search Engine サイトは、エンタープライズ・サーチ Web クローラーに統合されます。マイグレーション・ウィザードは、以下のクローラー設定をマイグレーションします。

- 開始 URL
- 並行クロール・プロセスの数
- クロールの深さ
- 文書検索のタイムアウト値 (秒)
- デフォルトの文字セット
- クロール対象への組み入れ規則および対象からの除外規則

### エンタープライズ・サーチだけにある設定

コレクションをマイグレーションする場合、そのコレクションに関する情報を指定します。マイグレーション・ウィザードでは、それらの設定をマイグレーションし、コレクションに対するエンタープライズ・サーチのデフォルト設定を使用して、マイグレーションした各コレクションを構成します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、このコレクションおよびクローラー構成を変更することができます。括弧内に示された値は、マイグレーションされたデータに対するデフォルト設定です。

- コレクション名

- 文書のランキング方法: 文書日付など
- 使用されるカテゴリ化のタイプ: ルール・ベース、カテゴリ化なし、など
- 検索キャッシュを使用するかどうか、および検索キャッシュが保持できる照会および検索結果数 (使用する、5,000)
- 検索応答時間をモニターし、限度を超えたらアラートを発行するかどうか (モニターする、限度 5 秒)
- アクセス制御を使用するかどうか (しない)
- 索引のリフレッシュ・スケジュール
- 索引の再編成スケジュール
- ログの詳細レベル (すべてのメッセージ)

また、マイグレーション・ウィザードでは、各クローラーに対して以下の設定を作成します。

- クローラー名
- クローラーの説明
- 最大ページ長
- 文書セキュリティ設定
- データ・ソース・タイプで該当する場合、クロールする必要がある文書の MIME タイプ

---

## マイグレーション・ウィザードのログ・ファイル

マイグレーション・ウィザードでは、すべてのメッセージを、マイグレーション・ウィザードがインストールされているディレクトリーにある `WpsMigratorLog.log` ファイルに書き込みます。

マイグレーション済みの各コレクションについて、`WpsMigratorLog.log` ログ・ファイルには、`WebSphere Portal Search Engine` から読み込まれたすべての設定値、およびそれらの設定値がエンタープライズ・サーチ・コレクションにインポートされた場所が格納されています。

---

## 第 15 章 エンタープライズ・サーチのバックアップおよびリストア

エンタープライズ・サーチ・システムは、バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトを使用することによって、バックアップおよびリストアすることができます。

回復不能エラーによってシステムが障害を起こした場合、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition を再インストールし、リストア・スクリプトを実行する必要があります。また、これらのスクリプトは、1 つまたは複数の新規サーバーに対して基本的な必須システム・ファイルをリストアする場合に使用することもできます。

これらのスクリプトは、次のファイルをバックアップおよびリストアします。

- ES\_NODE\_ROOT/master\_config ディレクトリーの構成ファイル
- クローラーのデータベース・ファイル
- 索引作成ファイル

システムをバックアップする場合、バックアップ・ディレクトリー (*backup\_directory*) の下に以下のサブディレクトリーが作成されます。

### **master\_config**

ES\_NODE\_ROOT/master\_config ディレクトリーの構成ファイルが保管されます。

### **database**

クローラー・サーバーのデータベース・ファイルが保管されます。

**data** 索引サーバーの索引作成ファイルが保管されます。

エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを別のディレクトリーにバックアップする場合、十分なディスク・スペースを確保する必要があります。バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトでは、ファイルのチェックは行いません。また、バックアップを開始すると、ほとんどのシステム・セッションは一時的に使用不可になりますが、検索プロセスは継続して実行されます。バックアップの実行は、最新の索引が保管されるようにするため、索引を再編成してから行うようにしてください。

複数サーバーがインストールされているシステムの場合、システムのバックアップおよびリストアは、エンタープライズ・サーチ索引サーバーから行ってください。索引サーバーは DB2 カタログを作成するため、索引サーバーならばクローラー・サーバーの DB2 表にアクセスし、それらをバックアップすることができます。



---

## エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップ

エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップは、UNIX の場合 esbackup.sh スクリプトを、Microsoft Windows の場合は esbackup.bat スクリプトを使用して行います。

### 手順

エンタープライズ・サーチ・システムをバックアップするには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
2. 次のコマンドを入力します。

UNIX: esbackup.sh -c -d -i backup\_directory

Windows: esbackup.bat -c -d -i backup\_directory

指定できるオプションは、次のとおりです。

- c 構成ファイルをバックアップします。このオプションがデフォルトです。
- d データベース内のクロール済み文書をバックアップします。
- i 索引ファイルをバックアップします。

---

## エンタープライズ・サーチ・システムのリストア

システム構成ファイルは、DB2 II OmniFind を、esrestore.sh スクリプト (UNIX) または esrestore.bat スクリプト (Microsoft Windows) を使用して再インストール後、リストアすることができます。

### 手順

バックアップ・データからエンタープライズ・サーチ・システムをリストアするには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
2. 共通通信層 (CCL) が開始されていない場合、これを開始します。

UNIX: startccl.sh -bg

Windows: startccl.bat

Windows のみ: CCL をバックグラウンドで開始するには、「スタート → プログラム → 管理ツール → サービス」の順にクリックし、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

3. コントローラーが稼働中の場合は、次のコマンドによってこれを停止します。

esadmin stop

4. 次のコマンドを入力します。

UNIX: `esrestore.sh -c -d -i backup_directory`  
Windows: `esrestore.bat -c -d -i backup_directory`

指定できるオプションは、次のとおりです。

- c 構成ファイルをリストアします。
- d データベース中のクロール済みの文書をリストアします。
- i 索引ファイルをリストアします。

---

## エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを新規のサーバーにリストアする

システム・ファイルをあるエンタープライズ・サーチ・サーバーからバックアップして、そのシステム・ファイルを現行サーバーではなく、1 基または複数の新規のサーバーにリストアすることもできます。

### 前提条件

リストア・スクリプトを実行するには、あらかじめ DB2 II OmniFind を対象となる新規のサーバーにインストールしておく必要があります。

### 説明

ES\_NODE\_ROOT/master\_config/nodes.ini ファイルに格納されているサーバー情報は、バックアップ・ファイルには含まれていません。

### 手順

1 基または複数の新規のサーバーにエンタープライズ・サーチのシステム・ファイルをリストアするには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
2. バックアップ・スクリプトを現行 (リストア元) 索引サーバーに対して実行します。

UNIX: `esbackup.sh`  
Windows: `esbackup.bat`

3. FTP プログラムを使用して、`backup_directory` のすべてのファイルを新規の索引サーバーに送信します。
4. 新規の索引サーバーに対してリストア・スクリプトを実行します。

UNIX: `esrestore.sh`  
Windows: `esrestore.bat`



---

## 第 16 章 エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理

コレクションおよびシステムに対してログを記録するときのメッセージのタイプを選択し、ログ・ファイルの作成、表示オプション、およびメッセージに関する E メール受信のオプションを指定することができます。

通常運用では、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、メッセージを共通のログ・ファイルに書き込みます。このログ・ファイルは、索引サーバーの `ES_NODE_ROOT/logs` ディレクトリにあります。管理コンソールを使用すれば、この共通ログ・データを表示することができます。

ネットワーク通信障害などの問題が発生すると、当該コンポーネントは、そのコンポーネントがインストールされているサーバーの `logs` ディレクトリにログ・メッセージを書き込みます。これらのローカル・ログ・ファイルを表示するには、UNIX システムの `tail` ユーティリティなど、当該コンピューターのファイル・ビューアーを使用してください。このタイプのログ・ファイルの表示に管理コンソールを使用することはできません。

ログ・ファイルの構成時には、ログに記録するメッセージのタイプ (エラー・メッセージ、警告メッセージなど) の選択、古くなったログ・ファイルを廃棄して新規のログ・ファイル用のスペースを確保する場合の廃棄頻度の指定、ログ・ファイルの最大サイズの指定、およびメッセージ言語の選択を行うことができます。また、特定のメッセージまたは特定タイプのメッセージがログに記録された場合に、必ず E メールを受信するようにするオプションを指定することもできます。

ログ・ファイルをモニターする場合、開きたいログ・ファイルを選択できます。ログ・ファイルの内容をフィルターに掛けて、特定の重大度レベル (エラー・メッセージだけにするなど) のメッセージ、または特定のコンポーネントが生成したメッセージだけを表示するように設定することができます。ログ・ファイルを表示する場合、個別のメッセージの詳細を表示することができます。例えば、メッセージを生成した機能名、その他問題に対処するときに役に立つ情報を必要に応じて確認することができます。

---

### ログ・ファイルの構成

ログに記録したいメッセージのタイプを指定し、ログ・ファイル作成のオプションを指定できます。

#### 前提条件

コレクション・レベルのログ・ファイルを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。システム・レベルのログ・ファイルを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者である必要があります。


#### 説明

ログ・ファイルが消費するディスク・スペースが大きくなりすぎるのを防止するために、システムはログ・ファイルを循環させ、現在日付が変わるたびに新しいログ・ファイルを開始します。1つのログ・ファイルが許容最大サイズに達し、日付が変わっていない場合、システムは新しいログ・ファイルを作成します。ログ・ファイルの最大数に達した場合、新しいログ・ファイルを作成できるように、最も古いログ・ファイルが廃棄されます。

ログに記録されたメッセージについての E メールを受信するには、まず E メールが配信される方法に関する情報を指定します。次に、どのメッセージについて E メールを受信したいのかを指定します。

## 手順

エンタープライズ・サーチ・ログ・ファイルを構成するには、次のようにします。

1. システム・レベルのログ・ファイルの作成と循環についてのオプションを構成したい場合、次のようにします。
  - a. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. 「ログ」ページを選択します。
2. コレクション・レベルのログ・ファイルの作成と循環についてのオプションを構成したい場合、次のようにします。
  - a. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクション・リストで、オプションを指定したいコレクションを見つけ、「 編集」をクリックします。
3. 「ログ」ページの「ログ対象の情報タイプ」フィールドで、ログに記録したいメッセージのタイプを選択します。

### エラー・メッセージのみ

エラー・メッセージは、望ましくない状態または予期しない動作が発生したこと、処理が継続できないことを示します。何らかの処置を実行して問題を解決する必要があります。

### エラーおよび警告メッセージ

警告メッセージは、起こりうる競合または不整合を示しますが、そのために処理が停止するわけではありません。このオプションがデフォルトです。

### すべてのメッセージ

情報メッセージは、システムまたは現行タスクの一般情報を示し、修正処置は何も必要ありません。

4. 「各ログ・ファイルの最大サイズ」フィールドに、各ログ・ファイルの最大サイズを M バイトで入力します。デフォルト値は 5 MB です。

ログ・ファイルがこのサイズに達すると、ログ・ファイルの許容最大数に達するまで新しいログ・ファイルが作成されます。ログ・ファイルを比較的小さいサイズにしておくと、表示して調べるときの効率がよくなります。

5. 「ログ・ファイルの最大数」フィールドに、作成したいログ・ファイルの最大数を入力します。デフォルト値は 10 です。

古いログ・メッセージも検討できるよう保存しておきたい場合は、この値を増やしてください。関心があるのは最近のメッセージであり、長期間のアクティビティ履歴を保持する必要がない場合は、この値を減らしてください。

6. 「**デフォルト・ロケール**」フィールドで、ログ・メッセージに使用したい言語を選択します。デフォルト値は英語です。
7. 特定のメッセージまたは特定のメッセージ・タイプがログに記録されたら自動的に E メールを受信したい場合、「**メッセージに対する E メール・オプションの構成**」をクリックすると、メッセージを受信するためのオプションを指定できます。
8. 「**適用**」をクリックします。

---

## ログ・メッセージについての E メール受信

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

### 前提条件

コレクション・レベルのメッセージについての E メール・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバーのオプションを構成するか、システム・レベルのメッセージについての E メール・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

### 説明

アラートの構成では、特定のイベントが発生したらメッセージをログに記録するというオプションを選択できます。それらのオプションを使用可能にした場合、それらのメッセージがログに記録されたら自動的に E メールを受信するというオプションを構成できます。また、イベントに起因するメッセージだけでなく、他のメッセージがログに記録されたときに E メールを受信するというオプションを指定することもできます。

ログに記録されたメッセージについての E メールを受信するには、まず E メールが配信される方法に関する情報を指定します。次に、どのメッセージについて E メールを受信したいのかを指定します。

### 手順

メッセージについての E メール・オプションを構成するには、次のようにします。

1. E メール配信オプションを構成します。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. 「ログ」ページで、「**メッセージに対する E メール・オプションの構成**」をクリックします。



- c. 「システム・メッセージに対する E メール・オプションの構成」ページで、「E メール配信に使用する SMTP メール・サーバー」フィールドに、使用したい SMTP サーバーの完全修飾ホスト名または IP アドレスを入力します。

エンタープライズ・サーチは、このサーバーを使用して、指定したアドレスに E メールを送信します。

- d. 「Eメールの確認頻度」フィールドに、適格メッセージのチェックとそれらに関する Eメールの送信をシステムが行う頻度を指定します。

システムは、1つの特定の Eメール・アドレス向けのメッセージはすべて結合して1つのメッセージにし、指定した頻度でそのメッセージを送信します。

- e. 「OK」をクリックします。

2. システム・メッセージに関する Eメール受信のオプションを構成するには、次のようにします。

- a. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- b. 「ログ」ページで、「メッセージに対する Eメール・オプションの構成」をクリックします。
- c. 「システム・メッセージに対する Eメール・オプションの構成」ページで、「システム・レベル・メッセージのアラートを使用可能にする」チェック・ボックスを選択します。
- d. 「アラート受信用 Eメール・アドレス」フィールドに、1つ以上の Eメール・アドレスを入力します。通常、エンタープライズ・サーチ管理者は、システム・メッセージに関する情報を受信する必要があります。

各アドレスはコンマで区切ってください。例:

steinbeck@us.ibm.com, yeats@ireland.ibm.com, dante@it.ibm.com


- e. ログに記録されるすべてのエラー・メッセージについて Eメールを受信したい場合は、「全エラー・メッセージ」チェック・ボックスを選択します。
- f. 特定のシステム・レベルのメッセージがログに記録されたときのみ Eメールを受信したい場合は、それらのメッセージのメッセージ ID を入力します。1行につき1つのメッセージ ID を入力してください。例:

FFQC4819E  
FFQ00005E

システム・レベルのアラートを使用可能にした場合、このフィールドには、モニター対象イベント発生時にログに記録されるメッセージのメッセージ ID がすでに入っています。

- g. 「OK」をクリックします。

3. 特定のコレクションのメッセージに関する Eメール受信のオプションを構成するには、次のようにします。

- a. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
- b. コレクション・リストで、オプションを指定したいコレクションを見つけ、「 編集」をクリックします。

- c. 「ログ」 ページで、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックします。
- d. 「コレクション・メッセージに対する E メール・オプションの構成」 ページで、「コレクション・レベル・メッセージのアラートを使用可能にする」 チェック・ボックスを選択します。
- e. 「アラート受信用 E メール・アドレス」 フィールドに、1 つ以上の E メール・アドレスを入力します。通常、コレクション管理者は、コレクション・レベルのメッセージに関する情報を受信する必要があります。

各アドレスはコンマで区切ってください。例:

```
steinbeck@us.ibm.com, yeats@ireland.ibm.com, dante@it.ibm.com
```

- f. ログに記録されるすべてのエラー・メッセージについて E メールを受信したい場合は、「全エラー・メッセージ」 チェック・ボックスを選択します。
- g. 特定のシステム・レベルのメッセージがログに記録されたときのみ E メールを受信したい場合は、それらのメッセージのメッセージ ID を入力します。1 行につき 1 つのメッセージ ID を入力してください。例:

```
FFQC4819E
FFQ00005E
```

コレクション・レベルのアラートを使用可能にした場合、このフィールドには、モニター対象イベント発生時にログに記録されるメッセージのメッセージ ID がすでに入っています。

- h. 「OK」 をクリックします。

#### 関連タスク

106 ページの『コレクション・レベル・アラートの構成』

アラートを構成することによって、特定のコレクション・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらの イベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

107 ページの『システム・レベル・アラートの構成』

アラートを構成することによって、特定のシステム・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらの イベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

---


## ログ・ファイルの表示


システムおよびコレクション・コンポーネントが共通ログ・ファイルに書き込む ログ・メッセージを表示できます。特定の重大度レベルのメッセージおよび特定のコンポーネントからのメッセージを表示するように、フィルターを指定することもできます。


#### 前提条件

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、管理を認可されているコレクションのログ・ファイルを表示できます。システム・レベルのログ・ファイルを表示するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

### 手順

1. 単一のコレクションのログ・ファイルを表示するには、次のようにします。
  - a. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクション・リストで表示したいコレクションを見つけ、「 **モニター**」をクリックし、「ログ」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集途中であり、すでに「ログ」ページが表示されている場合は、「 **モニター**」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに変更できます。


2. システム・レベルのログ・ファイルを表示するには、次のようにします。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. 「 **モニター**」をクリックしてシステムをモニターするためのビューに変更し、「ログ」ページを開きます。
3. 「**ログ・ファイル**」フィールドで、表示したいログ・ファイルを選択します。

各ログ・ファイルの名前には、ログ・ファイルのタイプ (システムまたはコレクション ID など)、作成日、その日の作成順を示す数値が含まれています。例:

```
log_file_type_2004-05-26_1.log
log_file_type_2004-05-26_2.log
log_file_type_2004-05-25_1.log
log_file_type_2004-05-25_2.log
log_file_type_2004-05-25_3.log
```

4. 特定の重大度レベルのメッセージのみを表示したい場合は、「**重大度**」フィールドで適切なチェック・ボックスを選択します。
5. 特定のコンポーネントからのメッセージのみを表示したい場合は、「**コンポーネント**」フィールドで適切なチェック・ボックスを選択します。
6. 「**ログの表示**」をクリックします。

ログ・ファイルが表示されます。それぞれのメッセージごとに、メッセージが発行された日付、メッセージ重大度レベル、メッセージを発行したコンポーネント、メッセージ ID とエラー・テキストが表示されます。

7. 特定のメッセージについて詳しい情報を見たい場合は、「 **詳細**」をクリックします。

その特定のメッセージに関する詳細が表示されます。メッセージが発生したエンタープライズ・サーチ・サーバーのホスト名、エラーを発生させたファイルの名前、エラーが発生した関数および行番号、プロセス ID、スレッド ID が表示されます。

---

## 第 17 章 エンタープライズ・サーチにおける URI フォーマット

エンタープライズ・サーチ・コレクション内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

コレクションのカテゴリ、有効範囲、クイック・リンクを構成する際、URI および URI パターンを指定できます。また、索引から文書を除去する必要がある場合、または、特定の URI に関する詳細状況情報を表示する必要があるときにも、URI を指定します。

文書の URI または URI パターンを判別するには、コレクションを検索してください。検索結果内の URI をクリックすれば、興味のある文書を取得できます。検索結果から URI をコピーして、その URI をエンタープライズ・サーチ管理コンソールで使用できます。例えば、URI、または URI に基づいたパターンを指定して、その URI に一致する文書が、エンタープライズ・サーチ・カテゴリに自動的に関連付けられるようにできます。

### Content Manager クローラー

Content Manager クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`cm://Server Name/Item Type Name/PID`

#### パラメーター

*Server Name*

IBM DB2 Content Manager ライブラリー・サーバーの名前。

*Item Type Name*

ターゲット項目タイプの名前。

*PID* DB2 Content Manager 永続 ID。

### DB2 クローラー

DB2 クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`db2://Database Name/Table Name  
/Unique Identifier Column Name1/Unique Identifier Value1  
[/Unique Identifier Column Name2/Unique Identifier Value2/...  
/Unique Identifier Column NameN/Unique Identifier ValueN]`

#### パラメーター:

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

*Database Name*

データベースの内部名またはデータベースの別名。

*Table Name*

スキーマの名前を含む、ターゲット表の名前。

*Unique Identifier Column Name1*

表の先頭の固有 ID 列の名前。

*Unique Identifier Value1*  
先頭の固有 ID 列の値。

*Unique Identifier Column NameN*  
表の *n* 番目の固有 ID 列の名前。

*Unique Identifier ValueN*  
*n* 番目の固有 ID 列の値。

## Exchange Server クローラー

Exchange Server クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

exchange://OWA Path[?useSSL=true]

### パラメーター

*OWA Path*  
プロトコルを含まない、Outlook Web Access (OWA) パス。

**[?useSSL=true]**  
オリジナルの OWA パスが HTTPS である場合に追加される。

## Notes クローラー

Notes クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

domino://Server Name[:Port Number]/Database Replica ID/Database Path and Name  
/[View Universal ID]/Document Universal ID  
[?AttNo=Attachment No AttName=Attachment File Name]

### パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

*Server Name*  
Lotus Notes サーバーの名前。

*Port Number*  
Lotus Notes サーバーのポート番号。ポート番号はオプションです。

*Database Replica ID*  
データベース・レプリカの ID。

*Database Path and Name*  
ターゲット Lotus Notes サーバー上の NSF データベースのパスとファイル名。

*View Universal ID*  
ターゲット・データベース上で定義された View Universal ID。この ID は、文書がビューまたはフォルダーから選択されたときのみ指定されます。ビューまたはフォルダーをクロール対象として指定しない場合 (例えば、データベース内の全文書をクロールする場合)、View Universal ID は指定されません。

*Document Universal ID*

クローラーによってクロールされる文書内で定義された Document Universal ID。

*Attachment No*

ゼロから始まる、各添付ファイルの連続番号。添付ファイル番号はオプションです。

*Attachment File Name*

添付ファイルのオリジナル名。添付ファイル名はオプションです。

## UNIX ファイル・システム クローラー

UNIX ファイル・システムクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`file:///Directory Name/Filename`

### パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

*Directory Name*

ディレクトリーの絶対パス名。

*Filename*

ファイルの名前。

## VeniceBridge クローラー

VeniceBridge クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`vbr://Server Name/Repository System ID/Repository Persistent ID  
/Item ID/Version ID  
/Item Type/?[Page=Page Number&]JNDI properties`

### パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

*Server Name*

VeniceBridge サーバーの名前。

*Repository System ID*

リポジトリのシステム ID。

*Repository Persistent ID*

リポジトリの永続 ID。

*Item ID*

項目の ID。

*Version ID*

バージョンの ID。バージョン IDがブランクの場合、この値は文書の最新バージョンを示します。

*Item Type*

項目のタイプ (CONTENT)。

*Page Number*

ページ番号。



### *JNDI properties*

J2EE アプリケーション・クライアントの JNDI プロパティ。プロパティには、次の 2 つのタイプがあります。

#### **java.naming.factory.initial**

EJB ハンドルを作成するのに使用されるアプリケーション・サーバーのクラスの名前。

#### **java.naming.provider.url**

EJB ハンドルを要求するのに使用されるアプリケーション・サーバーのネーミング・サービスへの URL。

## **Windows ファイル・システム クローラー**

Windows ファイル・システムクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`file:///Directory Name/Filename`

`file:///Network Folder Name/Directory Name/Filename`

### **パラメーター**

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

#### *Directory Name*

ディレクトリーの絶対パス名。

#### *Filename*

ファイルの名前。

#### *Network Folder Name*

リモート・サーバー上のみにある文書の場合、Windows ネットワーク上の共有フォルダーの名前。

## **関連タスク**

### 67 ページの『索引から URI を除去』

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、それらの文書の URI を索引から除去することができます。

### 84 ページの『クイック・リンクの構成』

エンタープライズ・サーチ・コレクションのクイック・リンクを作成するため、文書の URI を、それを検索結果に含ませるためのキーワードと関連付けます。

### 90 ページの『カテゴリーの構成』

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、各カテゴリーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自動的に関連付けられる文書が決まります。

### 92 ページの『有効範囲の構成』

エンタープライズ・サーチ・コレクションの有効範囲を構成するときに、ユーザーが検索を許可される索引内の文書の範囲に合うように URI または URI パターンを指定します。

### 109 ページの『URI についての詳細表示』

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどのようにクロール、索引付け、検索されるのかについての現在情報および履歴情報を知ることができます。

---

## 第 18 章 エンタープライズ・サーチ・メッセージ

---

### 一般システム・メッセージ

**FFQO0164E:** プロパティ・ファイル *file\_name* をロードできません。

構成ファイル *file\_name* をロードできませんでした。

ログで追加のメッセージがあるかを確認してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。ファイルのアクセス許可を確認し、この構成ファイルで組み込まれるすべてのファイルについて確認してください。

**FFQO0165E:** 組み込まれたプロパティ・ファイル *file\_name* をロードできません。

別の構成ファイルによって組み込まれた構成ファイル *file\_name* をロードできませんでした。

ログで追加のメッセージがあるかを確認してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。ファイルのアクセス許可を確認し、この構成ファイルで組み込まれるすべてのファイルについて確認してください。

**FFQO0168E:** プロパティをファイル *file\_name* に保管できません。

構成をファイル *file\_name* に保管できませんでした。

構成ファイルを保管するディレクトリまたはファイル・システムが存在し、書き込み可能であることを確認してください。書き込み保護された同じ名前のファイルが存在するかを確認してください。

---

### マイグレーション・ウィザード・メッセージ

**FFQW0001E:** *message\_key* キーのメッセージは見つかりませんでした。エンタープライズ・サーチ管理者に問い合わせてください。

ウィザードが使用するメッセージ・ファイルが見つかりませんでした。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition のエンタープライズ・サーチ・コンポーネントが正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQW0002E: ファイル *file\_name* を読み取ることができません。選択を変更してください。**

選択されたファイルまたはディレクトリーは、ウィザードを開始したユーザーが読み取れません。

ファイルが正しい場合は、管理者に連絡してファイルのアクセス権を変更してください。

**FFQW0003E: ファイル *file\_name* にコレクション名が設定されていません。**

マイグレーションするそれぞれのコレクションについて、エンタープライズ・サーチにまだ存在しないコレクション名が必要です。

エンタープライズ・サーチに存在しないコレクション名を指定してください。

**FFQW0008E: ユーザー ID またはパスワードが無効です。**

マイグレーション・ウィザードにログインするには、インストール中に入力されたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードの入力が必要です。

エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを入力し、再試行してください。

**FFQW0011E: ファイル *file\_name* の中の WebSphere Portal Search Engine コレクションをインポートしている間にエラーが発生しました。行 *line\_number*、列 *column\_number* で、次のエラーが発生しました。 *error\_message*。ファイルはインポートできませんでした。**

文書に予期しないコンテンツが含まれます。それは無効なコレクション構成ファイルである可能性があるか、ファイルが破損しています。

ファイルが WebSphere Portal からエクスポートしたものであるかを確認してください。そうである場合には、Portal Search エンジン・コレクションから新しいファイルに構成設定をもう一度エクスポートし、ウィザードを再度実行してください。

**FFQW0012E: コレクション *collection\_name* を作成している間にエラーが発生しました。次のエラーが戻されました。 *error\_code*。**

エンタープライズ・サーチ管理が、エンタープライズ・サーチ・コレクションを作成しているときにエラーを戻しました。

問題を訂正し、やり直してください。

**FFQW0013E:** コレクション *collection\_name* の Web クローラーを作成している間にエラーが発生しました。次のエラーが発生しました。 *error\_code*。

エンタープライズ・サーチ管理が、Web クローラーを作成しているときにエラーを戻しました。

問題を訂正し、やり直してください。

**FFQW0014E:** コレクション *collection\_name* を作成している間にエラーが発生しました。ID *user\_name* のセッションが見つかりませんでした。

ウィザードがエンタープライズ・サーチに接続できませんでした。

エンタープライズ・サーチが稼働していることを確認してください。

**FFQW0016E:** コレクション *collection\_name* を作成している間にエラーが発生しました。 *error\_message*。

エンタープライズ・サーチ管理が、エンタープライズ・サーチ・コレクションを作成しているときにエラーを戻しました。

詳しくは、ウィザード・ログ・ファイルを確認してください。問題を訂正し、やり直してください。

**FFQW0019E:** クローラー構成ファイルを作成している間にエラーが発生しました。例外メッセージ: *error\_message*

エンタープライズ・サーチ管理が、Web クローラー構成ファイルを作成しているときにエラーを戻しました。

詳細はウィザード・ログ・ファイルにあります。問題を訂正し、やり直してください。

**FFQW0120I:** マイグレーションは正常に完了しました。詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0140I:** コレクションは WebSphere Portal 構成ファイル *file* からインポートされました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0141I:** コレクション *collection\_name* は正常に作成されました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0142I:** コレクション *collection\_name* の Web クローラーは正常に作成されました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0154I:** コレクション *collection\_name* のクローラー・データを作成しています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0155I:** クロール・スレッドの最大数について、次の設定が見つかりました。*list\_thread\_numbers*。インポートされた値は *maximum\_threads* です。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0156I:** クロール・パスの深さの最大について、次の設定が見つかりました。*list\_path\_depths*。インポートされた値は *maximum\_path\_depth* です。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0157I:** クロール文書タイムアウトについて、次の設定が見つかりました。*list\_timeout\_limits*。インポートされた値は *maximum\_timeout\_limit* です。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0158I:** デフォルトの文字セットについて、次の設定が見つかりました。*list\_charsets*。インポートされた値は *charset* です。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQW0159I:** 構成ファイル *file* が作成されました。戻りコード: *return\_code*。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

---

## 構成マネージャーのメッセージ

**FFQC1000E: コレクション名 *collection\_name* はすでに存在しません。**

入力されたコレクション名 *collection\_name* は、別のコレクションのエンタープライズ・サーチにおけるコレクション名としてすでに存在しています。

別のコレクション名を入力してください。

**FFQC1003E: セッション名 *session\_name* はすでに存在します。**

入力されたセッション名 *session\_name* は、別のセッションのエンタープライズ・サーチにおけるセッション名としてすでに存在しています。

別のセッション名を入力してください。

**FFQC1008E: セッション *session\_id* はすでに構成されています。セッションを追加できません。**

追加しようとしているセッション *session\_id* はすでに構成されています。

既存のセッションを除去した後で、そのセッション名 *session\_id* を使用して新しいセッションを再作成できます。あるいは、既存のセッション構成で満足している場合は、現行セッションのまま、何もする必要はありません。

**FFQC2034E: コンテンツのリフレッシュに使用可能な索引がありません。**

コンテンツのリフレッシュは、既存の索引に対してのみ実行できます。指定されたコレクションには索引が見つかりませんでした。

有効な索引が作成されていることを確認した後、索引をリフレッシュしてください。

**FFQC5217E: プロパティ・ファイル *file\_name* をロードしている間にエラーが発生しました。**

*file\_name* のプロパティ・ファイル・コンテンツをロードしようとしている間にエラーが発生しました。

ファイル *file\_name* をブラウズし、ファイルのコンテンツが誤った形式のデータを含んでいないことを確認してください。



**FFQC5228W:** ファイル名 *file\_name* のファイル・サイズは *file\_size* です。これは、ファイル置換サイズの上限 *file\_limit* を超えています。

一時変数のテキスト置換は、構成ファイル *file\_name* に対して実行されませんでした。システムが作成するそれぞれの構成ファイルごとに、一時変数のスキャンが、ランタイム中に決定された値をリアルタイム値で置き換えます。このファイルのサイズが *file\_size* であり、これはファイル・スキャンが実行される最大サイズ *file\_limit* を超えています。

ファイルにはおそらく一時変数は含まれておらず、したがって、スキャンは不要であり、ユーザー・アクションは不要です。

---

## クローラーのメッセージ

**FFQD1003E:** エラー: ユーザー *user* は存在しません。 *file* をチェックしてください。

es.cfg ファイル中に指定されたユーザーは存在しません。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD1011E:** エラー: *file* が見つかりませんでした。

指定されたファイルが見つかりませんでした。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD1031E:** エラー: このスクリプトはクローラー・サーバー上で実行していません。 ¥nこのスクリプトをクローラー・サーバー上で実行してください。

このスクリプトはクローラー・サーバー上で実行していません。

複数サーバー構成の場合、このスクリプトをクローラー・サーバー上で実行してください。単一サーバー構成の場合、構成ファイル内の `InstalledComponents` の値が "crawler" を含んでいることを確認してください。

**FFQD1034E:** エラー: 環境変数 `CMBROOT` が定義されていません。 ¥nDB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

環境変数 `CMBROOT` が定義されていません。 DB2 Information Integrator for Content がインストールされていない可能性があります。

DB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD1035E: エラー: 環境変数 CMCOMMON が定義されていません。 ¥nDB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。**

環境変数 CMCOMMON が定義されていません。DB2 Information Integrator for Content がインストールされていない可能性があります。

DB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD1036E: エラー: 環境変数 ES\_NODE\_ROOT が定義されていません。 ¥nDB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。**

環境変数 ES\_NODE\_ROOT が定義されていません。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。

**FFQD1037E: エラー: 環境変数 ES\_INSTALL\_ROOT が定義されていません。 ¥nDB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。**

環境変数 ES\_INSTALL\_ROOT が定義されていません。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。

**FFQD1101E: エラー: 未定義のプラットフォームです。**

セットアップ・スクリプトが、非サポート・プラットフォームを検出しました。

サポートされるプラットフォームでセットアップ・スクリプトが実行されていることを確認してください。

**FFQD1106E: エラー: root ユーザーではなく、エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーとして、このセットアップ・シェルを実行してください。**

セットアップ・スクリプトは、エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されなければなりません。

現行ユーザーをエンタープライズ・サーチ・ユーザーに変更し、セットアップ・スクリプトを再実行してください。

**FFQD1107E: エラー: ES\_CFG 環境変数が定義されていません。このコンピューターに DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされていることを確認してください。**

ES\_CFG 環境変数がセットアップ・スクリプトによって検出されませんでした。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、ES\_CFG 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

**FFQD1108E: エラー: エンタープライズ・サーチ構成ファイルが存在しません。**

エンタープライズ・サーチ構成ファイル es.cfg が、ノード・ルート (ES\_NODE\_ROOT) ディレクトリーに存在しません。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、エンタープライズ・サーチ構成ファイル es.cfg がノード・ルート・ディレクトリーに存在することを確認してください。

**FFQD1123E: エラー: Lotus Notes ディレクトリーが見つかりませんでした。**

指定された Lotus Notes ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

Lotus Notes (Windows の場合) または Lotus Domino Server (UNIX の場合) がクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD1128E: エラー: Lotus Notes データ・ディレクトリーが見つかりませんでした。**

指定された Lotus Notes データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

Lotus Notes ディレクトリーがクローラー・サーバーに正しくデプロイされていることを確認してください。

**FFQD1138E: エラー: *filename* の除去に失敗しました。それを除去し、このスクリプトを再実行してください。**

このスクリプトは、ファイル *filename* を削除できません。

ファイルを手動で除去し、このスクリプトを再実行してください。

**FFQD1139E: エラー: *filename* の作成に失敗しました。**

このスクリプトは、ファイル *filename* を作成できません。

ファイルを作成できるよう、ファイルとディレクトリー特権をチェックしてください。

**FFQD1142E: エラー: *filename* が見つかりませんでした。**

スクリプトは、ファイル *filename* を検出できません。

ファイルが存在することを確認してください。

**FFQD1407E: エラー: Venetica VeniceBridge ディレクトリーが見つかりませんでした。**

指定された Venetica VeniceBridge ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

Venetica VeniceBridge がクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD1420E: エラー: WebSphere Application Server ディレクトリーが見つかりませんでした。**

指定された WebSphere Application Server ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

WebSphere Application Server がクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD2005E: クローラー・サーバーは指定されたクローラー・タイプに対して構成されていません。クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認してください。**

クローラー・サーバーは使用したいクローラー・タイプに対して構成されていません。

クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認し、セットアップ・スクリプトを実行してください。

**FFQD2007E: 操作 *operation\_class* に対して *api\_name* API を登録している間にエラーが発生しました。**

内部エラーのため、*api\_name* ディスカバリー API を登録できませんでした。

エンタープライズ・サーチおよび前提ソフトウェアがクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

**FFQD2100E: データベースにアクセスしている間に、SQL 例外が発生しました。エラー・コード: *error\_message*。エラー・メッセージ: *error\_code*。**

DB2 データベース・サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

「IBM DB2 Universal Database メッセージ解説書」を参照してください。

**FFQD2102E: ユーザー名またはパスワードが間違っています。**

DB2 サーバーへの接続を確立するために使用されたユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が正しくありませんでした。

正しいユーザー名とパスワードで操作を再試行してください。

**FFQD2103E: DB2 ディスカバリー API を実行している間に、次のエラーが発生しました。戻りコード: *return\_code*。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

DB2 データベース・サーバーをディスカバーしている間に、エラーが発生しました。

「IBM DB2 Universal Database メッセージ解説書」を参照してください。

**FFQD2104E: 接続を確立できません。**

指定された DB2 データベース・サーバーへの接続が失敗しました。

操作を再試行してください。DB2 サーバーが使用可能であることを確認してください。

**FFQD2105E: スキーマ名 *schema\_name* に対して表またはビュー *table\_or\_view\_name* が見つかりませんでした。**

ディスカバー・プロセスは、指定された表またはビューが DB2 データベース・サーバー内に存在しないため、列をディスカバーできませんでした。

DB2 データベース・サーバー内に存在する表またはビューを指定してください。

**FFQD2106E: DB2 インスタンス *server\_name:port\_number* が見つかりませんでした。**

指定された DB2 インスタンスが見つかりませんでした。

DB2 インスタンスを識別するためのサーバー名とポート番号が正しいことを確認してください。

**FFQD2130E: サーバーにアクセスしている間に Notes 例外が発生しました。 ID: *error\_id*。 エラー・メッセージ: *error\_message***

Domino サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

詳細は、エラー・メッセージを参照してください。

**FFQD2131E: 指定された ID ファイルが存在しないか、読み取ることができません。**

指定されたユーザー ID ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

入力したユーザー ID ファイル・パスが正しく、ファイルを読み取りできることを確認してください。

**FFQD2132E: Notes セッションを作成できません。**

ディスカバリー・プロセスは、Domino Server への Notes セッションを作成できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD2133E: 他の Notes クローラーが実行中です。それらはロック *lock\_name* を保持しているので停止する必要があります。パス: *lock\_filepath*。 名前: *lock\_filename*。**

ディスカバリー・プロセスは、他の Notes クローラー・プロセスと共存できません。それらの 1 つが *lock\_name* を保持していました。

Notes クローラーを停止し、再試行してください。

**FFQD2135E: クローラー・サーバーは NRPC に対して構成されていません。クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認してください。**

NRPC (Notes Remote Procedure Call) に対する正しい Notes Java クラスをロードできませんでした。Notes クローラーに対してセットアップ手順が必要です。

Notes クローラーに対してセットアップ手順を実行してください。



**FFQD2160E: ディレクトリー *directory name* が無効です。**

指定されたディレクトリー名が見つかりませんでした。

既存のディレクトリー名を入力してください。

**FFQD2161E: *levels of subdirectories to discover* より多くの選択可能なサブディレクトリーがあります。この数を減らすため、メインディレクトリー名またはパターンを指定するか、ディスカバリーするサブディレクトリーのレベルをもっと少なく指定してください。**

*levels of subdirectories to discover* より多くの選択可能なサブディレクトリーがあります。

この数を減らすため、メインディレクトリー名またはパターンを指定するか、ディスカバリーするサブディレクトリーのレベルをもっと少なく指定してください。

**FFQD2162E: 指定された名前 *directory name* はディレクトリー名ではなく、ファイル名です。**

指定された名前はファイル名でした。

既存のディレクトリー名を入力してください。

**FFQD2163E: 指定されたディレクトリーのパターン *directory name or pattern* が無効です。**

検索するためのパターンが正しく指定されませんでした。

ディレクトリーを検索するための正しいパターンを入力してください。パターンを入力するには、名前の中の 1 つ以上の文字を置き換えるためのワイルドカード文字としてアスタリスク (\*) を使用します。

**FFQD2164E: ファイル・ディレクトリーのディスカバリーで、内部エラーが発生しました。**

クローラー・サーバー上で指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD2190E: ディレクトリーのネットワーク・パス *network path name* が見つかりませんでした (ディレクトリー = *network path name*)。 エラー・メッセージ: *detail error message*。**

指定されたネットワーク・パスが見つかりませんでした。

ディレクトリーを検索するための正しいパターンを入力してください。パターンを入力するには、名前の中の 1 つ以上の文字を置き換えるためのワイルドカード文字としてアスタリスク (\*) を使用します。

### **FFQD2191E: 指定されたドライブ名が無効です。**

指定されたドライブ名または指定されたファイル分離文字が無効です。

ディレクトリーを検索するための正しいドライブ名を入力してください。

### **FFQD2210E: ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。指定されたユーザー ID は `user_id` です。**

Content Manager サーバーに接続するために入力されたユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が正しくありませんでした。

正しいユーザー ID とパスワードで操作を再試行してください。

### **FFQD2211E: Content Manager サーバー `server` への接続が失敗しました。**

指定された Content Manager サーバーへの接続が失敗しました。

操作を再試行してください。Content Manager サーバーが使用可能であることを確認してください。

### **FFQD2212I: Content Manager サーバー `server` に接続しました。**

クローラー・サーバーは Content Manager サーバーに正常に接続しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

### **FFQD2213E: `discovery.properties` ファイルの中に `CMCOMMON` キーワードが見つかりません。**

ES\_NODE\_ROOT/master\_config/discovery の下の `discovery.properties` ファイルの中に `CMCOMMON` キーワードがなかったため、ディスカバリー・プロセスは Content Manager サーバーをディスカバーできませんでした。Content Manager クローラーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていない可能性があります。

Content Manager クローラーを適切なセットアップ・スクリプトで構成し、操作を再試行してください。

### **FFQD2214E: CM INI ファイル `file` が見つかりませんでした。**

CM INI ファイルが見つからないため、ディスカバリー・プロセスは、Content Manager サーバーをディスカバーできませんでした。DB2 Information Integrator for Content が正しく構成されていない可能性があります。

DB2 Information Integrator for Content のインストールと構成が正しく行われていることを確認してください。

### **FFQD2215E: CM INI ファイルを読み取ることができないか、CM INI ファイル *file* が見つかりませんでした。**

CM INI ファイルが見つからないため、ディスカバリー・プロセスは、Content Manager サーバーをディスカバーできませんでした。DB2 Information Integrator for Content が正しく構成されていない可能性があります。

DB2 Information Integrator for Content のインストールと構成が正しく行われていることを確認してください。

### **FFQD2216E: 項目タイプ *item\_type* は存在しません。**

指定された項目タイプが Content Manager サーバー内に存在しないため、ディスカバリー・プロセスは Content Manager 属性をディスカバーできませんでした。

Content Manager サーバーに存在する項目タイプを指定してください。

### **FFQD2217E: CM DKException が発生しました。**

Content Manager サーバーをディスカバーしている間に例外が発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD2218E: CM 例外が発生しました。**

Content Manager サーバーをディスカバーしている間に例外が発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD2240E: SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。**

SSL を使用するためにトラストストア・ファイルを指定する必要があります。

クローラー・サーバーにトラストストア・ファイルを準備し、そのパスを入力してください。

## **FFQD2241E: SSL を使用するには、トラストストア・パスワードの指定が必要です。**

SSL を使用するためのファイルのトラストストア・パスワードを指定する必要があります。

トラストストア・ファイルのパスワードを入力してください。

## **FFQD2242E: トラストストア・ファイル *truststore\_file* は存在しません。**

指定されたトラストストア・ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

入力されたトラストストア・ファイル・パスが正しいことと、ファイルを読み取りできることを確認してください。

## **FFQD2243E: トラストストア・ファイル *truststore\_file* を妥当性検査している間にエラーが発生しました。**

指定されたトラストストア・ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

入力されたトラストストア・ファイル・パスが正しいことと、ファイルを読み取りできることを確認してください。

## **FFQD2244E: トラストストアのファイル・フォーマットまたはパスワードが間違っています。指定されたトラストストアは *truststore\_file* です。**

トラストストア・ファイル・フォーマットが間違っています。サポートされるフォーマットは JKS、JCEKS、および PKCS#12 です。

トラストストア・ファイル・フォーマットを検査してください。

## **FFQD2245E: 不明なホスト名 *host\_name* が検出されました。**

指定されたパブリック・フォルダー URL 内のホスト名が見つかりませんでした。

ホスト名が正しいことを確認してください。

## **FFQD2246E: URL *public\_folder\_URL* が誤りです。**

指定されたパブリック・フォルダー URL が見つかりませんでした。

パブリック・フォルダー URL が正しいことを確認してください。

**FFQD2247E:** *public\_folder\_URL* に接続している間に、入出力エラーが発生しました。

パブリック・フォルダー・サーバーに接続している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ネットワークおよびパブリック・フォルダー・サーバーが作動中であることを確認してください。

**FFQD2248E:** 要求を *public\_folder\_URL* に送信している間に、プロトコル例外が発生しました。

パブリック・フォルダー・サーバーに要求を送信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD2249E:** 要求を *public\_folder\_URL* に送信している間に、入出力エラーが発生しました。

パブリック・フォルダー・サーバーに要求を送信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD2250E:** フォルダー数 (*actual\_folder\_count*) が上限 *folder\_count\_limit* を超えています。

検出されたサブフォルダーの数は上限以下でなければなりません。

フォルダー数を減らすため、サブフォルダーを検出するためのパターンを変更してください。

**FFQD2251E:** ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。指定されたユーザー名は *user\_name* です。

誤ったユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が指定されました。

ユーザー名とパスワードを検査し、再試行してください。

**FFQD2252E:** 指定されたフォルダー *public\_folder\_URL* は存在しません。

指定されたパブリック・フォルダー・サーバーは存在しますが、サーバーにフォルダーが存在していませんでした。

パブリック・フォルダー URL が正しいことと、パブリック・フォルダー・サーバーが正しく作動していることを確認してください。

**FFQD2253E: 予期しない HTTP 応答を受け取りました。HTTP 状態コード: *HTTP\_state\_code*。 HTTP 応答メッセージ: *HTTP\_response\_message*。**

パブリック・フォルダー・サーバーが予期しない HTTP 応答を戻しました。

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく作動していることを確認し、ログ・ファイルを参照して問題発生個所についての詳細を調べてください。

**FFQD2254E: *public\_folder\_URL* から応答を受信している間に、入出力エラーが発生しました。**

パブリック・フォルダー・サーバーから応答を受信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD2255E: サーバー応答は正しくない XML です。**

パブリック・フォルダー・サーバーが戻した XML 文書には、正しくないエレメントおよび文字が含まれている可能性があります。

パブリック・フォルダーに、損傷した文書が含まれていないことを検証してください。

**FFQD2256E: 受け取った XML を解析している間に入出力エラーが発生しました。**

パブリック・フォルダー・サーバーから応答を受信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD2257E: XML パーサー・エラーが発生しました。**

パブリック・フォルダー・サーバーからの応答を解析するために XML パーサーを作成できませんでした。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD2258E: 指定された URL *public\_folder\_URL* は有効ですが、パブリック・フォルダーではありません。**

指定された URL はクローラーからアクセス可能ですが、パブリック・フォルダーではありません。

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく作動していることと、Outlook Web Access がサーバー上で作動していることを確認してください。



## **FFQD2270E: 指定された JNDI プロパティーが無効です。**

ディスカバリー・プロセスは、指定された JNDI プロパティーで VeniceBridge サーバーに接続できませんでした。

指定された JNDI プロパティーが正しく、VeniceBridge サーバーが使用可能であることをチェックしてください。

## **FFQD2271E: 指定されたリポジトリ名が無効です。**

ディスカバリー・プロセスは、指定されたリポジトリが VeniceBridge サーバー内に存在しないため、項目クラスをディスカバーできませんでした。

VeniceBridge サーバーに存在するリポジトリを指定してください。

## **FFQD2272E: 指定されたユーザー名またはパスワードが無効です。**

リポジトリにログオンするためのユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が正しくありませんでした。

正しいユーザー名とパスワードで操作を再試行してください。

## **FFQD2273E: 指定された項目クラス名が無効です。**

ディスカバリー・プロセスは、指定された項目クラスが VeniceBridge サーバー内に存在しないため、プロパティーをディスカバーできませんでした。

VeniceBridge サーバーに存在する項目クラスを指定してください。

## **FFQD2274E: VeniceBridge API エラーが発生しました。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

## **FFQD2275E: VeniceBridge サーバー・インスタンスを作成できません。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

**FFQD2276E: VeniceBridge サーバーを見つけることができません。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

**FFQD2277E: 通信エラーが発生しました。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

**FFQD2278E: 指定されたリポジトリ *repository\_name* が見つかりませんでした。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

指定されたリポジトリは VeniceBridge サーバー内にありません。

VeniceBridge サーバー内に存在するリポジトリを指定してください。

**FFQD2279E: VeniceBridge ユーザー・インスタンスが初期化されていません。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

**FFQD2280E: *repository\_name* リポジトリへのログオンが失敗しました。エラー・メッセージ: *error\_message*。**

ディスカバリー・プロセスは、*repository\_name* リポジトリにログオンできませんでした。

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

**FFQD2282E: 指定された項目クラス *item\_class\_name* が見つかりませんでした。リポジトリ: *repository\_name***

*item\_class\_name* 項目クラスは、VeniceBridge サーバー内の *repository\_name* リポジトリ内にはありません。

リポジトリ内に存在する項目クラスを指定してください。

**FFQD3000I: *crawler\_name* クローラーは正常に開始しました。**

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3001E:** *crawler\_name* クローラーの開始に失敗しました。

クローラー・プロセスの開始に失敗しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3002I:** *crawler\_name* クローラーは正常に停止しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3003E:** *crawler\_name* クローラーは正常に停止しませんでした。

クローラー・プロセスの正常な停止に失敗しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3004I:** *crawler\_name* クローラーは正常に休止されました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3005E:** *crawler\_name* クローラーの休止に失敗しました。

クローラーの休止に失敗しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3006I:** *crawler\_name* クローラーは正常に再開されました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3007E:** *crawler\_name* クローラーの再開に失敗しました。

クローラーの再開に失敗しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3008E:** **Factory** 例外が発生しました。モジュールが正しくインストールされていることを確認してください。

インストールされた jar ファイルが見つからないか、正しく設定されていません。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3009I:** *server\_name* 上で *crawler\_name* のためのクローラーを開始します。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3010I:** *server\_name* 上で *crawler\_name* のためのクローリングを完了しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3011E:** *target\_name* 上の *target\_host\_name* のために停止するのに失敗しました。

クローラーは、指定されたターゲットのためにクローリングを停止するのに失敗しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3012I:** クローラーはすでにサーバー *server\_name* 上でクローリングしています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3013W:** クローリングされたデータは切り捨てられました。URI: *URI*。サーバー: *target\_host\_name*。ターゲット: *target\_name*。

クローリングされたデータは切り捨てられました。

すべてのデータをクローリングする必要がある場合は、管理コンソールでクローラー用の最大ページ・サイズを変更してください。

**FFQD3014E:** クローリングされた履歴を処理している間に例外が発生しました。

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3015E:** クローリングされた履歴を処理している間に例外が発生しました。URI: *uniform\_resource\_identifier*。サーバー: *server\_name*。ターゲット: *crawler\_name*。

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3016E:** データベースのアクセスを処理している間に例外が発生しました。

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3017E:** データベースのアクセスを処理している間に例外が発生しました。URI: *uniform\_resource\_identifier*。サーバー: *server\_name*。ターゲット: *crawler\_name*。

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3018E:** クローラー構成を処理している間に例外が発生しました。

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3019I:** *server\_name* サーバーにサーバー・スケジュールが設定されています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3020I:** *server\_name* サーバーのスケジュールは使用不可にされています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3021W:** 指定されたサーバー *server\_name* のスケジュールはすでに設定されています。

指定されたスケジュール済みクローラーはすでに使用可能にされています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3022W:** 指定されたサーバー *server\_name* のスケジュールはすでに使用不可になっています。

指定されたスケジュール済みクローラーはすでに使用不可にされています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3023W:** サーバー *server\_name* はスケジュールされていません。

指定されたクローラーはスケジュールされていません。

クローラー・スケジュールを使用可能/使用不可にするには、前もってクローラーがスケジュールされている必要があります。

**FFQD3024E: フェッチの戻りコードが間違っています。戻りコード: `return_code`。 状態: `state`**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3025E: データをフェッチしている間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3026E: スレッド `thread_id` を処理している間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3027E: クローラーについて例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3028E: 指定されたサーバー `server_name` が見つかりません。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3029E: 接続マネージャーを初期化している間に例外が発生しました。**

クローラーを初期化している間に内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3030E: 状態マネージャーを初期化している間に例外が発生しました。**

クローラーを初期化している間に内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。



**FFQD3031E: クローラー状況が要求されている間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。モニター機能は正しく機能しませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3032E: クロール・スペース状況が要求されている間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。モニター機能は正しく機能しませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3033E: クロール・スペース状況が要求されている間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。モニター機能は正しく機能しませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3034I: 古くなった文書を削除しています。**

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3035W: 古くなった文書の削除が中断されました。次の機会に再試行します。**

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3036I: *server\_name* の *crawler\_name* の古くなった文書の削除が終了しました。**

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3037E: 内部状況を更新している間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3038E: 状況の矛盾のためにエラーが発生しました。情報:**  
*additional\_data*

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3039E: 内部状況をアクセスしている間にエラーが発生しました。情報:** *additional\_data*

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3040E: 古くなったレコードを削除している間に例外が発生しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3041I: スケジュール・コンポーネントが正常に開始しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3042E: スケジュール・コンポーネントが開始に失敗しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3043I: スケジュール・コンポーネントが正常に停止しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3044E: スケジュール・コンポーネントが停止に失敗しました。**

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3045I:** *crawler\_name* のスケジュールされたクローラーを開始しています。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3046E:** スケジュール・コンポーネントの中で例外が発生しました。

クローラーで内部エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3047I:** 内部リポジトリが正常に初期化されました。

クローラーがクローラー内部リポジトリを初期化しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3048E:** 不明な内部リポジトリ・タイプ *internal\_repository\_type* が検出されました。

クローラー内部リポジトリを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3049E:** 内部リポジトリの初期化エラー。

クローラー内部リポジトリを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3050E:** アクセス違反。

クローラー内部リポジトリを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3051E:** 別のリポジトリがオープンしています。

別のクローラー内部リポジトリがすでにオープンされ、初期化されています。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

## FFQD3052E: データベース接続がありません。

クローラー内部リポジトリはオープンされましたが、リポジトリを使用するためのデータベース接続が存在しませんでした。

エンタープライズ・サーチのための DB2 データベースが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

## FFQD3053E: 内部リポジトリをオープンしている間にデータベース・エラーが発生しました。

クローラー内部リポジトリを使用するためのデータベース接続を確立できませんでした。

エンタープライズ・サーチのための DB2 データベースが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

## FFQD3054E: 内部リポジトリをクローズしている間にデータベース・エラーが発生しました。

クローラー内部リポジトリをクローズ中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

## FFQD3055E: 内部リポジトリにレコードを書き込んでいる間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリに情報を書き込み中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

## FFQD3056E: 最終変更日付を取得している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

## FFQD3057E: 最終変更日付を更新している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリに情報を書き込み中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

**FFQD3058E:** レコード変更を検出している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

**FFQD3059E:** チェックサムを取得している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

**FFQD3060E:** チェックサムを取得している間に入出力エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `IOException` メッセージを参照してください。

**FFQD3061E:** レコードを検査している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

**FFQD3062E:** 除外されたレコードを書き込んでいる間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

**FFQD3063E:** リポジトリからレコードを削除している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record\_hash* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

**FFQD3064E:** 古くなったレコードを取得している間にデータベース・エラーが発生しました。ターゲット ID は *record\_hash* で、しきい値時間は *threshold\_time* です。

クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

**FFQD3065I:** 内部リポジトリが正常にオープンしました。

クローラーがクローラー内部リポジトリをオープンしました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3066I:** 内部リポジトリが正常にクローズしました。

クローラーがクローラー内部リポジトリをクローズしました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3067I:** クローラー構成ファイル *general\_config\_file* および *crawler\_config\_file* をロードしています。

クローラーがクローラー構成ファイルのロードを開始しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3068I:** 構成ファイルのロードが正常に完了しました。

クローラーがクローラー構成ファイルのロードを完了しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3069E:** 構成ファクトリーを作成している間にエラーが発生しました。

クローラーがクローラー構成ファイルのロードを完了しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD3070E:** 構成ファイル *general\_config\_file* のロードが失敗しました。

クローラー構成ファイルをロード中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの例外メッセージを参照してください。通常、その例外は `IOException` です。



### **FFQD3071E: ロードされた構成ファイルはありません。**

クローラーが構成ファイルをロードしませんでした。

開始するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

### **FFQD3072E: 不明な構成オブジェクトが検出されました。**

クローラー構成ファイルをロード中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

### **FFQD3073E: 文書ビルダーの取得に失敗しました。**

クローラー構成ファイルをロードするために XML パーサーを作成できませんでした。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

### **FFQD3074E: 構成ファイルのフォーマット・エラーが検出されました。**

クローラー構成ファイルが、XML 文書として無効です。

詳しくは、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD3075E: 構成を解析している間に入出力エラーが発生しました。**

クローラー構成ファイルをロード中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの IOException メッセージを参照してください。

### **FFQD3076E: クローラー構成ファイル *crawler\_config\_file* が見つかりませんでした。**

期待されるパスにクローラー構成ファイルがありませんでした。

開始するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

### **FFQD3077E: クローラー構成ファイルの中で、ルート・エレメント名が *expected\_root\_element* であるはずのところに、*detected\_root\_element* が検出されました。**

クローラー構成ファイルのルート・エレメントの名前が、予期されたものではありませんでした。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3078E:** *element\_name* エレメントの中に属性 *attribute\_name* が必要です。

必要な属性がクローラー構成ファイルに見つかりませんでした。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3079E:** 重複した名前 *value\_of\_name\_attribute* がエレメント *element\_name* で検出されました。

同じターゲット名がクローラー構成ファイルに含まれました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3080E:** *element\_name* エレメントの中で、間違った日付ストリング・フォーマットが検出されました。

クローラー構成ファイルに誤りの日付ストリングが含まれました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3081E:** *element\_name* エレメントの中で、間違ったインターバル・ストリング・フォーマットが検出されました。

クローラー構成ファイルに誤りのクローラー・インターバル時間が含まれました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3082E:** *element\_name* エレメントの値 *actual\_value* は範囲外です。

クローラー構成ファイルに、1 つ以上の誤った値が含まれました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3083W:** XML パーサーが警告を報告しました。

クローラー構成ファイル・パーサーが XML 警告を報告しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD3084E:** XML パーサーがエラーを報告しました。

クローラー構成ファイル・パーサーが XML エラーを報告しました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

## **FFQD3085E: XML パーサーがリカバリー不能エラーを報告しました。**

クローラー構成ファイル・パーサーが、リカバリー不能な XML エラーを報告しました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

## **FFQD3086E: フォーマッターが初期化されていません。**

検索エンジン用に XML メタデータを生成するフォーマッターが作成されませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD3087E: XML に変換できません。**

フォーマッターは、検索エンジン用に XML メタデータを生成しません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD3088W: 非パラメトリック・フィールドに、パラメトリック検索可能と設定されています。パラメトリック検索フラグは使用不可にされました。**

クローラーがこのフィールドをパラメトリック検索可能として指定しましたが、クロールされたフィールドは数値ではありません。このフィールドについてパラメトリック検索は使用不可になります。

管理コンソールからこのフィールドを非パラメトリック・フィールドに指定してください。この操作の実行については、エンタープライズ・サーチのオンライン・ヘルプを参照してください。

## **FFQD3089W: メタデータは切り捨てられました。**

最大文書サイズの設定の制限により、メタデータが切り捨てられました。切り捨てられたメタデータでは検索できません。

より大きなメタデータをクロールするには、管理コンソールからクローラーの「最大ページ長サイズ」を増やしてください。この操作の実行については、エンタープライズ・サーチのヘルプを参照してください。

## **FFQD3090W: 一時ファイル *filename* は削除されません。**

一時ファイル *filename* は削除されません。

クローラーの一時ディレクトリーに削除の適切な特権があることを確認してください。

**FFQD3091W: フォーマット済みデータ・レコードはヌルです。アクションは必要ありません。**

クローラーがフェッチしたメタデータまたはバイナリーのコンテンツは、エンタープライズ・サーチ・リポジトリに書き込まれません。

アクションは必要ありません。

**FFQD3102E: 内部データ・ストアをオープンできません。DBName: *database\_name*。DBSchema: *schema\_name*。DBUser: *database\_user*。TableName: *table\_name*。**

パブリッシャーが、クロール・データを保管する内部データベース *database\_name* をオープンできません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3103E: 内部データ・ストアをクローズできません。DBName: *database\_name*。DBSchema: *schema\_name*。DBUser: *database\_user*。TableName: *table\_name*。**

パブリッシャーが、クロール・データを保管する内部データベース *database\_name* をクローズできません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3104E: FileNotFoundException のために、メタデータをファイル *file\_name* に書き込むことができません。**

パブリッシャーが、クロール・データを保管した一時ファイルをオープンできません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3105E: 内部データ・ストアに書き込むことができません。DBName: *database\_name*。DBSchema: *schema\_name*。DBUser: *database\_user*。TableName: *table\_name*。**

パブリッシャーが、クローラーによってクロールされた情報を内部データベース *database\_name* に書き込むことができません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3106E: 内部データ・ストアに書き込むことができません。**  
**DBName:** *database\_name*。 **DBSchema:** *schema\_name*。 **DBUser:**  
*database\_user*。 **TableName:** *table\_name*。

パブリッシャーが、クローラーによってクロールされた情報を内部データベース *database\_name* に書き込むことができません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3107E: 内部データ・ストアに対し、削除フラグによる更新  
ができません。** **DBName:** *database\_name*。 **DBSchema:** *schema\_name*。  
**DBUser:** *database\_user*。 **TableName:** *table\_name*。

パブリッシャーが、検索索引から情報を削除するために削除フラグを内部表にマーク付けできません。ターゲット・データ・ソースに存在しない文書の情報が、検索索引に残ることになります。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3108E: 内部データ・ストアに対し、削除フラグによる更新  
ができません。** **DBName:** *database\_name*。 **DBSchema:** *schema\_name*。  
**DBUser:** *database\_user*。 **TableName:** *table\_name*。

パブリッシャーが、検索索引から情報を削除するために削除フラグを内部表にマーク付けできません。ターゲット・データ・ソースに存在しない文書の情報が、検索索引に残ることになります。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3109W: クロールされるファイル *file\_name* は、内部デー  
タ・ストアの更新の間に他のプログラムによって更新されます。**

クロールされるファイル *file\_name* は、クローラーによってクロールされたため、変更されています。

アクションは必要ありません。

**FFQD3110E: ファイル・ストリームをクローズできません。**

一時ファイルに保管されたクロール・データのファイル・ストリームが、エラーのためクローズされません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## FFQD3111E: パスワードの復号が失敗しました。

パスワード復号モジュールが 1 つ以上のエラーを報告しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## FFQD3500E: JDBC クラス *jdbc\_driver\_class* が見つかりません。

JDBC ドライバー・クラス *jdbc\_driver\_class* がクラスパスに見つかりませんでした。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

## FFQD3501W: *table\_name* 表を変更している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表を変更しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

## FFQD3502W: *table\_name* 表を作成している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表を作成しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

## FFQD3503W: トランザクションのロールバックが失敗しました。

トランザクションをロールバックしようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

## FFQD3504W: トランザクションのコミットが失敗しました。

トランザクションをコミットしようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。



**FFQD3505W:** 表 *orig\_table\_name* の表 *dest\_table\_name* への名前変更が失敗しました。クローラーは、名前変更ではなく、コピーしてドロップすることを試します。

*orig\_table\_name* 表を *dest\_table\_name* 表に名前変更しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。クローラーは代わりに、新規の表を作成し、全データをそれにコピーして、元の表をドロップします。

アクションは必要ありません。

**FFQD3506W:** *table\_name* 表からすべてのデータを削除している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表からデータを削除しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3507W:** データを *table\_name* 表に挿入している間に例外が発生しました。

データを *table\_name* 表に挿入しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3508W:** *table\_name* 表をドロップしている間に例外が発生しました。

*table\_name* 表をドロップしようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3509W:** *table\_name* 表の URI *URI* (*uri\_length* バイト) が長すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum\_length* バイトです。

URI *URI* が長すぎるため、クロールされた文書は内部表に保管されませんでした。

アクションは必要ありません。

**FFQD3510W:** *table\_name* 表 (URI : *URI*、*document\_size* バイト) には長すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum\_size* バイトです。

文書が大きすぎるため、クロールされた文書は内部表に保管されませんでした。

アクションは必要ありません。

**FFQD3511W:** *table\_name* 表 (URI : *URI*、*metadata\_size* バイト) にはメタデータが多すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum\_size* バイトです。

メタデータが大きすぎるため、クロールされた文書は内部表に保管されませんでした。

アクションは必要ありません。

**FFQD3512W:** *table\_name* 表に挿入している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected\_count* でしたが、戻されたのは *actual\_count* でした。

*table\_name* 表にデータを挿入していて、挿入行の期待カウントと実際のカウントが等しくないため、挿入できませんでした。

アクションは必要ありません。このメッセージが再度表示された場合には、エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3513W:** *table\_name* 表を更新している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected\_count* でしたが、戻されたのは *actual\_count* でした。

*table\_name* 表でデータを更新していて、更新行の期待カウントと実際のカウントが等しくないため、更新できませんでした。

このメッセージが再度表示された場合には、エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3514W:** *table\_name* 表から削除している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected\_count* でしたが、戻されたのは *actual\_count* でした。

*table\_name* 表からデータを削除していて、削除行の期待カウントと実際のカウントが等しくないため、削除できませんでした。

このメッセージが再度表示された場合には、エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3515W:** *table\_name* 表を照会している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表に対して SELECT ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3516W:** *table\_name* 表に挿入している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表に対して INSERT ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3517W:** *table\_name* 表を更新している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表に対して UPDATE ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3518W:** *table\_name* 表から削除している間に例外が発生しました。

*table\_name* 表に対して DELETE ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3519W:** *table\_name* 表の照会を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql\_statement* です。

*table\_name* 表に対する SELECT ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3520W:** *table\_name* 表への挿入を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql\_statement* です。

*table\_name* 表に対して INSERT ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3521W:** *table\_name* 表の更新を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql\_statement* です。

*table\_name* 表に対して UPDATE ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3522W:** *table\_name* 表からの削除を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql\_statement* です。

*table\_name* 表に対する DELETE ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3523W:** 接続マネージャーはすでに初期化されています。

データベース接続を管理している内部マネージャーの 1 つがすでに初期化されています。

アクションは必要ありません。

**FFQD3524E:** JNDI 検索が *jndi\_name* について失敗しました。

JNDI 検索が *jndi\_name* について失敗しました。

例外 (該当がある場合) を参照し、JNDI 名 *jndi\_name* が正しくて使用可能であることを確認してください。

**FFQD3534E:** *component\_name* が状態を *from\_state* から *to\_state* に変更している間に例外が発生しました。

内部状態を *from\_state* から *to\_state* に変更していて、1 つ以上の例外が発生しました

他のログ・メッセージや例外を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD3540E: IOException のために、ファイル・ロック *file\_name* の取得に失敗しました。**

ファイル・ロック機能を使用するクローラーについて、ファイル・ロックを取得できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3541E: FileNotFoundException のために、ファイル・ロック *file\_name* の取得に失敗しました。**

ファイル・ロック機能を使用するクローラーについて、ファイル・ロックを取得できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3543E: ファイル・ロック *file\_name* のリリースに失敗しました。**

ファイル・ロック機能を使用するクローラーについて、ファイル・ロックを解放できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3544E: ファイル・ロックがヌルであるために、ファイル・ロック *file\_name* のリリースに失敗しました。**

ロックが取得されなかったため、クローラーについてファイル・ロックを解放できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD3545E: トラストストア・ファイルのロードのアルゴリズム *algorithm\_name* が見つかりませんでした。**

トラストストア・ファイルのロードのアルゴリズムが JRE に含まれていませんでした。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD3546E: ロードされた証明書はありません。**

指定されたトラストストア・ファイルに、適切な証明書が含まれていませんでした。

トラストストア・ファイルに有効な証明書が含まれることを確認し、再試行してください。

## **FFQD3547E: 不明な鍵ストア・タイプ `keystore_type` が検出されました。**

予期しないトラストストア・ファイル・タイプが検出されました。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

## **FFQD3548E: トラストストア・ファイル・フォーマットまたはパスワードが無効です。指定されたトラストストア・ファイルは `truststore_file` です。**

トラストストア・ファイル・フォーマット、またはトラストストア・ファイルに指定されたパスワードが誤りである可能性があります。サポートされるフォーマットは JKS、JCEKS、および PKCS#12 です。

トラストストア・ファイル・フォーマットとパスワードが正しいことを確認し、再試行してください。

## **FFQD3549E: トラストストア・ファイル `truststore_file` をクローズしている間に入出力エラーが発生しました。**

トラストストア・ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

トラストストア・ファイルにアクセス可能であることを確認し、再試行してください。

## **FFQD3550E: `javax.net.ssl.TrustManager` の初期化に失敗しました。**

`javax.net.ssl.TrustManager` オブジェクトを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの例外メッセージを参照してください。

## **FFQD3551E: `javax.net.ssl.SSLContext` の初期化に失敗しました。**

`javax.net.ssl.SSLContext` オブジェクトを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

詳しくは、ログ・ファイルの例外メッセージを参照してください。



## **FFQD3553E: データベース *database\_name* への接続を作成している間に例外が発生しました。**

データベース *database\_name* への接続を作成中に、1 つ以上の例外が発生しました。

例外 (通常、DB2 の `SQLException`) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

## **FFQD4000E: Notes クラスが見つかりません。Notes クローラーのセットアップが必要です。**

必要な Notes Java クラスをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

## **FFQD4001E: Notes NRPC クラス (*Notes.jar*) が見つかりません。Notes NRPC クローラーのセットアップが必要です。**

NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) クロールに必要な Notes Java クラスをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

## **FFQD4002E: NRPC アクセスのための Notes ネイティブ・ライブラリー *library\_name* が見つかりませんでした。Notes NRPC クローラーのセットアップが必要です。**

NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) クロールに必要な Notes ライブラリーをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

## **FFQD4003E: Notes DIIOP クラス (*NCS0.jar*) が見つかりません。Notes DIIOP クローラーのセットアップが必要です。**

DIIOP (Domino Internet Inter-ORB Protocol) クロールに必要な Notes Java クラスをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

## **FFQD4004E: 検出されたプラットフォーム *platform* から、Notes ライブラリー名を決定できません。**

NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) クロールについて必要な Notes ライブラリー名を判別できません。

Notes クローラーが、サポートされるプラットフォームで実行されることを確認してください。

### **FFQD4005E: サーバーまたはターゲット、あるいは両方の情報が指定されていませんでした。**

Domino サーバーまたはターゲットが適切に設定されませんでした。

管理コンソールから Notes クローラー設定を構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

### **FFQD4006E: 構成ファイルの中のサーバー名 *server\_string* は、Lotus Notes サーバーとデータベースを表していません。**

サーバー・ストリング *server\_string* は、「*server\_name!!database\_name*」というようなフォーマットに従っていません。

管理コンソールから Notes クローラー設定を構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

### **FFQD4007E: 構成ファイルの中のサーバー名 *server\_string* は、Lotus Notes データベース *database\_name* を表していません。データベース名を指定しなければなりません。**

サーバー・ストリング *server\_string* にデータベース名が含まれません。

管理コンソールから Notes クローラー設定を構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

### **FFQD4008E: サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* への接続はすでにアクティブです。**

サーバー *server\_name* への接続がすでに確立されていますが、クローラーが切断せずにサーバーへの接続を試行しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4009E: サーバー *server\_name* 上の Lotus Notes データベース *database\_name* に接続できません。**

Notes クローラーは、クローラー設定またはサーバー設定が無効なため、サーバーに接続できません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。ターゲット Domino サーバーとターゲット・データベースがクローラー・サーバーからアクセス可能であることを確認してください。例えば、Domino サーバーが利用不能であるかどうか、データベース・アクセス制御リストが変更されてクロールしないように設定されたかどうかを確認してください。

### **FFQD4010E: ID を *id\_file\_name* に変更できません。**

Notes クローラーが ID を *id\_file\_name* に変更できません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4011E: サーバー *server\_name* 上の Lotus Notes データベース *database\_name* を切断できません。**

Domino サーバーまたはデータベースが切断できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4012E: ID を *id\_file\_name* に変更できません。**

Notes クローラーが ID を *id\_file\_name* に変更できません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4013E: 次のレコードの存在を確認できません。サーバー: *server\_name*。データベース: *database\_name*。ビュー/フォルダー: *view\_folder\_name*。**

Notes クローラーが、指定された Notes データベースから文書をフェッチ中に、Notes 文書が存在するかどうかを検証できません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4014E: ID を *id\_file\_name* に変更できません。**

Notes クローラーが ID を *id\_file\_name* に変更できません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4015E: URI を作成できません。**

URI (Uniform Resource Identifier) を作成している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4016E: 最後のクロール以降の、未変更の添付ファイル名を収集できません。**

Notes データベース内の未変更の文書からファイル名を収集しようとしていてエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4017E: ターゲット・コンテンツをフェッチできません。サーバー: *server\_name*。データベース: *database\_name*。ビュー/フォルダー: *view\_folder\_name*。**

サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* からターゲット・コンテンツをフェッチ中に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4018E: 内部リポジトリ内に未定義のレコード状況 *status\_code* が見つかりました。**

エンタープライズ・サーチ内部表から予期しない状況コード *status\_code* が戻されました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4019E: 添付ファイル名を取得できません。**

添付ファイル名を取得している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4020E: 一時ファイル *filename* に書き込むことができません。**

一時ファイルにコンテンツを書き込んでいる間にエラーが発生しました。

一時ファイルが生成される一時ディレクトリーに適切な特権が付与されていることを確認してください。

**FFQD4021E: 添付ファイルをフェッチできません。**

Notes 文書から添付ファイルをフェッチしている間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。Domino サーバーが利用可能であるかを確認してください。

**FFQD4022E: バイナリー・コンテンツを読み取りまたは書き込みしている間に入出力エラーが発生しました。**

バイナリー・コンテンツを読み取りまたは書き込みしている間に入出力エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。一時ファイルのディレクトリー容量を確認してください。

### **FFQD4023E: 未定義のレコード状況 *status\_code*。**

エンタープライズ・サーチ内部表から予期しない状況コード *status\_code* が戻されました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4024E: 入出力エラーのために、ストリングの長さを評価できません。**

Notes クローラーが、入出力エラーのためにストリングの長さを評価できません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4025W: Lotus Notes 文書から最終変更日付を取得できません。代わりに 0 が使用されます。**

フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

アクションは必要ありません。

### **FFQD4026W: Lotus Notes 文書から作成日を取得できません。代わりに 0 が使用されます。**

フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

アクションは必要ありません。

### **FFQD4027W: セキュリティー・フィールド値を取得できません。**

セキュリティー値として指定されたフィールドは、存在しないか、値を含みません。

アクションは必要ありません。

### **FFQD4028W: データ・ソース・メタデータのファイル名を取得できません。**

セキュリティー値として指定されたフィールドは、存在しないか、値を含みません。

アクションは必要ありません。

**FFQD4029W: Lotus Notes 文書から最終変更日付を取得できません。代わりに 0 が使用されます。**

フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4030W: Lotus Notes 文書から作成日を取得できません。代わりに 0 が使用されます。**

フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4031E: サーバー *server\_name* の接続は、ユーザー *user\_name* を使用して、すでにアクティブです。**

クローラーに対して接続がすでにアクティブです。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4032E: サーバー *server\_name* へのアクセスは拒否されました。ユーザー *user\_name* の Java/CORBA アクセスを許可しているサーバー設定を確認してください。**

サーバーが、クローラー・ユーザーからのアクセスを拒否しています。

クローラーが指定のターゲット・データベースにアクセスできるように、Domino サーバーを構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

**FFQD4033E: サーバー *server\_name* に対し、ユーザー ID *user\_name* またはパスワード、あるいは両方が無効です。**

ユーザー名またはパスワードが無効なため、サーバーがクローラー・アクセスを拒否しています。

Notes クローラー設定で指定された有効なユーザー ID とパスワードを、管理コンソールから構成してください。

**FFQD4034E: ユーザー *user\_name* で、サーバー *server\_name* の Notes セッションは作成できません。**

クローラーの設定が無効であるか、Domino サーバーが利用不可であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。



管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。HTTP および DIIOP タスク、ターゲット・サーバー、およびデータベースに対する DIIOP クローラー・ユーザーの特権などについて、ターゲット Domino サーバーを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

**FFQD4035E:** *server\_name* 上のデータベース *database\_name* に接続している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *user\_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。

クローラーまたは Domino サーバーの設定が無効であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、HTTP および DIIOP タスク、ターゲット・サーバー、およびデータベースに対する DIIOP クローラー・ユーザーの特権について、ターゲット Domino サーバーの状態を確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

**FFQD4036E:** *server\_name* 上のデータベース *database\_name* に接続できません。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *user\_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、HTTP および DIIOP タスク、ターゲット・サーバー、およびデータベースに対する DIIOP クローラー・ユーザーの特権について、ターゲット Domino サーバーを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

**FFQD4037E:** 式が選択した文書を選択できません。文書にアクセスできることと、式が Notes 式に基づくことを確認してください。サーバー: *server\_name*。ユーザー: *user\_name*。データベース: *database\_name*。式: *formula*。

指定された式は、Notes 式として無効です。あるいは、Domino サーバーまたはデータベースがクローラーへのアクセスを拒否されました。

指定された Notes 式を管理コンソールから確認し、修正してください。クローラーが適切にターゲット・データベースにアクセスできるように、クローラー、Domino

サーバー、およびターゲット・データベースを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」または Lotus Domino Designer のヘルプを参照してください。

**FFQD4038E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* から、ビューまたは DocumentCollection *view\_or\_folder\_name* を取得している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットが指定されたユーザー *user\_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。

指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効である (ターゲットのビューまたはフォルダーが存在しない) か、クローラーから文書を読み取るために適切な特権がターゲットに付与されていません。

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの特権を変更してください。

**FFQD4039E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user\_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view\_or\_folder\_name*。

指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効である (ターゲットのビューまたはフォルダーが存在しない) か、クローラーから文書を読み取るために適切な特権がターゲットに付与されていません。

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの特権を変更してください。

**FFQD4040E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user\_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view\_or\_folder\_name*。

指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効である (ターゲットのビューまたはフォルダーが存在しない) か、クローラーから文書を読み取るために適切な特権がターゲットに付与されていません。

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクローラー・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの特権を変更してください。

### **FFQD4041E: Notes スレッドを初期化できません。**

Notes スレッドは、エラーのために始動されません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4042E: サーバー *server\_name* の現行の Notes ユーザー ID *id\_filename* を取得できません。**

Notes クローラーが、サーバー・セッションから Notes ユーザー ID を抽出できませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4043E: サーバー *server\_name* への接続はすでにアクティブです。ID ファイル: *id\_filename*。**

クローラーに対して接続がすでにアクティブです。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4044E: サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* に接続している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *id\_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。**

クローラーまたは Domino サーバーの設定が無効であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、サーバーおよびデータベースに対するクローラー・ユーザー ID の特権について、ターゲット Domino サーバーの状態を確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

**FFQD4045E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* に接続できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *id\_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。

クローラーまたは Domino サーバーの設定が無効であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、サーバーおよびデータベースに対するクローラー・ユーザー ID の特権について、ターゲット Domino サーバーの状態を確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

**FFQD4046E:** 式が選択した文書を選択できません。文書にアクセスできることと、式が Notes 式に基づくことを確認してください。サーバー: *server\_name*。ID ファイル: *id\_filename*。データベース: *database\_name*。式: *formula*。

指定された式は、Notes 式として無効です。あるいは、Domino サーバーまたはデータベースがクローラーからのアクセスを禁止されています。

指定された Notes 式を管理コンソールから確認し、修正してください。クローラーが適切にターゲット・データベースにアクセスできるように、クローラー、Domino サーバー、およびターゲット・データベースを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」または Lotus Domino Designer のヘルプを参照してください。

**FFQD4047E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *id\_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view\_or\_folder\_name*。

指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効であるか、クローラーから文書を読み取るために適切な特権がターゲットに付与されていません。

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの特権を変更してください。

**FFQD4048E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* から、ビューまたは **DocumentCollection** を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *id\_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view\_or\_folder\_name*。

指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効であるか、クローラーから文書を読み取るために適切な特権がターゲットに付与されていません。

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの特権を変更してください。

**FFQD4049E:** サーバー *server\_name* 上のデータベース *database\_name* から、ビューまたは **DocumentCollection** を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *id\_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view\_or\_folder\_name*。

指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効であるか、クローラーから文書を読み取るために適切な特権がターゲットに付与されていません。

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの特権を変更してください。

**FFQD4050E:** ビューまたは **DocumentCollection** はヌルです。

指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。指定されたターゲットがヌルです。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4051E:** ビューから文書をフェッチできません。

指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4052E:** 式が選択した文書のユニバーサル ID と比較しながら、ビューまたはフォルダーから文書をフェッチできません。

指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4053E: DocumentCollection から文書をフェッチできません。**

指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4054E: 式が選択した文書のユニバーサル ID と比較しながら、DocumentCollection から文書をフェッチできません。**

指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4055E: 現行の文書はヌルです。**

Notes 文書の作成日を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4056E: 現行の文書から作成日を取得できません。**

Notes 文書の作成日を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4057E: 現行の文書はヌルです。**

Notes 文書の最終変更日付を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4058E: 現行の文書から最終変更日付を取得できません。**

Notes 文書の最終変更日付を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4059E: 現行の文書のサイズを取得できません。**

Notes 文書のサイズを取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4060E: 現行の文書からフィールドをフェッチできません。**

Notes 文書の文書フィールド値を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。



### **FFQD4061E: 項目をリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4062E: 現行の文書からフィールドをフェッチできません。**

Notes 文書から添付ファイル属性を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4063E: 項目をリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4064E: 現行の EmbeddedObject はヌルです。**

Notes 文書の添付ファイルから入力ストリームを取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4065E: 現行の EmbeddedObject から InputStream を取得できません。**

Notes 文書の添付ファイルから入力ストリームを取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4066E: 現行の EmbeddedObject はヌルです。**

Notes 文書から添付ファイル名を取得している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4067E: 現行の EmbeddedObject からファイル名を取得できません。**

Notes 文書から添付ファイル名を取得している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4068E: 現行の EmbeddedObject はヌルです。**

Notes 文書から添付ファイル・サイズを取得している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4069E: 現行の EmbeddedObject からファイル・サイズを取得できません。**

Notes 文書から添付ファイル・サイズを取得している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4070E: 現行の文書はヌルです。**

Notes 文書で定義されたフォーム名を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4071E: 現行の文書からフォーム名を取得できません。**

Notes 文書で定義されたフォーム名を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4072E: 現行の文書はヌルです。**

Notes 文書で定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4073E: 文書ユニバーサル Notes ID を取得できません。**

Notes 文書で定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4074E: 現行のビューまたは DocumentCollection はヌルです。**

Notes ビューまたはフォルダーで定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4075E: ビューについてユニバーサル ID を取得できません。**

Notes ビューまたはフォルダーで定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4076E: 現行のデータベースはヌルです。**

Notes データベースで定義された Notes レプリカ ID を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4077E: データベース・レプリカ ID を取得できません。**

Notes データベースで定義された Notes レプリカ ID を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4078E: クロールされる項目を収集できません。**

Notes 文書に保管されたフィールド値を取得中にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4079E: ID ファイル *id\_filename* は存在しません。**

指定された ID ファイルは存在しません。

管理コンソールから有効な Notes ID ファイルを指定してください。

## **FFQD4080E: ID ファイル *id\_filename* の ID 許可が失敗しました。**

指定されたパスワードは、与えられた Notes ユーザー ID ファイルに対して無効です。

管理コンソールから与えられた Notes ID ファイルに対して有効なパスワードを指定してください。

## **FFQD4081E: Notes セッションを作成できません。**

Notes セッションを作成している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4082E: 登録はリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4083E: ID を *id\_filename* に変更できません。**

Notes クローラーが指定された ID に切り替わるできません。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4084E: このセッションは、DIIOP 上にあります。**

Notes クローラーは、DIIOP クロール用ですが、ID を変更しようとしてしました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4085E: セッションはリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4086E: 現行の文書はリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4087E: ビュー/DocumentCollection はリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4088E: 現行の文書はリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4089E: 現行の EmbeddedObject はリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4090E: 現行の EmbeddedObject はリサイクルできません。**

Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4091W: 長すぎる URI が生成されました。この行は無視されます。生成された URI: *uri*。**

生成された URI は長すぎて、内部表を保管できません。この URI が指定する文書は、内部表に保管されず、検索で使用されません。

アクションは必要ありません。URI の長さを短くするには、Domino サーバー・データ・ディレクトリーからのデータベース相対パスを短くし、添付ファイル名を短くしてください。

**FFQD4200I: ユーザー *user\_name* を使用して *database\_URL* に接続しました。**

DB2 クローラーは指定されたデータベースに接続しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4201I: *database\_URL* から切断しました。**

DB2 クローラーは指定されたデータベースから切断しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4202W: メタデータは、サイズの上限 *data\_size\_limit* を超えたため、切り捨てられました。**

サイズがその上限より大きかったため、DB2 クローラーはメタデータ・データを切り捨てました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4203W: コンテンツは、サイズの上限 *data\_size\_limit* を超えたため、無視されました。**

全体レコード・サイズがサイズの上限より大きかったため、DB2 クローラーはコンテンツを無視しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4204W: データベース *database\_URL* 上の表 *table\_name* 内の行は、列 *column\_name* にヌル・キーが検出されたため、無視されました。**

固有キー列として指定された列に NULL データが検出されたため、DB2 クローラーは行を無視しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4205W: URI が長すぎるため、行は無視されました。URI:  
URI。**

URI が長すぎるため、DB2 クローラーは行を無視しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4207E: フィールドの指定が無効です。**

DB2 クローラー構成ファイルに誤りの列定義が含まれました。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4208E: ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。  
database\_URL への接続を確立できません。**

DB2 クローラー構成ファイルに誤りのユーザー ID またはパスワードが含まれました。

ユーザー名とパスワードが最新であることを確認してください。

**FFQD4209E: データベース database\_URL が見つかりませんでした。**

DB2 クローラーはデータベースを見つけられませんでした。

データベースが存在することを確認してください。

**FFQD4210E: 表またはビュー database\_URL が見つかりませんでした。**

DB2 クローラーは表またはビューを見つけられませんでした。

データベースが存在することを確認してください。

**FFQD4211E: 列が見つかりませんでした。**

DB2 クローラー構成ファイルに誤りの列定義が含まれました。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4212E: SQL 構文エラーが検出されました。データベース:  
database\_URL。SQL: SQL\_statement。**

行を選択する SQL ステートメントが誤りでした。DB2 クローラー構成ファイルに、誤りの WHERE 文節が含まれる可能性があります。



行を選択するための条件が正しいことを確認してください。

**FFQD4213E: ユーザー *user\_name* は、CONNECT または SELECT 特権を持ちません。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。**

ユーザーに表のアクセス権がありません。

ユーザーに CONNECT および SELECT の特権を付与してください。

**FFQD4214E: *database\_URL* へのデータベース接続がフルです。**

DB2 クローラーは、データベースへの接続数が最大に達したため、接続を確立できませんでした。

接続最大数を増やすか、しばらくしてから再試行してください。

**FFQD4215E: データベース *database\_URL* からの接続は終了しました。**

データベース接続がデータベースから予期せず終了されました。

データベースが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

**FFQD4216E: *database\_URL* への接続が失敗しました。**

データベースに接続している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4217E: *database\_URL* からの切断が失敗しました。**

データベースから切断している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4218E: 入出力エラーが発生しました。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。**

データベースからデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4219E: データベース・エラーが発生しました。データベース: *database\_URL*。SQLCODE: *SQLCODE*。SQLSTATE: *SQLSTATE*。**

データベースにアクセスしている間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4220E: データベース接続がありません。**

DB2 クローラーは正常に開始しましたが、データをクロールするためのデータベース接続が予期に反してヌルです。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

## **FFQD4221E: クロールされる列が指定されていません。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。**

DB2 クローラー構成ファイルに、列名が含まれません。

開始するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

## **FFQD4222E: セキュリティー・フィールドはストリング列でなければなりません。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。列: *column\_name*。タイプ: *security\_type*。**

セキュリティー・フィールドがストリング列ではありませんでした。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

## **FFQD4223E: 日付フィールドは、DATE または TIMESTAMP 列でなければなりません。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。列: *column\_name*。タイプ: *date\_type*。**

日付フィールドがストリング列ではありませんでした。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

## **FFQD4224E: サポートされないデータ・タイプが見つかりました。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。列: *column\_name*。タイプ: *data\_type*。**

DB2 クローラーは、サポートされないデータ・タイプ列が構成ファイルに含まれることを検出しました。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4225E: DATE または TIMESTAMP 列がコンテンツとして指定されました。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。列: *column\_name*。**

DB2 クローラーは、コンテンツとして非 LOB 列が指定されたことを検出しました。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4226E: 非数値列 (BIGINT を含む) が、パラメトリック検索可能フィールドとして指定されました。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。列: *column\_name*。タイプ: *data\_type*。**

DB2 クローラーは、パラメトリック検索可能フィールドとして非数値列が指定されたことを検出しました。数値列は以下のものです。

- DATE
- DECIMAL
- DOUBLE
- INTEGER
- REAL
- SMALLINT
- TIME
- TIMESTAMP

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4227E: 非バイナリー列がコンテンツとして指定されました。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。列: *column\_name*。タイプ: *data\_type*。**

DB2 クローラーは、コンテンツとして非バイナリー列が指定されたことを検出しました。バイナリー列は以下のものです。

- BLOB
- CLOB
- DBCLOB
- CHARACTER FOR BITDATA
- VARCHAR FOR BITDATA
- LONG VARCHAR FOR BITDATA

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4228E: 複数のコンテンツはサポートされません。データベース: *database\_URL*。表: *table\_name*。**

DB2 クローラーは 2 つ以上のコンテンツを検出しました。

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

**FFQD4300E: 内部エラーが発生しました (別の接続が存在しません)。**

予期しないエラーが発生しました。

操作を再試行してください。同じ問題が再発した場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

**FFQD4301E: 項目タイプ *item\_type* が存在しないか、項目タイプがパーツ項目タイプです。**

構成ファイルで指定された項目タイプは、Content Manager サーバーに存在しなかったか、パーツ項目タイプでした。

管理コンソールにログオンし、クロール・スペースを編集してその項目タイプを除去してください。

**FFQD4302E: 接続が失敗しました。 データベース: *database*。ユーザー: *user*。**

指定された Content Manager サーバーへの接続が失敗しました。

操作を再試行してください。サーバーが稼働していることと、パスワードが有効であることを確認してください。

**FFQD4303E: 切断が失敗しました。**

Content Manager サーバーからの切断が失敗しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

**FFQD4304E: コンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。 PID:*pid*。**

Content Manager サーバーからコンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

### **FFQD4305E: 一時ファイルを作成している間にエラーが発生しました。**

クローラーが大容量のコンテンツを一時ファイルとして保管しようとしているときに、エラーが発生しました。

詳細は、クローラー・ログを参照してください。

### **FFQD4306E: データベース接続は存在しません。**

Content Manager サーバーに対して接続が確立されませんでした。接続が破棄された可能性があります。

操作を再試行してください。サーバーが稼働していることを確認してください。

### **FFQD4307E: 照会コマンド *cmd* を実行している間にエラーが発生しました。**

Content Manager の照会コマンドを実行している間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD4308E: レコードをフェッチしている間にエラーが発生しました。 PID: *pid*。**

Content Manager サーバーからレコードをフェッチしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

### **FFQD4309E: パーツをフェッチしている間にエラーが発生しました。 PID: *pid*。**

Content Manager サーバーからパーツをフェッチしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

### **FFQD4310E: 属性 *attribute* は存在しません。**

構成ファイルで指定された属性は、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

### **FFQD4311E: 属性 *attribute* が存在しないか、属性が BLOB タイプです。**

構成ファイルで指定された属性は存在しないか、属性は BLOB タイプでした。

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

### **FFQD4312E: コンポーネント *component* は存在しません。**

構成ファイルで指定されたコンポーネントは、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

### **FFQD4313E: 属性をフェッチしている間にエラーが発生しました。**

Content Manager サーバーから属性の値をフェッチしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD4314E: 最終変更日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。**

Content Manager サーバーから最終変更日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。



詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD4315E: 作成日をリトリブしている間にエラーが発生しました。**

Content Manager サーバーから作成日をリトリブしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD4316E: 日付 *date* を解析している間にエラーが発生しました。**

日付を解析している間にエラーが発生しました。これは予期しないエラーです。

詳細は、クローラー・ログを参照してください。

### **FFQD4317E: 項目タイプ *item\_type* をリトリブしている間にエラーが発生しました。**

Content Manager サーバーから項目タイプをリトリブしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

### **FFQD4318E: オリジナル・ファイル名をリトリブしている間にエラーが発生しました。**

Content Manager サーバーからオリジナル・ファイル名をリトリブしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。Resource Manager が稼働していることを確認してください。

## **FFQD4319E: アクセスを制御するためのフィールドとして指定された属性 *attribute* は存在しません。**

構成ファイルでアクセス制御のフィールドとして指定された属性は、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

## **FFQD4320E: 文書日付として指定された属性 *attribute* が間違っています。**

構成ファイルで文書日付として指定された属性は、TIMESTAMP タイプでも DATE タイプでもありません。

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

## **FFQD4321E: 文書日付として指定された属性 *attribute* は存在しません。**

構成ファイルで文書日付として指定された属性は、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

## **FFQD4322E: 文書日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。属性: *attribute*。**

Content Manager サーバーから文書日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

## **FFQD4323W: 長すぎる URI が生成されました。この行は無視されます。生成された URI: *uri*。**

生成された URI は長すぎます。この行は無視されます。

データをクローリングするには、URI を短くしてください。サーバー名または項目タイプ名が短くなると、URI が短くなります。

**FFQD4324I: サーバーに接続しました。データベース: *database*。  
ユーザー: *user*。**

クローラー・サーバーは、Content Manager サーバーに正常に接続しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4325I: サーバーから切断しました。**

クローラー・サーバーは、Content Manager サーバーから正常に切断しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4326E: Resource Manager がオンラインでないか、使用可能  
ではありません。**

Resource Manager がオンラインでないか、使用可能ではありませんでした。

Resource Manager を始動し、操作を再試行してください。

**FFQD4327W: コンテンツをフェッチしている間にエラーが発生し  
ました。この文書をスキップします。PID:*pid*。**

Content Manager サーバーから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。文書は、Content Manager に正しく保管されていない可能性があります。この文書はクロールされませんでした。

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

**FFQD4402W: プロパティ *property\_name* は、今は変更できま  
せん。クローラーを再始動してください。**

このプロパティ *property\_name* は、クローラーの実行中に変更できません。

クローラーを停止し、再始動してください。

**FFQD4409W: 記事数が上限 *max\_num\_of\_articles* を超えたた  
め、Nntp クローラーは休止します。**

Nntp クローラーは、記事の最大数で指定された記事数に達したため、自動的に休止状態に入りました。

記事をさらに必要な場合は、記事の最大数を増やし、クローラーを再始動してください。それ以外の場合は、クローラーを単に停止してください。

**FFQD4413W: エラーのために、クローラーは *sleep\_interval* 秒間、スリープします。**

ネットワーク・エラーが検出されたため、NNTP クローラーはしばらくスリープします。

一時的にネットワークを利用できないことが理由の場合は、しばらくお待ちください。クローラーは再びクロールを開始します。それ以外の場合は、ネットワークがこのクローラー・ノードで利用可能であることを確認してください。

**FFQD4414E: サーバー状況の更新に失敗しました。クローラーはあとで再試行します。**

NNTP クローラーは、内部リポジトリでサーバー状況の更新に失敗しました。クローラーはしばらくスリープし、再試行します。

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD4415E: ニュース・グループ状況の更新に失敗しました。クローラーはあとで再試行します。**

NNTP クローラーは、内部リポジトリでニュース・グループ状況の更新に失敗しました。クローラーはしばらくスリープし、再試行します。

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD4416E: メッセージ ID の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。**

NNTP クローラーは、内部リポジトリに記事のメッセージ ID を挿入できませんでした。クローラーはしばらくスリープし、再試行します。

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD4417E: ニュース記事の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。**

NNTP クローラーは、内部リポジトリに記事を挿入できませんでした。クローラーはしばらくスリープし、再試行します。

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD4418E: 削除されたニュース記事の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。**

NNTP クローラーは、内部リポジトリに削除された記事の情報を挿入できませんでした。クローラーはしばらくスリープし、再試行します。

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

**FFQD4419W: クローラーは、サーバー状況の更新を失敗しましたが、停止されます。**

NNTP クローラーは、サーバー状況を更新できませんでした。これにより、管理 GUI に表示されるサーバー情報が、古くなるか不整合となる可能性があります。この情報は、クローラーの次回始動時に更新されます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4420W: クローラーは、ニュース・グループ状況の更新を失敗しましたが、停止されます。このため、いくつかの記事を再度クロールすることになるかもしれません。**

NNTP クローラーは、ニュース・グループ状況を更新できませんでした。これにより、管理 GUI に表示されるサーバー情報が、古くなるか不整合となる可能性があります。この情報は、クローラーの次回始動時に更新されます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4421W: クローラーは、メッセージ ID の更新を失敗しましたが、停止されます。このため、いくつかの記事を再度クロールすることになるかもしれません。**

NNTP クローラーは、メッセージ ID を内部リポジトリに記録できませんでした。これにより、クローラーが次回同じ記事をクロールする可能性がありますが、重複として除去されるため、検索結果には影響しません。

アクションは必要ありません。

**FFQD4422W: クローラーは、記事の挿入を失敗しましたが、停止されます。**

NNTP クローラーは記事を内部リポジトリに保管できませんでしたが、それはクローラーの次回始動時にクロールされます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4423W: クローラーは、削除された記事の挿入を失敗しましたが、停止されます。**

NNTP クローラーは、削除された記事の情報を内部リポジトリに保管できませんでしたが、それはクローラーの次回始動時に行われます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4427E:** 不明なホスト *host\_name* のために、ニュース・グループ・リストをリトリブできませんでした。

指定されたサーバー *host\_name* が不明なホストのため、NNTP クローラーは、サーバー上のニュース・グループ・リストをリトリブしようとして、サーバーにアクセスできません。

ホスト名が正しいことを確認してください。

**FFQD4428E:** *host\_name* 上のネットワーク・エラーまたはサーバー・エラーのために、ニュース・グループ・リストをリトリブできませんでした。

ネットワーク・エラーが発生したため、NNTP クローラーはサーバー上のニュース・グループ・リストをリトリブできませんでした。

ログの例外を参照し、ネットワークが利用可能であることを確認し、ニュース・サーバーがアクティブであることを確認してください。

**FFQD4433W:** クリーニングが中断されました。このプロセスは、次の機会に再始動されます。

削除文書の情報を内部リポジトリに書き込んでいる間に、NNTP クローラーが停止されました。このタスクは、クローラーの次回始動時に再開されます。

アクションは必要ありません。

**FFQD4434W:** この記事 *message\_id* の中にメッセージ ID が見つかりませんでした。この記事は無視されます。

NNTP クローラーが、誤った形式の記事を検出しました。この記事は無視されません。

アクションは必要ありません。

**FFQD4435W:** メッセージ ID が矛盾します (*message\_id1* と *message\_id2* は同一でなければなりません)。この記事は無視されます。

NNTP クローラーが、誤った形式の記事を検出しました。この記事は無視されません。

アクションは必要ありません。



### **FFQD4436W: 予期しない日付形式 *date*。**

NNTP クローラーが、記事の中に予期しない日付形式を検出しました。

アクションは必要ありません。

### **FFQD4437E: 記事を解析している間に入出力エラーが発生しました。**

ニュース・サーバーからリトリブした記事を解析している間に、ネットワーク入出力エラーが発生しました。

ログの例外を参照し、ネットワークが利用可能であることを確認し、ニュース・サーバーがアクティブであることを確認してください。

### **FFQD4449E: *api\_name* でエラーが発生しました。**

*api\_name* API を実行している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4450E: ファイル *file\_name* が見つかりませんでした。**

構成ファイル *file\_name* が見つかりませんでした。 NNTP クローラーはクローリングを開始できませんでした。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

### **FFQD4451E: ネットワーク入出力エラーが発生しました。**

サーバーにアクセスしている間に、ネットワーク入出力エラーが発生しました。

ログの例外を参照し、ネットワークが利用可能であることを確認し、ニュース・サーバーがアクティブであることを確認してください。

### **FFQD4452E: コマンド *nntp\_command* で、予期しない応答 *server\_response* が戻されました。**

NNTP クローラーは、 NNTP コマンド *nntp\_command* について、サーバーから予期しない応答 *server\_response* を受け取りました。

ニュース・サーバーが適切に機能していることを確認してください。

**FFQD4453W: 記事ポインターの状況をリトリブできませんでした。戻りコードは `return_code` です。**

NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード `return_code` を受け取りました。これは、ニュース・グループ内の一部の記事がサーバーから削除されたときに発生する可能性があります。

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

**FFQD4454W: 記事をリトリブできませんでした。戻りコードは `return_code` です。**

NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード `return_code` を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止するところであるか、利用不可であることによるものです。

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

**FFQD4455W: クローラーは次の記事に移動できませんでした。戻りコードは `return_code` です。**

NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード `return_code` を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止するところであるか、利用不可であることによるものです。

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

**FFQD4456W: クローラーは、`server_name` 上の ニュース・グループ `newsgroup_name` に切り替えることができませんでした。戻りコードは `return_code` です。**

NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード `return_code` を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止するところであるか、利用不可であることによるものです。

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

**FFQD4457W: ニュース・グループ・リストをリトリブできませんでした。戻りコードは `return_code` です。**

NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード `return_code` を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止するところであるか、利用不可であることによるものです。

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

### **FFQD4458E: サーバー名 *server\_name* を解決できませんでした。**

NNTP クローラーは、サーバー *server\_name* のサーバー・アドレスを解決できませんでした。

サーバーが存在しない場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。存在する場合は、クローラー・ノードのネットワーク環境を確認してください。

### **FFQD4461E: クローラーは、サーバーから、サービス切断のメッセージを受け取りました。**

NNTP クローラーは、サーバーから、サービス切断のメッセージを受け取りました。サーバーへの接続は切断されます。

サーバーが利用可能であることを確認してください。

### **FFQD4500E: *directory\_name* ディレクトリーが見つかりませんでした。**

指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

クローラー・ノードのディレクトリーを確認し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを設定してください。

### **FFQD4501E: *directory\_name* ディレクトリーが見つかりませんでした。エラー・メッセージ : *detail\_message***

指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

クローラー・ノードのディレクトリーを確認し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを設定してください。

### **FFQD4502E: *filename* ファイルのオープンに失敗しました。ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。**

ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。ファイルはクロールされませんでした。

そのクロール・ファイルを使用した他のプログラムを停止し、クローラーを再始動してください。

**FFQD4503E:** *filename* ファイルを読み取っている間に例外が発生しました。

ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。ファイルはクロールされませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4504E:** サブディレクトリー・レベル *levels of subdirectories* が間違っています。

指定されたサブディレクトリー・レベルが無効でした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4505W:** ディレクトリー名が長すぎて保管できません。ディレクトリー: *directory\_name*。

指定されたディレクトリー名が長すぎて保管できませんでした。

クロール対象のディレクトリーを移動し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを設定してください。

**FFQD4506W:** URI 名が長すぎて保管できません。 URI: *directory\_name*。

指定された URI が長すぎて保管できませんでした。 URI 名の長さは、UTF-8 バイト・ストリングとして計算されます。

ディレクトリーを移動するか、クロール対象のファイル名を変更し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを設定してください。

**FFQD4507E:** ネットワーク・ドライブを使用できません。エラー・メッセージ: *detail\_message*

ネットワーク・ドライブが使用可能ではありませんでした。

ネットワークとクローラー・ノードのディレクトリーを確認してください。

**FFQD4508E:** ユーザー ID *user\_name* またはパスワードが間違っています。ネットワーク・フォルダー:*directory\_name*。

誤ったユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が指定されました。

ユーザー名とパスワードを確認し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを設定してください。

**FFQD4509E: 一時ファイル *temporary\_file* は作成されませんでした。**

ファイル・システム・クローラーは、一時ファイルを作成できませんでした。

クローラー・ノードの空きディスク・スペースを確認し、クローラーを再始動してください。

**FFQD4510E: 一時ファイル *temporary\_file* のロードに失敗しました。**

ファイル・システム・クローラーは、一時ファイルを読み取れませんでした。

クローラー・ノードの空きディスク・スペースを確認し、クローラーを再始動してください。

**FFQD4511E: 一時ファイル *temporary\_file* の保管に失敗しました。**

ファイル・システム・クローラーは、一時ファイルを書き込めませんでした。

クローラー・ノードの空きディスク・スペースを確認し、クローラーを再始動してください。

**FFQD4600E: URL *public\_folder\_URL* からの応答を受信している間に入出力エラーが発生しました。**

パブリック・フォルダー・サーバーから応答を受信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4601E: XML パーサー構成エラーが発生しました。**

パブリック・フォルダー・サーバーからの応答を解析するために XML パーサーを作成できませんでした。

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

**FFQD4602E: URL *public\_folder\_URL* からの WebDAV 応答は、間違った XML 文書です。**

パブリック・フォルダー・サーバーは、誤りのエレメントや文字を含む可能性がある XML 文書を戻しました。

パブリック・フォルダーに破損した文書が含まれないことを確認してください。

**FFQD4603I:** ユーザー *user\_name* を使用して *public\_folder\_URL* に接続しました。

Exchange クローラーは指定された URL に接続しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4604I:** ユーザー *user\_name* と トラストストア・ファイル *truststore\_file* を使用して *public\_folder\_URL* に接続しました。

Exchange クローラーは指定された URL に接続しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4605I:** *public\_folder\_URL* から切断しました。

Exchange クローラーは指定された URL から切断しました。

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

**FFQD4607E:** *public\_folder\_URL* への接続に失敗しました。

指定された URL に接続している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4608E:** 次のレコードの検査が失敗しました。

指定された URL から文書を取得している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4609E:** URL *uniform\_resource\_locator* からのコンテンツの取得でエラーが発生しました。

指定された URL からデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4610E:** URL *public\_folder\_URL* からコンテンツを取得している間に入出力エラーが発生しました。

指定された URL からデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。



**FFQD4611E:** パブリック・フォルダー *public\_folder\_URL* をクローラできませんでした。 HTTP 状況は *HTTP\_state\_code* です。

指定された URL からデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4612E:** *public\_folder\_URL* に対する WebDAV 要求が失敗しました。戻された状況コードとメッセージは、*HTTP\_state\_code*、*HTTP\_response\_message* です。

パブリック・フォルダー・サーバーは、予期しない HTTP 応答を戻しました。

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく機能していることを確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4613W:** 値 *string* を解析している間に、時刻形式のエラーが検出されました。

パブリック・フォルダー・サーバーは、誤りの日付ストリングを含む応答を戻しました。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD4614W:** 指定された URL *document\_URL* はすでに存在しません。

Exchange クローラーは、重複した URL を検出しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4616E:** 一時ファイル *temporary\_file* は存在しません。

Exchange クローラーは、一時ファイルを見つけられませんでした。

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

**FFQD4617E:** オブジェクトを一時ファイル *temporary\_file* に書き込んでいる間に入出力エラーが発生しました。

Exchange クローラーは、データを一時ファイルに書き込めませんでした。

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

**FFQD4618E:** ファイル *temporary\_file* へのオブジェクト出力ストリームをクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

**FFQD4619E:** ファイル *temporary\_file* をクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

**FFQD4620E:** 一時ファイル *temporary\_file* からオブジェクトを読み取っている間に入出力エラーが発生しました。

一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

クローラー・マシンが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

**FFQD4621E:** ファイル *temporary\_file* からのオブジェクト入力ストリームをクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

クローラー・マシンが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

**FFQD4622E:** 不明なホスト名 *host\_name* が検出されました。

指定されたパブリック・フォルダー URL 内のホスト名が見つかりませんでした。

ホスト名が正しいことを確認してください。

**FFQD4623E:** URL *public\_folder\_URL* が間違っています。

指定されたパブリック・フォルダー URL が見つかりませんでした。

パブリック・フォルダー URL が正しいことを確認してください。

**FFQD4624E:** *public\_folder\_URL* への接続をリフレッシュできませんでした。

Exchange クローラーは、パブリック・フォルダー・サーバーへの接続をリセットできませんでした。

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく機能していることを確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4625E: 要求を *public\_folder\_URL* に送信している間に、入出力エラーが発生しました。**

パブリック・フォルダー・サーバーに要求を送信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4626E: *public\_folder\_URL* への接続に失敗しました。**

指定された URL に接続している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4627E: SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。**

SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD4628E: SSL を使用するには、トラストストア・パスワードの指定が必要です。**

SSL を使用するには、トラストストア・ファイルのパスワードの指定が必要です。

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

**FFQD4629E: トラストストア・ファイル *truststore\_file* は存在しません。**

指定されたトラストストア・ファイルは存在しないか、それに対する読み取りの許可がユーザーにありませんでした。

入力されたトラストストア・ファイルのパスが正しく、ユーザーがそのファイルを読み取れることを確認してください。

**FFQD4631E: トラストストアのファイル・フォーマットまたはパスワードが間違っています。指定されたトラストストアは *truststore\_file* です。**

トラストストア・ファイル・フォーマット、またはトラストストア・ファイルに指定されたパスワードが誤りである可能性があります。サポートされるフォーマットは JKS、JCEKS、および PKCS#12 です。

トラストストア・ファイル・フォーマットとパスワードが正しいことを確認し、再試行してください。

**FFQD4632W: URI が長すぎるため、文書は無視されました。**

**URI:** *URI*。

URI が長すぎるため、Exchange クローラーは文書は無視しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4633W: URI が長すぎるため、フォルダーは無視されました。 URI:** *URI*。

URI が長すぎるため、Exchange クローラーはフォルダーは無視しました。

アクションは必要ありません。

**FFQD4707E: 構成ファイルの中の サーバー名 `server_string`は、`VeniceBridge` サーバーとリポジトリ名を表していません。**

サーバー・ストリング `server_string` の形式が正しくありませんでした。

管理コンソールから `VeniceBridge` クローラー設定を構成してください。

**FFQD4708E: VeniceBridge API エラーが発生しました。**

`VeniceBridge` サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4709E: VeniceBridge API はライセンス交付を受けていません。**

`VeniceBridge` クローラーは、`VeniceBridge` コンポーネントの一部がライセンス交付を受けていないため、`VeniceBridge` サーバーにアクセスできませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4710E: VeniceBridge サーバー・インスタンスを作成できません。**

`VeniceBridge` クローラーは、指定された JNDI プロパティが誤りのため、`VeniceBridge` サーバーにアクセスできませんでした。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4711E: VeniceBridge API 構成エラーが発生しました。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4712E: VeniceBridge サーバーを見つけることができません。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4713E: 通信関連エラーが発生しました。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4714E: リポジトリ *repository\_name* が見つかりません。**

*repository\_name* リポジトリは、 VeniceBridge サーバーに存在しません。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット・リポジトリと対応することを確認してください。

### **FFQD4715E: VeniceBridge ユーザー・インスタンスは初期化されませんでした。**

VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

### **FFQD4716E: *repository\_name* リポジトリへのログオンに失敗しました。**

VeniceBridge クローラーは、 *repository\_name* リポジトリにログオンできませんでした。

正しいユーザー名とパスワードが指定されていることを確認してください。

### **FFQD4718E: リポジトリ *repository\_name* の項目クラス *item\_class* が見つかりませんでした。**

構成ファイルで指定された項目クラスは、 VeniceBridge サーバーに存在しませんでした。

管理コンソールにログオンし、クロール・スペースを編集してその項目クラスを除去してください。

**FFQD4719E:** プロパティ *property* が見つかりませんでした。  
リポジトリ: *repository\_name*。項目クラス: *item\_class*。

構成ファイルで指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在しませんでした。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4720E:** ランキング日付のプロパティ *property* が見つかりませんでした。リポジトリ: *repository\_name*。項目クラス: *item\_class*。

構成ファイルで文書データとして指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在しませんでした。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4721E:** セキュリティー・フィールドのプロパティ *property* が見つかりません。リポジトリ: *repository\_name*。項目クラス: *item\_class*。

構成ファイルでセキュリティ・フィールドとして指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在しませんでした。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4722E:** 指定された選択基準 *condition\_statement* に問題があります。

構成ファイルで指定された条件ステートメントの構文が誤りでした。

条件ステートメントの構文が正しいことを確認してください。

**FFQD4723E:** ランキング日付フィールドは、**DATE** または **DATETIME** データ・タイプでなければなりません。リポジトリ: *repository\_name*。項目クラス: *item\_class*。プロパティ: *property*。タイプ: *data\_type*。

構成ファイルで文書データとして指定されたプロパティは、DATE タイプでも DATETIME タイプでもありません。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4724E: サポートされないデータ・タイプ *data\_type* が見つかりました。リポジトリ: *repository\_name*。項目クラス: *item\_class*。プロパティ: *property*。**

構成ファイルで指定されたプロパティは、サポートされないデータ・タイプでした。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4725E: 実行される照会に問題があります。**

VeniceBridge サーバーに対して照会コマンドを実行している間に、エラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

**FFQD4726E: 順序キーが見つかりません。 キー: *order\_key\_property*。**

構成ファイルで順序キーとして指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在しません。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4728W: 長すぎる URI が生成されました。このレコードは無視されます。 URI: *uri*。**

生成された URI は長すぎて、内部表を保管できません。この URI が指定する文書は、内部表に保管されず、検索で使用されません。

アクションは必要ありません。

**FFQD4729W: プロパティ *property* が見つかりませんでした。**

構成ファイルで指定されたプロパティは、見つかりませんでした。

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

**FFQD4730E: コンテンツを書き込んでいる間に入出力エラーが発生しました。**

VeniceBridge サーバーからデータを転送している間にエラーが発生しました。

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。



---

## 第 19 章 用語集

この用語集では、エンタープライズ・サーチのインターフェースおよび資料で使用される用語を定義します。

### アラート (alert)

問題、あるいは今にも起こりそうな問題を示すメッセージや標識。

### アンカー・テキスト (anchor text)

ハイパーリンクに関連付けられたテキスト。

### エスケープ文字 (escape character)

後続の 1 つ以上の文字に対して特殊な意味を抑制または設定する文字。

### エンキュー (enqueue)

キューに項目を入れること。

### エンタープライズ・サーチ管理者 (enterprise search administrator)

エンタープライズ・サーチ全体を管理できる管理役割。

### オペレーター (operator)

エンタープライズ・サーチで、コレクション・レベルのプロセスを監視、開始、停止する権限を持つユーザー。

### 解析 (parse)

エンタープライズ・サーチで、文書から有用なテキストやメタデータを抽出すること。このプロセスには、文書のランキングにかかわるアルゴリズムの実行や、複合語の分解や同義語の設定を行う言語分析が含まれる。

### 概念抽出 (concept extraction)

テキスト文書にある重要な語彙項目 (人、場所、製品など) を識別し、その項目リストを生成する検索機能。『テーマ抽出』も参照。

### カテゴリー (category)

類似した特性を持つ文書のグループ。

### カテゴリー・ツリー (category tree)

エンタープライズ・サーチで、エンタープライズ・サーチ管理コンソールに表示されるカテゴリー階層。

### 管理役割 (administrative role)

エンタープライズ・サーチ管理コンソールで実行できる機能を決めるユーザー種別。この役割により、ユーザーが管理できるコレクションも決まる。

### 近接検索 (proximity search)

同一のセンテンス、パラグラフ、または文書にある一定の語を探す検索タイプ。

### クローラー (crawler)

データ・ソースから文書を取り出し、検索索引作成用の情報を収集するソフトウェア・プログラム。

### クロール・スペース (crawl space)

指定パターン (データベース名、ファイル・システム・パス、ドメイン・ネ

ーム、IP アドレス、URL など) に一致するソースの集合。クローラーはここから読み取って索引用の項目を取り出す。クローラ・スペースには、例えば、リレーショナル・データベース表の集合、1 つ以上の DB2 Content Manager サーバー上にある項目タイプ、または複数の Notes データベースなどが含まれる。

#### 言語の識別 (language identification)

文書の言語を判別するエンタープライズ・サーチ機能。

#### 言語分析検索 (linguistic search)

基本形に戻した語を使用して文書を表示、取得、索引付けする検索タイプ。例えば、mice は mouse として索引を作成する。

#### 検索アプリケーション (search application)

エンタープライズ・サーチ・システムで、照会の処理、索引の検索、検索結果の表示、コレクション用のソース文書の取得を行うプログラム。

#### 検索エンジン (search engine)

検索要求を受け取り、文書リストをユーザーに戻すプログラム。

#### 検索キャッシュ (search cache)

以前の検索要求のデータと結果を保持するバッファ。

#### 検索結果 (search results)

検索要求に一致する文書のリスト。検索結果は多くの場合、文書の照会適合度に関する検索エンジンの尺度によって決まった適合順でソートされる。通常の結果リストには、文書を取得した URL、文書のタイトル、短い要約が含まれる。日付、ファイル・サイズ、その他の文書属性 (文書が属するカテゴリーなど) も含まれるものもある。

#### 検索索引ファイル (search index file)

検索エンジンで索引が保管されているファイル。

#### 高頻度ランキング (popular ranking)

文書の既存のランキングに、その検索頻度を基に加算するランキング・タイプ。

#### 語のステミング (word stemming)

言語学的な正規化のプロセス。1 つのワードの異形を一般形に分解する。例えば、「connections」、「connective」、および「connected」は「connect」に分解される。

#### コレクション (collection)

データ・ソースと、そのクローラ、解析、索引作成、検索用のオプションの集合。コレクション内のデータ・ソースは、1 つの照会で検索できる。エンタープライズ・サーチ管理者が、コレクション内のデータのクローラ、解析、索引作成、検索の方法に関するオプションを指定する。

#### 索引 (index)

データ項目を参照し、照会用語を含む文書を検索で迅速に見つけられるようにするデータ構造。

#### 索引キュー (index queue)

処理される索引再編成要求や索引リフレッシュのリスト。

**索引再編成 (index reorganization)**

エンタープライズ・サーチ・システムで索引を作成する処理。『索引リフレッシュ』と対比。

**索引リフレッシュ (index refresh)**

エンタープライズ・サーチ・システム内の既存の索引に新しい情報を追加する処理。『索引再編成』と対比。

**字句類縁性 (lexical affinity)**

文書内の検索語間の関係。字句類縁性を使用して、結果の適合度を算出する。

**自然言語照会 (natural language query)**

キーワードを単純に並べるのではなく、文語表現 (「Who runs the finance department?」など) を分析する検索のタイプ。

**条件加重検索 (weighted term search)**

一定の条件が重視される照会。

**情報抽出 (information extraction)**

概念抽出のタイプの 1 つで、テキスト文書内の重要な語彙項目 (名前、用語、式など) を自動的に認識するもの。

**スコア (score)**

該当の文書が、他の検出文書と相対的に、検索基準にどの程度一致しているかを示す値 (通常 0 から 1 まで)。

**ステミング (stemming)**

『語のステミング』を参照。

**ストップワード (stop word)**

よく使用され、検索アプリケーションが照会応答時に無視する語。「the」、「an」、「and」など。

**ストップワードの除去 (stop word removal)**

テキスト索引のサイズを減らすために、索引からストップワードを除去するプロセス。

**静的要約 (static summarization)**

要約タイプの 1 つ。検索結果には、文書の指定および保管された要約が含まれる。『動的要約』と対比。

**静的ランキング (static ranking)**

ランキング・タイプの 1 つ。日付や、その文書を指すリンク数など、ランキングされる文書に関する要素でランキングが上がる。『動的ランキング』と対比。

**セキュリティー・トークン (security token)**

コレクションの文書へのアクセス許可に使用される ID とセキュリティーに関する情報。データ・ソース・タイプによって、サポートするセキュリティー・トークンのタイプは異なる。例えば、ユーザー役割、ユーザー ID、グループ ID や、コンテンツへのアクセス制御用のその他の情報などがある。

**データ・ソース (data source)**

文書を検索できるデータ・リポジトリ。 Web、リレーショナルおよび非リレーショナル・データベース、およびコンテンツ・マネージメント・システムなど。

**データ・ソース・タイプ (data source type)**

データ・アクセス用のプロトコルに応じたデータ・ソースのグループ。

**テーマ抽出 (theme extraction)**

概念抽出のタイプの 1 つで、テキスト文書内の重要な語彙項目を自動的に認識して、文書のテーマやトピックを抽出するもの。『概念抽出』も参照。

**ディスカバラー (discoverer)**

クローラー機能の 1 つで、クローラーが情報検索に使用できるデータソースを判別する機能。

**テキスト・ベースのスコアリング (text-based scoring)**

照会内の語に対する文書の適合度を表す整数値を、文書に割り当てるプロセス。整数値が大きいほど、照会への一致が緊密であることを表す。『動的ランキング』も参照。

**テキスト分析 (text analysis)**

コレクションのデータの検索可能性を高めるために、テキストから意味やその他の情報を抽出するプロセス。

**デキュー (dequeue)**

キューから項目を除去すること。

**トークナイザー (tokenizer)**

テキストをスキャンし、一続きの文字をトークンとして認識できる場合にそれを判別する解析プログラム。

**トークン (token)**

コンピューティング言語の基本構文単位。トークンは、ブランク文字を除き、またストリング定数や区切り ID 内の文字を除いた 1 つ以上の文字から構成される。

**動的要約 (dynamic summarization)**

要約タイプの 1 つ。検索語が強調表示され、検索結果には検索している文書の概念を最もよく表す句が含まれる。『静的要約』と対比。

**動的ランキング (dynamic ranking)**

照会の条件を検索中の文書に関して分析し、結果のランクを決定するランキングのタイプ。『テキスト・ベースのスコアリング』も参照。『静的ランキング』と対比。

**パーサー (parser)**

エンタープライズ・サーチ・データ・ストアに追加された文書を解釈するプログラム。パーサーは、文書から情報を抽出し、索引付け、検索、取得の準備を行う。

**ハイパーテキスト・アンカー (hypertext anchor)**

HTML 文書において、別のページやその文書内の他の場所へのハイパーテキスト・リンクを定義するためのコード。

**ハイパーリンク (hyperlink)**

テキスト・ストリングやイメージなど、URI と関連付けられた Web ページ上の領域。クリックすると、その URI が開く。

**ハイブリッド検索 (hybrid search)**

ブール検索とフリー・テキスト検索を組み合わせたもの。

**パラメトリック検索 (parametric search)**

数値または属性 (日付、整数、その他のデータ・タイプなど) を含むオブジェクトを探す検索のタイプ。

**ブール検索 (Boolean search)**

1 つ以上の検索語が、AND、NOT、OR などの演算子を使って結合された検索。

**ファジー検索 (fuzzy search)**

検索語にスペルが似た語を戻す検索。

**フィールド検索 (fielded search)**

特定のフィールドに限定された照会。

**フリー・テキスト検索 (free text search)**

フリー・フォーム・テキスト、つまり、検索対象を自然言語で記述した句や文によって、検索語を表現した検索。

**分類構造 (taxonomy)**

類似性に基づいてオブジェクトをグループに分類したもの。エンタープライズ・サーチでは、分類構造によってデータはカテゴリとサブカテゴリに編成される。『カテゴリ・ツリー』も参照。

**マスク文字 (masking character)**

検索語の先頭、中間、および末尾にある任意の文字を表す文字。マスク文字は通常、精密な索引で語の異形を検索するために使用される。『ワイルドカード』も参照。

**モデル・ベースのカテゴリ (model-based category)**

類似した内容を含む文書で文書を索引付けおよび検索するために、文書の主題の判別に使われる事前定義用語を使用した分類構造。

**モニター担当者 (monitor)**

エンタープライズ・サーチで、コレクション・レベルのプロセスを監視する権限を持つユーザー。

**ユーザー ID (user ID)**

ユーザーがシステムにサインオンするときに、ユーザー・プロフィールをユーザーと関連付けるために使用される名前。

**ユーザー・エージェント (user agent)**

Web をブラウズし、アクセスしたサイトに自身の情報を残すアプリケーション。エンタープライズ・サーチで、Web クローラーはユーザー・エージェント。

**有効範囲 (scope)**

検索要求の範囲を定義するための関連 URI のグループ。

**要約 (summarization)**

文書の内容を簡潔に記述する文を検索結果に組み込むプロセス。『動的要約』と『静的要約』も参照。

**ランキング (ranking)**

照会検索結果の各文書に整数値を割り当てるプロセス。検索結果における文書の順序は、照会への適合度に基づいて決まる。ランクが高いほど、緊密な一致を表す。『動的ランキング』と『静的ランキング』も参照。

**リンク分析 (link analysis)**

コレクション内のどのページがユーザーにとって重要かを判別するための方法。

**ルール・ベースのカテゴリ (rule-based category)**

規則を定義して作成されるカテゴリ。規則によって、カテゴリに関連付けられる文書が決める。例えば、一定の語を含む、または含まない文書や一定の URI パターンに一致する文書を、特定のカテゴリと関連付ける規則を定義する。

**ワイルドカード文字 (wildcard character)**

検索語の先頭、中間、または末尾にある任意の文字を表す文字。

**Extensible Markup Language (XML)**

文書処理や Web 上の情報公開に使用されるテキスト・ベースのタグ言語。

**URI (Uniform Resource Identifier)**

抽象的または物理的リソースを識別するためのコンパクトな文字ストリング。最も一般的な URI のフォームは Web ページ・アドレスである。これは、URL (Uniform Resource Locator) と呼ばれる URI の特定フォームまたはサブセットである。URI では通常、リソースへのアクセス方法、そのリソースを含むコンピューター、そのコンピューター上のリソースの名前 (ファイル名) を記述する。

**URL (Uniform Resource Locator)**

コンピューター上、またはインターネットなどのネットワーク内の情報リソースを表す一続きの文字。この一続きの文字には、その情報リソースへのアクセスに使用されるプロトコルの省略名、およびそのプロトコルが情報リソースを見つけるために使用する情報が含まれる。

**XML** 『Extensible Markup Language』を参照。

---

## DB2 Information Integrator の資料

ここでは、DB2 Information Integrator の資料についての情報を提供します。

次のトピックの表は、正式な資料名、資料番号、および PDF 文書の場所を示しています。ハードコピー版の資料を注文するには、正式な資料名または資料番号が必要です。DB2 Information Integrator のリリース情報とインストール要件の資料名、ファイル名、および場所についても、以下のトピックの中に含まれています。

---

### z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料

#### 目的

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料。

表 2. z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」&gt;「インフォメーション・インテグレーション」&gt;「DB2 Information Integrator 概説」&gt;「問題、予備手段、および資料の更新」</li><li>• DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li><li>• DB2 Information Integrator 製品 CD</li></ul>



---

## z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料

z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料

### 目的

z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料。

表 3. z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> のクライアント・ガイド	SD88-7512	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> の Data Mapper ガイド	SD88-7515	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Event Publishing</i> はじめに	SD88-7516	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> のインストール・ガイド	GD88-7517	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Event Publishing</i> オペレーション・ガイド	SD88-7510	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Event Publishing</i> 計画ガイド	SD88-7511	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> の管理ガイド	SD88-7509	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> のシステム・メッセージ	SD88-7514	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Event Publisher for IMS リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Event Publisher for VSAM リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

---

## Linux、UNIX、および Windows 上のイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料

Linux、UNIX、および Windows 上のイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料

### 目的

Linux、UNIX、および Windows 上のイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料。

表4. Linux、UNIX、および Windows 上のイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
インストール・ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)	GC88-9562	<ul style="list-style-type: none"> <li>DB2 PDF Documentation CD</li> <li>DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li> </ul>
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	<ul style="list-style-type: none"> <li>DB2 PDF Documentation CD</li> <li>DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li> </ul>
<i>Migrating to SQL Replication</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"> <li>DB2 PDF Documentation CD</li> <li>DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li> </ul>
SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス	SC88-9163	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for SQL Replication Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」&gt;「インフォメーション・インテグレーション」&gt;「DB2 Information Integrator 概説」&gt;「問題、予備手段、および資料の更新」</li> <li>DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド</li> <li>DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li> <li>DB2 Information Integrator 製品 CD</li> </ul>

## Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する資料

Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する資料

## 目的

Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する資料。

表 5. Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
アプリケーション開発者向けガイド	SC88-9609	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
ラッパー開発における C++ API リファレンス	SC88-9921	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
データ・ソース構成ガイド	なし	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
フェデレーテッド・システム・ガイド	SC88-9614	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
<i>Guide to Configuring the Content Connector for VeniceBridge</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
インストール・ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)	GC88-9562	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
ラッパー開発における Java API リファレンス	SC88-9922	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
マイグレーション・ガイド	SC88-9610	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
ラッパー開発者向けガイド	SC88-9923	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>

表 5. Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator の資料 (続き)

資料名	資料番号	場所
Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」&gt;「インフォメーション・インテグレーション」&gt;「DB2 Information Integrator 概説」&gt;「問題、予備手段、および資料の更新」</li> <li>DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド</li> <li>DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li> <li>DB2 Information Integrator 製品 CD</li> </ul>

## z/OS 上のフェデレーテッド機能に関する資料

z/OS 上のフェデレーテッド機能に関する資料

### 目的

z/OS 上のフェデレーテッド機能に関する資料。

表 6. z/OS 上のフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
Classic Federation および Classic Event Publishing のクライアント・ガイド	SD88-7512	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing の Data Mapper ガイド	SD88-7515	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation はじめに	GD88-7508	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing のインストール・ガイド	GD88-7517	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing の管理ガイド	SD88-7509	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing のシステム・メッセージ	SD88-7514	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation トランザクション・サービシス・ガイド	SD88-7513	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Federation for z/OS リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

---

## z/OS 上のレプリケーション機能に関する資料

z/OS 上のレプリケーション機能に関する資料

### 目的

z/OS 上のレプリケーション機能に関する資料。

表 7. z/OS 上のレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Migrating to SQL Replication</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
<i>Replication Installation and Customization Guide for z/OS</i>	SC18-9127	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス	SC88-9163	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 PDF Documentation CD</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li></ul>
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for SQL Replication Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」&gt;「インフォメーション・インテグレーション」&gt;「DB2 Information Integrator 概説」&gt;「問題、予備手段、および資料の更新」</li><li>• DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li><li>• DB2 Information Integrator 製品 CD</li></ul>

---

## Linux、UNIX、および Windows 上のエンタープライズ・サーチ機能に関する資料

Linux、UNIX、および Windows 上のエンタープライズ・サーチ機能に関する資料

## 目的

Linux、UNIX、および Windows 上のエンタープライズ・サーチ機能に関する資料。

表 8. Linux、UNIX、および Windows 上のエンタープライズ・サーチ機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
エンタープライズ・サーチの管理	GD88-6374	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド	GD88-6373	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス	SD88-6375	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ リリース・ノート	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

## リリース情報とインストール要件

リリース情報には、製品のリリースとフィックスバック・レベルに特有の情報が入っています。また、それぞれのリリースの資料に対する最新の訂正も含まれています。インストール要件には、製品のリリースに特有の情報が入っています。

表 9. DB2 Information Integrator のリリース情報とインストール要件

資料名	ファイル名	場所
<i>Installation Requirements for IBM DB2 Information Integrator Event Publishing Edition, Replication Edition, Standard Edition, Advanced Edition, Advanced Edition Unlimited, Developer Edition, and Replication for z/OS</i>	Prereqs	<ul style="list-style-type: none"><li>• DB2 Information Integrator 製品 CD</li><li>• DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド</li></ul>
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	ReleaseNotes	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」&gt;「インフォメーション・インテグレーション」&gt;「<b>DB2 Information Integrator 概説</b>」&gt;「問題、予備手段、および資料の更新」</li><li>• DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド</li><li>• DB2 Information Integrator Support の Web サイト</li><li>• DB2 Information Integrator 製品 CD</li></ul>
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Event Publisher for IMS for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Event Publisher for VSAM for z/OS</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 9. DB2 Information Integrator のリリース情報とインストール要件 (続き)

資料名	ファイル名	場所
Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Classic Federation for z/OS	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ リリース・ノート	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

## リリース情報とインストール要件の表示

リリース情報とインストール要件の表示

### 目的

Windows オペレーティング・システム上で、CD に入っているインストール要件およびリリース情報を表示するには、次のように入力します。

```
x¥doc¥%L
```

### パラメーター

*x* Windows CD ドライブ名

*%L*

使用したい資料のロケール。例えば、en\_US

### 目的

UNIX オペレーティング・システム上で、CD に入っているインストール要件およびリリース情報を表示するには、次のように入力します。

```
lcdrom/doc/%L
```

### パラメーター

*cdrom*

CD の UNIX マウント・ポイント

*%L*

使用したい資料のロケール。例えば、en\_US

## PDF 文書の表示と印刷

PDF 文書の表示と印刷

DB2 PDF Documentation CD から DB2 Information Integrator PDF ブックを表示および印刷するには、次のようにします。

1. DB2 PDF Documentation CD のルート・ディレクトリーから、index.htm ファイルをオープンします。
2. 使用したい言語をクリックします。
3. 表示したい文書のリンクをクリックします。



## DB2 Information Integrator の資料へのアクセス

DB2 Information Integrator の資料へのアクセス

すべての DB2 Information Integrator ブックおよびリリース情報の PDF ファイルは、[www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html](http://www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html) にある DB2 Information Integrator Support の Web サイトから入手できます。

DB2 Information Integrator Support の Web サイトから、最新の DB2 Information Integrator 製品資料にアクセスするには、図 2 に示すように、「Product Information」リンクをクリックします。

The screenshot displays the IBM DB2 Information Integrator Support website. The top navigation bar includes links for Home, Products & services, Support & downloads, and My account. The breadcrumb trail reads: Software > DB2 Information Management > DB2 Information Integration >. The main heading is 'DB2 Information Integrator'. Below this is a search bar with the text 'Search support for this product' and a prompt to 'Enter search terms, phrase, error code or APAR number'. There are also options to 'Optionally, limit results' with checkboxes for 'Solve a problem (FAQs, APARs, Technotes)', 'Download (Fixes, Patches)', and 'Learn (Manual Papers, etc.)'. A 'Submit' button is present, along with a 'Search assistance' link. Below the search bar are sections for 'Self help' and 'Problem submission'. The 'Self help' section includes links for 'Solve a problem', 'Download', and 'Learn'. The 'Learn' section has a 'Product information' link highlighted by a hand cursor, and a 'Feedback' link. The 'Problem submission' section provides instructions on how to submit a problem and track it, and a link to 'How to buy support for your software'. There is also an 'Other resources' section.

図 2. DB2 Information Integrator Support の Web サイトの「Product Information」リンク

「Product Information」リンクから、サポートされるすべての言語の最新の DB2 Information Integrator の資料にアクセスできます。

- DB2 Information Integrator 製品資料 (PDF ファイル)
- リリース情報も含めた、フィックスパック製品資料
- Linux、UNIX、および Windows の DB2 Information Center のダウンロードとインストールの説明
- DB2 Information Center オンラインへのリンク

DB2 Information Integrator Support の Web サイトは、サポート資料、IBM Redbooks、白書、製品のダウンロード、ユーザー・グループへのリンク、および、DB2 Information Integrator についてのニュースも提供します。

---

## アクセス支援

アクセス支援機能は、身体に障害のある（身体動作が制限されている、視力が弱いなど）ユーザーがソフトウェア製品を十分活用できるように支援します。DB2<sup>®</sup>バージョン 8 製品に備わっている主なアクセス支援機能は、以下のとおりです。

- すべての DB2 機能は、マウスの代わりにキーボードを使ってナビゲーションできます。詳細については、『キーボードによる入力およびナビゲーション』を参照してください。
- DB2 のユーザー・インターフェースのフォント・サイズおよび色をカスタマイズすることができます。詳細については、264 ページの『アクセスしやすい表示』を参照してください。
- DB2 製品は、Java<sup>™</sup> Accessibility API を使用するアクセス支援アプリケーションをサポートします。詳細については、264 ページの『支援テクノロジーとの互換性』を参照してください。
- DB2 資料は、アクセスしやすい形式で提供されています。詳細については、264 ページの『アクセスしやすい資料』を参照してください。

---

## キーボードによる入力およびナビゲーション

### キーボード・フォーカス

キーボード・フォーカス

UNIX<sup>®</sup> オペレーティング・システムでは、アクティブ・ウィンドウの中で、キー・ストロークによって操作できる領域が強調表示されます。

### キーボード入力

キーボード入力

キーボードだけを使用して DB2 ツールを操作できます。マウスを使って実行できる操作は、キーまたはキーの組み合わせによっても実行できます。標準のオペレーティング・システム・キー・ストロークを使用して、標準のオペレーティング・システム操作を実行できます。

キーまたはキーの組み合わせによって操作を実行する方法について、詳しくは、「キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help」を参照してください。

### キーボード・ナビゲーション

キーボード・ナビゲーション

キーまたはキーの組み合わせを使用して、DB2 ツールのユーザー・インターフェースをナビゲートできます。

キーまたはキーの組み合わせによって DB2 ツールをナビゲートする方法の詳細については、「キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help」を参照してください。

---

## アクセスしやすい表示

アクセスしやすい表示

目的

アクセスしやすい表示

## フォントの設定

フォントの設定

「ツール設定」ノートブックを使用して、メニューおよびダイアログ・ウィンドウに使用されるテキストの色、サイズ、およびフォントを選択できます。

フォント設定に関する詳細情報は、「メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help」を参照してください。

## 色に依存しない

色に依存しない

本製品のすべての機能を使用するために、ユーザーは必ずしも色を識別する必要はありません。

---

## 支援テクノロジーとの互換性

支援テクノロジーとの互換性

DB2 ツールのインターフェースは、Java Accessibility API をサポートします。これによって、スクリーン・リーダーその他の支援テクノロジーを DB2 製品で利用できるようになります。

---

## アクセスしやすい資料

アクセスしやすい資料

DB2 の資料は、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で提供されています。XHTML により、ご使用のブラウザに設定されている表示設定に従って資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーや他の支援テクノロジーを使用することもできます。

シンタックス・ダイアグラムはドット 10 進形式で提供されます。この形式は、スクリーン・リーダーを使用してオンライン資料にアクセスする場合にのみ使用できます。

---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品、プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）の間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠し

たアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

Outside In (®) Viewer Technology, ©1992-2004 Stellent, Chicago, IL., Inc. All Rights Reserved.

IBM XSLT Processor Licensed Materials - Property of IBM ©Copyright IBM Corp., 1999-2004. All Rights Reserved.

---

## 商標

ここでは、IBM の商標と、特定の IBM 以外の商標をリストします。

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM  
AIX  
AIX 5L  
DB2  
DB2 Universal Database  
Domino  
Informix  
Lotus  
Lotus Notes  
Notes  
OmniFind  
WebSphere  
xSeries  
z/OS

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。





---

## IBM と連絡を取る

お客様の国または地域で IBM に連絡する方法については、Web の [www.ibm.com/planetwide](http://www.ibm.com/planetwide) にある「IBM Directory of Worldwide Contacts」にアクセスしてください。



---

## 製品情報

DB2 Information Integrator に関する情報は、Web により入手できます。

Web の [www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html](http://www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html) にアクセスしてください。

1. 製品の注文または一般情報の入手: 1-800-IBM-CALL (1-800-426-2255)
2. 資料の注文: 1-800-879-2755
3. Web の [www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html](http://www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html) に アクセスしてください。

このサイトには、次の最新情報が入っています。

- 技術ライブラリー
- 資料の注文方法
- 製品のダウンロード
- ニュースグループ
- フィックスパック
- ニュース
- Web リソースへのリンク



# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

アクセス制御  
コレクションに対する使用不可化 135  
説明 130  
文書レベルのセキュリティ 131, 140  
Portal Search Engine サポート 140  
アクティブ Web サイトのモニター 112, 114  
アラート  
クロール済み文書 106  
検索応答時間 106  
コレクション・レベル 106  
サーバー上のフリー・スペース 107  
索引付けされた文書 106  
システム・レベル 107  
説明 105  
E メールでの受信 155  
E メール・オプション 106, 107  
アンカー・テキストのみ文書  
使用可能化 133  
説明 133  
robots.txt ファイル 133  
アンカー・テキスト分析  
アンカー・テキストのみ文書 133  
グローバル分析 133  
コレクション・セキュリティの使用可能化 133  
説明 127  
エラー・メッセージ  
詳細の表示 157  
E メールでの受信 153, 155  
エンタープライズ・サーチ  
概要 1  
管理コンソール 8  
管理役割 128  
クローラー・サーバー 3  
言語分析サポート 75  
検索アプリケーション 11  
検索サーバー 7  
コンポーネント 2  
コンポーネントの開始 101  
コンポーネントの停止 101, 103  
索引サーバー 6

エンタープライズ・サーチ (続き)  
システム・ファイルのリストア 151  
セキュリティ 127  
データ・フロー・ダイアグラム 12  
パーサー 4  
バックアップ 149, 150  
バックアップ・データからのリストア 150  
ポートレット 137  
ポートレットのデプロイメント 139  
モニター 105  
リストア 149  
ログ・ファイル 153  
API 10  
Portal Search Engine ポートレットの構成 140  
URI フォーマット 159  
WebSphere Portal との統合 137  
エンタープライズ・サーチ管理者  
説明 128  
パスワードの変更 18  
役割の構成 129  
エンタープライズ・サーチのバックアップ 149, 150  
応答時間履歴のモニター 122  
送り仮名の異形 79  
オペレーター  
説明 128  
役割の構成 129

## [カ行]

開始  
エンタープライズ・サーチ・コンポーネント 101  
クローラー 110  
検索サーバー 122  
索引作成 121  
パーサー 120  
マイグレーション・ウィザード 143, 145  
「解析」ページ、説明 15  
外部クローラー  
構成 60  
データ・リスナー API 10  
データ・リスナー構成 60  
カテゴリ  
カテゴリ化タイプ 89  
カテゴリ・ツリー 88  
検索 85  
作成 90  
カテゴリ (続き)  
サブカテゴリのネスティング 88  
説明 85  
モデル・ベース 87, 89  
ルール・ベース 86, 89  
URI フォーマット 159  
WebSphere Portal からのマイグレーション 143, 145  
カテゴリ化タイプ  
選択 22, 89  
モデル・ベース 87  
ルール・ベース 86  
カテゴリ規則  
構成 90  
文書コンテンツ 86, 90  
URI パターン 86, 90  
カテゴリ・ツリー  
説明 88  
WebSphere Portal からのマイグレーション 143, 145  
管理コンソール  
インターフェース 15  
説明 8  
タスクの概要 15  
ログイン 17  
管理者パスワード、変更 18  
管理役割  
エンタープライズ・サーチ管理者 128, 129  
オペレーター 128, 129  
構成 129  
コレクション管理者 128, 129  
説明 128  
モニター担当者 128, 129  
キーワード、クイック・リンク 84  
クイック・リンク  
検索 84  
作成 84  
説明 84  
URI フォーマット 159  
グローバル分析  
アンカー・テキスト分析 127, 133  
説明 6  
重複文書分析 127, 134  
クローラー  
開始 101, 110  
外部サポート 10, 60  
クローラーのプロパティの編集 30  
クロール・スペースの編集 31  
構成の概要 27

クローラー (続き)  
異なるクローラー・タイプの組み合わせ 27  
削除 31  
作成 29  
システム状況 110  
初期値 29  
スケジューリング 27  
説明 3  
データ・リスナー構成 60  
停止 103, 110  
デフォルトのマイグレーション設定 147  
文書レベル・セキュリティを使用可能にする 27  
ベースとなる値 27  
モニター 110  
Content Manager 32  
DB2 38  
Exchange Server 40  
NNTP 41  
Notes 42  
UNIX ファイル・システム 48  
URI フォーマット 159  
VeniceBridge 49  
Web 53  
Windows ファイル・システム 59  
クローラーのプロパティ  
説明 3  
編集 30  
クローラー履歴レポート  
サイト・レポート 115  
作成 115  
説明 112  
HTTP 戻りコード・レポート 115  
クローラー・タイプ  
単一コレクション内に組み合わせる 27  
ベースとなる値の選択 27  
「クロール」ページ、説明 15  
クロールする最大の深さ 54  
クロール速度のモニター 114  
クロール・スペース  
アラート 106  
説明 3  
編集 31  
Web クローラーの構成 54  
言語の識別 76  
言語分析サポート  
送り仮名の異形 79  
言語の識別 76  
サポートされる言語 77  
辞書ベースのセグメンテーション 77  
辞書ベースの分析 75  
ストップワードの除去 76  
接語 77

言語分析サポート (続き)  
説明 75  
日本語における異表記 79  
日本語における語のセグメンテーション 79  
非辞書ベースのセグメンテーション 79  
非辞書ベースの分析 75  
見出し語 77  
見出し語変化分析 75, 77  
文字の正規化 76  
ユニコードの正規化 76  
ユニコード・ベースの空白文字セグメンテーション 79  
N-gram セグメンテーション 79  
検索  
カテゴリー 85  
クイック・リンク 84  
コレクション 81, 82  
有効範囲 92  
XML 文書 94  
「検索」ページ、説明 15  
検索アプリケーション  
アプリケーション ID 135  
カスタム 69  
コレクションとの関連付け 73  
コレクション・レベルのセキュリティ 135  
サンプル 69  
説明 11  
プロパティ・ファイル 71  
検索応答時間  
アラート 106  
モニター 122  
検索および索引作成用 API 10, 69  
検索キャッシュ  
構成 125  
説明 124  
検索結果  
グループ化 98  
縮小表示 98  
静的ランキング 98  
説明 97  
テキスト・ベースのスコアリング 97  
動的要約 98  
動的ランキング 97  
検索結果の縮小表示 98  
検索サーバー  
応答時間履歴 122  
開始 101, 122  
検索キャッシュ 124, 125  
高頻度の照会 122  
最新の照会 122  
システム状況 122  
説明 7  
停止 103, 122

検索サーバー (続き)  
モニター 122  
高頻度の照会のモニター 122  
語のセグメンテーション、日本語 79  
コレクション  
アクセスを全ユーザーに許可 135  
アプリケーション ID セキュリティー 135  
アンカー・テキスト・セキュリティ 133  
検索 81, 82  
検索アプリケーションとの関連付け 73  
「コレクション」ビューを使用した作成 22  
コレクション・ウィザードを使用した作成 21  
削除 25  
作成方法 21  
システム状況 108  
セキュリティ 132  
説明 2  
重複文書セキュリティ 134  
デフォルトのマイグレーション設定 147  
ドラフト 21  
編集 23  
モニター 108  
MigrationWizard.log ファイル 145  
WebSphere Portal からのマイグレーション 143, 145  
「コレクション」ビュー  
コレクションの作成 22  
説明 15  
コレクション管理者  
説明 128  
役割の構成 129  
コレクション・ウィザード 21  
コレクション・レベルのセキュリティ  
アプリケーション ID 135  
アンカー・テキスト分析 133  
使用可能化 22  
説明 127, 132  
重複文書分析 134

## 【サ行】

最近クロールされた URL のモニター 112  
最小再クロール間隔 58  
最新の照会のモニター 122  
最大再クロール間隔 58  
サイト履歴レポート  
作成 115  
説明 112



サイト・レポート、Web クローラーに対して作成 115

索引

- アラート 106
- 開始 101
- キューからの削除 122
- スケジュール 64
- スケジュールの使用可能化 121
- スケジュールの使用不可化 121
- スケジュールの変更 65
- スケジュールを使用可能にする 65
- スケジュールを使用不可にする 65
- 説明 6, 63
- 停止 103
- 並行作成 67
- モニター 121, 122
- URI の除去 67

「索引」ページ、説明 15

索引キュー 122

索引作成

- 開始 121
- システム状況 122
- 停止 121, 122

索引スケジュールを使用可能にする 65

索引スケジュールを使用不可にする 65

索引の再編成 6, 63

- スケジューリング 65
- スケジュール 64
- 説明 6, 63

索引のリフレッシュ 6, 63

- スケジューリング 65
- スケジュール 64
- 説明 6, 63

削除

- キューから索引を 122
- クローラー 31
- コレクション 25

作成

- クイック・リンク 84
- クローラー 29
- コレクション 21, 22
- 有効範囲 92
- ルール・ベースのカテゴリ 90
- Web クローラー・レポート 115
- XML 検索フィールド 94

サポートされる言語

- 言語の識別 76
- 辞書ベースの言語分析処理 77

サンプル検索アプリケーション

- アクセス 73
- 検索機能 69
- 説明 11
- デフォルトのデプロイメント 71
- プロパティ・ファイル 71

辞書ベースのセグメンテーション 77

辞書ベースの分析 75, 77

「システム」ビュー、説明 15

システム状況

- クローラー 110
- 検索サーバー 122
- コレクション 108
- 索引作成 122
- パーサー 120
- Web クローラー 112

システムのバックアップ 149, 150

システムのリストア 149, 150, 151

照会

- 拡張技法 82
- スペル・チェック 82
- パラメトリック 82
- フィールド検索 82
- フリー・テキスト検索 82

照会のスペル・チェック 82

除去、索引から URI を 67

スクリプト

- esbackup.bat 150, 151
- esbackup.sh 150, 151
- escrcm.sh 33, 35
- escrcm.vbs 37
- escrnote.sh 43
- escrnte.vbs 45
- escrvbr.sh 50
- escrvbr.vbs 52
- esrestore.bat 150, 151
- esrestore.sh 150, 151
- startccl 150

スケジューリング

- クローラー 27
- 索引作成 65

スケジュール

- 索引作成 64

ストップワード 76

ストップワードの除去 76

スレッドの詳細のモニター 112, 113

静的ランキング

- コレクションの使用可能化 22
- 説明 98
- マイグレーションされたコレクションにおける 145

セキュリティ

- アクセス制御 130
- アンカー・テキスト分析 133
- 管理役割 129
- 検索アプリケーション ID 135
- コレクションの使用可能化 22, 127
- コレクション・レベル 132, 135
- 説明 127
- 重複文書分析 134
- 認証 130
- 文書レベル 131

「セキュリティ」ビュー、説明 15

セキュリティ・トークン

- クローラー構成 131
- コレクションに対する使用不可化 135
- 文書レベルのセキュリティ 131, 140
- Portal Search Engine 処理 140

セグメンテーション

- 辞書ベースの 77
- 非辞書ベース 79
- ユニコード・ベースの空白文字による 79

接語 77

## [タ行]

タスクの概要、管理コンソール 15

重複文書分析

- グローバル分析 134
- セキュリティの使用可能化 134
- 説明 127

データ・ソース・タイプ

- エンタープライズ・サーチでサポートされている 1
- 外部サポート 1, 10
- リレーショナル・データベース 38
- DB2 Content Manager 項目タイプ 32
- DB2 データベース 38
- Exchange Server のパブリック・フォルダー 40
- NNTP ニュース・グループ 41
- Notes データベース 42
- UNIX ファイル・システム 48
- VeniceBridge 項目クラス 49
- Web サイト 53
- Windows ファイル・システム 59

データ・フロー、エンタープライズ・サーチ・システム 12

データ・リスナー API 1, 10

データ・リスナー、外部クローラーのための構成 60

停止

- エンタープライズ・サーチ・コンポーネント 101, 103
- クローラー 110
- 検索サーバー 122
- 索引作成 121, 122
- パーサー 120

ディスカバリー 3

テキスト・ベースのスコアリング 97

デフォルトの検索アプリケーション 71

動的要約 98

動的ランキング 97

## [ナ行]

日本語における異表記 79  
認証、説明 130

## [ハ行]

パーサー

開始 101, 120  
システム状況 120  
説明 4  
データ分析タスク 4  
停止 103, 120  
モニター 120

パスワード、エンタープライズ・サーチ管  
理者 18

バックアップ・スクリプト

実行 150, 151  
説明 149

パラメトリック照会 82

非辞書ベースのセグメンテーション 79

非辞書ベースの分析 75, 79

表示

ログ・ファイル 157

URI の詳細 109

ファイル拡張子、Web クロール・スパー  
スから除外 54

フィールド照会 82

フリー・スペースのアラート 107

フリー・テキスト照会 82

文書検索ポータル 140

文書の重要度

コレクションの使用可能化 22

マイグレーションされたコレクション  
における 145

文書レベルのセキュリティ

アクセス制御 131

クローラー構成 27

セキュリティ・トークン 131

説明 127, 131

Portal Search Engine サポート 140

分類、WebSphere Portal からのマイグレ  
ーション 143, 145

分類管理ポータル 143

並行索引作成 67

編集

クローラーのプロパティ 30

クロール・スペース 31

検索アプリケーションのプロパティ  
71

コレクション 23

データ・リスナー・プロパティ 60

ポータル

エンタープライズ・サーチ 137

カタログ Web サイト 139

ポータル (続き)

サポートされる WebSphere Portal の  
バージョン 137

説明 137

デプロイ 139

分類管理ポータル 143

## [マ行]

マイグレーション

コレクション 145

モデル・ベースの分類 143

ルール・ベースの分類 145

マイグレーション・ウィザード

開始 143, 145

コレクション 145

説明 143

デフォルトのクローラー設定 147

デフォルトのコレクション設定 147

モデル・ベースの分類 143

ルール・ベースの分類 145

ログ・ファイル 148

マッピング、XML 検索フィールド 94

見出し語 77

見出し語変化分析 75, 77

文字の正規化 76

モデル・ベースのカテゴリ

カテゴリ化タイプの選択 89

説明 87

モデル・ベースの分類、WebSphere Portal

からのマイグレーション 143

モニター

エンタープライズ・サーチ 105

応答時間履歴 122

クローラー 110

検索サーバー 122

高頻度の照会 122

コレクション 108

最新の照会 122

パーサー 120

ログ・ファイル 157

Web クローラー 112

Web クローラーのクロール速度 114

Web クローラーのスレッドの詳細

113

Web クローラー・アクティブ・サイト

114

「モニター」ビュー、説明 15

モニター担当者

説明 128

役割の構成 129

## [ヤ行]

有効範囲

検索 92

作成 92

説明 92

URI パターン 92

URI フォーマット 159

ユニコードの正規化 76

ユニコード・ベースの空白文字セグメンテ  
ーション 79

要約、動的 98

## [ラ行]

ランキング

静的 98

テキスト・ベースのスコアリング 97

動的 97

リストア

システム・ファイルを新規のサーバー  
に 151

バックアップ・データからの 150

リストア・スクリプト

実行 150, 151

説明 149

ルール・ベースのカテゴリ

カテゴリ化タイプの選択 89

作成 90

説明 86

ルール・ベースの分類、WebSphere

Portal からのマイグレーション 145

ルール・ベースの分類、WebSphere Portal

からのマイグレーション 143

「ログ」ページ、説明 15

ログイン、管理コンソールへの 17

ログ・ファイル

最大サイズ 153

重大度レベル 153

循環 153

説明 153

デフォルトの場所 153

表示 157

フィルター 157

マイグレーション・ウィザード 148

モニター 157

E メール・オプション 155

## A

AIX

Content Manager クローラーの構成  
33

Notes クローラーの構成 43

VeniceBridge クローラーの構成 50

## API

- 検索および索引作成 10, 69
- 説明 10
- データ・リスナー 1, 10

## C

- com.ibm.es.util.EncryptProperty コマンド 18
- config.properties ファイル 71
- Content Manager クローラー
  - 構成 32
  - AIX でのセットアップ 33
  - Linux でのセットアップ 35
  - Windows でのセットアップ 37
- Content Manager の Java コネクタ 33, 35, 37

## D

- DB2 II OmniFind
  - 概要 1
  - 管理コンソール 8
  - クローラー・サーバー 3
  - 検索アプリケーション 11
  - 検索サーバー 7
  - コンポーネント 2
  - 索引サーバー 6
  - データ・フロー・ダイアグラム 12
  - パーサー 4
  - ポートレットのデプロイメント 139
  - API 10
  - WebSphere Portal との統合 137
- DB2 クローラー、構成 38
- DIIOOP プロトコル、Notes クローラー構成 47
- dlAuthentication.prp ファイル 60
- dlAuthorization.prp ファイル 60
- dlConfig.prp ファイル 60

## E

- E メール通知
  - アラート 155
  - メッセージ 155
- EncryptProperty コマンド 18
- ESAdmin アプリケーション 17
- esbackup.bat スクリプト 150, 151
- esbackup.sh スクリプト 150, 151
- escrcm.sh スクリプト 33, 35
- escrcm.vbs スクリプト 37
- escrnote.sh スクリプト 43
- escrnte.vbs スクリプト 45
- escrvbr.sh スクリプト 50
- escrvbr.vbs スクリプト 52

- esrestore.bat スクリプト 150, 151
- esrestore.sh スクリプト 150, 151
- ESSearchApplication アプリケーション 71, 73
- es.cfg ファイル 18
- ES\_INSTALL\_ROOT、説明 18
- ES\_NODE\_ROOT、説明 18
- Exchange Server クローラー、構成 40

## H

- HTTP 戻りコード
  - robots.txt ファイル制約事項 133
  - Web クローラーが受け取った 115
  - Web クローラー・レポート 115

## L

- Linux
  - Content Manager クローラーの構成 35
  - Notes クローラーの構成 43
  - VeniceBridge クローラーの構成 50

## M

- MIME タイプ、Web クロール・スペースに入れる 54

## N

- NNTP クローラー、構成 41
- Notes クローラー
  - 構成 42
  - AIX でのセットアップ 43
  - DIIOOP プロトコル構成 47
  - Linux でのセットアップ 43
  - NRPC プロトコル 43, 45
  - Windows でのセットアップ 45
- NRPC プロトコル、Notes クローラー構成 43, 45
- N-gram セグメンテーション 79

## P

- Portal Search Engine
  - エンタープライズ・サーチを使用するための構成 140
  - セキュリティ・トークンを渡す 140
  - 説明 137
  - 文書レベルのセキュリティ 140

## R

- robots.txt ファイル
  - アンカー・テキストのみ文書 133
  - HTTP 戻りコード 133

## S

- Search Center
  - 説明 137
  - 登録ポートレット 137
- SIAPI (検索および索引作成用 API) 10, 69
- SiteDefs.txt ファイル 98
- startccl スクリプト 150
- synonyms.xml ファイル 143

## T

- titles.xml ファイル 143
- treenodes.xml ファイル 143

## U

- UNIX ファイル・システム・クローラー、構成 48
- URI
  - エンタープライズ・サーチにおけるフォーマット 159
  - カテゴリ規則 86, 90
  - クイック・リンク 84
  - 索引からの除去 67
  - 詳細情報の表示 109
  - 有効範囲 92
- URL にできる限り早くアクセスする 59
- URL にできる限り早く再アクセスする 59

## V

- vbr\_access\_services.jar ファイル 50, 52
- VeniceBridge クローラー
  - 構成 49
  - AIX でのセットアップ 50
  - Linux でのセットアップ 50
  - Windows でのセットアップ 52

## W

- Web クローラー
  - アクティブ・サイト 112, 114
  - クローラー履歴 112
  - クロール規則 54
  - クロール速度 114
  - クロール・スペース の制限 54

- Web クローラー (続き)
  - 構成 53
  - 最近クロールされた URL 112
  - 再クロール間隔 58
  - サイト履歴 112
  - シード URL 54, 59
  - システム状況 112
  - スレッドの詳細 112, 113
  - モニター 112
  - レポートの作成 115
  - URL 状況 112
  - URL にできる限り早くアクセスする 59
- Web クローラーの IP アドレス規則 54
- Web クローラーのアドレス規則 54
- Web クローラーの再クロール間隔 58
- Web クローラーのシード URL 54, 59
- Web クローラーの接頭部規則 54
- Web クローラーのドメイン規則 54
- Web クロール・スペースの制限 54
- WebSphere Portal
  - エンタープライズ・サーチとの統合 137
  - カタログ Web サイト 139
  - カテゴリ・ツリーのマイグレーション 143
  - コレクションのマイグレーション 143
  - デフォルトのマイグレーション設定 147
  - 分類管理ポートレット 143
  - 分類のマイグレーション 143
  - ポートレットのデプロイメント 139
  - モデル・ベースの分類 143
- WebSphere Portal Search Center 137
  - 説明 137
  - 登録ポートレット 137
- Windows
  - Content Manager クローラーの構成 37
  - Notes クローラーの構成 45
  - VeniceBridge クローラーの構成 52
- Windows ファイル・システム・クローラー、構成 59
- WpsMigratorLog.log ファイル 148

## X

- XML 検索フィールド
  - エレメントのマッピング 94
  - 作成 94
  - 説明 94
- XML 文書、検索 94





Printed in Japan

GD88-6374-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12